

平成29年度

科目名	保育原理	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	山上 裕子		
開講期	I		
授業概要	本科目は、保育を学ぶための入門講座である。授業では、保育の必要性和意義、保育の思想と歴史、保育の基本などについて講義をする。一人で、あるいは、グループで、また資料を駆使して、自ら考えていけるための学びの方法を取り入れる。		
達成目標	①なぜ保育が必要なのか、その理由を示し、保育の意義を説明することができたか。 ②保育の思想と歴史を理解し、保育のあるべき姿について考えることができたか。 ③保育がどのような指針や制度のもとおこなわれているかを理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者。	成績評価 方法	平常点（30点）、レポート（30点）、テスト（40点）
教科書	特に、指定しない。必要に応じて、プリントを配布し、文献を紹介する。		
参考書	無藤 隆『幼児教育のデザイン』東京大学出版会、2013年。 柴崎正行編著『保育原理の基礎と演習』わかば社、2016年。		
学生への要望	授業用のノートを用意し、疑問に思ったこと、感じたことなどメモをすること。 欠席、遅刻はしないようにすること。		
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 12:50～14:20 833研究室		
自学自習	事前：毎回、次回の授業の内容について話をするので、授業を受ける前に各自確認しておくこと。 事後：授業の内容をノートにまとめておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業日程、講義内容、評価など、授業に関することの説明を聞く。保育のイメージを確認する。ヒトは未熟な状態で生まれることを知る。
2	保育の必要性	未熟な状態で生まれるヒトであることをふまえ、文化的環境の中で、人間として成長していくことを、野生児の事例から学ぶ。
3	保育の意義	ヒトから人間への成長と同時に、未熟ではあるが子どもには独自の世界があるという子ども観があることを知り、保育をすることの意義を考える。
4	保育とは何か	「保育」というコトバを手がかりにして、日本語の語源や英語を知り、はぐくむことの意味について考える。
5	西洋の保育の歴史1	新教育の源流であるルソーの子ども観を中心に学ぶ。
6	西洋の保育の歴史2	ベスタロッチやフレーベルの幼児教育を学ぶ。
7	日本の保育の歴史1	江戸時代以前から、学制が始まったころの子守学校など、保育所の始まりを知る。
8	日本の保育の歴史2	東京女子師範学校附属幼稚園について、設立当時の保育について学ぶ。
9	日本の保育の歴史3	倉橋惣三の保育論について学ぶ。
10	保育の基本1	「保育所保育指針」に記載されているねらいや内容を知り、指針の制度的位置づけを学ぶ。
11	保育の基本2	「幼稚園教育要領」に記載されているねらいや内容を知り、要領の制度的位置づけを学ぶ。
12	保育の基本3	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」のねらいと内容をとおして、保育の基本を探る。
13	遊びをとおした保育と事故	小学校教育以降における方法とは異なる、育つものを育てようとするための指導、すなわち遊びをとおした保育のあり方を、保育事故と関連して考える。
14	安全な保育活動	保育事故の事例をとおして、何に気をつけて計画を立てたらよいか、そして保育活動の何を評価したらよいかを考える。
15	望ましい保育とは	これまでの授業の内容を素材にして、どのような保育を考えていくことが望ましいのか、まとめる。

平成29年度

科目名	保育原理	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	山上 裕子		
開講期	I		
授業概要	本科目は、保育を学ぶための入門講座である。授業では、保育の必要性和意義、保育の思想と歴史、保育の基本などについて講義をする。一人で、あるいは、グループで、また資料を駆使して、自ら考えていけるための学びの方法を取り入れる。		
達成目標	①なぜ保育が必要なのか、その理由を示し、保育の意義を説明することができたか。 ②保育の思想と歴史を理解し、保育のあるべき姿について考えることができたか。 ③保育がどのような指針や制度のもとおこなわれているかを理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者。	成績評価 方法	平常点（30点）、レポート（30点）、テスト（40点）
教科書	特に、指定しない。必要に応じて、プリントを配布し、文献を紹介する。		
参考書	無藤 隆『幼児教育のデザイン』東京大学出版会、2013年。 柴崎正行編著『保育原理の基礎と演習』わかば社、2016年。		
学生への要望	授業用のノートを用意し、疑問に思ったこと、感じたことなどメモをすること。 欠席、遅刻はしないようにすること。		
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 12:50～14:20 833研究室		
自学自習	事前：毎回、次回の授業の内容について話をするので、授業を受ける前に各自確認しておくこと。 事後：授業の内容をノートにまとめておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業日程、講義内容、評価など、授業に関することの説明を聞く。保育のイメージを確認する。ヒトは未熟な状態で生まれることを知る。
2	保育の必要性	未熟な状態で生まれるヒトであることをふまえ、文化的環境の中で、人間として成長していくことを、野生児の事例から学ぶ。
3	保育の意義	ヒトから人間への成長と同時に、未熟ではあるが子どもには独自の世界があるという子ども観があることを知り、保育をすることの意義を考える。
4	保育とは何か	「保育」というコトバを手がかりにして、日本語の語源や英語を知り、はぐくむことの意味について考える。
5	西洋の保育の歴史1	新教育の源流であるルソーの子ども観を中心に学ぶ。
6	西洋の保育の歴史2	ベスタロッチやフレーベルの幼児教育を学ぶ。
7	日本の保育の歴史1	江戸時代以前から、学制が始まったころの子守学校など、保育所の始まりを知る。
8	日本の保育の歴史2	東京女子師範学校附属幼稚園について、設立当時の保育について学ぶ。
9	日本の保育の歴史3	倉橋惣三の保育論について学ぶ。
10	保育の基本1	「保育所保育指針」に記載されているねらいや内容を知り、指針の制度的位置づけを学ぶ。
11	保育の基本2	「幼稚園教育要領」に記載されているねらいや内容を知り、要領の制度的位置づけを学ぶ。
12	保育の基本3	「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領」のねらいと内容をとおして、保育の基本を探る。
13	遊びをとおした保育と事故	小学校教育以降における方法とは異なる、育つものを育てようとするための指導、すなわち遊びをとおした保育のあり方を、保育事故と関連して考える。
14	安全な保育活動	保育事故の事例をとおして、何に気をつけて計画を立てたらよいか、そして保育活動の何を評価したらよいかを考える。
15	望ましい保育とは	これまでの授業の内容を素材にして、どのような保育を考えていくことが望ましいのか、まとめる。

平成29年度

科目名	保育原理Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	柴田 卓		
開講期	Ⅳ		
授業概要	〔授業の目的・ねらい〕 保育者としての専門性を高めるために、国内外の事例を提示し、保育者としての視点を養います。また、保育における今日の課題を発見し、その背景や解決方法について考察します。全15回を通して、学び続ける保育者としての態度を養います。		
達成目標	1) 世界の保育内容とその方法について理解する。 2) 子どもの権利・子ども観について理解する 3) 国内外の保育環境について理解する。 4) 日本における保育の現状と課題について理解する。		
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	授業時のミニレポート30点 課題発表30点 まとめのレポート30点 平常点10点
教科書	プリントを配布します。		
参考書	喜多明人他著, イラスト版子どもの権利 子どもとマスターする50の権利学習, 合同出版, 2006 OECD編著, OECD保育白書 人生の始まりこそ力強く:乳幼児期の教育とケア(E C E C)の国際比較, 明石書店, 2011		
学生への要望	①自身の考えを整理し、積極的に質問・発言を行きましょう。 ②予習・復習を行い、学びを深めてください。		
オフィスタイム	月曜日14時～16時 金曜日14時～16時 824研究室		
自学自習	【事前】当日の内容を確認し、疑問点等を整理しておくこと(30分) 【事後】学習したことを振り返り、先行研究や事例を整理すること(60分)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業概要の説明 評価方法の説明
2	子どもの権利条約①	OECD保育白書から子どもの権利について考える。
3	子どもの権利条約②	海外の保育現場における子どもの権利について事例をもとに考察する。
4	子どもの権利条約③	ヤヌシュ・コルチャックの人物像とその子ども観を考察する(絵本・DVDから)。
5	子どもの権利条約④	ヤヌシュ・コルチャック(DVD)、子どもの権利条約から自身の子ども観について整理する。
6	海外の保育実践①	ニュージーランドの事例から、学びの物語とテファリキについて理解する。
7	海外の保育実践②	イタリアの実践、レッジョ・エミリアのプロジェクト保育について理解する。
8	海外の保育実践③	ジェンダー・ダイバーシティ・インクルーシブをキーワードに保育内容を考察する。
9	海外の保育実践④	海外の保育実践と日本の保育実践を比較し、それぞれの良い点や課題等について整理し、理想とする保育環境・保育内容に関して議論する。
10	保育におけるESDの視点	デンマーク(森の幼稚園)・スウェーデン(アウトドア教育)の事例から考察する。
11	保育におけるESDの視点	幸福感・学力・経済学・コンピテンシー・ラーニングコンパス等の視点からESDと保育について考察する。
12	保育におけるESDの視点	日本の子育て・保育環境における今日的課題を調べて整理し、発表する。
13	グループワーク①	日本を含む世界中の優れた保育事例を調査する。
14	グループワーク②	調査した内容を整理し、パワーポイント等でまとめる。
15	グループワーク③まとめ	まとめた内容をプレゼンテーションし、お互いに評価し合う。

平成29年度

科目名	保育者論	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	山上 裕子		
開講期	I		
授業概要	子どもが好き、だけでは務まらない専門家としての保育者とはどのようなことをいうのか。授業では、保育者の仕事、役割、専門性について取りあげる。自身の経験を踏まえつつ、保育者の姿を想像したり、映像をとおして理解を深めていく活動を取り入れる。		
達成目標	①保育者の役割と倫理について理解できたか。 ②保育者の制度的な位置づけについて理解できたか。 ③保育者の専門性と専門職としての成長について理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	平常点（30点）、レポート（30点）、テスト（40点）
教科書	特に、指定しない。必要に応じてプリントを配布し、文献を紹介する。		
参考書	秋田喜代美編集代表『今に生きる保育者論』みらい、2013年。		
学生への要望	授業用ノートを用意し、疑問点等のメモをとること。 欠席、遅刻はしないようにすること。		
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 12:50～14:20 833研究室		
自学自習	事前：保育について話題となっている情報を収集しておくこと。 事後：授業の内容をノートにまとめておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容、評価等について、知る。保育者を目指したきっかけを思い出す。
2	幼稚園の一日	幼稚園における保育者の具体的な仕事の流れを知るとともに、保育者のまなざしについて考える。
3	保育所の一日	保育所における保育者の具体的な仕事の流れを知るとともに、保育者の仕事について考える。
4	保育者の役割～子どもを中心に	保育者はどのような役割を担うのか、考えを出し合う。
5	保育者になるための学び	幼稚園教諭免許状、および保育士資格取得のための学びを知る。
6	保育者の資質として要求されること	これまで収集してきた保育に関する情報をまとめ、保育者に要求されることを知る。
7	子育てと生活環境の変化	子どもが育つ環境の変化が、育ちに如何に影響しているのかを学ぶ。
8	子育てと社会の変化	社会の変化にともない、保育者に期待されることを学ぶ。
9	保育者としての倫理	保育の専門家としての倫理について学ぶ。
10	保育者の専門性	これまで学んできたことをもとに、保育の専門性について考え、まとめる。
11	園の組織と運営	日々の保育や行事を支える、園の組織、運営について理解する。
12	保育者としての協働	保護者、専門機関、地域等との関連で保育活動が行われていることを理解する。
13	保育者としてのキャリア形	保育者として成長し続けていくための研修や省察について理解する。
14	保育者としての視点	子どもの何を見るのか、同僚とどのような点で協力し、チームを組んでいくのか。様々な保育活動における保育者として視点を整理する。
15	まとめ	授業をとおして学んだことをまとめる。

平成29年度

科目名	保育者論	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	山上 裕子		
開講期	I		
授業概要	子どもが好き、だけでは務まらない専門家としての保育者とはどのようなことをいうのか。授業では、保育者の仕事、役割、専門性について取りあげる。自身の経験を踏まえつつ、保育者の姿を想像したり、映像をとおして理解を深めていく活動を取り入れる。		
達成目標	①保育者の役割と倫理について理解できたか。 ②保育者の制度的な位置づけについて理解できたか。 ③保育者の専門性と専門職としての成長について理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	平常点（30点）、レポート（30点）、テスト（40点）
教科書	特に、指定しない。必要に応じてプリントを配布し、文献を紹介する。		
参考書	秋田喜代美編集代表『今に生きる保育者論』みらい、2013年。		
学生への要望	授業用ノートを用意し、疑問点等のメモをとること。 欠席、遅刻はしないようにすること。		
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 12:50～14:20 833研究室		
自学自習	事前：保育について話題となっている情報を収集しておくこと。 事後：授業の内容をノートにまとめておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容、評価等について、知る。保育者を目指したきっかけを思い出す。
2	幼稚園の一日	幼稚園における保育者の具体的な仕事の流れを知るとともに、保育者のまなざしについて考える。
3	保育所の一日	保育所における保育者の具体的な仕事の流れを知るとともに、保育者の仕事について考える。
4	保育者の役割～子どもを中心に	保育者はどのような役割を担うのか、考えを出し合う。
5	保育者になるための学び	幼稚園教諭免許状、および保育士資格取得のための学びを知る。
6	保育者の資質として要求されること	これまで収集してきた保育に関する情報をまとめ、保育者に要求されることを知る。
7	子育てと生活環境の変化	子どもが育つ環境の変化が、育ちに如何に影響しているのかを学ぶ。
8	子育てと社会の変化	社会の変化にともない、保育者に期待されることを学ぶ。
9	保育者としての倫理	保育の専門家としての倫理について学ぶ。
10	保育者の専門性	これまで学んできたことをもとに、保育の専門性について考え、まとめる。
11	園の組織と運営	日々の保育や行事を支える、園の組織、運営について理解する。
12	保育者としての協働	保護者、専門機関、地域等との関連で保育活動が行われていることを理解する。
13	保育者としてのキャリア形	保育者として成長し続けていくための研修や省察について理解する。
14	保育者としての視点	子どもの何を見るのか、同僚とどのような点で協力し、チームを組んでいくのか。様々な保育活動における保育者として視点を整理する。
15	まとめ	授業をとおして学んだことをまとめる。

科目名	教育原理	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員	山上 裕子			
開講期	Ⅱ			
授業概要	本科目は、人がより善く成長していくために、教育は何ができるか。このような視点から、教え・学ぶことについて考えていく基礎を学ぶためのものである。授業では、近代学校教育制度の始まり、教育の方法、教育の思想、また現代の幼児教育に関わる制度を取りあげる。幼稚園で実施されている教材に触れ、教材の教育的意味を確かめる活動や、読書レポートを課し、学び続けていくことのできる読書の仕方を取り入れる。			
達成目標	①教育制度がつくられた背景を理解できたか。 ②様々な教育の取り組みや思想を知り、教育を考える視点を獲得できたか。 ③教育は様々な政策と関連していることを理解できたか。			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得希望者。	成績評価 方法	平常点（30点）、レポート（30点）、テスト（40点）	
教科書	特に、指定しない。必要に応じ、プリントを配布し、文献を紹介する。			
参考書	古橋和夫編著『子どもの教育の原理』萌文書房、2011年。 児童育成協会監修『教育原理』中央法規、2016年。			
学生への要望	講義用ノートを用意し、疑問点をメモすること。 欠席、遅刻をしないよう注意すること。			
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 12:50～14:20 833 研究室			
自学自習	事前：毎回、次回の授業の内容について話をするので、授業を受ける前に、各自確認しておくこと。 事後：授業の内容をノートにまとめておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の内容、予定、評価など、授業に関する説明を聞く。教育とは人が善く生きようとすることに働きかけるものであること、学校教育制度は近代に始まったことを知る。
2	教育の目的	教育はなぜ必要か。「日本国憲法」や「教育基本法」、「幼稚園教育要領」などで確認するとともに、目的の歴史の概観を知る。
3	近代学校教育の始まり①	「工場法」をとおして、なぜ教育制度が要求されたかを考え、オウエンの幼児教育の考え方を学ぶ。
4	近代学校教育の始まり②	効率よく学ぶシステムが開発された一方で、一人ひとりの成長を尊重する教育の考え方があったことを理解する。
5	近代学校教育の始まり③	英語圏で使用された教科書、「ホーン・ブック」、「初級読本」や、絵本の源流といわれる『世界図絵』などを取りあげ、教科書・教材の意義について学ぶ。
6	学びのスキル	書物からどのように学ぶのか、単なる感想に終わらない学び続けていくための学術的な読み方について学ぶ。
7	教育の思想①	イギリスのジョン・ロックは、人間は白紙で生まれるという説を提唱した。この人間観によるロックの教育の考え方を学ぶ。
8	教育の思想②	フランスのジャン＝ジャック・ルソーは、子どもの発見者と呼ばれている。『エミール』の講義をとおしてルソーの子ども観と教育の考え方を学ぶ。
9	教育の思想③	アメリカのジョン・デューイは、実際に学校を設立した。デューイの提唱した問題解決学習をラボラトリー・スクールの実践をとおして学ぶ。
10	教材の開発①	ドイツのフレーベルが開発した恩物を実際に体験し、恩物の教育的意義について考える。
11	教材の開発②	モンテッソーリが開発した教具のいくつかを、実際に体験し、教材開発の意図を考える。
12	日本の学校教育の始まり①	日本の学校教育制度は、明治に西洋から導入したことに始まるが、それ以前にも寺子屋や藩校など、世界に誇れる教育があったことを学ぶ。
13	日本の学校教育の始まり②	学制によって始まった学校教育制度について知り、幼児教育の必要性和位置づけを理解する。
14	アメリカの幼児教育	現在のアメリカの幼児教育について学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業をとおして、幼児期における教育をどう考えたらよいか、授業の内容を素材にしてまとめる。

科目名	教育原理	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択	
担当教員	山上 裕子			
開講期	Ⅱ			
授業概要	本科目は、人がより善く成長していくために、教育は何ができるか。このような視点から、教え・学ぶことについて考えていく基礎を学ぶためのものである。授業では、近代学校教育制度の始まり、教育の方法、教育の思想、また現代の幼児教育に関わる制度を取りあげる。幼稚園で実施されている教材に触れ、教材の教育的意味を確かめる活動や、読書レポートを課し、学び続けていくことのできる読書の仕方を取り入れる。			
達成目標	①教育制度がつけられた背景を理解できたか。 ②様々な教育の取り組みや思想を知り、教育を考える視点を獲得できたか。 ③教育は様々な政策と関連していることを理解できたか。			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種免許、保育士資格取得希望者。	成績評価 方法	平常点（30点）、レポート（30点）、テスト（40点）	
教科書	特に、指定しない。必要に応じ、プリントを配布し、文献を紹介する。			
参考書	古橋和夫編著『子どもの教育の原理』萌文書房、2011年。		児童育成協会監修『教育原理』中央法規、2016年。	
学生への要望	講義用ノートを用意し、疑問点をメモすること。 欠席、遅刻をしないよう注意すること。			
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 12:50～14:20 833研究室			
自学自習	事前：毎回、次回の授業の内容について話をするので、授業を受ける前に、各自確認しておくこと。 事後：授業の内容をノートにまとめておくこと。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	講義の内容、予定、評価など、授業に関する説明を聞く。教育とは人が善く生きようとすることに働きかけるものであること、学校教育制度は近代に始まったことを知る。
2	教育の目的	教育はなぜ必要か。「日本国憲法」や「教育基本法」、「幼稚園教育要領」などで確認するとともに、目的の歴史の概観を知る。
3	近代学校教育の始まり①	「工場法」とおして、なぜ教育制度が要求されたかを考え、オウエンの幼児教育の考え方を学ぶ。
4	近代学校教育の始まり②	効率よく学ぶシステムが開発された一方で、一人ひとりの成長を尊重する教育の考え方があったことを理解する。
5	近代学校教育の始まり③	英語圏で使用された教科書、「ホーン・ブック」、「初級読本」や、絵本の源流といわれる『世界図絵』などを取りあげ、教科書・教材の意義について学ぶ。
6	学びのスキル	書物からどのように学ぶのか、単なる感想に終わらない学び続けていくための学術的な読み方について学ぶ。
7	教育の思想①	イギリスのジョン・ロックは、人間は白紙で生まれるという説を提唱した。この人間観によるロックの教育の考え方を学ぶ。
8	教育の思想②	フランスのジャン＝ジャック・ルソーは、子どもの発見者と呼ばれている。『エミール』の講義をとおしてルソーの子ども観と教育の考え方を学ぶ。
9	教育の思想③	アメリカのジョン・デューイは、実際に学校を設立した。デューイの提唱した問題解決学習をラボラトリー・スクールの実践をとおして学ぶ。
10	教材の開発①	ドイツのフレーベルが開発した恩物を実際に体験し、恩物の教育的意義について考える。
11	教材の開発②	モンテッソーリが開発した教具のいくつかを、実際に体験し、教材開発の意図を考える。
12	日本の学校教育の始まり①	日本の学校教育制度は、明治に西洋から導入したことに始まるが、それ以前にも寺子屋や藩校など、世界に誇れる教育があったことを学ぶ。
13	日本の学校教育の始まり②	学制によって始まった学校教育制度について知り、幼児教育の必要性と位置づけを理解する。
14	アメリカの幼児教育	現在のアメリカの幼児教育について学ぶ。
15	まとめ	これまでの授業をとおして、幼児期における教育をどう考えたらよいか、授業の内容を素材にしてまとめる。

平成29年度

科目名	社会的養護	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	未定, 佐藤 篤		
開講期	Ⅲ		
授業概要	保育士に必要な社会的養護の基本理念と基礎知識の習得と現状を理解する。		
達成目標	保育士に必要な社会的養護の基本理念と基礎知識の習得と現状を理解する。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	出席を含む授業態度(40%)、授業内レポート(30%)、試験(30%)により評価する。
教科書	井村圭壯・相澤謙治編著『保育実践と社会的養護』勁草書房、2016		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事から取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。 事前学習：当日の内容を教科書で確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる(1時間)。		
オフィスタイム	(前期) 月曜1, 2, 5限目・水曜4限目・木曜1, 2, 5限目・金曜1~4限目 (後期) 月曜3~5限目・火曜1, 2限目・木曜終日・金曜1~4限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業内容の説明を行う。 ・社会的養護について学習していくにあたり、保育と社会的養護のかかわりについて述べ、保育士として社会的養護を学ぶ意義について確認する。
2	社会的養護の基本的な考え	・社会的養護の基礎概念を理解する。
3	社会的養護の歴史	・諸外国及び我が国の社会的養護の歴史を現代につながる視点を持ちながら学ぶ。
4	子どもの養護の体系	・家庭養護と社会的養護の相違点を理解するとともに、社会的養護の体系を学ぶ。
5	施設養護の概要	・社会的養護に関連する施設の概要を理解する。
6	家庭的養護の概要	・家庭的養護のさまざまな制度を里親制度を中心に学ぶ。
7	社会的養護の法体系	社会的養護に関連する法律の概要を学ぶ。
8	児童憲章・子どもの権利条約①	・児童憲章、子どもの権利条約の内容を具体例を交えながら理解する。
9	児童憲章・子どもの権利条約②	・児童憲章、子どもの権利条約の内容を具体例を交えながら理解する。
10	施設養護の基本原則	・人権尊重、個別化、親子関係調整、自立支援の原則について学ぶ。
11	施設養護の特質と機能	・児童の衣食住の保障を施設内の実情から学ぶとともに、施設の持つさまざまな機能について学ぶ。
12	施設養護の展開	・児童の施設入所から退所に至る経緯を時系列で学ぶ。
13	施設実習に向けて	・施設実習対象施設の特徴を理解するとともに、必要な心構えを具体的に身につける。
14	児童養護施設の実際①	・児童養護施設における実際の児童の生活を知るとともに、施設に携わる職員等に求められているものを学ぶ。
15	児童養護施設の実際②	・児童養護施設における実際の児童の生活を知るとともに、施設に携わる職員等に求められているものを学ぶ。

平成29年度

科目名	社会的養護	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	未定, 佐藤 篤		
開講期	Ⅲ		
授業概要	保育士に必要な社会的養護の基本理念と基礎知識の習得と現状を理解する。		
達成目標	保育士に必要な社会的養護の基本理念と基礎知識の習得と現状を理解する。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	出席を含む授業態度(40%)、授業内レポート(30%)、試験(30%)により評価する。
教科書	井村圭壯・相澤謙治編著『保育実践と社会的養護』勁草書房、2016		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事ながらを取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。 事前学習：当日の内容を教科書で確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる(1時間)。		
オフィスタイム	(前期)月曜1, 2, 5限目・水曜4限目・木曜1, 2, 5限目・金曜1~4限目 (後期)月曜3~5限目・火曜1, 2限目・木曜終日・金曜1~4限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業内容の説明を行う。 ・社会的養護について学習していくにあたり、保育と社会的養護のかかわりについて述べ、保育士として社会的養護を学ぶ意義について確認する。
2	社会的養護の基本的な考え	・社会的養護の基礎概念を理解する。
3	社会的養護の歴史	・諸外国及び我が国の社会的養護の歴史を現代につながる視点を持ちながら学ぶ。
4	子どもの養護の体系	・家庭養護と社会的養護の相違点を理解するとともに、社会的養護の体系を学ぶ。
5	施設養護の概要	・社会的養護に関連する施設の概要を理解する。
6	家庭的養護の概要	・家庭的養護のさまざまな制度を里親制度を中心に学ぶ。
7	社会的養護の法体系	社会的養護に関連する法律の概要を学ぶ。
8	児童憲章・子どもの権利条約①	・児童憲章、子どもの権利条約の内容を具体例を交えながら理解する。
9	児童憲章・子どもの権利条約②	・児童憲章、子どもの権利条約の内容を具体例を交えながら理解する。
10	施設養護の基本原則	・人権尊重、個別化、親子関係調整、自立支援の原則について学ぶ。
11	施設養護の特質と機能	・児童の衣食住の保障を施設内の実情から学ぶとともに、施設の持つさまざまな機能について学ぶ。
12	施設養護の展開	・児童の施設入所から退所に至る経緯を時系列で学ぶ。
13	施設実習に向けて	・施設実習対象施設の特徴を理解するとともに、必要な心構えを具体的に身につける。
14	児童養護施設の実際①	・児童養護施設における実際の児童の生活を知るとともに、施設に携わる職員等に求められているものを学ぶ。
15	児童養護施設の実際②	・児童養護施設における実際の児童の生活を知るとともに、施設に携わる職員等に求められているものを学ぶ。

平成29年度

科目名	社会福祉	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	添田 祐司		
開講期	I		
授業概要	社会福祉学は人間の幸福を追求する理論と実践を扱う学問である。社会福祉とは何かから始め、今日の社会の変化と、それに対応する社会福祉の動向を学び、さらに、現実の社会福祉がどのような役割を担っているのかを学ぶ。		
達成目標	①社会福祉とは何か、社会福祉がどのような役割を担っているのか理解できたか。 ②今日の社会の変化と社会福祉の動向を理解できたか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、コメントシート30%。 受講態度により減点あり。
教科書	山田美津子・稲葉光彦編『社会福祉を学ぶ』（第3版）株みらい 2016年		
参考書	適宜紹介する。		
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No. 2研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートをまとめること（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	福祉って何だろうかを考える。
2	社会福祉へのみちびき	私たちの生活と社会福祉について理解する。
3	社会福祉のあゆみ	日本の社会福祉のあゆみについて学ぶ。
4	改革期の社会福祉	少子高齢化社会の進展と社会福祉基礎構造改革について理解する。
5	社会福祉のしくみ	社会福祉の法体系と行財政について理解する。
6	生活保護	生活保護制度のしくみについて理解する。
7	子どもと家庭の福祉	子ども家庭福祉サービスとしくみについて理解する。
8	高齢者の福祉 1	高齢者を取り巻く状況について理解する。
9	高齢者の福祉 2	介護保険と地域包括ケアシステムについて理解する。
10	障がいのある人の福祉 1	障がいについての理解を深める。
11	障がいのある人の福祉 2	障がいのある人の福祉の基本理念について理解する。
12	地域の福祉	地域福祉について理解する。
13	社会福祉の担い手	社会福祉専門職の倫理と資格制度について理解する。
14	社会福祉とソーシャルワーク	ソーシャルワークについて理解する。
15	現代社会と社会保障 / まとめ	私たちの暮らしと社会保障について理解する。まとめ

平成29年度

科目名	社会福祉	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	添田 祐司		
開講期	I		
授業概要	社会福祉学は人間の幸福を追求する理論と実践を扱う学問である。社会福祉とは何かから始め、今日の社会の変化と、それに対応する社会福祉の動向を学び、さらに、現実の社会福祉がどのような役割を担っているのかを学ぶ。		
達成目標	①社会福祉とは何か、社会福祉がどのような役割を担っているのか理解できたか。 ②今日の社会の変化と社会福祉の動向を理解できたか。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	定期試験70%、コメントシート30%。 受講態度により減点あり。
教科書	山田美津子・稲葉光彦編『社会福祉を学ぶ』（第3版）株みらい 2016年		
参考書	適宜紹介する。		
学生への要望	主体的・積極的に学ぼうとする姿勢を期待する。		
オフィスタイム	月曜日 I 時限・II 時限 創学館4F、No. 2研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえてノートをまとめること（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	福祉って何だろうかを考える。
2	社会福祉へのみちびき	私たちの生活と社会福祉について理解する。
3	社会福祉のあゆみ	日本の社会福祉のあゆみについて学ぶ。
4	改革期の社会福祉	少子高齢化社会の進展と社会福祉基礎構造改革について理解する。
5	社会福祉のしくみ	社会福祉の法体系と行財政について理解する。
6	生活保護	生活保護制度のしくみについて理解する。
7	子どもと家庭の福祉	子ども家庭福祉サービスとしくみについて理解する。
8	高齢者の福祉 1	高齢者を取り巻く状況について理解する。
9	高齢者の福祉 2	介護保険と地域包括ケアシステムについて理解する。
10	障がいのある人の福祉 1	障がいについての理解を深める。
11	障がいのある人の福祉 2	障がいのある人の福祉の基本理念について理解する。
12	地域の福祉	地域福祉について理解する。
13	社会福祉の担い手	社会福祉専門職の倫理と資格制度について理解する。
14	社会福祉とソーシャルワーク	ソーシャルワークについて理解する。
15	現代社会と社会保障 / まとめ	私たちの暮らしと社会保障について理解する。まとめ

平成29年度

科目名	相談援助		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	Ⅲ			
授業概要	相談援助とは子どもたちがよりよい人生を歩むための保育者が援助するための理念と方法を学ぶ授業である。実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、保育者としての活動するために次の3つのことを学んでいく。 ①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に学ぶ。 ②それらについての、保育者としてなすべきことをソーシャルワークを中心に学ぶ。 ③特に困難事例である被虐待児、発達障害の事例について学ぶ。			
達成目標	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、児童に対しては責任を持ち、児童の保護者に対しては尊敬の念を持って、保育者としての力を形成することを目指す。</p> <p>①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に理解する。 ②それらについての、保育者としてなすべきことを理解する。 ③特に困難事例である被虐待児、発達障害への対応を具体的に考えられるようにする。 これらについて理解できたか。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート2回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	授業中に紹介する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日午後4時から5時 水曜日午後4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業のオリエンテーション 成績評価についての説明 学習目標の設定
2	相談とは	どのような理論から、どのようなプロセスで相談が成立するかについて、考える。
3	なぜ相談援助を勉強するか	危機場面で役立つ理論と技法 相談援助を学ぶことで、現場で対応できるように理論と知識を習得するための目標設定を考えさせる。
4	虐待の事例 愛着障害Ⅰ	愛着の成立 母子関係の発達 愛着障害の事例
5	虐待の事例 愛着障害Ⅱ	愛着障害の理解 愛着障害への対応 園における配慮事項
6	ソーシャルワークとして 心身症Ⅰ	心身症の仕組み 心身症をどのように理解すればいいか 子どもの症状をどう見ればいいのか
7	ソーシャルワークとして 心身症Ⅱ	子どもの心をどうとらえて対応すべきか 心身症の事例 子どもの心身症への対応
8	子どもへの援助 習癖	排泄に関わる問題 小児オナニーをどう理解するか 強迫症状について考える 強迫症状の強い子への働きかけ
9	社会性の問題 乱暴・盗み	攻撃をどうとらえるか 攻撃の発達 幼児の攻撃行動とそれへの対応 攻撃の事例 盗みの事令
10	社会性の問題 緘黙・ひきこもり	緘黙をどう理解するか 緘黙の事例 引きこもり傾向について 登園拒否の事例 園における指導上の留意点
11	困難事例その1 被虐待児 症候群	虐待がなぜおきるか 虐待の現状と問題点 虐待への対応 虐待事例
12	困難事例その2 発達障害 Ⅰ	発達について 母子関係の問題点と現状 精神発達遅滞の理解について 精神発達遅滞の子どもへの対応

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	困難事例その3 発達障害 II	精神発達遅滞の子どもへの働きかけ 自閉症とは何か 自閉症を理解するために 自閉症の内的世界
14	困難事例その4 発達障害 III	自閉症の事例 園での指導上の留意点 学習障害とADHDへの理解と対応
15	まとめ	講義のまとめ

平成29年度

科目名	相談援助		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	Ⅲ			
授業概要	相談援助とは子どもたちがよりよい人生を歩むための保育者が援助するための理念と方法を学ぶ授業である。実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、保育者としての活動するために次の3つのことを学んでいく。 ①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に理解する。 ②それらについての、保育者としてなすべきことをソーシャルワークを中心に学ぶ。 ③特に困難事例である被虐待児、発達障害の事例について学ぶ。			
達成目標	本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、児童に対しては責任を持ち、児童の保護者に対しては尊敬の念を持って、保育者としての力を形成することを目指す。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート2回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	授業中に紹介する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日午後4時から5時 水曜日午後4時から5時 富士盛研究室			
自学自習	予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業のオリエンテーション 成績評価についての説明 学習目標の設定
2	相談とは	どのような理論から、どのようなプロセスで相談が成立するかについて、考える。
3	なぜ相談援助を勉強するか	危機場面で役立つ理論と技法 相談援助を学ぶことで、現場で対応できるように理論と知識を習得するための目標設定を考えさせる。
4	虐待の事例 愛着障害Ⅰ	愛着の成立 母子関係の発達 愛着障害の事例
5	虐待の事例 愛着障害Ⅱ	愛着障害の理解 愛着障害への対応 園における配慮事項
6	ソーシャルワークとして 心身症Ⅰ	心身症の仕組み 心身症をどのように理解すればいいか 子どもの症状をどう見ればいいのか
7	ソーシャルワークとして 心身症Ⅱ	子どもの心をどうとらえて対応すべきか 心身症の事例 子どもの心身症への対応
8	子どもへの援助 習癖	排泄に関わる問題 小児オナニーをどう理解するか 強迫症状について考える 強迫症状の強い子への働きかけ
9	社会性の問題 乱暴・盗み	攻撃をどうとらえるか 攻撃の発達 幼児の攻撃行動とそれへの対応 攻撃の事例 盗みの事案
10	社会性の問題 緘黙・ひきこもり	緘黙をどう理解するか 緘黙の事例 引きこもり傾向について 登園拒否の事例 園における指導上の留意点
11	困難事例その1 被虐待児 症候群	虐待がなぜおきるか 虐待の現状と問題点 虐待への対応 虐待事例
12	困難事例その2 発達障害 Ⅰ	発達について 母子関係の問題点と現状 精神発達遅滞の理解について 精神発達遅滞の子どもへの対応
13	困難事例その3 発達障害 Ⅱ	精神発達遅滞の子どもへの働きかけ 自閉症とは何か 自閉症を理解するために 自閉症の内的世界

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	困難事例その4 発達障害Ⅲ	自閉症の事例 園での指導上の留意点 学習障害とADHDへの理解と対応
15	まとめ	講義のまとめ

平成29年度

科目名	相談援助		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	Ⅲ			
授業概要	相談援助とは子どもたちがよりよい人生を歩むための保育者が援助するための理念と方法を学ぶ授業である。実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、保育者としての活動するために次の3つのことを学んでいく。 ①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に学ぶ。 ②それらについての、保育者としてなすべきことをソーシャルワークを中心に学ぶ。 ③特に困難事例である被虐待児、発達障害の事例について学ぶ。			
達成目標	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、児童に対しては責任を持ち、児童の保護者に対しては尊敬の念を持って、保育者としての力を形成することを目指す。</p> <p>①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に理解する。 ②それらについての、保育者としてなすべきことを理解する。 ③特に困難事例である被虐待児、発達障害への対応を具体的に考えられるようにする。 これらについて理解できたか。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート2回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	授業中に紹介する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日午後4時から5時 水曜日午後4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業のオリエンテーション 成績評価についての説明 学習目標の設定
2	相談とは	どのような理論から、どのようなプロセスで相談が成立するかについて、考える。
3	なぜ相談援助を勉強するか	危機場面で役立つ理論と技法 相談援助を学ぶことで、現場で対応できるように理論と知識を習得するための目標設定を考えさせる。
4	虐待の事例 愛着障害Ⅰ	愛着の成立 母子関係の発達 愛着障害の事例
5	虐待の事例 愛着障害Ⅱ	愛着障害の理解 愛着障害への対応 園における配慮事項
6	ソーシャルワークとして 心身症Ⅰ	心身症の仕組み 心身症をどのように理解すればいいか 子どもの症状をどう見ればいいのか
7	ソーシャルワークとして 心身症Ⅱ	子どもの心をどうとらえて対応すべきか 心身症の事例 子どもの心身症への対応
8	子どもへの援助 習癖	排泄に関わる問題 小児オナニーをどう理解するか 強迫症状について考える 強迫症状の強い子への働きかけ
9	社会性の問題 乱暴・盗み	攻撃をどうとらえるか 攻撃の発達 幼児の攻撃行動とそれへの対応 攻撃の事例 盗みの事令
10	社会性の問題 緘黙・ひきこもり	緘黙をどう理解するか 緘黙の事例 引きこもり傾向について 登園拒否の事例 園における指導上の留意点
11	困難事例その1 被虐待児 症候群	虐待がなぜおきるか 虐待の現状と問題点 虐待への対応 虐待事例
12	困難事例その2 発達障害 Ⅰ	発達について 母子関係の問題点と現状 精神発達遅滞の理解について 精神発達遅滞の子どもへの対応

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	困難事例その3 発達障害 II	精神発達遅滞の子どもへの働きかけ 自閉症とは何か 自閉症を理解するために 自閉症の内的世界
14	困難事例その4 発達障害 III	自閉症の事例 園での指導上の留意点 学習障害とADHDへの理解と対応
15	まとめ	講義のまとめ

平成29年度

科目名	相談援助		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	Ⅲ			
授業概要	相談援助とは子どもたちがよりよい人生を歩むための保育者が援助するための理念と方法を学ぶ授業である。実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、保育者としての活動するために次の3つのことを学んでいく。 ①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に学ぶ。 ②それらについての、保育者としてなすべきことをソーシャルワークを中心に学ぶ。 ③特に困難事例である被虐待児、発達障害の事例について学ぶ。			
達成目標	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、児童に対しては責任を持ち、児童の保護者に対しては尊敬の念を持って、保育者としての力を形成することを目指す。</p> <p>①愛着、虐待、発達障害、嗜癖、心身症などについてその家庭的な背景も含めて理論的に理解する。 ②それらについての、保育者としてなすべきことを理解する。 ③特に困難事例である被虐待児、発達障害への対応を具体的に考えられるようにする。 これらについて理解できたか。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート2回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
教科書	プリントを配布する。			
参考書	授業中に紹介する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日午後4時から5時 水曜日午後4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業のオリエンテーション 成績評価についての説明 学習目標の設定
2	相談とは	どのような理論から、どのようなプロセスで相談が成立するかについて、考える。
3	なぜ相談援助を勉強するか	危機場面で役立つ理論と技法 相談援助を学ぶことで、現場で対応できるように理論と知識を習得するための目標設定を考えさせる。
4	虐待の事例 愛着障害Ⅰ	愛着の成立 母子関係の発達 愛着障害の事例
5	虐待の事例 愛着障害Ⅱ	愛着障害の理解 愛着障害への対応 園における配慮事項
6	ソーシャルワークとして 心身症Ⅰ	心身症の仕組み 心身症をどのように理解すればいいか 子どもの症状をどう見ればいいのか
7	ソーシャルワークとして 心身症Ⅱ	子どもの心をどうとらえて対応すべきか 心身症の事例 子どもの心身症への対応
8	子どもへの援助 習癖	排泄に関わる問題 小児オナニーをどう理解するか 強迫症状について考える 強迫症状の強い子への働きかけ
9	社会性の問題 乱暴・盗み	攻撃をどうとらえるか 攻撃の発達 幼児の攻撃行動とそれへの対応 攻撃の事例 盗みの事令
10	社会性の問題 緘黙・ひきこもり	緘黙をどう理解するか 緘黙の事例 引きこもり傾向について 登園拒否の事例 園における指導上の留意点
11	困難事例その1 被虐待児 症候群	虐待がなぜおきるか 虐待の現状と問題点 虐待への対応 虐待事例
12	困難事例その2 発達障害 Ⅰ	発達について 母子関係の問題点と現状 精神発達遅滞の理解について 精神発達遅滞の子どもへの対応

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	困難事例その3 発達障害 II	精神発達遅滞の子どもへの働きかけ 自閉症とは何か 自閉症を理解するために 自閉症の内的世界
14	困難事例その4 発達障害 III	自閉症の事例 園での指導上の留意点 学習障害とADHDへの理解と対応
15	まとめ	講義のまとめ

平成29年度

科目名	児童家庭福祉	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	吉田 一也		
開講期	Ⅱ		
授業概要	子どもの育ちを現代社会の特徴を踏まえながら、社会的に支える仕組みや制度について基礎的な知識を習得する。		
達成目標	子どもの育ちを現代社会の特徴を踏まえながら、社会的に支える仕組みや制度について基礎的な知識を習得する。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40%）、授業内レポート（30%）、試験（30%）により評価する。
教科書	授業の中で、随時紹介する。		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事ながらを取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。		
オフィスタイム	（前期）月曜1, 2限目・水曜4限目・木曜1, 2限目・金曜終日 （後期）月曜1, 2限目・火曜3, 4限・水曜4限目・木曜1, 2限目・金曜終日		

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。
2	現代社会の特徴と児童家庭福祉	・現代社会の諸問題を社会福祉の観点から捉える。 ・児童家庭福祉の意義について理解を深める。
3	児童家庭福祉の基本的枠組み	・児童家庭福祉の援助観・理念を学ぶ。 ・子どもの人権について理解を深める。
4	児童家庭福祉の歴史	・社会福祉の成り立ちを学ぶ。 ・欧米での児童家庭福祉および日本の児童家庭福祉の歴史を学ぶ。
5	児童家庭福祉の援助	・社会福祉の援助の基本的視点を学ぶ。 ・児童家庭福祉分野の特性、援助目標について学ぶ。
6	児童家庭福祉の法律と制度	・児童家庭福祉の基礎的法体系を理解する。 ・児童家庭福祉実施の財源について学ぶ。
7	児童家庭福祉の実施体制	・児童家庭福祉を推進していくための機構について学ぶ。 ・各機構において従事する様々な職員について学ぶとともに専門性について理解する。
8	就学前の保育・教育との関連①	・就学前保育・教育の中心となる保育園、幼稚園等について児童家庭福祉と関連付けて学ぶ。
9	就学前の保育・教育との関連②	・保育園、幼稚園、認定こども園、地域型保育について具体的な事例とともに特徴を理解する。
10	児童虐待と児童家庭福祉	・児童虐待の防止に関する法律や施策について理解する。 ・児童虐待対応の流れと予防策について学ぶ。
11	社会的養護と児童家庭福祉	・社会的養護の基本的な理念を学ぶ。 ・子どもの権利条約や国際的な児童に対する施策について理解する。
12	さまざまな児童に対する家庭福祉①	・ひとり親家庭の現状を理解し、その支援策について学ぶ。 ・障がいとは何かを考察し、障がい福祉サービスについて学ぶ。
13	さまざまな児童に対する家庭福祉②	・障がい児とその家庭が抱える問題について考察し、その支援策について学ぶ。 ・非行問題を理解するとともに、その支援策や予防策について学ぶ。
14	児童家庭福祉のの課題と今後①	・授業を通して学習してきたことから現在の課題を考察する。
15	児童家庭福祉のの課題と今後②	・前回の授業で考察した課題に対して有効な解決方法を考察する。

平成29年度

科目名	児童家庭福祉	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	吉田 一也		
開講期	Ⅱ		
授業概要	子どもの育ちを現代社会の特徴を踏まえながら、社会的に支える仕組みや制度について基礎的な知識を習得する。		
達成目標	子どもの育ちを現代社会の特徴を踏まえながら、社会的に支える仕組みや制度について基礎的な知識を習得する。		
受講資格	特になし	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40%）、授業内レポート（30%）、試験（30%）により評価する。
教科書	授業の中で、随時紹介する。		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事ながらを取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。		
オフィスタイム	（前期）月曜1, 2限目・水曜4限目・木曜1, 2限目・金曜終日 （後期）月曜1, 2限目・火曜3, 4限・水曜4限目・木曜1, 2限目・金曜終日		

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。
2	現代社会の特徴と児童家庭福祉	・現代社会の諸問題を社会福祉の観点から捉える。 ・児童家庭福祉の意義について理解を深める。
3	児童家庭福祉の基本的枠組み	・児童家庭福祉の援助観・理念を学ぶ。 ・子どもの人権について理解を深める。
4	児童家庭福祉の歴史	・社会福祉の成り立ちを学ぶ。 ・欧米での児童家庭福祉および日本の児童家庭福祉の歴史を学ぶ。
5	児童家庭福祉の援助	・社会福祉の援助の基本的視点を学ぶ。 ・児童家庭福祉分野の特性、援助目標について学ぶ。
6	児童家庭福祉の法律と制度	・児童家庭福祉の基礎的法体系を理解する。 ・児童家庭福祉実施の財源について学ぶ。
7	児童家庭福祉の実施体制	・児童家庭福祉を推進していくための機構について学ぶ。 ・各機構において従事する様々な職員について学ぶとともに専門性について理解する。
8	就学前の保育・教育との関連①	・就学前保育・教育の中心となる保育園、幼稚園等について児童家庭福祉と関連付けて学ぶ。
9	就学前の保育・教育との関連②	・保育園、幼稚園、認定こども園、地域型保育について具体的な事例とともに特徴を理解する。
10	児童虐待と児童家庭福祉	・児童虐待の防止に関する法律や施策について理解する。 ・児童虐待対応の流れと予防策について学ぶ。
11	社会的養護と児童家庭福祉	・社会的養護の基本的な理念を学ぶ。 ・子どもの権利条約や国際的な児童に対する施策について理解する。
12	さまざまな児童に対する家庭福祉①	・ひとり親家庭の現状を理解し、その支援策について学ぶ。 ・障がいとは何かを考察し、障がい福祉サービスについて学ぶ。
13	さまざまな児童に対する家庭福祉②	・障がい児とその家庭が抱える問題について考察し、その支援策について学ぶ。 ・非行問題を理解するとともに、その支援策や予防策について学ぶ。
14	児童家庭福祉のの課題と今後①	・授業を通して学習してきたことから現在の課題を考察する。
15	児童家庭福祉のの課題と今後②	・前回の授業で考察した課題に対して有効な解決方法を考察する。

科目名	保育の心理学Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	折笠 国康		
開講期	Ⅱ		
授業概要	保育実践にかかわる心理学の基礎知識を学習し、子どもへの理解を深め好ましい対応を見極める力を養うことを目標とする。特に、人間の発達の過程を見据えながらその特徴について学習する。		
達成目標	①子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めることができたか。 ②保育実践にかかわる心理学的な基礎理論を理解することができたか。 ③子どもの発達を援助する方法を心理学的な観点で理解することができたか。		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績評価 方法	内容の「60%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、定期試験70%で行う。
教科書	特にしてはしない。授業の時に資料を配布することがある。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。		
オフィスタイム	金曜 2限 835研究室 3限 835研究室		
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション 保育の基本と自己受容、防衛機制	この科目の目標と授業方針を理解する。保育とは何かを心理学的な視点から理解する。ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。 A.フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。
2	保育のための心理学 交流分析	自己についてエゴグラムを用いた交流分析によって理解する。
3	保育のための心理学 -発達心理学-	子どもの発達や成長に関して、心理的な知見や関わり方を理解する。
4	保育のための心理学 -保育の目標 ①-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。
5	保育のための心理学 -保育の目標 ②-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。
6	保育のための心理学 -保育者の役割 1-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。
7	保育のための心理学 -運動や遊びの本質 1-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。
8	保育のための心理学 -運動や遊びの本質 2-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。
9	保育のための心理学 -保育者の役割 2-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。
10	保育のための心理学 -動機づけの理論 1-	人間のやる気や意欲にかかわる動機づけの理論の基礎を理解する。
11	保育のための心理学 -保育者の役割 3-	動機づけ理論の基礎を基に、ほめる・叱るといった賞罰についての心理学的知見を理解する。
12	保育のための心理学 -アドラー心理学 1-	子どもの適応を育むための、アドラー心理学の理論を理解する。
13	保育のための心理学 -アドラー心理学 2-	子どもとの良好な関係性を築くため、アドラー心理学の理論を理解する。
14	保育のための心理学 教師のリーダーシップ	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
15	本講義のまとめ	本講義を振り返り、保育に関する心理学的視点を復習する。

平成29年度

科目名	保育の心理学 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	折笠 国康			
開講期	II			
授業概要	保育実践にかかわる心理学の基礎知識を学習し、子どもへの理解を深め好ましい対応を見極める力を養うことを目標とする。特に、人間の発達の過程を見据えながらその特徴について学習する。			
達成目標	①子どもの発達にかかわる心理学の基礎を習得し、子どもへの理解を深めることができたか。 ②保育実践にかかわる心理学的な基礎理論を理解することができたか。 ③子どもの発達を援助する方法を心理学的な観点で理解することができたか。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績評価 方法	内容の「60%」の理解で合格とするが、「80%程度」の理解が望まれる。理解度の評価は小レポート30%、定期試験70%で行う。	
教科書	特に指定はしない。授業の時に資料を配布することがある。			
参考書	必要に応じて紹介する。			
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。 専用のノートを準備すること。			
オフィスタイム	金曜 2限 835研究室 3限 835研究室			
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション 保育の基本と自己受容、防衛機制	この科目の目標と授業方針を理解する。保育とは何かを心理学的な視点から理解する。ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。 A.フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。
2	保育のための心理学 交流分析	自己についてエゴグラムを用いた交流分析によって理解する。
3	保育のための心理学 -発達心理学-	子どもの発達や成長に関して、心理的な知見や関わり方を理解する。
4	保育のための心理学 -保育の目標 ①-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。
5	保育のための心理学 -保育の目標 ②-	保育の目標や保育者の対応について心理学的な視点から理解する。
6	保育のための心理学 -保育者の役割 1-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。
7	保育のための心理学 -運動や遊びの本質 1-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。
8	保育のための心理学 -運動や遊びの本質 2-	保育や心理学的な視点から、子どもの運動や遊びの本質について理解する。
9	保育のための心理学 -保育者の役割 2-	保育者との信頼関係や、保育者による子ども承認認知の重要性を理解する。
10	保育のための心理学 -動機づけの理論 1-	人間のやる気や意欲にかかわる動機づけの理論の基礎を理解する。
11	保育のための心理学 -保育者の役割 3-	動機づけ理論の基礎を基に、ほめる・叱るといった賞罰についての心理学的知見を理解する。
12	保育のための心理学 -アドラー心理学 1-	子どもの適応を育むための、アドラー心理学の理論を理解する。
13	保育のための心理学 -アドラー心理学 2-	子どもとの良好な関係性を築くため、アドラー心理学の理論を理解する。
14	保育のための心理学 教師のリーダーシップ	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
15	本講義のまとめ	本講義を振り返り、保育に関する心理学的視点を復習する。

平成29年度

科目名	保育の心理学Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 1 単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	Ⅳ			
授業概要	<p>保育の現場に必要な発達心理学を基本として、幼児の成長を理解し、発達段階に応じた対応ができるように次の点を学修する。</p> <p>①保育の心理学Ⅰの理解を前提にして、それをさらに発展させる。</p> <p>②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどの異常な状態を学修する。</p> <p>③上の知識をさらに発展させて、現場での対応を理論的に学ぶ。</p>			
達成目標	<p>学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、子どもに対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、活動することを目指す。</p> <p>①保育の心理学Ⅰの知識と理論を実際に現場で利用できること。</p> <p>②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどを理解する。</p> <p>③発達心理学、臨床心理学の応用的な理論と知識の実際を理解する。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	課題提出50点、小テスト30点を課す。テキストを読んできて、発表もしてもらう。これが20点それらを合計して評価する。	
教科書	プリント配布			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日 午後4時から5時 水曜日 午後4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	第1回 オリエンテーション 講義の概論と授業の成績評価の説明
2	保育心理学概説	第2回 なぜ、保育の心理学を学ばなければならないか あらためて、その意味について考えて、モチベーションを確認する。
3	心の発達 1	第3回 心とは何か。心のなりたちについて、発達の観点から概説する。
4	心の発達 2	第4回 情動の役割 「怒り」や「悲しみ」について、人間の感情がどのように生起し、発達するかを理解する。
5	親子関係の発達 1	第5回 母子相互作用 子と親との関係の中で形成されていくものを考察する。
6	親子関係の発達 2	第6回 愛着の形成と発達 親の養育行動と子どもの発達について考察する。
7	パーソナリティの発達 1	第7回 気質、パーソナリティとは何か。主なパーソナリティの理論とその発展について考察する。
8	パーソナリティの発達 2 と まとめ	第8回 環境因の影響 自己理解の発達について考察する。 発表と討議 ここまでのそれぞれの理解について分担を決めて、発表し、それについて討議する。

平成29年度

科目名	保育の心理学Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 1 単位 選択
担当教員	富士盛 公年		
開講期	Ⅳ		
授業概要	保育の現場に必要な発達心理学を基本として、幼児の成長を理解し、発達段階に応じた対応ができるように次の点を学修する。 ①保育の心理学Ⅰの理解を前提にして、それをさらに発展させる。 ②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどの異常な状態を学修する。 ③上の知識をさらに発展させて、現場での対応を理論的に学ぶ。		
達成目標	学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、子どもに対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、活動することを目指す。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	課題提出50点、小テスト30点を課す。テキストを読んできて、発表もしてもらう。これが20点それらを合計して評価する。
教科書	プリント配布		
参考書	参考書は授業ごとに指示する。		
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。 事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。		
オフィスタイム	火曜日 午後4時から5時 水曜日 午後4時から5時 富士盛研究室		
自学自習	予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	第1回 オリエンテーション 講義の概論と授業の成績評価の説明
2	保育心理学概説	第2回 なぜ、保育の心理学を学ばなければならないか あらためて、その意味について考えて、モチベーションを確認する。
3	心の発達 1	第3回 心とは何か。心のなりたちについて、発達の観点から概説する。
4	心の発達 2	第4回 情動の役割 「怒り」や「悲しみ」について、人間の感情がどのように生じ、発達するかを理解する。
5	親子関係の発達 1	第5回 母子相互作用 子と親との関係の中で形成されていくものを考察する。
6	親子関係の発達 2	第6回 愛着の形成と発達 親の養育行動と子どもの発達について考察する。
7	パーソナリティの発達 1	第7回 気質、パーソナリティとは何か。主なパーソナリティの理論とその発展について考察する。
8	パーソナリティの発達 2と まとめ	第8回 環境因の影響 自己理解の発達について考察する。 発表と討議 ここまでのそれぞれの理解について分担を決めて、発表し、それについて討議する。

平成29年度

科目名	保育の心理学Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 1 単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	Ⅳ			
授業概要	<p>保育の現場に必要な発達心理学を基本として、幼児の成長を理解し、発達段階に応じた対応ができるように次の点を学修する。</p> <p>①保育の心理学Ⅰの理解を前提にして、それをさらに発展させる。</p> <p>②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどの異常な状態を学修する。</p> <p>③上の知識をさらに発展させて、現場での対応を理論的に学ぶ。</p>			
達成目標	<p>学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、子どもに対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、活動することを目指す。</p> <p>①保育の心理学Ⅰの知識と理論を実際に現場で利用できること。</p> <p>②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどを理解する。</p> <p>③発達心理学、臨床心理学の応用的な理論と知識の実際を理解する。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	課題提出50点、小テスト30点を課す。テキストを読んできて、発表もしてもらう。これが20点それらを合計して評価する。	
教科書	プリント配布			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日 午後4時から5時 水曜日 午後4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	第1回 オリエンテーション 講義の概論と授業の成績評価の説明
2	保育心理学概説	第2回 なぜ、保育の心理学を学ばなければならないか あらためて、その意味について考えて、モチベーションを確認する。
3	心の発達 1	第3回 心とは何か。心のなりたちについて、発達の観点から概説する。
4	心の発達 2	第4回 情動の役割 「怒り」や「悲しみ」について、人間の感情がどのように生起し、発達するかを理解する。
5	親子関係の発達 1	第5回 母子相互作用 子と親との関係の中で形成されていくものを考察する。
6	親子関係の発達 2	第6回 愛着の形成と発達 親の養育行動と子どもの発達について考察する。
7	パーソナリティの発達 1	第7回 気質、パーソナリティとは何か。主なパーソナリティの理論とその発展について考察する。
8	パーソナリティの発達 2 と まとめ	第8回 環境因の影響 自己理解の発達について考察する。 発表と討議 ここまでのそれぞれの理解について分担を決めて、発表し、それについて討議する。

科目名	保育の心理学Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 1 単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	Ⅳ			
授業概要	保育の現場に必要な発達心理学を基本として、幼児の成長を理解し、発達段階に応じた対応ができるように次の点を学修する。 ①保育の心理学Ⅰの理解を前提にして、それをさらに発展させる。 ②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどの異常な状態を学修する。 ③上の知識をさらに発展させて、現場での対応を理論的に学ぶ。			
達成目標	学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、子どもに対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、活動することを目指す。 ①保育の心理学Ⅰの知識と理論を実際に現場で利用できること。 ②幼児の発達を理解して、さらに心と身体の正常な発達と発達障がいなどを理解する。 ③発達心理学、臨床心理学の応用的な理論と知識の実際を理解する。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	課題提出50点、小テスト30点を課す。テキストを読んできて、発表もしてもらう。これが20点それらを合計して評価する。	
教科書	プリント配布			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。 事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日 午後4時から5時 水曜日 午後4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	第1回 オリエンテーション 講義の概論と授業の成績評価の説明
2	保育心理学概説	第2回 なぜ、保育の心理学を学ばなければならないか あらためて、その意味について考えて、モチベーションを確認する。
3	心の発達 1	第3回 心とは何か。心のなりたちについて、発達の観点から概説する。
4	心の発達 2	第4回 情動の役割 「怒り」や「悲しみ」について、人間の感情がどのように生起し、発達するかを理解する。
5	親子関係の発達 1	第5回 母子相互作用 子と親との関係の中で形成されていくものを考察する。
6	親子関係の発達 2	第6回 愛着の形成と発達 親の養育行動と子どもの発達について考察する。
7	パーソナリティの発達 1	第7回 気質、パーソナリティとは何か。主なパーソナリティの理論とその発展について考察する。
8	パーソナリティの発達 2 と まとめ	第8回 環境因の影響 自己理解の発達について考察する。 発表と討議 ここまでのそれぞれの理解について分担を決めて、発表し、それについて討議する。

平成29年度

科目名	教育心理学	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康		
開講期	I		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。		
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績評価 方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やアクションシート30%、定期試験70%で行う。
教科書	特に指定はない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
オフィスタイム	金曜 2限 835研究室 3限 835研究室		
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	この授業の目的と授業方針を理解する。
2	人間の発達 -発達心理学	人間の発達や成長に関して、心理学的な知見や理論を学び理解する。
3	自己とは(1) 認知について	認知心理学の基礎を学び、自己に対する認識について理解する。
4	自己とは(2) 認知について	ピアジェの認知の発達に関する理論を学び理解する。
5	自己とは(3) 自我同一性	自我同一性を中心に心理学的な枠組みで自己とは何かを理解する。
6	自己とは(4) 自己概念	心理学的な構成概念としての自己概念の理論的枠組みを理解する。
7	自己とは(5) 自尊感情と自己評価	自尊感情や自己評価に関する心理学的知見を概観し理解する。「本当の自分」に関して、心理学的視野から理解する。
8	自己とは(6) 自己受容、防衛機制	C. ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。 A. フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。
9	自己とは(7) 交流分析	自己についてエゴグラムを用いて理解する。
10	動機づけの理論	内発的動機、外発的動機づけに関する理論を理解する。 E. デシの自己決定理論の基礎を理解する。
11	学級のアセスメント1	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。
12	学級のアセスメント2	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。
13	教師のリーダーシップ1	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
14	教師のリーダーシップ2	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
15	本講義のまとめ	本講義の振り返りを通して、教育の実践に必要な心理学的な知見を復習する。

平成29年度

科目名	教育心理学	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	折笠 国康		
開講期	I		
授業概要	教育心理学は、教育活動をより効果的に行うための心理学的な知見や技術を提供する学問である。本科目を通して、より効果的な教育実践が可能となる教育に関する心理学的な知識や方法を理解することを目標とする。		
達成目標	①認知や感情などの「心の発達」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ②「自己」に関する基本概念をどの程度理解できたか。 ③近年の教育現場で問題となっている事柄をどの程度理解できたか。		
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年	成績評価 方法	授業内容の「80%程度」の理解が必要。理解度の評価は、授業の参加の様子やアクションシート30%、定期試験70%で行う。
教科書	特に指定はしない。		
参考書	講義の中で、適宜紹介する。		
学生への要望	講義への協力的な参加を要望する。		
オフィスタイム	金曜 2限 835研究室 3限 835研究室		
自学自習	関連の図書などを利用して理解を深めること。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	この授業の目的と授業方針を理解する。
2	人間の発達 -発達心理学	人間の発達や成長に関して、心理学的な知見や理論を学び理解する。
3	自己とは(1) 認知について	認知心理学の基礎を学び、自己に対する認識について理解する。
4	自己とは(2) 認知について	ピアジェの認知の発達に関する理論を学び理解する。
5	自己とは(3) 自我同一性	自我同一性を中心に心理学的な枠組みで自己とは何かを理解する。
6	自己とは(4) 自己概念	心理学的な構成概念としての自己概念の理論的枠組みを理解する。
7	自己とは(5) 自尊感情と自己評価	自尊感情や自己評価に関する心理学的知見を概観し理解する。「本当の自分」に関して、心理学的視野から理解する。
8	自己とは(6) 自己受容、防衛機制	C. ロジャースの理論を用いて、自己受容について理解する。 A. フロイトによる防衛機制の概念を学び、自己についての理解を深める。
9	自己とは(7) 交流分析	自己についてエゴグラムを用いて理解する。
10	動機づけの理論	内発的動機、外発的動機づけに関する理論を理解する。 E. デシの自己決定理論の基礎を理解する。
11	学級のアセスメント1	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。
12	学級のアセスメント2	標準化された心理尺度による客観的な指標を基にした学級のアセスメントについて理解する。
13	教師のリーダーシップ1	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
14	教師のリーダーシップ2	教師の果たす役割やあり方、実際の指導行動の状態、時代が求める望まれるリーダーシップについての理解を深める。
15	本講義のまとめ	本講義の振り返りを通して、教育の実践に必要な心理学的な知見を復習する。

平成29年度

科目名	子どもの食と栄養		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	石村 由美子, 水野 時子, 阿部 優子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を学ぶ。 2. 食育の基本を理解し、その内容及び実践方法について学ぶ。 3. 子どもの発育・発達と食生活の関連、また家庭や児童福祉施設の食生活や特別な配慮を要する子どもの食と栄養について理解する。 4. 食生活の現状と課題について学ぶ。			
達成目標	①健康な食生活を営むための基礎的な知識を深めるとともに、子どもの発育と栄養の特性に関する理解が身に付いている。 ②子どもを取り巻くさまざまな食環境に関する課題に取り組み、現場で役立つ「食育」の実践力が身に付いている。			
受講資格	特にありません	成績評価 方法	内容の60%以上の理解で合格とするが、80%程度の理解を求める。理解度の評価は、課題の「研究ノート」提出が40%、レポート30%、小テストが30%とする。	
教科書	授業時に配布するプリント他			
参考書	必要に応じて連絡する			
学生への要望	子どもの食に関する社会の動きに興味と関心を持ち、常に新しい情報を得るように努力すること。			
オフィスタイム	木曜日の授業時間内及び木曜日のⅢ、Ⅳ時限 石村：家政学館1階「No.2調理学研究室」 水野：家政学館3階「No.2栄養学研究室」 阿部：家政学館4階「福祉情報専攻研究室」			
自学自習	事前学習：当日の資料内容を確認しておくこと。(1時間) 事後学習：講義の内容をまとめ、課題である「研究ノート」の作成をする。(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	子どもの食と栄養 授業ガイダンス(1)	シラバスをもとに授業の内容とスケジュールの説明する。また、課題である「研究ノート」作成について、情報収集の方法やまとめ方の説明を行なう。
2	子どもの食と栄養 授業ガイダンス(2)	子どもの食に関する理解を深めるためにビデオ「3歳児食べるよろこび」を視聴し、食べることを通して親や保護者のかかわり方、また子ども自身の成長を理解してレポートにまとめる。 ≪参考ビデオ「3才児食べるよろこび」≫ 課題：ビデオを通して学んだことについてレポート提出
3	食育の基本と内容(1)	食育基本法の基本理念である、食品の安全性の確保と食育の役割、心身の健康の増進と豊かな人間形成、食に関する感謝の念の醸成、食育における保護者・教育関係者の役割等について学ぶとともに、国の食育政策について理解をする。
4	食育の基本と内容(2)	家庭や保育の現場において実践できる食育の三つの柱(選食力をやしなう、食事作法を身につける、地球の食を考える)を視点として「食育発表」に向けてグループ作りと課題設定教材作成等の準備をする。 課題：発表の原案を提出する
5	食育研究の発表会(1)	これまでに準備した「食育」に関する研究発表会を行う。各グループの発表内容と感想をまとめてレポートにして提出する。
6	食育研究の発表会(2)	これまでに準備した「食育」に関する研究発表会を行う。各グループの発表内容と感想をまとめてレポートにして提出する。 課題：発表の概要と感想のレポート提出
7	栄養に関する基礎知識	食べ物に含まれている栄養素の種類とその働き、「日本人の食事摂取基準2015年版」における小児期栄養の留意点を学び理解する。
8	食生活の診断と献立作成(1)	栄養の特性を理解し、食事摂取基準をもとにした献立作成と食品構成について学ぶ。自信の食事記録から食生活を診断し、バランスのとれた献立作成の基準と手順を学ぶ。
9	食生活の診断と献立作成(2)	(1)で学んだことをもとに「献立マスターシール」を使用して、一日分の献立を作成し、栄養量の過不足、食品選択、季節感、経済性等の観点を通して望ましい献立を完成させる。 課題：栄養診断のワークシート提出
10	調乳と授乳に関する講習会(1)	母乳と人工乳の特徴について理解するとともに、調乳に関連した器具の種類や衛生的な取扱い方法を学び、調乳や授乳に関する最新の情報を理解するため、外部講師による講習会を行う。
11	調乳と授乳に関する講習会(2)	母乳と人工乳の特徴について理解するとともに、調乳に関連した器具の種類や衛生的な取扱い方法を学び、調乳や授乳に関する最新の情報を理解するため、外部講師による講習会を行う。 課題：学んだ内容をレポートにして提出
12	子どもの発育発達と食生活 1	胎児の発育や栄養と奇形について学び、妊娠期の健康状態や栄養状態が、胎児の発育に大きく影響することを理解する。また、乳児の食べる機能の変化を栄養補給法(乳汁栄養・離乳)について学び、乳児栄養について理解する。
13	子どもの発育発達と食生活 2	幼児期の食機能の特徴と間食が必要な理由と与え方について学び、幼児期栄養について理解する。また、保育所給食の実際について学び理解する。
14	子どもの発育発達と食生活 3	「食習慣の完成期」である学童期の食行動の実態や動向、また学童期の食生活の特徴と学校給食について学び、学童期栄養について理解する。
15	食事のマナーと衛生習慣	正しい食卓作法と衛生習慣を身につけさせるために必要な、和食・洋食のマナーの基本と食卓の整え方、食具の扱い方について学ぶ。 ≪参考ビデオ「食事のマナー」≫

科目名	子どもの保健Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 4単位 選択
担当教員	永瀬 悦子			
開講期	通年			
授業概要	人間の一生の中における小児期は絶えず成長・発達をしている。子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。現代社会における子どもを取り巻く健康問題と課題について認識した上で、その対応策についても学ぶ。更に、家庭と地域の連携を通じた保健活動及び、その関係機関との連携についても学ぶ。 [授業の目的・ねらい] 健康の保持・増進と精神の安定を図る保育において、子どもの保健の基礎的な知識を理解し、保育実践現場における保健活動の必要性を理解するとともに予防・事故に対する対応を理解する。			
達成目標	1) 子どもの形態・機能・精神的側面について理解する。 2) 子どもの成長・発達に必要な栄養、特に母乳栄養について理解する。 3) 子どもにみられる疾病とその対処法について理解する。 4) 子どもの救急処置（起こりやすい事故と応急処置、救急蘇生法）について理解する。 5) 母子保健行政を理解するとともに、地域における関係機関との連携を理解する。			
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点・レポート20点	
教科書	山崎知克編著『子どもの保健Ⅰ—心身の発達・健康と安全—』建邦社 2016年 ※随時、資料配布			
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年			
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。			
オフィスタイム	火曜日 V 時限（16：10～17：40） 832研究室 木曜日 I 時限（8：50～10：20） 832研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメ及びテキストを使ったノートのまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	子どもと保健①	子どもの保健の意義や全体像を理解する。
2	子どもと保健②	保育における子どもの保健の意義を母子保健の歴史をふまえて理解する。
3	子どもの成長と発達①	受精から胎児期、生命誕生とそれに関わる先天異常について理解する。
4	子どもの成長と発達②	身体発育の評価と成長に影響を及ぼす因子について理解する。
5	脳の発達、感覚器の発達	脳の発達と感覚器の発達について理解する。
6	運動機能の発達と子どもの姿勢	発達の順序と原始反射について理解する。
7	子どもの生理機能の発達①	体温調節機能、呼吸器機能、循環器機能について理解する。
8	子どもの生理機能の発達②	消化器機能、泌尿器機能、水分代謝機能について理解する。
9	子どもの生理機能の発達③	免疫機能、睡眠について理解する。
10	新生児の理解	新生児の分類、新生児の特徴について理解する。
11	子どもの栄養生理	子どもの発育・発達に必要な栄養、特に母乳栄養の特徴と離乳について理解する。
12	子どもの健康状態の把握	元気な子どもの健康状態の見方、病気の子どもの健康状態の見方を理解する
13	感染経路と対策	元気な子どもの健康状態の見方、病気の子どもの健康状態の見方を理解する 感染症と要因、感染経路と対策、学校保健安全施行規則第19条について理解する。
14	子どもの代表的な感染症①	子どもの主な感染症について理解する。
15	子どもの代表的な感染症②	子どもの主な感染症について理解する。
16	主な症状の見方と対処法①	発熱、脱水、せき、喘鳴の症状の見方と対処法について理解する。
17	主な症状の見方と対処法②	腹痛、下痢、嘔吐、便秘 の症状の見方と対処法について理解する。
18	主な症状の見方と対処法③	けいれん、チアノーゼ、熱中症の症状の見方と対処法について理解する。
19	主な症状の見方と対処法④	鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹の症状の見方と対処法について理解する。
20	呼吸器系の病気、	子どもの主な呼吸器系の病気について理解する。
21	循環器系の病気	子どもの主な循環器系の病気について理解する。
22	消化器系の病気、血液系の病気	子どもの主な消化器系の病気と血液系の病気について理解する。
23	泌尿器系、生殖器系の病気、内分泌系の病気	子どもの主な泌尿器系、生殖器系の病気、内分泌系の病気について理解する。
24	皮膚系の病気、神経系・精神心理系の病気	子どもの主な皮膚の病気、神経系・精神心理系の病気について理解する。
25	骨、関節、筋肉系の病気、眼・耳・鼻・口・歯系の病気	関節、筋肉の病気、眼・耳・鼻・口・歯の病気について理解する。
26	予防接種	予防接種法について理解する。
27	心の健康と行動の問題	心の健康や行動の問題について理解する。
28	救急処置①	意識障害、呼吸停止、ショック、切り傷、刺傷、SIDS（乳幼児突然死症候群） について理解する
29	救急処置②	頭部打撲、捻挫、やけど、異物誤嚥、異物誤飲、薬物・化学物質の誤飲について理解する。
30	乳幼児健康診査をはじめとする母子保健対策	乳幼児健康診査をはじめとした母子保健対策について理解する。

科目名	子どもの保健Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 4単位 選択
担当教員	永瀬 悦子			
開講期	通年			
授業概要	人間の一生の中における小児期は絶えず成長・発達をしている。子どもの保健の意義や目的、子どもの心身の成長発達、生理機能の発達、精神運動機能の発達を踏まえた上で、子どもに多い疾患と症状に対する対処法、予防接種等について講義を行う。現代社会における子どもを取り巻く健康問題と課題について認識した上で、その対応策についても学ぶ。更に、家庭と地域の連携を通じた保健活動及び、その関係機関との連携についても学ぶ。 [授業の目的・ねらい] 健康の保持・増進と精神の安定を図る保育において、子どもの保健の基礎的な知識を理解し、保育実践現場における保健活動の必要性を理解するとともに予防・事故に対する対応を理解する。			
達成目標	1) 子どもの形態・機能・精神的側面について理解する。 2) 子どもの成長・発達に必要な栄養、特に母乳栄養について理解する。 3) 子どもにみられる疾病とその対処法について理解する。 4) 子どもの救急処置（起こりやすい事故と応急処置、救急蘇生法）について理解する。 5) 母子保健行政を理解するとともに、地域における関係機関との連携を理解する。			
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点・レポート20点	
教科書	山崎知克編著『子どもの保健Ⅰ—心身の発達・健康と安全—』建邦社 2016年 ※資料を毎回配付			
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年			
学生への要望	子どもの成長・発達の基礎的な知識をもとに、その健康を逸脱した過程における対応、健康課題に関する知識を学ぶ。講義は積極的に臨むことを期待する。			
オフィスタイム	火曜日 V 時限（16：10～17：40） 832研究室 木曜日 I 時限（8：50～10：20） 832研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと（1時間） 事後学習：授業を踏まえて、レジュメ及びテキストを使ったノートのまとめ（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	子どもと保健①	子どもの保健の意義や全体像を理解する。
2	子どもと保健②	保育における子どもの保健の意義を母子保健の歴史をふまえて理解する。
3	子どもの成長と発達①	受精から胎児期、生命誕生とそれに関わる先天異常について理解する。
4	子どもの成長と発達②	身体発育の評価と成長に影響を及ぼす因子について理解する。
5	脳の発達、感覚器の発達、	脳の発達と感覚器の発達について理解する。
6	運動機能の発達と子どもの姿勢	発達の順序と原始反射について理解する。
7	子どもの生理機能の発達①	体温調節機能、呼吸器機能、循環器機能について理解する。
8	子どもの生理機能の発達②	消化器機能、泌尿器機能、水分代謝機能について理解する。
9	子どもの生理機能の発達③	免疫機能、睡眠について理解する。
10	新生児の理解	新生児の分類、新生児の特徴について理解する。
11	子どもの栄養生理	子どもの発育・発達に必要な栄養、特に母乳栄養の特徴と離乳について理解する。
12	子どもの健康状態の把握	元気な子どもの健康状態の見方、病気の子どもの健康状態の見方を理解する
13	感染経路と対策	感染症と要因、感染経路と対策、学校保健安全施行規則第19条について理解する。
14	子どもの代表的な感染症①	子どもの主な感染症について理解する。
15	子どもの代表的な感染症②	子どもの主な感染症について理解する。
16	主な症状の見方と対処法①	発熱、脱水、せき、喘鳴の症状の見方と対処法について理解する。
17	主な症状の見方と対処法②	腹痛、下痢、嘔吐、便秘 の症状の見方と対処法について理解する。
18	主な症状の見方と対処法③	けいれん、チアノーゼ、熱中症の症状の見方と対処法について理解する。
19	主な症状の見方と対処法④	鼻出血、耳の異物、虫刺され、発疹の症状の見方と対処法について理解する。
20	呼吸器系の病気、	子どもの主な呼吸器系の病気について理解する。
21	循環器系の病気	子どもの主な循環器系の病気について理解する。
22	消化器系の病気、血液系の病気	子どもの主な消化器系の病気と血液系の病気について理解する。
23	泌尿器系、生殖器系の病気、内分泌系の病気	子どもの主な泌尿器系、生殖器系の病気、内分泌系の病気について理解する。
24	皮膚系の病気、神経系・精神心理系の病気	子どもの主な皮膚の病気、神経系・精神心理系の病気について理解する。
25	骨、関節、筋肉系の病気、眼・耳・鼻・口・歯系の病気	関節、筋肉の病気、眼・耳・鼻・口・歯の病気について理解する。
26	予防接種	予防接種法について理解する。
27	心の健康と行動の問題	心の健康や行動の問題について理解する。
28	心の健康や行動の問題について理解する。	意識障害、呼吸停止、ショック、切り傷、刺傷、SIDS（乳幼児突然死症候群） について理解する
29	救急処置②	頭部打撲、捻挫、やけど、異物誤嚥、異物誤飲、薬物・化学物質の誤飲について理解する。
30	乳幼児健康診査をはじめとする母子保健対策	乳幼児健康診査をはじめとした母子保健対策について理解する。

平成29年度

科目名	子どもの保健Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>保育現場における子どもの保健を実践できる能力の育成を図る。子どもの保健Ⅰで学んだ内容を基礎として、保育現場における健康の維持・増進を促す保育能力を習得する。身体発育の測定方法と評価、異常の早期発見のための観察項目と方法、子どもに特有な事故の防止とその応急処置、包帯法などの技術を身につける。また歯磨きや手洗いの衛生教育及び沐浴等の養護技術、事故防止のための安全教育とリスク管理の実践力を習得する。</p> <p>[授業の目的・ねらい] 子どもの保健Ⅰの基礎知識をもとに、保育現場で実践できる子どもの健康管理や成長・発達を促す養護技術・健康問題時の対処法について知識・技術を学ぶ。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの観察項目及び方法について理解する。 2. バイタルサインの測定方法を理解する。 3. 子どもの身体発育の測定と評価が理解する。 4. 子どもの養護方法（環境整備・排泄の自立支援、清潔習慣の自立支援）について理解する。 5. 口腔機能の発達と歯の健康を保持するための方法を理解し、歯磨き指導を理解する。 6. 子どもの事故と安全教育、保育環境の整備の必要性について理解し、必要な安全管理について理解する。 7. 子どもの救急処置について理解する。 8. 子どもの安全教育及び衛生教育の必要と対策について理解し、リスク管理を理解する。 		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験60点、レポート40点
教科書	松本峰雄監修『子どもの保健演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 ※随時、資料配布		
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年		
学生への要望	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講義は積極的にのぞむことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：20） 832研究室 木曜日 Ⅰ時限（8：50～10：20） 832研究室		
自学自習	予習：教科書・参考文献を読み、当日学修する内容をまとめておくこと（1時間） 復習：更なる課題に対して学修をして、考えを整理しておくこと（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	身体発育の測定方法と評価	子どもの身体計測と身体発育の測定方法を理解する
2	バイタルサインの測定方法と評価	子どもの生理機能の測定と評価を理解し、バイタルサインを測定する。
3	日常生活の援助技術①	口腔の清潔保持の方法を理解し実践する。
4	日常生活の援助技術②	口腔の清潔保持の方法を理解し実践する。
5	子どもの病気への対応法	手洗いの方法を理解し、実践する。 電法（冷電法・温電法）、薬の与え方を理解する。
6	応急処置	事故の特徴を理解し、副木の作成、止血法、包帯の巻き方を実践する。
7	感染予防と安全対策	保育環境の整備と消毒方法を理解する。
8	安全教育・衛生教育	子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理、保健だより。

平成29年度

科目名	子どもの保健Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>保育現場における子どもの保健を実践できる能力の育成を図る。子どもの保健Ⅰで学んだ内容を基礎として、保育現場における健康の維持・増進を促す保育能力を習得する。身体発育の測定方法と評価、異常の早期発見のための観察項目と方法、子どもに特有な事故の防止とその応急処置、包帯法などの技術を身につける。また歯磨きや手洗いの衛生教育及び沐浴等の養護技術、事故防止のための安全教育とリスク管理の実践力を習得する。</p> <p>[授業の目的・ねらい] 子どもの保健Ⅰの基礎知識をもとに、保育現場で実践できる子どもの健康管理や成長・発達を促す養護技術・健康問題時の対処法について知識・技術を学ぶ。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの観察項目及び方法について理解する。 2. バイタルサインの測定方法を理解する。 3. 子どもの身体発育の測定と評価が理解する。 4. 子どもの養護方法（環境整備・排泄の自立支援、清潔習慣の自立支援）について理解する。 5. 口腔機能の発達と歯の健康を保持するための方法を理解し、歯磨き指導を理解する。 6. 子どもの事故と安全教育、保育環境の整備の必要性について理解し、必要な安全管理について理解する。 7. 子どもの救急処置について理解する。 8. 子どもの安全教育及び衛生教育の必要と対策について理解し、リスク管理を理解する。 		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験60点、レポート40点
教科書	松本峰雄監修『子どもの保健演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 ※随時、資料配布		
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年		
学生への要望	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講義は積極的にのぞむことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：20）832研究室 木曜日 I時限（8：50～10：20）832研究室		
自学自習	予習：教科書・参考文献を読み、当日学修する内容をまとめておくこと（1時間） 復習：更なる課題に対して学修をして、考えを整理しておくこと（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	身体発育の測定方法と評価	子どもの身体計測と身体発育の測定方法を理解する
2	バイタルサインの測定方法と評価	子どもの生理機能の測定と評価を理解し、バイタルサインを測定する。
3	日常生活の援助技術①	沐浴・オムツ交換・抱っこの仕方を実践する
4	日常生活の援助技術②	口腔の清潔保持の方法を理解し実践する。
5	子どもの病気への対応法	手洗いの方法を理解し、実践する。 電法（冷電法・温電法）、薬の与え方を理解する。
6	応急処置	事故の特徴を理解し、副木の作成、止血法、包帯の巻き方を実践する。
7	感染予防と安全対策	保育環境の整備と消毒方法を理解する
8	安全教育・衛生教育	子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理、保健だより

平成29年度

科目名	子どもの保健Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>保育現場における子どもの保健を実践できる能力の育成を図る。子どもの保健Ⅰで学んだ内容を基礎として、保育現場における健康の維持・増進を促す保育能力を習得する。身体発育の測定方法と評価、異常の早期発見のための観察項目と方法、子どもに特有な事故の防止とその応急処置、包帯法などの技術を身につける。また歯磨きや手洗いの衛生教育及び沐浴等の養護技術、事故防止のための安全教育とリスク管理の実践力を習得する。</p> <p>[授業の目的・ねらい] 子どもの保健Ⅰの基礎知識をもとに、保育現場で実践できる子どもの健康管理や成長・発達を促す養護技術・健康問題時の対処法について知識・技術を学ぶ。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの観察項目及び方法について理解する。 2. バイタルサインの測定方法を理解する。 3. 子どもの身体発育の測定と評価が理解する。 4. 子どもの養護方法（環境整備・排泄の自立支援、清潔習慣の自立支援）について理解する。 5. 口腔機能の発達と歯の健康を保持するための方法を理解し、歯磨き指導を理解する。 6. 子どもの事故と安全教育、保育環境の整備の必要性について理解し、必要な安全管理について理解する。 7. 子どもの救急処置について理解する。 8. 子どもの安全教育及び衛生教育の必要と対策について理解し、リスク管理を理解する。 		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験60点、レポート40点
教科書	松本峰雄監修『子どもの保健演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 ※随時、資料配布		
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年		
学生への要望	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講義は積極的にのぞむことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：20） 832研究室 木曜日 Ⅰ時限（8：50～10：20） 832研究室		
自学自習	予習：教科書・参考文献を読み、当日学修する内容をまとめておくこと（1時間） 復習：更なる課題に対して学修をして、考えを整理しておくこと（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	身体発育の測定方法と評価	子どもの身体計測と身体発育の測定方法を理解する。
2	バイタルサインの測定方法と評価	子どもの生理機能の測定と評価を理解し、バイタルサインを測定する。
3	日常生活の援助技術①	沐浴・オムツ交換・抱っここの仕方を実践する。
4	日常生活の援助技術②	口腔の清潔保持の方法を理解し実践する。
5	子どもの病気への対応法	手洗いの方法を理解し、実践する。 電法（冷電法・温電法）、薬の与え方を理解する。
6	応急処置	事故の特徴を理解し、副木の作成、止血法、包帯の巻き方を実践する。
7	感染予防と安全対策	保育環境の整備と消毒方法を理解する。
8	安全教育・衛生教育	子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理、保健だより。

平成29年度

科目名	子どもの保健Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>保育現場における子どもの保健を実践できる能力の育成を図る。子どもの保健Ⅰで学んだ内容を基礎として、保育現場における健康の維持・増進を促す保育能力を習得する。身体発育の測定方法と評価、異常の早期発見のための観察項目と方法、子どもに特有な事故の防止とその応急処置、包帯法などの技術を身につける。また歯磨きや手洗いの衛生教育及び沐浴等の養護技術、事故防止のための安全教育とリスク管理の実践力を習得する。</p> <p>[授業の目的・ねらい] 子どもの保健Ⅰの基礎知識をもとに、保育現場で実践できる子どもの健康管理や成長・発達を促す養護技術・健康問題時の対処法について知識・技術を学ぶ。</p>		
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの観察項目及び方法について理解する。 2. バイタルサインの測定方法を理解する。 3. 子どもの身体発育の測定と評価が理解する。 4. 子どもの養護方法（環境整備・排泄の自立支援、清潔習慣の自立支援）について理解する。 5. 口腔機能の発達と歯の健康を保持するための方法を理解し、歯磨き指導を理解する。 6. 子どもの事故と安全教育、保育環境の整備の必要性について理解し、必要な安全管理について理解する。 7. 子どもの救急処置について理解する。 8. 子どもの安全教育及び衛生教育の必要と対策について理解し、リスク管理を理解する。 		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験60点、レポート40点
教科書	松本峰雄監修『子どもの保健演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 ※随時、資料配布		
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年		
学生への要望	乳幼児のケアをおこなうためには、根拠のある確かな知識（頭）、愛情や相手を思いやる心、適切で正確な技術（技）が大切である。講義は積極的にのぞむことを期待する。		
オフィスタイム	火曜日 Ⅲ時限（12：50～14：30） 832研究室 木曜日 Ⅰ時限（8：50～10：20） 832研究室		
自学自習	予習：教科書・参考文献を読み、当日学修する内容をまとめておくこと（1時間） 復習：更なる課題に対して学修をして、考えを整理しておくこと（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	身体発育の測定方法と評価	子どもの身体計測と身体発育の測定方法を理解する
2	バイタルサインの測定方法と評価	子どもの生理機能の測定と評価を理解し、バイタルサインを測定する。
3	日常生活の援助技術①	沐浴・オムツ交換・抱っこの仕方を実践する。
4	日常生活の援助技術②	口腔の清潔保持の方法を理解し実践する。
5	子どもの病気への対応法	手洗いの方法を理解し、実践する。 電法（冷電法・温電法）、薬の与え方を理解する。
6	応急処置	事故の特徴を理解し、副木の作成、止血法、包帯の巻き方を実践する。
7	感染予防と安全対策	保育環境の整備と消毒方法を理解する。
8	安全教育・衛生教育	子どもの生活習慣と心身の健康増進を図るための健康管理、保健だより。

平成29年度

科目名	家庭支援論	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	知野 愛		
開講期	IV		
授業概要	家庭の意義や機能を考えた上で、子育て家庭を取巻く社会環境を様々な視点から考察し、子育て支援の重要性を理解する。		
達成目標	①少子化の背景には何があるのか3つ以上挙げられるか。 ②子育て家庭支援に関わる制度を3つ以上挙げられるか。 ③子育て家庭に対する支援の重要性を理解し、具体的なテーマを一つ取り上げ独自の視点でレポートにまとめる。		
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	①ワークシート、リアクションペーパー50点 ②最終レポート50点
教科書	なし。印刷物を配布します。		
参考書	その都度、紹介します。		
学生への要望	主体的に学ぶ姿勢をもって授業に臨むこと。		
オフィスタイム	水曜 I 限または木曜 I 限、家政学館 4 階被服学研究室		
自学自習	事前学習: 次回の授業内容を確認し、指定の用語を調べてワークシートに記入して提出する。(1時間) 事後学習: 授業を振り返り、ワークシートの感想欄に記入し資料を整理する。課題レポート作成のための調査をする(1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業の進め方、内容の説明	シラバスに基づいて授業の進め方、評価方法や配点について説明する。授業の導入として、少子化の現状について説明する。
2	少子化の背景(1)	少子化の背景として、晩婚化・未婚化の現状を統計資料からみていく。後半で、グループ討議をして代表者が意見を発表する。キーワードは「晩婚化・未婚化」
3	少子化の背景(2)	少子化の背景として、就業継続と出産・子育てについて統計資料からみていく。後半で、グループ討議をして代表者が意見を発表する。キーワードは「育児休業制度」
4	少子化の背景(3)	少子化の背景として、他にどのようなことがあるのか、諸外国の状況について資料に基づいて考える。後半で、グループ討議をして代表者が意見を発表する。キーワードは「諸外国の出生率」
5	子育て支援(1)	保育士による家庭支援、保育の場・地域における支援、現代の子育て支援施策と家庭支援について考える。
6	子育て支援(2)	日本で実施されている子育て支援にはどのようなものがあるか、福島県内ではどうか。概略を説明した後、グループで話し合い、次回までに各自が興味をもった制度について調べてくる。
7	子育て支援(3)	福島県内の各市町村で実施されている子育て支援制度等について、各自が調べてきた結果を発表し、質疑応答する。
8	中間振り返り	少子化の背景、子育て支援制度の具体的事例等について、ここまでの内容を振り返り知識の定着を図る。
9	子育て支援の実際(1)	郡山市の子育て支援の状況について、現場で働く方からお話をうかがう。具体的な事例などを知り、実際に子育て中の家庭が直面する問題について考える。
10	子育て支援の実際(2)	前回の講義を受けての感想をグループに分かれて話し合う。ワークシートに記入して、結果を代表者が発表する。
11	保育所における子育て支援(1)	保育所における子育て支援という視点から考える。視聴覚教材を見て、ワークシートに記入し知識を整理したものを提出する。
12	保育所における子育て支援(2)	保育所を通じた子育てしやすい地域づくり、交流の促進、家庭の課題への対応について学ぶ。
13	保育所における子育て支援(3)	子育て支援に関わる際に、留意すべき点は何かを資料を読んで考える。後半でグループ討議をして、結果をワークシートにまとめ代表者が発表する。
14	職業継続と子育て支援	出産・子育てと職業継続のために、子育て支援は重要な意味をもっている。病時保育、病後時保育について学ぶ。
15	子育て支援の必要性、まとめ	全体の内容を振り返り、まとめる。また、最終レポートの作成について説明する。

平成29年度

科目名	家庭支援論	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	知野 愛		
開講期	IV		
授業概要	家庭の意義や機能を考えた上で、子育て家庭を取巻く社会環境を様々な視点から考察し、子育て支援の重要性を理解する。		
達成目標	【授業修了時の達成課題】 ①少子化の背景には何があるのか3つ以上挙げられるか。 ②子育て家庭支援に関わる制度を3つ以上挙げられるか。 ③子育て家庭に対する支援の重要性を理解し、具体的なテーマを一つ取り上げ独自の視点でレポートにまとめる。		
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	①ワークシート、リアクションペーパー50点 ②最終レポート50点
教科書	なし。印刷物を配布します。		
参考書	その都度、紹介します。		
学生への要望	主体的に学ぶ姿勢をもって授業に臨むこと。		
オフィスタイム	木曜 I 限または水曜 I 限、家政学館 4 階被服学研究室		
自学自習	事前学習: 次回の授業内容を確認し、指定の用語を調べてワークシートに記入して提出する。(1時間) 事後学習: 授業を振り返り、ワークシートの感想欄に記入し資料を整理する。課題レポート作成のための調査をする(1時間)		

ー授業内容とスケジュールー

回	項目	授業内容
1	授業の進め方、内容の説明	シラバスに基づいて授業の進め方、評価方法や配点について説明する。授業の導入として、少子化の現状について
2	少子化の背景(1)	少子化の背景として、晩婚化・未婚化の現状を統計資料からみていく。後半で、グループ討議をして代表者が意見を発表する。キーワードは「晩婚化・未婚化」
3	少子化の背景(2)	少子化の背景として、就業継続と出産・子育てについて統計資料からみていく。後半で、グループ討議をして代表者が意見を発表する。キーワードは「育児休業制度」
4	少子化の背景(3)	少子化の背景として、他にどのようなことがあるのか、諸外国の状況について資料に基づいて考える。後半で、グループ討議をして代表者が意見を発表する。キーワードは「諸外国の出生率」
5	子育て支援(1)	保育士による家庭支援、保育の場・地域における支援、現代の子育て支援施策と家庭支援について考える。
6	子育て支援(2)	日本で実施されている子育て支援にはどのようなものがあるか、福島県内ではどうか。概略を説明した後、グループで話し合い、次回までに各自が興味をもった制度について調べてくる。
7	子育て支援(3)	福島県内の各市町村で実施されている子育て支援制度等について、各自が調べてきた結果を発表し、質疑応答す
8	中間振り返り	少子化の背景、子育て支援制度の具体的事例等について、ここまでの内容を振り返り知識の定着を図る。
9	子育て支援の実際(1)	郡山市の子育て支援の状況について、現場で働く方からお話をうかがう。具体的な事例などを知り、実際に子育て中の家庭が直面する問題について考える。
10	子育て支援の実際(2)	前回の講義を受けての感想をグループに分かれて話し合う。ワークシートに記入して、結果を代表者が発表する。
11	保育所における子育て支援(1)	保育所における子育て支援という視点から考える。視聴覚教材を見て、ワークシートに記入し知識を整理したものを提出する。
12	保育所における子育て支援(2)	保育所を通じた子育てしやすい地域づくり、交流の促進、家庭の課題への対応について学ぶ。
13	保育所における子育て支援(3)	子育て支援に関わる際に、留意すべき点は何かを資料を読んで考える。後半でグループ討議をして、結果をワークシートにまとめ代表者が発表する。
14	職業継続と子育て支援	出産・子育てと職業継続のために、子育て支援は重要な意味をもっている。病時保育、病後時保育について学ぶ。
15	子育て支援の必要性、まとめ	全体的内容を振り返り、まとめる。また、最終レポートの作成について説明する。

平成29年度

科目名	乳児保育	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	乳児、すなわち3歳未満の子どもは、人間形成の基盤となる時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達の支援について理解を深める。また、子どもの基本的な生活習慣について学習し、子どもが基本的な生活習慣を獲得するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について学び援助の在り方について考える。 [授業の目的・ねらい] 乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解する。		
達成目標	①乳児の成長・発達を理解し、それに応じた適切な援助を理解する。 ②乳児の成長発達段階に応じた援助内容・方法を学び、愛情のある接し方を考えることができる。		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点、レポート20点
教科書	松本峰雄監修『乳児保育演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 ※資料を随時配布		
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年 榊原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 2015年		
学生への要望	乳児保育を実践する場合、乳児の心理を考えながら安全・安楽な援助方法を実践できるように、積極的に講義に臨んで下さい。		
オフィスタイム	月曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室 木曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと (1時間) 事後学習：授業を踏まえて、レジュメ及びテキストを使ったノートのまとめ (1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	乳児とは、乳児保育の場	乳児の成長・発達に応じた保育の必要性を理解する。
2	対人関係の発達と保育①	母子関係、愛着形成について理解する。
3	対人関係の発達と保育②	対人関係の発達の概要と保育者の援助について理解する。
4	食事と保育	授乳・離乳食の介助及び冷凍母乳の衛生管理などを理解する。
5	排泄と保育	乳児の発達段階に応じたオムツ交換やおまる・トイレの誘導の方法を理解する。
6	衣服の着脱	乳児の発達段階に応じた衣服の着脱の方法を理解する。
7	睡眠と保育	乳児の発達段階に応じた睡眠のメカニズムと睡眠時間、入眠の仕方について理解する。
8	清潔・抱っこ・おんぶ	乳児の発達段階に応じた清潔の保持、抱っこ・おんぶの方法を理解する
9	おおむね6か月未満の発達過程と保育	おおむね6か月未満の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
10	おおむね6か月から1歳3か月未満の発達過程と保育	おおむね6か月から1歳3か月未満の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
11	おおむね1歳3か月から2歳の発達過程と保育	おおむね1歳3か月から2歳の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
12	乳幼児の成長を促す環境	乳幼児の成長発達を促す環境を理解する。
13	乳児院の生活	乳児院の生活と保育内容を理解する。
14	乳児保育における救命救急	応急処置および救急蘇生法、気道の異物除去法を理解し実践する。
15	乳児保育における保健活動	保育現場における病気・感染予防と事故予防について理解する

平成29年度

科目名	乳児保育	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	乳児、すなわち3歳未満の子どもは、人間形成の基盤となる時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達の支援について理解を深める。また、子どもの基本的な生活習慣について学習し、子どもが基本的な生活習慣を獲得するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について学び援助の在り方について考える。 [授業の目的・ねらい] 乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解する。		
達成目標	①乳児の成長・発達を理解し、それに応じた適切な援助を理解する。 ②乳児の成長発達段階に応じた援助内容・方法を学び、愛情のある接し方を考えることができる。		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点、レポート20点
教科書	松本峰雄監修『乳児保育演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 ※資料を随時配布		
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年 榎原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 2015年		
学生への要望	乳児保育を実践する場合、乳児の心理を考えながら安全・安楽な援助方法を実践できるように、積極的に講義に臨んで下さい。		
オフィスタイム	月曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室 木曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと (1時間) 事後学習：授業を踏まえてレジュメ及びテキストを使ったノートのまとめ (1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	乳児とは、乳児保育の場	乳児の成長・発達に応じた保育の必要性を理解する。
2	対人関係の発達と保育①	母子関係、愛着形成について理解する。
3	対人関係の発達と保育②	対人関係の発達の概要と保育者の援助について理解する。
4	食事と保育	授乳・離乳食の介助及び冷凍母乳の衛生管理などを理解する。
5	排泄と保育	乳児の発達段階に応じたオムツ交換やおまる・トイレの誘導の方法を理解する。
6	衣服の着脱	乳児の発達段階に応じた衣服の着脱の方法を理解する。
7	睡眠と保育	乳児の発達段階に応じた睡眠のメカニズムと睡眠時間、入眠の仕方について理解する。
8	清潔・抱っこ・おんぶ	乳児の発達段階に応じた清潔の保持、抱っこ・おんぶの方法を理解する
9	おおむね6か月未満の発達過程と保育	おおむね6か月未満の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
10	おおむね6か月から1歳3か月未満の発達過程と保育	おおむね6か月から1歳3か月未満の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
11	おおむね1歳3か月から2歳の発達過程と保育	おおむね1歳3か月から2歳の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
12	乳幼児の成長を促す環境	乳幼児の成長発達を促す環境を理解する。
13	乳児院の生活	乳児院の生活と保育内容を理解する。
14	乳児保育における救命救急	応急処置および救急蘇生法、気道の異物除去法を理解し実践する
15	乳児保育における保健活動	保育現場における病気・感染予防と事故予防について理解する

平成29年度

科目名	乳児保育	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	乳児、すなわち3歳未満の子どもは、人間形成の基盤となる時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達の支援について理解を深める。また、子どもの基本的な生活習慣について学習し、子どもが基本的な生活習慣を獲得するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について学び援助の在り方について考える。 [授業の目的・ねらい] 乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解する。		
達成目標	①乳児の成長・発達を理解し、それに応じた適切な援助を理解する。 ②乳児の成長発達段階に応じた援助内容・方法を学び、愛情のある接し方を考えることができる。		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点、レポート20点
教科書	松本峰雄監修『乳児保育演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 ※資料を随時配布		
参考書	内閣府 文部科学省 厚生労働省著『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年 榎原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 2015年		
学生への要望	乳児保育を実践する場合、乳児の心理を考えながら安全・安楽な援助方法を実践できるように、積極的に講義に臨んで下さい。		
オフィスタイム	月曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室 木曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと (1時間) 事後学習：授業を踏まえて、レジュメ及びテキストを使ったノートのまとめ (1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	乳児とは、乳児保育の場	乳児の成長・発達に応じた保育の必要性を理解する。
2	対人関係の発達と保育①	母子関係、愛着形成について理解する。
3	対人関係の発達と保育②	対人関係の発達の概要と保育者の援助について理解する。
4	食事と保育	授乳・離乳食の介助及び冷凍母乳の衛生管理などを理解する。
5	排泄と保育	乳児の発達段階に応じたオムツ交換やおまる・トイレの誘導の方法を理解する。
6	衣服の着脱	乳児の発達段階に応じた衣服の着脱の方法を理解する。
7	睡眠と保育	乳児の発達段階に応じた睡眠のメカニズムと睡眠時間、入眠の仕方について理解する。
8	清潔・抱っこ・おんぶ	乳児の発達段階に応じた清潔の保持、抱っこ・おんぶの方法を理解する
9	おおむね6か月未満の発達過程と保育	おおむね6か月未満の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
10	おおむね6か月から1歳3か月未満の発達過程と保育	おおむね6か月から1歳3か月未満の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
11	おおむね1歳3か月から2歳の発達過程と保育	おおむね1歳3か月から2歳の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
12	乳幼児の成長を促す環境	乳幼児の成長発達を促す環境を理解する。
13	乳児院の生活	乳児院の生活と保育内容を理解する。
14	乳児保育における救命救急	応急処置および救急蘇生法、気道の異物除去法を理解し実践する。
15	乳児保育における保健活動	保育現場における病気・感染予防と事故予防について理解する

平成29年度

科目名	乳児保育	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	永瀬 悦子		
開講期	Ⅱ		
授業概要	乳児、すなわち3歳未満の子どもは、人間形成の基盤となる時期である。生命の保持および安全・安楽の確保に努めながら発育発達の支援について理解を深める。また、子どもの基本的な生活習慣について学習し、子どもが基本的な生活習慣を獲得するための必要な乳児保育の役割を乳児の成長・発達の応じた保育について学び援助の在り方について考える。 [授業の目的・ねらい] 乳児保育の理論や知識・技術の基本を理解する。		
達成目標	①乳児の成長・発達を理解し、それに応じた適切な援助を理解する。 ②乳児の成長発達段階に応じた援助内容・方法を学び、愛情のある接し方を考えることができる。		
受講資格	保育士資格取得希望学生	成績評価 方法	筆記試験80点、レポート20点
教科書	松本峰雄監修『乳児保育演習ブック』ミネルヴァ書房 2016年 資料を随時配布		
参考書	榑原洋一・今井和子編著『乳児保育の実践と子育て支援』ミネルヴァ書房 2015年 内閣府 文部科学省 厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2015年		
学生への要望	乳児保育を実践する場合、乳児の心理を考えながら安全・安楽な援助方法を実践できるように、積極的に講義に臨んで下さい。		
オフィスタイム	月曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室 木曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認しておくこと (1時間) 事後学習：授業を踏まえて、レジュメ及びテキストを使ったノートのまとめ (1時間)		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	乳児とは、乳児保育の場	乳児の成長・発達に応じた保育の必要性を理解する。
2	対人関係の発達と保育①	母子関係、愛着形成について理解
3	対人関係の発達と保育②	対人関係の発達の概要と保育者の援助について理解する。
4	食事と保育	授乳・離乳食の介助及び冷凍母乳の衛生管理などを理解する。
5	排泄と保育	乳児の発達段階に応じたオムツ交換やおまる・トイレの誘導の方法を理解する。
6	衣服の着脱	乳児の発達段階に応じた衣服の着脱の方法を理解する。
7	睡眠と保育	乳児の発達段階に応じた睡眠のメカニズムと睡眠時間、入眠の仕方について理解する
8	清潔・抱っこ・おんぶ	乳児の発達段階に応じた清潔の保持、抱っこ・おんぶの方法を理解する
9	おおむね6か月未満の発達過程と保育	おおむね6か月未満の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
10	おおむね6か月から1歳3か月未満の発達過程と保育	おおむね6か月から1歳3か月未満の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する。
11	おおむね1歳3か月から2歳の発達過程と保育	おおむね1歳3か月から2歳の発達過程を知り、必要な保育内容を理解する
12	乳幼児の成長を促す環境	乳幼児の成長発達を促す環境を理解する。
13	乳児院の生活	乳児院の生活と保育内容を理解する。
14	乳児保育における救命救急	応急処置および救急蘇生法、気道の異物除去法を理解し実践する。
15	乳児保育における保健活動	保育現場における病気・感染予防と事故予防について理解する

科目名	保育相談支援		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	IV			
授業概要	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、相談活動に当たられるだけの力を形成することを目指す。</p> <p>そのために次の3点を学ぶ。</p> <p>①解決思考ブリーフセラピーやグループアプローチなどの新しいカウンセリングの方法について理論的に学ぶ。</p> <p>②虐待や暴力をふるう攻撃的な子どもに対しての支援の方法を学ぶ。</p> <p>③現場で出会う困難な事例について考えて、対応する力をつける。</p>			
達成目標	<p>①学生が実際にカウンセリングの技法を使って、人の話を聞けるようになる。</p> <p>②絵画などの子どもたちの表現するものから子どもたちの心を理解できるようになる。</p> <p>③事例などを通じて、外部の専門機関との連携の方法を学び、理解できるようになる。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート1回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日 午後4時から5時 水曜日 4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育相談入門1	第1回 オリエンテーション 保育相談の概論と授業の成績評価の説明
2	保育相談入門2	第2回 なぜ、保育相談を学ばなければならないか 保育カウンセリングの現状と現場での問題点 現場での危機について 危機対応の事例を考察することで保育相談へのモチベーションを高める
3	事例1 ①クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか	第3回 連携とケースカンファレンスの事例「クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか」を通じて連携とカンファレンスの方法論を学び、あわせて虐待や障害の事例研究を行う。
4	講義1 ①マイクロカウンセリングの実際的基礎技法	第4回 アイビーのマイクロカウンセリングの理論を説明し、実際にロールプレイでマイクロカウンセリングの傾聴をやってみて、カウンセリングの初歩的な基礎技法を身につける。
5	事例2 ②黙然にどう対応するか ~障害の理論~	第5回 小学校低学年男子の緘黙の事例研究を通じて、心因性の問題にどう対応するかを考える。 障害についての理論を学び、障害について理解をしていく。
6	講義2 ②解決思考ブリーフセラピーの技法と理論1 ソリューションモデル	第6回 現在、もっとも現場で効果的といわれる解決思考ブリーフセラピーの技法と理論を学ぶ。特にソリューションモデルについて説明し、実際に少しロールプレイで対話ができるようにする。
7	演習1 ②グループトレーニング1	第7回 講義1、2で学んだ技法を基礎としてロールプレイのエクササイズ「10回イエスをいわせよう」でグループコミュニケーションの実際的な技法を体験し、身につける。
8	講義3 ③特別支援の理論	第8回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害の理論的な背景やその研究の歴史について説明し、特別支援についての基本的な理解をする。
9	事例3 ③特別支援の具体的な対応と使用する技法	第9回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害についての対応やその失敗例や成功例についてグループで討議する。 認知行動療法について説明し、具体的な技法を習得する。□
10	演習2 ②グループトレーニング2	第10回 「冬山で遭難」でグループで話し合いをさせ、話しあいの成果を点数化することにより、議論のグループプロセスを体験させて、コミュニケーションのスキルを習得する。
11	事例3 ③保護者への積極的カウンセリングとモンスターペアレントへの対応を学ぶ	第11回 事例「シゲチカ先生の危機」を読み、保護者への対応を学ぶ。特に積極的な主張トレーニングなどの積極的技法で傾聴とは違うカウンセリングの技法を習得する。 モンスターペアレントへの対応をグループで考えさせて、ブレインストーミングを体験させる。
12	演習3 ②グループトレーニング3	第12回 サバイバルゲーム「火花でドカーン」を行い、人間関係作りのグループプロセスを体験させる。そして、さらに結果を点数化し、主張できなかった学生にアサーショントレーニングの動機づけを行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	講義 4 解決思考ブリーフセラピーの技法と理論 2	第13回 解決思考ブリーフセラピーに中でも最も有効とされる5段階モデルの理論を説明し、ロールプレイで体験させて、課題とする。レポートの方法を説明する。
14	演習 4 コラージュ	第14回 心の深層世界を見るアセスメントとして、コラージュを自分で製作する。 実際の事例とコラージュを見ることでコラージュの見方を理解する。 自分のコラージュを自己分析し、レポートする。
15	演習 5 風景構成法・人物描画法	第15回 小学生や幼稚園児の心の深層世界を考えるために風景構成法・人物描画法による絵画を制作する。 実際の事例と作品を見ることで風景構成法・人物描画法の見方を理解する。 自分の作品を自己分析し、レポートする。 まとめ 最後にこの15回の授業をまとめて反省する。□

科目名	保育相談支援		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	IV			
授業概要	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、相談活動に当たられるだけの力を形成することを目指す。</p> <p>そのために次の3点を学ぶ。</p> <p>①解決思考ブリーフセラピーやグループアプローチなどの新しいカウンセリングの方法について理論的に学ぶ。</p> <p>②虐待や暴力をふるう攻撃的な子どもに対しての支援の方法を学ぶ。</p> <p>③現場で出会う困難な事例について考えて、対応する力をつける。</p>			
達成目標	<p>①学生が実際にカウンセリングの技法を使って、人の話を聞けるようになる。</p> <p>②絵画などの子どもたちの表現するものから子どもたちの心を理解できるようになる。</p> <p>③事例などを通じて、外部の専門機関との連携の方法を学び、理解できるようになる。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート1回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日 午後4時から5時 水曜日 4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育相談入門1	第1回 オリエンテーション 保育相談の概論と授業の成績評価の説明
2	保育相談入門2	第2回 なぜ、保育相談を学ばなければならないか 保育カウンセリングの現状と現場での問題点 現場での危機について 危機対応の事例を考察することで保育相談へのモチベーションを高める
3	事例1 ①クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか	第3回 連携とケースカンファレンスの事例「クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか」を通じて連携とカンファレンスの方法論を学び、あわせて虐待や障害の事例研究を行う。
4	講義1 ①マイクロカウンセリングの実際的基礎技法	第4回 アイビーのマイクロカウンセリングの理論を説明し、実際にロールプレイでマイクロカウンセリングの傾聴をやってみて、カウンセリングの初歩的な基礎技法を身につける。
5	事例2 ②黙然にどう対応するか ~障害の理論~	第5回 小学校低学年男子の緘黙の事例研究を通じて、心因性の問題にどう対応するかを考える。 障害についての理論を学び、障害について理解をしていく。
6	講義2 ②解決思考ブリーフセラピーの技法と理論1 ソリューションモデル	第6回 現在、もっとも現場で効果的といわれる解決思考ブリーフセラピーの技法と理論を学ぶ。特にソリューションモデルについて説明し、実際に少しロールプレイで対話ができるようにする。
7	演習1 ②グループトレーニング1	第7回 講義1、2で学んだ技法を基礎としてロールプレイのエクササイズ「10回イエスをいわせよう」でグループコミュニケーションの実際的な技法を体験し、身につける。
8	講義3 ③特別支援の理論	第8回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害の理論的な背景やその研究の歴史について説明し、特別支援についての基本的な理解をする。
9	事例3 ③特別支援の具体的な対応と使用する技法	第9回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害についての対応やその失敗例や成功例についてグループで討議する。 認知行動療法について説明し、具体的な技法を習得する。□
10	演習2 ②グループトレーニング2	第10回 「冬山で遭難」でグループで話し合いをさせ、話しあいの成果を点数化することにより、議論のグループプロセスを体験させて、コミュニケーションのスキルを習得する。
11	事例3 ③保護者への積極的カウンセリングとモンスターペアレントへの対応を学ぶ	第11回 事例「シゲチカ先生の危機」を読み、保護者への対応を学ぶ。特に積極的な主張トレーニングなどの積極的技法で傾聴とは違うカウンセリングの技法を習得する。 モンスターペアレントへの対応をグループで考えさせて、ブレインストーミングを体験させる。
12	演習3 ②グループトレーニング3	第12回 サバイバルゲーム「火花でドカーン」を行い、人間関係作りのグループプロセスを体験させる。そして、さらに結果を点数化し、主張できなかった学生にアサーショントレーニングの動機づけを行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	講義 4 解決思考ブリーフセラピーの技法と理論 2	第13回 解決思考ブリーフセラピーに中でも最も有効とされる5段階モデルの理論を説明し、ロールプレイで体験させて、課題とする。レポートの方法を説明する。
14	演習 4 コラージュ	第14回 心の深層世界を見るアセスメントとして、コラージュを自分で製作する。 実際の事例とコラージュを見ることでコラージュの見方を理解する。 自分のコラージュを自己分析し、レポートする。
15	演習 5 風景構成法・人物描画法	第15回 小学生や幼稚園児の心の深層世界を考えるために風景構成法・人物描画法による絵画を制作する。 実際の事例と作品を見ることで風景構成法・人物描画法の見方を理解する。 自分の作品を自己分析し、レポートする。 まとめ 最後にこの15回の授業をまとめて反省する。□

科目名	保育相談支援		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	IV			
授業概要	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、相談活動に当たられるだけの力を形成することを目指す。</p> <p>そのために次の3点を学ぶ。</p> <p>①解決思考ブリーフセラピーやグループアプローチなどの新しいカウンセリングの方法について理論的に学ぶ。</p> <p>②虐待や暴力をふるう攻撃的な子どもに対しての支援の方法を学ぶ。</p> <p>③現場で出会う困難な事例について考えて、対応する力をつける。</p>			
達成目標	<p>①学生が実際にカウンセリングの技法を使って、人の話を聞けるようになる。</p> <p>②絵画などの子どもたちの表現するものから子どもたちの心を理解できるようになる。</p> <p>③事例などを通じて、外部の専門機関との連携の方法を学び、理解できるようになる。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート1回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日 午後4時から5時 水曜日 4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育相談入門1	第1回 オリエンテーション 保育相談の概論と授業の成績評価の説明
2	保育相談入門2	第2回 なぜ、保育相談を学ばなければならないか 保育カウンセリングの現状と現場での問題点 現場での危機について 危機対応の事例を考察することで保育相談へのモチベーションを高める
3	事例1 ①クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか	第3回 連携とケースカンファレンスの事例「クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか」を通じて連携とカンファレンスの方法論を学び、あわせて虐待や障害の事例研究を行う。
4	講義1 ①マイクロカウンセリングの実際的基礎技法	第4回 アイビーのマイクロカウンセリングの理論を説明し、実際にロールプレイでマイクロカウンセリングの傾聴をやってみて、カウンセリングの初歩的な基礎技法を身につける。
5	事例2 ②黙然にどう対応するか ~障害の理論~	第5回 小学校低学年男子の緘黙の事例研究を通じて、心因性の問題にどう対応するかを考える。 障害についての理論を学び、障害について理解をしていく。
6	講義2 ②解決思考ブリーフセラピーの技法と理論1 ソリューションモデル	第6回 現在、もっとも現場で効果的といわれる解決思考ブリーフセラピーの技法と理論を学ぶ。特にソリューションモデルについて説明し、実際に少しロールプレイで対話ができるようにする。
7	演習1 ②グループトレーニング1	第7回 講義1、2で学んだ技法を基礎としてロールプレイのエクササイズ「10回イエスをいわせよう」でグループコミュニケーションの実際的な技法を体験し、身につける。
8	講義3 ③特別支援の理論	第8回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害の理論的な背景やその研究の歴史について説明し、特別支援についての基本的な理解をする。
9	事例3 ③特別支援の具体的な対応と使用する技法	第9回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害についての対応やその失敗例や成功例についてグループで討議する。 認知行動療法について説明し、具体的な技法を習得する。□
10	演習2 ②グループトレーニング2	第10回 「冬山で遭難」でグループで話し合いをさせ、話しあいの成果を点数化することにより、議論のグループプロセスを体験させて、コミュニケーションのスキルを習得する。
11	事例3 ③保護者への積極的カウンセリングとモンスターペアレントへの対応を学ぶ	第11回 事例「シゲチカ先生の危機」を読み、保護者への対応を学ぶ。特に積極的な主張トレーニングなどの積極的技法で傾聴とは違うカウンセリングの技法を習得する。 モンスターペアレントへの対応をグループで考えさせて、ブレインストーミングを体験させる。
12	演習3 ②グループトレーニング3	第12回 サバイバルゲーム「火花でドカーン」を行い、人間関係作りのグループプロセスを体験させる。そして、さらに結果を点数化し、主張できなかった学生にアサーショントレーニングの動機づけを行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	講義 4 解決思考ブリーフセラピーの技法と理論 2	第13回 解決思考ブリーフセラピーに中でも最も有効とされる5段階モデルの理論を説明し、ロールプレイで体験させて、課題とする。レポートの方法を説明する。
14	演習 4 コラージュ	第14回 心の深層世界を見るアセスメントとして、コラージュを自分で製作する。 実際の事例とコラージュを見ることでコラージュの見方を理解する。 自分のコラージュを自己分析し、レポートする。
15	演習 5 風景構成法・人物描画法	第15回 小学生や幼稚園児の心の深層世界を考えるために風景構成法・人物描画法による絵画を制作する。 実際の事例と作品を見ることで風景構成法・人物描画法の見方を理解する。 自分の作品を自己分析し、レポートする。 まとめ 最後にこの15回の授業をまとめて反省する。□

科目名	保育相談支援		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	IV			
授業概要	<p>本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、保護者に対しては尊敬の念を持って、相談活動に当たられるだけの力を形成することを目指す。</p> <p>そのために次の3点を学ぶ。</p> <p>①解決思考ブリーフセラピーやグループアプローチなどの新しいカウンセリングの方法について理論的に学ぶ。</p> <p>②虐待や暴力をふるう攻撃的な子どもに対しての支援の方法を学ぶ。</p> <p>③現場で出会う困難な事例について考えて、対応する力をつける。</p>			
達成目標	<p>①学生が実際にカウンセリングの技法を使って、人の話を聞けるようになる。</p> <p>②絵画などの子どもたちの表現するものから子どもたちの心を理解できるようになる。</p> <p>③事例などを通じて、外部の専門機関との連携の方法を学び、理解できるようになる。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	レポート1回を50点分。課題提出、小テスト50点分を随時、課す。それらを合計して評価する。	
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日 午後4時から5時 水曜日 4時から5時 富士盛研究室(833)			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育相談入門1	第1回 オリエンテーション 保育相談の概論と授業の成績評価の説明
2	保育相談入門2	第2回 なぜ、保育相談を学ばなければならないか 保育カウンセリングの現状と現場での問題点 現場での危機について 危機対応の事例を考察することで保育相談へのモチベーションを高める
3	事例1 ①クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか	第3回 連携とケースカンファレンスの事例「クリスマスにハトやネコを惨殺したA君にサンタは来るか」を通じて連携とカンファレンスの方法論を学び、あわせて虐待や障害の事例研究を行う。
4	講義1 ①マイクロカウンセリングの実際的基礎技法	第4回 アイビーのマイクロカウンセリングの理論を説明し、実際にロールプレイでマイクロカウンセリングの傾聴をやってみて、カウンセリングの初歩的な基礎技法を身につける。
5	事例2 ②黙然にどう対応するか ~障害の理論~	第5回 小学校低学年男子の緘黙の事例研究を通じて、心因性の問題にどう対応するかを考える。 障害についての理論を学び、障害について理解をしていく。
6	講義2 ②解決思考ブリーフセラピーの技法と理論1 ソリューションモデル	第6回 現在、もっとも現場で効果的といわれる解決思考ブリーフセラピーの技法と理論を学ぶ。特にソリューションモデルについて説明し、実際に少しロールプレイで対話ができるようにする。
7	演習1 ②グループトレーニング1	第7回 講義1、2で学んだ技法を基礎としてロールプレイのエクササイズ「10回イエスをいわせよう」でグループコミュニケーションの実際的な技法を体験し、身につける。
8	講義3 ③特別支援の理論	第8回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害の理論的な背景やその研究の歴史について説明し、特別支援についての基本的な理解をする。
9	事例3 ③特別支援の具体的な対応と使用する技法	第9回 自閉症スペクトラムのアスペルガー障害やADHDの事例を読みながら、発達障害についての対応やその失敗例や成功例についてグループで討議する。 認知行動療法について説明し、具体的な技法を習得する。□
10	演習2 ②グループトレーニング2	第10回 「冬山で遭難」でグループで話し合いをさせ、話しあいの成果を点数化することにより、議論のグループプロセスを体験させて、コミュニケーションのスキルを習得する。
11	事例3 ③保護者への積極的カウンセリングとモンスターペアレントへの対応を学ぶ	第11回 事例「シゲチカ先生の危機」を読み、保護者への対応を学ぶ。特に積極的な主張トレーニングなどの積極的技法で傾聴とは違うカウンセリングの技法を習得する。 モンスターペアレントへの対応をグループで考えさせて、ブレインストーミングを体験させる。
12	演習3 ②グループトレーニング3	第12回 サバイバルゲーム「火花でドカーン」を行い、人間関係作りのグループプロセスを体験させる。そして、さらに結果を点数化し、主張できなかった学生にアサーショントレーニングの動機づけを行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	講義 4 解決思考ブリーフセラピーの技法と理論 2	第13回 解決思考ブリーフセラピーに中でも最も有効とされる5段階モデルの理論を説明し、ロールプレイで体験させて、課題とする。レポートの方法を説明する。
14	演習 4 コラージュ	第14回 心の深層世界を見るアセスメントとして、コラージュを自分で製作する。 実際の事例とコラージュを見ることでコラージュの見方を理解する。 自分のコラージュを自己分析し、レポートする。
15	演習 5 風景構成法・人物描画法	第15回 小学生や幼稚園児の心の深層世界を考えるために風景構成法・人物描画法による絵画を制作する。 実際の事例と作品を見ることで風景構成法・人物描画法の見方を理解する。 自分の作品を自己分析し、レポートする。 まとめ 最後にこの15回の授業をまとめて反省する。□

科目名	障がい児保育		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	小林 徹			
開講期	II			
授業概要	1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 障がい児保育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 障がい児保育の実際について理解を深める。			
達成目標	1. 障がい児保育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児の個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法について理解できたか。			
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点） 期末試験50点	
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい, 2016			
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』チャイルド本社, 2008			
学生への要望	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。			
オフィスタイム	毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	障がい児保育の考え方	障がい児、障がい児保育の基礎概念について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
2	障がい児保育・教育の歴史	障がい児教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
3	障がい児保育の制度と仕組み	障がい児保育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいの関連について映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
10	聴覚障がい	映像を通して聴覚障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
12	他機関との連携	ゲストスピーカーをお招きして、障がい児保育に関するさまざまな機関との連携について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその障がいをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその障がいから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として障がい児保育にどう取り組むかを考察する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。

科目名	障がい児保育		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	小林 徹			
開講期	Ⅱ			
授業概要	1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 障がい児保育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 障がい児保育の実際について理解を深める。			
達成目標	1. 障がい児保育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児の個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法について理解できたか。			
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点） 期末試験50点	
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい, 2016			
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』チャイルド本社, 2008			
学生への要望	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。			
オフィスタイム	毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	障がい児保育の考え方	障がい児、障がい児保育の基礎概念について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
2	障がい児保育・教育の歴史	障がい児教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
3	障がい児保育の制度と仕組み	障がい児保育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいとの関連について映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
10	聴覚障がい	映像を通して聴覚障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
12	他機関との連携	ゲストスピーカーをお招きして、障がい児保育に関するさまざまな機関との連携について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその障がいをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその障がいから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として障がい児保育にどう取り組むかを考察する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。

科目名	障がい児保育		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	小林 徹			
開講期	II			
授業概要	1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 障がい児保育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 障がい児保育の実際について理解を深める。			
達成目標	1. 障がい児保育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児の個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法について理解できたか。			
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点） 期末試験50点	
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい, 2016			
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』チャイルド本社, 2008			
学生への要望	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。			
オフィスタイム	毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	障がい児保育の考え方	障がい児、障がい児保育の基礎概念について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
2	障がい児保育・教育の歴史	障がい児教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
3	障がい児保育の制度と仕組み	障がい児保育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいの関連について映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
10	聴覚障がい	映像を通して聴覚障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
12	他機関との連携	ゲストスピーカーをお招きして、障がい児保育に関するさまざまな機関との連携について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその障がいをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその障がいから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として障がい児保育にどう取り組むかを考察する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。

科目名	障がい児保育		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	小林 徹			
開講期	II			
授業概要	1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について理解する。 2. 障がい児保育の場（機関）と制度の現状をとらえる。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法について理解する。 4. 障がい児の個別支援計画の作成、評価について理解する。 5. 障がい児保育の実際について理解を深める。			
達成目標	1. 障がい児保育の理念や制度、その歴史や支援機関の現状をどの程度理解できたか。 2. 障がい児の個別指導（支援）計画の作成、評価についてどの程度理解できたか。 3. さまざまな障がいと障がい児理解の視点と方法について理解できたか。			
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（小テスト、提出物、遅刻や授業態度による減点） 期末試験50点	
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい, 2016			
参考書	七木田敦編著『保育そこが知りたい！気になる子Q&A』チャイルド本社, 2008			
学生への要望	障がいや障がい児について関心を持ち、学習を深めてほしい。			
オフィスタイム	毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	障がい児保育の考え方	障がい児、障がい児保育の基礎概念について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
2	障がい児保育・教育の歴史	障がい児教育と障がい児保育の歴史的変遷について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
3	障がい児保育の制度と仕組み	障がい児保育と障がい児福祉の制度とその仕組みについて学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
4	発達障がいの理解と支援①	さまざまな発達理論の基礎概念と障がいの関連について映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
5	発達障がいの理解と支援②	障がいの基礎概念とその発見、支援の流れについて映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
6	発達障がいへのアプローチ	映像を通して発達障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
7	障がい児の子育て	障がいのある子どもの子育ての考え方と療育の実際を映像を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
8	知的障がい	映像を通して知的障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
9	自閉症	映像を通して自閉症に関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
10	聴覚障がい	映像を通して聴覚障がいに関する基礎的概念を整理し、その支援方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
11	障がい児支援の工夫	障がい児支援に関わるさまざまな工夫について紹介し、理解を深める。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
12	他機関との連携	ゲストスピーカーをお招きして、障がい児保育に関するさまざまな機関との連携について学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
13	子ども理解と保育方法①	子どもとその障がいをどのように見出し、理解するかを個別の指導計画の作成を通して学習する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
14	子ども理解と保育方法②	子どもとその障がいから、個別の指導計画を作成し、適切で具体的な保育方法を考える。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
15	まとめ	学習内容を振り返り、保育者として障がい児保育にどう取り組むかを考察する。 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。

科目名	教育・保育課程論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	賀門 康博		
開講期	Ⅱ		
授業概要	保育活動をとおして何を伝えるのか、どのような活動を計画したらよいかを考えられるようになるため、基礎的な理論や知識、具体的な計画について取りあげる。実際に計画を立てる演習も取り入れていく。		
達成目標	①教育・保育課程の意義を理解できたか。 ②教育・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	平常点30点、レポート70点
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成20年版） ・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成20年版） ・内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成27年版） ・岩崎順子・及川留美・柏谷亘正著『教育・保育課程論～書いて学べる指導計画～』萌文書林、2015年。 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・磯部裕子著『教育課程の理論—保育におけるカリキュラム・デザイン—』萌文書林、2010年。 ・その他適宜プリントを配布する。 		
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。		
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 12:50～14:20 833研究室		
自学自習	事前：授業内容について、教科書で、毎回確認してから授業に臨むこと。 事後：授業の内容をノートにまとめておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業のねらいや内容、評価方法について知る。（担当：山上裕子）
2	教育・保育課程とはなにか	・教育・保育課程の基礎理論について学び、計画を立てることの意義を知る。（担当：山上裕子）
3	指導計画の種類と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における「教育課程」「保育課程」の考え方 ～保育所と幼稚園の違い～ ・指導計画の必要性 ～なぜ必要なのか～ （担当：賀門康博）
4	教育・保育課程から指導計画へ I	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の種類 ・指導計画の作成手法①「子どもの姿」「ねらい」「内容」（担当：賀門康博）
5	教育・保育課程から指導計画へ II	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の作成手法②「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」（担当：賀門康博）
6	発達を押さえた保育と教育・保育課程 I	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳の発達と大切にしたいこと ・0～2歳の保育課程をみる （担当：賀門康博）
7	発達を押さえた保育と教育・保育課程 II	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳の「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてのワーク① （担当：賀門康博）
8	発達を押さえた保育と教育・保育課程 III	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳の「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてのワーク② ・3～5歳の発達と大切にしたいこと （担当：賀門康博）
9	発達を押さえた保育と教育・保育課程 IV	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5歳の「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてのワーク（担当：賀門康博）
10	指導計画作成の作成 I	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の部分指導計画の作成①（担当：賀門康博）
11	指導計画作成の作成 II	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の部分指導計画の作成② ・保育所：0～1歳児の全日指導計画の作成上のポイント ・保育所：1歳児の全日指導計画の作成①（担当：賀門康博）
12	指導計画作成の作成 III	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所：1歳児の全日指導計画の作成② ・幼稚園：3歳児の全日指導計画の作成のポイント①※レポート作成に関して （担当：賀門康博）
13	指導計画作成の作成 IV	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：3歳児の全日指導計画の作成②※作成レポートからの補足説明 （担当：賀門康博）
14	乳幼児の理解の重要性・評価・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画作成に関するまとめ ・子どもを理解すること ・PDCAサイクル、指導要録・抄本について（担当：賀門康博）
15	まとめ	・授業で学んできたことや実習での経験を振り返ることをとおして、教育課程の意義を再確認する。（担当：山上裕子）

平成29年度

科目名	教育・保育課程論	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	賀門 康博		
開講期	Ⅱ		
授業概要	保育活動をとおして何を伝えるのか、どのような活動を計画したらよいかを考えられるようになるため、基礎的な理論や知識、具体的な計画について取りあげる。実際に計画を立てる演習も取り入れていく。		
達成目標	①教育・保育課程の意義を理解できたか。 ②教育・保育課程の編成と指導計画の作成について、具体的に理解できたか。		
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	平常点30点、レポート70点
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』（平成20年版） ・厚生労働省『保育所保育指針解説』（平成20年版） ・内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』（平成27年版） ・岩崎順子・及川留美・柏谷亘正著『教育・保育課程論～書いて学べる指導計画～』萌文書林、2015年。 		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・磯部裕子著『教育課程の理論—保育におけるカリキュラム・デザイン—』萌文書林、2010年。 ・その他適宜プリントを配布する。 		
学生への要望	授業用のノートを用意すること。 欠席、遅刻はしないようにすること。 指導計画の作成にはイメージの豊かさが大事である。授業内容に沿った気づきや発想を、積極的に発言すること。		
オフィスタイム	水曜日 12:00～12:50 金曜日 12:50～14:20 833研究室		
自学自習	事前：授業内容について、教科書で、毎回確認してから授業に臨むこと。 事後：授業の内容をノートにまとめておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業のねらいや内容、評価方法について知る。（担当：山上裕子）
2	教育・保育課程とはなにか	・教育・保育課程の基礎理論について学び、計画を立てることの意義を知る。（担当：山上裕子）
3	指導計画の種類と役割	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における「教育課程」「保育課程」の考え方 ～保育所と幼稚園の違い～ ・指導計画の必要性 ～なぜ必要なのか～ （担当：賀門康博）
4	教育・保育課程から指導計画へ I	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の種類 ・指導計画の作成手法①「子どもの姿」「ねらい」「内容」（担当：賀門康博）
5	教育・保育課程から指導計画へ II	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の作成手法②「環境の構成」「予想される子どもの姿」「保育者の援助・配慮」（担当：賀門康博）
6	発達を押さえた保育と教育・保育課程 I	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳の発達と大切にしたいこと ・0～2歳の保育課程をみる （担当：賀門康博）
7	発達を押さえた保育と教育・保育課程 II	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳の「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてのワーク① （担当：賀門康博）
8	発達を押さえた保育と教育・保育課程 III	<ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳の「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてのワーク② ・3～5歳の発達と大切にしたいこと （担当：賀門康博）
9	発達を押さえた保育と教育・保育課程 IV	<ul style="list-style-type: none"> ・3～5歳の「子どもの姿」「ねらい」「内容」についてのワーク（担当：賀門康博）
10	指導計画作成の作成 I	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の部分指導計画の作成①（担当：賀門康博）
11	指導計画作成の作成 II	<ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の部分指導計画の作成② ・保育所：0～1歳児の全日指導計画の作成上のポイント ・保育所：1歳児の全日指導計画の作成①（担当：賀門康博）
12	指導計画作成の作成 III	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所：1歳児の全日指導計画の作成② ・幼稚園：3歳児の全日指導計画の作成のポイント①※レポート作成に関して （担当：賀門康博）
13	指導計画作成の作成 IV	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園：3歳児の全日指導計画の作成②※作成レポートからの補足説明 （担当：賀門康博）
14	乳幼児の理解の重要性・評価・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画作成に関するまとめ ・子どもを理解すること ・PDCAサイクル、指導要録・抄本について（担当：賀門康博）
15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んできたことや実習での経験を振り返ることをとおして、教育課程の意義を再確認する。（担当：山上裕子）

科目名	保育内容総論		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	柴田 卓			
開講期	IV			
授業概要	【授業のねらい】 ①様々な事例の提示を通して、子どもを観察する視点を養う。 ②課題を発見し考察する力を養う。 ③グループで対話を重ね、課題を解決する力を養う。 【授業概要】 実習を振り返り、子どもにはどのような経験が大切かを学ぶ。そのためにはどのような保育内容が必要か、事例や映像から考察する。また、子どもの生活全体を多様にイメージし、養護と教育が一体的に展開する保育の本質をつかむことがねらいである。			
達成目標	1) 幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育の目標、子どもの発達、保育内容を関連づけて理解する。 2) 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開する必要を理解する。 3) 日本の幼稚園と保育所における保育内容の変遷を理解し、今後の課題と展望について理解する。			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	授業時の課題・小テスト40点、まとめのレポート50点 平常点10点	
教科書	井上孝之・奥山優佳・山崎敦子編、『子どもと共に学びあう演習・保育内容総論』,みらい,2014			
参考書	大宮勇雄・白石昌子・原野明子著、『子どもの心が見えてきた』,ひとなる書房,2011 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』,フレーベル館,2008 厚生労働省、『保育所保育指針解説書』,フレーベル館,2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』,フレーベル館,2016			
学生への要望	保育に正解はありません。目の前の子ども達のために「学び・考え続ける保育者」を目指しましょう。			
オフィスタイム	月曜日14時～17時 柴田 824研究室 金曜日14時～17時 猪股 831研究室			
自学自習	【事前】テキストで当日の内容を確認しておくこと(30分) 【事後】学習したことを振り返り、整理すること(60分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(猪股・柴田)	趣旨・内容・評価の説明
2	グループワーク①「実習の振り返り」(猪股・柴田)	ラウンドテーブル形式で実習における振り返りを実施する。
3	グループワーク②「実習における学び」(猪股・柴田)	グループ毎に発表する。
4	保育内容の歴史の変遷①(猪股)	戦前(第2次世界大戦)の保育
5	保育内容の歴史の変遷②(猪股)	戦後の保育
6	保育所・幼稚園・こども園の役割①(猪股)	保育所の役割・保育所保育指針と保育内容
7	保育所・幼稚園・こども園の役割②(猪股)	幼稚園の役割・幼稚園教育要領における保育内容 こども園の役割とその特徴
8	発育発達と保育内容①(猪股)	未満児の発育発達と保育内容
9	発育発達と保育内容②(柴田)	3歳児の発育発達と保育内容
10	発育発達と保育内容③(柴田)	4歳児の発育発達と保育内容
11	発育発達と保育内容④(柴田)	5歳児の発育発達と保育内容
12	保育内容の実際①(柴田)	水を使った活動
13	保育内容の実際②(柴田)	食べ物を使った活動
14	保育の今日的課題(柴田)	インクルーシブ保育、長時間保育、規制緩和による是非、保育者の処遇改善 家庭・地域との連携を踏まえた保育、待機児童問題、虐待、早期教育、他
15	まとめ(柴田・猪股)	保育における今日的課題と対策に関するレポートの作成

科目名	保育内容総論		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	柴田 卓			
開講期	IV			
授業概要	【授業のねらい】 ①様々な事例の提示を通して、子どもを観察する視点を養う。 ②課題を発見し考察する力を養う。 ③グループで対話を重ね、課題を解決する力を養う。 【授業概要】 実習を振り返り、子どもにはどのような経験が大切かを学ぶ。そのためにはどのような保育内容が必要か、事例や映像から考察する。また、子どもの生活全体を多様にイメージし、養護と教育が一体的に展開する保育の本質をつかむことがねらいである。			
達成目標	1) 幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育の目標、子どもの発達、保育内容を関連づけて理解する。 2) 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開する必要を理解する。 3) 日本の幼稚園と保育所における保育内容の変遷を理解し、今後の課題と展望について理解する。			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	授業時の課題・小テスト40点、まとめのレポート50点 平常点10点	
教科書	井上孝之・奥山優佳・山崎敦子編、『子どもと共に学びあう演習・保育内容総論』,みらい,2014			
参考書	大宮勇雄・白石昌子・原野明子著、『子どもの心が見えてきた』,ひとなる書房,2011 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』,フレーベル館,2008 厚生労働省、『保育所保育指針解説書』,フレーベル館,2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』,フレーベル館,2016			
学生への要望	保育に正解はありません。目の前の子ども達のために「学び・考え続ける保育者」を目指しましょう。			
オフィスタイム	月曜日14時～17時 柴田 824研究室 金曜日14時～17時 猪股 831研究室			
自学自習	【事前】テキストで当日の内容を確認しておくこと(30分) 【事後】学習したことを振り返り、整理すること(60分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(猪股・柴田)	趣旨・内容・評価の説明
2	グループワーク①「実習の振り返り」(猪股・柴田)	ラウンドテーブル形式で実習における振り返りを実施する。
3	グループワーク②「実習における学び」(猪股・柴田)	グループ毎に発表する。
4	保育内容の歴史の変遷①(猪股)	戦前(第2次世界大戦)の保育
5	保育内容の歴史の変遷②(猪股)	戦後の保育
6	保育所・幼稚園・こども園の役割①(猪股)	保育所の役割・保育所保育指針と保育内容
7	保育所・幼稚園・こども園の役割②(猪股)	幼稚園の役割・幼稚園教育要領における保育内容 こども園の役割とその特徴
8	発育発達と保育内容①(猪股)	未満児の発育発達と保育内容
9	発育発達と保育内容②(柴田)	3歳児の発育発達と保育内容
10	発育発達と保育内容③(柴田)	4歳児の発育発達と保育内容
11	発育発達と保育内容④(柴田)	5歳児の発育発達と保育内容
12	保育内容の実際①(柴田)	水を使った活動
13	保育内容の実際②(柴田)	食べ物を使った活動
14	保育の今日的課題(柴田)	インクルーシブ保育、長時間保育、規制緩和による是非、保育者の処遇改善 家庭・地域との連携を踏まえた保育、待機児童問題、虐待、早期教育、他
15	まとめ(柴田・猪股)	保育における今日的課題と対策に関するレポートの作成

科目名	保育内容総論		対象 単位数 必選	短期大学部 音楽科 1年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	柴田 卓			
開講期	IV			
授業概要	<p>〔授業のねらい〕</p> <p>①様々な事例の提示を通して、子どもを観察する視点を養う。 ②課題を発見し考察する力を養う。 ③グループで対話を重ね、課題を解決する力を養う。</p> <p>〔授業概要〕</p> <p>実習を振り返り、子どもにはどのような経験が大切かを学ぶ。そのためにはどのような保育内容が必要か、事例や映像から考察する。また、子どもの生活全体を多様にイメージし、養護と教育が一体的に展開する保育の本質をつかむことがねらいである。</p>			
達成目標	<p>1) 幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育の目標、子どもの発達、保育内容を関連づけて理解する。 2) 子どもの生活全体を通して、養護と教育が一体的に展開する必要を理解する。 3) 日本の幼稚園と保育所における保育内容の変遷を理解し、今後の課題と展望について理解する。</p>			
受講資格	原則として、幼稚園教諭二種、保育士資格取得希望者	成績評価 方法	授業時の課題・小テスト40点、まとめのレポート50点 平常点10点	
教科書	井上孝之・奥山優佳・山崎敦子編、『子どもと共に学びあう演習・保育内容総論』,みらい,2014			
参考書	<p>大宮勇雄・白石昌子・原野明子著、『子どもの心が見えてきた』,ひとなる書房,2011 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』,フレーベル館,2008 厚生労働省、『保育所保育指針解説書』,フレーベル館,2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』,フレーベル館,2016</p>			
学生への要望	保育に正解はありません。目の前の子ども達のために「学び・考え続ける保育者」を目指しましょう。			
オフィスタイム	月曜日14時～17時 柴田 824研究室 金曜日14時～17時 猪股 831研究室			
自学自習	【事前】テキストで当日の内容を確認しておくこと(30分) 【事後】学習したことを振り返り、整理すること(60分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(猪股・柴田)	趣旨・内容・評価の説明
2	グループワーク①「実習の振り返り」(猪股・柴田)	ラウンドテーブル形式で実習における振り返りを実施する。
3	グループワーク②「実習における学び」(猪股・柴田)	グループ毎に発表する。
4	保育内容の歴史の変遷①(猪股)	戦前(第2次世界大戦)の保育
5	保育内容の歴史の変遷②(猪股)	戦後の保育
6	保育所・幼稚園・こども園の役割①(猪股)	保育所の役割・保育所保育指針と保育内容
7	保育所・幼稚園・こども園の役割②(猪股)	幼稚園の役割・幼稚園教育要領における保育内容 こども園の役割とその特徴
8	発育発達と保育内容①(猪股)	未満児の発育発達と保育内容
9	発育発達と保育内容②(柴田)	3歳児の発育発達と保育内容
10	発育発達と保育内容③(柴田)	4歳児の発育発達と保育内容
11	発育発達と保育内容④(柴田)	5歳児の発育発達と保育内容
12	保育内容の実際①(柴田)	水を使った活動
13	保育内容の実際②(柴田)	食べ物を使った活動
14	保育の今日的課題(柴田)	インクルーシブ保育、長時間保育、規制緩和による是非、保育者の処遇改善 家庭・地域との連携を踏まえた保育、待機児童問題、虐待、早期教育、他
15	まとめ(柴田・猪股)	保育における今日的課題と対策に関するレポートの作成

科目名	保育内容演習 人間と健康 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	一柳 智子			
開講期	II			
授業概要	乳幼児の健全な発育発達を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、かつ実践的な指導法などを積極的に討論することを目的とする。 また、日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、それをもとに考え、集団で討論しコミュニケーションの力を養うことも目的とする。			
達成目標	①乳幼児の健全な発育発達を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、実践的な指導法などを積極的に討論することができたか。 ②日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、考え、集団で討論することができたか。			
受講資格	幼児教育学科 1年C	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験30点 レポート・提出物30点、ポートフォリオ40点	
教科書	建帛社：シードブック 保育内容健康 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	プリントは随時配布する。			
学生への要望	現場で役立つために、子どもの視点から健康を考えることができるよう、積極的に講義を聞き、討論し、考える訓練をしてほしい			
オフィスタイム	木曜日 III限目 (12:50~14:20) IV限目 (14:30~16:00) 825研究室 (一柳)			
自学自習	1年次における種々の実習において、子どもたちの実態を注意深く観察し、授業内容を基礎知識としてさらに深められるよう意識してほしい			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1 本授業の流れの説明と受講するうえでの注意点の説明。ノートの作成に関する説明。 2 本授業の幼児教育課程における位置づけについて説明。
2	健康の定義	1 「健康」の定義。 2 基本的人権としての健康。 教育・保育の中の健康。 3 討論：日々の生活の中で発生している様々な生命や健康に関わる問題について身近な話題を話し合う。
3	保育者として乳幼児の健康を考える	1 人権としての乳幼児の健康についての復習。 2 保障される健康から主体的に生み出す健康へと導く保育者としてのあり方を考える。 2 健康な幼児についてのあるべき姿に関して、自己の考えをまとめる。
4	領域「健康」-1	幼稚園教育要領における領域「健康」：ねらいの3項目 そのねらいを達成する為の指導事項としての内容10項目
5	領域「健康」-2	1 保育所保育指針における領域「健康」 2 幼稚園教育要領における保育内容の整合性。 保育所保育指針における保育のねらい及び内容は「養護にかかわるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」の両面から示され、教育に関わる5領域全てが教育要領と同じく表記されている。教育要領との違いは「養護に関わるねらいと内容」に「生命の保持」「情緒の安定」の2点である。
6	身体の発達と園生活-1	1. 身体の発達 (1) 身体の発達の捉え方 (2) 乳幼児期の身体発達の特徴 (3) 体重と慎重 (4) プロポーションの変化
7	身体の発達と園生活-2	1. 運動の発達 (1) 運動発達の順序性と方向性 (2) 運動能力の捉え方と基礎的運動 (3) 基礎的運動の発達
8	心の発達と園生活	乳幼児期は、豊かな心の発達の基礎を作り上げる時期。保育現場では、子どもの心の発達には何が必要であるかを考える。 1. 情緒 2. 社会性 3. 知的能力 4. パーソナリティ
9	基本的生活習慣の育成と保育者の援助	1 基本的生活習慣とは何か。 2 子どもにとって基本的生活習慣の意味 3 基本的生活習慣の内容。 4 生活習慣の指導・援助とその留意点についてグループ討論。
10	運動遊びと保育者の援助-1	1 運動遊びの意義。 2 いろいろな運動遊びの種類とその遊びの特質及び指導法。 (イ：固定遊具 ロ：鬼ごっこ ハ：ボールを使った遊び ニ：走る・とぶを中心とした遊び ホ：室内での遊び等) 3 運動遊びの指導の一般的留意事項。 以上の事柄について、自己の体験や身近な幼児に関して、討論し、運動遊びの意義を考える。
11	運動遊びと保育者の援助-2	ムーブメント教育療法による子どもの遊びを学ぶ 遊びの場づくりを支えるムーブメントの考え方 1. 「からだ・あたま・こころ」の全人的アプローチ 2. 集団の力 3. 環境の力

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	運動遊びと保育者の援助-3	実際にムーブメント遊具を使用して、遊びの可能性を探求しよう。 1. ロープ 2. スカーフ 3. 形板 4. バルーン
13	保健への配慮と指導および安全管理と指導	1 健康状態の把握とその方法（保健調査・日々の健康観察など） 2 定期健康診断の実施と事後指導及び実施上の留意点 1 安全管理の意義と目的 3 安全対策と安全能力の育成 4 災害に対する安全指導と援助のあり方 5 安全管理とその点検方法
14	園外保育と健康	1 園外保育の意義 2 園外保育の効果 3 園外保育実施のあり方
15	まとめ	人間形成の最も基本的な段階である幼児教育と保育の現場において、こどもたち自らが自分の「健康」を自覚し留意できるようになるために、保育者はいかに援助できるかを、再び捉えなおす。

科目名	保育内容演習 人間と健康 I	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	一柳 智子		
開講期	II		
授業概要	乳幼児の健全な発育発達を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、かつ実践的な指導法などを積極的に討論することを目的とする。 また、日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、それをもとに考え、集団で討論しコミュニケーションの力を養うことも目的とする。		
達成目標	①乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、実践的な指導法などを積極的に討論することができたか。 ②日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、考え、集団で討論することができたか。		
受講資格	幼児教育学科 1年A	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験30点 レポート・提出物30点、ポートフォリオ40点
教科書	建帛社：シードブック 保育内容健康 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
参考書	プリントは随時配布する。		
学生への要望	現場で役立つために、子どもの視点から健康を考えることができるよう、積極的に講義を聞き、討論し、考える訓練をしてほしい		
オフィスタイム	木曜日 III限目 (12:50~14:20) IV限目 (14:30~16:00) 825研究室 (一柳)		
自学自習	1年次における種々の実習において、子どもたちの実態を注意深く観察し、授業内容を基礎知識としてさらに深められるよう意識してほしい		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1 本授業の流れの説明と受講するうえでの注意点の説明。ノートの作成に関する説明。 2 本授業の幼児教育課程における位置づけについて説明。
2	健康の定義	1 「健康」の定義。 2 基本的人権としての健康。 教育・保育の中の健康。 3 討論：日々の生活の中で発生している様々な生命や健康に関わる問題について身近な話題を話し合う。
3	保育者として乳幼児の健康を考える	1 人権としての乳幼児の健康についての復習。 2 保障される健康から主体的に生み出す健康へと導く保育者としてのあり方を考える。 2 健康な幼児についてのあるべき姿に関して、自己の考えをまとめる。
4	領域「健康」-1	幼稚園教育要領における領域「健康」：ねらいの3項目 そのねらいを達成する為の指導事項としての内容10項目
5	領域「健康」-2	1 保育所保育指針における領域「健康」 2 幼稚園教育要領における保育内容の整合性。 保育所保育指針における保育のねらい及び内容は「養護にかかわるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」の両面から示され、教育に関わる5領域全てが教育要領と同じく表記されている。教育要領との違いは「養護に関わるねらいと内容」に「生命の保持」「情緒の安定」の2点である。
6	身体の発達と園生活-1	1. 身体の発達 (1) 身体の発達の捉え方 (2) 乳幼児期の身体発達の特徴 (3) 体重と慎重 (4) プロポーションの変化
7	身体の発達と園生活-2	1. 運動の発達 (1) 運動発達の順序性と方向性 (2) 運動能力の捉え方と基礎的運動 (3) 基礎的運動の発達
8	心の発達と園生活	乳幼児期は、豊かな心の発達の基礎を作り上げる時期。保育現場では、子どもの心の発達には何が必要であるかを考える。 1. 情緒 2. 社会性 3. 知的能力 4. パーソナリティ
9	基本的生活習慣の育成と保育者の援助	1 基本的生活習慣とは何か。 2 子どもにとって基本的生活習慣の意味 3 基本的生活習慣の内容。 4 生活習慣の指導・援助とその留意点についてグループ討論。
10	運動遊びと保育者の援助-1	1 運動遊びの意義。 2 いろいろな運動遊びの種類とその遊びの特質及び指導法。 (イ：固定遊具 ロ：鬼ごっこ ハ：ボールを使った遊び ニ：走る・とぶを中心とした遊び ホ：室内での遊び等) 3 運動遊びの指導の一般的留意事項。 以上の事柄について、自己の体験や身近な幼児に関して、討論し、運動遊びの意義を考える。
11	運動遊びと保育者の援助-2	ムーブメント教育療法による子どもの遊びを学ぶ 遊びの場づくりを支えるムーブメントの考え方 1. 「からだ・あたま・こころ」の全人的アプローチ 2. 集団の力 3. 環境の力

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	運動遊びと保育者の援助-3	実際にムーブメント遊具を使用して、遊びの可能性を探求しよう。 1. ロープ 2. スカーフ 3. 形板 4. バルーン
13	保健への配慮と指導および安全管理と指導	1 健康状態の把握とその方法（保健調査・日々の健康観察など） 2 定期健康診断の実施と事後指導及び実施上の留意点 1 安全管理の意義と目的 3 安全対策と安全能力の育成 4 災害に対する安全指導と援助のあり方 5 安全管理とその点検方法
14	園外保育と健康	1 園外保育の意義 2 園外保育の効果 3 園外保育実施のあり方
15	まとめ	人間形成の最も基本的な段階である幼児教育と保育の現場において、こどもたち自らが自分の「健康」を自覚し留意できるようになるために、保育者はいかに援助できるかを、再び捉えなおす。

科目名	保育内容演習 人間と健康 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	一柳 智子			
開講期	II			
授業概要	乳幼児の健全な発育発達を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、かつ実践的な指導法などを積極的に討論することを目的とする。 また、日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、それをもとに考え、集団で討論しコミュニケーションの力を養うことも目的とする。			
達成目標	①乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、実践的な指導法などを積極的に討論することができたか。 ②日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、考え、集団で討論することができたか。			
受講資格	幼児教育学科 1年B	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験30点 レポート・提出物30点、ポートフォリオ40点	
教科書	建帛社：シードブック 保育内容健康 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	プリントは随時配布する。			
学生への要望	現場で役立つために、子どもの視点から健康を考えることができるよう、積極的に講義を聞き、討論し、考える訓練をしてほしい			
オフィスタイム	木曜日 III 限目 (12:50~14:20) IV 限目 (14:30~16:00) 825研究室 (一柳)			
自学自習	1年次における種々の実習において、子どもたちの実態を注意深く観察し、授業内容を基礎知識としてさらに深められるよう意識してほしい			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1 本授業の流れの説明と受講するうえでの注意点の説明。ノートの作成に関する説明。 2 本授業の幼児教育課程における位置づけについて説明。
2	健康の定義	1 「健康」の定義。 2 基本的人権としての健康。 教育・保育の中の健康。 3 討論：日々の生活の中で発生している様々な生命や健康に関わる問題について身近な話題を話し合う。
3	保育者として乳幼児の健康を考える	1 人権としての乳幼児の健康についての復習。 2 保障される健康から主体的に生み出す健康へと導く保育者としてのあり方を考える。 2 健康な幼児についてのあるべき姿に関して、自己の考えをまとめる。
4	領域「健康」-1	幼稚園教育要領における領域「健康」：ねらいの3項目 そのねらいを達成する為の指導事項としての内容10項目
5	領域「健康」-2	1 保育所保育指針における領域「健康」 2 幼稚園教育要領における保育内容の整合性。 保育所保育指針における保育のねらい及び内容は「養護にかかわるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」の両面から示され、教育に関わる5領域全てが教育要領と同じく表記されている。教育要領との違いは「養護に関わるねらいと内容」に「生命の保持」「情緒の安定」の2点である。
6	身体の発達と園生活-1	1. 身体の発達 (1) 身体の発達の捉え方 (2) 乳幼児期の身体発達の特徴 (3) 体重と慎重 (4) プロポーションの変化
7	身体の発達と園生活-2	1. 運動の発達 (1) 運動発達の順序性と方向性 (2) 運動能力の捉え方と基礎的運動 (3) 基礎的運動の発達
8	心の発達と園生活	乳幼児期は、豊かな心の発達の基礎を作り上げる時期。保育現場では、子どもの心の発達には何が必要であるかを考える。 1. 情緒 2. 社会性 3. 知的能力 4. パーソナリティ
9	基本的生活習慣の育成と保育者の援助	1 基本的生活習慣とは何か。 2 子どもにとって基本的生活習慣の意味 3 基本的生活習慣の内容。 4 生活習慣の指導・援助とその留意点についてグループ討論。
10	運動遊びと保育者の援助-1	1 運動遊びの意義。 2 いろいろな運動遊びの種類とその遊びの特質及び指導法。 (イ：固定遊具 ロ：鬼ごっこ ハ：ボールを使った遊び ニ：走る・とぶを中心とした遊び ホ：室内での遊び等) 3 運動遊びの指導の一般的留意事項。 以上の事柄について、自己の体験や身近な幼児に関して、討論し、運動遊びの意義を考える。
11	運動遊びと保育者の援助-2	ムーブメント教育療法による子どもの遊びを学ぶ 遊びの場づくりを支えるムーブメントの考え方 1. 「からだ・あたま・こころ」の全人的アプローチ 2. 集団の力 3. 環境の力

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	運動遊びと保育者の援助-3	実際にムーブメント遊具を使用して、遊びの可能性を探求しよう。 1. ロープ 2. スカーフ 3. 形板 4. バルーン
13	保健への配慮と指導および安全管理と指導	1 健康状態の把握とその方法（保健調査・日々の健康観察など） 2 定期健康診断の実施と事後指導及び実施上の留意点 1 安全管理の意義と目的 3 安全対策と安全能力の育成 4 災害に対する安全指導と援助のあり方 5 安全管理とその点検方法
14	園外保育と健康	1 園外保育の意義 2 園外保育の効果 3 園外保育実施のあり方
15	まとめ	人間形成の最も基本的な段階である幼児教育と保育の現場において、こどもたち自らが自分の「健康」を自覚し留意できるようになるために、保育者はいかに援助できるかを、再び捉えなおす。

科目名	保育内容演習 人間と健康 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	一柳 智子			
開講期	II			
授業概要	乳幼児の健全な発育発達を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、かつ実践的な指導法などを積極的に討論することを目的とする。 また、日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、それをもとに考え、集団で討論しコミュニケーションの力を養うことも目的とする。			
達成目標	①乳幼児の健全な発育発達の姿を理解し、幼児が健康で安全な生活を送る為に必要な知識を獲得し、実践的な指導法などを積極的に討論することができたか。 ②日々の生活に必要な「人と関わる力」や「関わり方」などの知識を獲得し、考え、集団で討論することができたか。			
受講資格	幼児教育学科1年D	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験30点 レポート・提出物30点、ポートフォリオ40点	
教科書	建帛社：シードブック 保育内容健康 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	プリントは随時配布する。			
学生への要望	現場で役立たせるために、子どもの視点から健康を考えることができるよう、積極的に講義を聞き、討論し、考える訓練をしてほしい			
オフィスタイム	木曜日 Ⅲ限目 (12:50~14:20) Ⅳ限目 (14:30~16:00) 825研究室 (一柳)			
自学自習	1年次における種々の実習において、子どもたちの実態を注意深く観察し、授業内容を基礎知識としてさらに深められるよう意識してほしい			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	1 本授業の流れの説明と受講するうえでの注意点の説明。ノートの作成に関する説明。 2 本授業の幼児教育課程における位置づけについて説明。
2	健康の定義	1 「健康」の定義。 2 基本的人権としての健康。 教育・保育の中の健康。 3 討論：日々の生活の中で発生している様々な生命や健康に関わる問題について身近な話題を話し合う。
3	保育者として乳幼児の健康を考える	1 人権としての乳幼児の健康についての復習。 2 保障される健康から主体的に生み出す健康へと導く保育者としてのあり方を考える。 2 健康な幼児についてのあるべき姿に関して、自己の考えをまとめる。
4	領域「健康」-1	幼稚園教育要領における領域「健康」：ねらいの3項目 そのねらいを達成する為の指導事項としての内容10項目
5	領域「健康」-2	1 保育所保育指針における領域「健康」 2 幼稚園教育要領における保育内容の整合性。 保育所保育指針における保育のねらい及び内容は「養護にかかわるねらい及び内容」と「教育に関わるねらい及び内容」の両面から示され、教育に関わる5領域全てが教育要領と同じく表記されている。教育要領との違いは「養護に関わるねらいと内容」に「生命の保持」「情緒の安定」の2点である。
6	身体の発達と園生活-1	1. 身体の発達 (1) 身体の発達の捉え方 (2) 乳幼児期の身体発達の特徴 (3) 体重と慎重 (4) プロポーションの変化
7	身体の発達と園生活-2	1. 運動の発達 (1) 運動発達の順序性と方向性 (2) 運動能力の捉え方と基礎的運動 (3) 基礎的運動の発達
8	心の発達と園生活	乳幼児期は、豊かな心の発達の基礎を作り上げる時期。保育現場では、子どもの心の発達には何が必要であるかを考える。 1. 情緒 2. 社会性 3. 知的能力 4. パーソナリティ
9	基本的生活習慣の育成と保育者の援助	1 基本的生活習慣とは何か。 2 子どもにとって基本的生活習慣の意味 3 基本的生活習慣の内容。 4 生活習慣の指導・援助とその留意点についてグループ討論。
10	運動遊びと保育者の援助-1	1 運動遊びの意義。 2 いろいろな運動遊びの種類とその遊びの特質及び指導法。 (イ：固定遊具 ロ：鬼ごっこ ハ：ボールを使った遊び ニ：走る・とぶを中心とした遊び ホ：室内での遊び等) 3 運動遊びの指導の一般的留意事項。 以上の事柄について、自己の体験や身近な幼児に関して、討論し、運動遊びの意義を考える。
11	運動遊びと保育者の援助-2	ムーブメント教育療法による子どもの遊びを学ぶ 遊びの場づくりを支えるムーブメントの考え方 1. 「からだ・あたま・こころ」の全人的アプローチ 2. 集団の力 3. 環境の力

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
12	運動遊びと保育者の援助-3	実際にムーブメント遊具を使用して、遊びの可能性を探求しよう。 1. ロープ 2. スカーフ 3. 形板 4. バルーン
13	保健への配慮と指導および安全管理と指導	1 健康状態の把握とその方法（保健調査・日々の健康観察など） 2 定期健康診断の実施と事後指導及び実施上の留意点 1 安全管理の意義と目的 3 安全対策と安全能力の育成 4 災害に対する安全指導と援助のあり方 5 安全管理とその点検方法
14	園外保育と健康	1 園外保育の意義 2 園外保育の効果 3 園外保育実施のあり方
15	まとめ	人間形成の最も基本的な段階である幼児教育と保育の現場において、こどもたち自らが自分の「健康」を自覚し留意できるようになるために、保育者はいかに援助できるかを、再び捉えなおす。

平成29年度

科目名	保育内容演習 人間と健康Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年, 一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①幼稚園教諭及び保育士の資格取得に必要な知識の習得 ②幼稚園教諭及び保育士として必要な人間関係に関わる力の養成 ③幼稚園教諭及び保育士として「人間関係」に関わる現代的課題の検討</p> <p>1回～8回 富士盛 1、9回～15回 一柳</p>			
達成目標	<p>① 領域「人間関係」のねらいと内容について理解できたか。 ② 人との関わり方について理解できたか。 ③ 「人間関係」に関する現代的課題を理解することができたか。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験40点 レポート30点、ポートフォリオ30点	
教科書	<p>プリントを配布</p> <p>文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館</p>			
参考書	授業時に紹介			
学生への要望	積極的な参加を望みます。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	<p>火曜日午後 木曜日午後1:00～5:00 825研究室（一柳） 火曜日16時から17時 水曜日16時から17時 富士盛研究室（833）</p>			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の流れと意義 ・なぜ「人間関係」を学ばなければならないのか、なぜ人とかかわることが大切なのか ・五領域横断的な内容
2	子どもの発達と環境-1	<ul style="list-style-type: none"> ・体験という視点から見た「発達と環境」 ・社会性 基本的な生活習慣、個性、愛着
3	子どもの発達と環境-2	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりという視点から見た「発達と環境」 ・援助という視点から見た「発達と環境」
4	自己理解と自己概念-1	自己理解と自己概念 自己概念の表現のための課題を行う。
5	自己理解と自己概念-2	自己理解と自己概念 自己理解についての課題を行う。心理テストを実施して、自分について考える。
6	発達段階	<ul style="list-style-type: none"> ・0,1,2歳児 保護者と園をつなぐ連絡ノート、アタッチメント（愛着）の形成、保育者が安全の基地、モデルとしての保育者、しつけのはじまり。 ・3歳児 保育者が居場所 ・4歳児 自己主張と自己抑制 友達とぶつかる ・5歳児 園生活の充実感を支えるもの
7	現代的課題：母親と子どもの事情の報告	いくつかの報告から現代的課題を考える。NHKのビデオを見て現代の母親と子供の事情を考える。
8	前半のまとめ	まとめと課題提出。小テスト。
9	後半のオリエンテーション	社会・文化に生きる子ども ワーク「私は・・・」
10	領域「人間関係」	幼稚園教育要領および保育所保育指針における五領域のうちの「人間関係」の確認 1. 幼稚園教育要領の基本と領域 2. 発達の諸側面と領域 3. 領域「人間関係」について 4. 領域「人間関係」の「ねらい」について 5. 領域「人間関係」の「内容」について 6. 領域「人間関係」の「内容の取扱い」 7. 発達の過程
11	子どもの集団生活	「群れ」から「集団」へ 1. 「群れ」に始まる園生活 2. 新しい「仲間とのふれあい」への手がかり 3. 集団の「形成」について 4. 集団の存続 5. 集団の「構造」について
12	保護者との関わり	保育者の専門性を生かす 保育者と保護者の良好な人間関係のために

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	保育者同士の関わり	保育者の言動から子どもは学ぶ 道徳的育ち
14	かかわりの育ちを「みる」	子どもを「みる」とは 見えるものと見えないもの
15	まとめ	全体のまとめ 小テスト

平成29年度

科目名	保育内容演習 人間と健康Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年, 一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①幼稚園教諭及び保育士の資格取得に必要な知識の習得 ②幼稚園教諭及び保育士として必要な人間関係に関わる力の養成 ③幼稚園教諭及び保育士として「人間関係」に関わる現代的課題の検討</p> <p>1回～8回 富士盛 1、9回～15回 一柳</p>			
達成目標	<p>① 領域「人間関係」のねらいと内容について理解できたか。 ② 人との関わり方について理解できたか。 ③ 「人間関係」に関する現代的課題を理解することができたか。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験40点 レポート30点、ポートフォリオ30点	
教科書	プリントを配布 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館			
参考書	授業時に紹介			
学生への要望	積極的な参加を望みます。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日午後 木曜日午後1:00～5:00 825研究室（一柳） 火曜日16時から17時 水曜日16時から17時 富士盛研究室（833）			
自学自習	予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の流れと意義 ・なぜ「人間関係」を学ばなければならないのか、なぜ人とかかわることが大切なのか ・五領域横断的な内容
2	子どもの発達と環境-1	<ul style="list-style-type: none"> ・体験という視点から見た「発達と環境」 ・社会性 基本的な生活習慣、個性、愛着
3	子どもの発達と環境-2	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりという視点から見た「発達と環境」 ・援助という視点から見た「発達と環境」
4	自己理解と自己概念-1	自己理解と自己概念 自己概念の表現のための課題を行う。
5	自己理解と自己概念-2	自己理解と自己概念 自己理解についての課題を行う。心理テストを実施して、自分について考える。
6	発達段階	<ul style="list-style-type: none"> ・0,1,2歳児 保護者と園をつなぐ連絡ノート、アタッチメント（愛着）の形成、保育者が安全の基地、モデルとしての保育者、しつけのはじまり。 ・3歳児 保育者が居場所 ・4歳児 自己主張と自己抑制 友達とぶつかる ・5歳児 園生活の充実感を支えるもの
7	現代的課題：母親と子どもの事情の報告	いくつかの報告から現代的課題を考える。NHKのビデオを見て現代の母親と子供の事情を考える。
8	前半のまとめ	まとめと課題提出。小テスト。
9	後半のオリエンテーション	社会・文化に生きる子ども ワーク「私は・・・」
10	領域「人間関係」	幼稚園教育要領および保育所保育指針における五領域のうちの「人間関係」の確認 1. 幼稚園教育要領の基本と領域 2. 発達の諸側面と領域 3. 領域「人間関係」について 4. 領域「人間関係」の「ねらい」について 5. 領域「人間関係」の「内容」について 6. 領域「人間関係」の「内容の取扱い」 7. 発達の過程
11	子どもの集団生活	「群れ」から「集団」へ 1. 「群れ」に始まる園生活 2. 新しい「仲間とのふれあい」への手がかり 3. 集団の「形成」について 4. 集団の存続 5. 集団の「構造」について
12	保護者との関わり	保育者の専門性を生かす 保育者と保護者の良好な人間関係のために

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	保育者同士の関わり	保育者の言動から子どもは学ぶ 道徳的育ち
14	かかわりの育ちを「みる」	子どもを「みる」とは 見えるものと見えないもの
15	まとめ	全体のまとめ 小テスト

平成29年度

科目名	保育内容演習 人間と健康Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年, 一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①幼稚園教諭及び保育士の資格取得に必要な知識の習得 ②幼稚園教諭及び保育士として必要な人間関係に関わる力の養成 ③幼稚園教諭及び保育士として「人間関係」に関わる現代的課題の検討</p> <p>1回～8回 富士盛 1、9回～15回 一柳</p>			
達成目標	<p>【履修カルテの評価項目】</p> <p>① 領域「人間関係」のねらいと内容について理解できたか。 ② 人との関わり方について理解できたか。 ③ 「人間関係」に関する現代的課題を理解することができたか。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験40点 レポート30点、ポートフォリオ30点	
教科書	プリントを配布			
参考書	授業時に紹介			
学生への要望	積極的な参加を望みます。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日午後 木曜日午後1:00～5:00 825研究室(一柳) 火曜日16時から17時 水曜日16時から17時 富士盛研究室			
自学自習	<p>予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。</p> <p>復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の流れと意義 ・なぜ「人間関係」を学ばなければならないのか、なぜ人とかがわることが大切なのか ・五領域横断的な内容
2	子どもの発達と環境-1	<ul style="list-style-type: none"> ・体験という視点から見た「発達と環境」 ・社会性 基本的な生活習慣、個性、愛着
3	子どもの発達と環境-2	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりという視点から見た「発達と環境」 ・援助という視点から見た「発達と環境」
4	自己理解と自己概念-1	自己理解と自己概念 自己概念の表現のための課題を行う。
5	自己理解と自己概念-2	自己理解と自己概念 自己理解についての課題を行う。心理テストを実施して、自分について考える。
6	発達段階	<ul style="list-style-type: none"> ・0,1,2歳児 保護者と園をつなぐ連絡ノート、アタッチメント(愛着)の形成、保育者が安全の基地、モデルとしての保育者、しつけのはじまり。 ・3歳児 保育者が居場所 ・4歳児 自己主張と自己抑制 友達とぶつかる ・5歳児 園生活の充実感を支えるもの
7	現代的課題:母親と子どもの事情の報告	いくつかの報告から現代的課題を考える。NHKのビデオを見て現代の母親と子供の事情を考える。
8	前半のまとめ	まとめと課題提出。小テスト。
9	後半のオリエンテーション	社会・文化に生きる子ども ワーク「私は・・・」
10	領域「人間関係」	幼稚園教育要領および保育所保育指針における五領域のうちの「人間関係」の確認 1. 幼稚園教育要領の基本と領域 2. 発達の諸側面と領域 3. 領域「人間関係」について 4. 領域「人間関係」の「ねらい」について 5. 領域「人間関係」の「内容」について 6. 領域「人間関係」の「内容の取扱い」 7. 発達の過程
11	子どもの集団生活	「群れ」から「集団」へ 1. 「群れ」に始まる園生活 2. 新しい「仲間とのふれあい」への手がかり 3. 集団の「形成」について 4. 集団の存続 5. 集団の「構造」について
12	保護者との関わり	保育者の専門性を生かす 保育者と保護者の良好な人間関係のために
13	保育者同士の関わり	保育者の言動から子どもは学ぶ 道徳的育ち
14	かかわりの育ちを「みる」	子どもを「みる」とは 見えるものと見えないもの

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	まとめ	全体のまとめ 小テスト

科目名	保育内容演習 人間と健康Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	富士盛 公年, 一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	【授業の目的・ねらい】 ①幼稚園教諭及び保育士の資格取得に必要な知識の習得 ②幼稚園教諭及び保育士として必要な人間関係に関わる力の養成 ③幼稚園教諭及び保育士として「人間関係」に関わる現代的課題の検討 1回～8回 富士盛 1、9回～15回 一柳			
達成目標	① 領域「人間関係」のねらいと内容について理解できたか。 ② 人との関わり方について理解できたか。 ③ 「人間関係」に関する現代的課題を理解することができたか。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	試験・レポート提出物及び授業態度を総合的に評価する。 試験40点 レポート30点、ポートフォリオ30点	
教科書	プリントを配布 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館 『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館			
参考書	授業時に紹介			
学生への要望	積極的な参加を望みます。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日午後 木曜日午後1:00～5:00 825研究室（一柳） 火曜日16時から17時 水曜日16時から17時 富士盛研究室（833）			
自学自習	予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・本授業の流れと意義 ・なぜ「人間関係」を学ばなければならないのか、なぜ人とかかわることが大切なのか ・五領域横断的な内容
2	子どもの発達と環境-1	<ul style="list-style-type: none"> ・体験という視点から見た「発達と環境」 ・社会性 基本的な生活習慣、個性、愛着
3	子どもの発達と環境-2	<ul style="list-style-type: none"> ・関わりという視点から見た「発達と環境」 ・援助という視点から見た「発達と環境」
4	自己理解と自己概念-1	自己理解と自己概念 自己概念の表現のための課題を行う。
5	自己理解と自己概念-2	自己理解と自己概念 自己理解についての課題を行う。心理テストを実施して、自分について考える。
6	発達段階	<ul style="list-style-type: none"> ・0,1,2歳児 保護者と園をつなぐ連絡ノート、アタッチメント（愛着）の形成、保育者が安全の基地、モデルとしての保育者、しつけのはじまり。 ・3歳児 保育者が居場所 ・4歳児 自己主張と自己抑制 友達とぶつかる ・5歳児 園生活の充実感を支えるもの
7	現代的課題：母親と子どもの事情の報告	いくつかの報告から現代的課題を考える。NHKのビデオを見て現代の母親と子供の事情を考える。
8	前半のまとめ	まとめと課題提出。小テスト。
9	後半のオリエンテーション	社会・文化に生きる子ども ワーク「私は・・・」
10	領域「人間関係」	幼稚園教育要領および保育所保育指針における五領域のうちの「人間関係」の確認 1. 幼稚園教育要領の基本と領域 2. 発達の諸側面と領域 3. 領域「人間関係」について 4. 領域「人間関係」の「ねらい」について 5. 領域「人間関係」の「内容」について 6. 領域「人間関係」の「内容の取扱い」
11	子どもの集団生活	「群れ」から「集団」へ 1. 「群れ」に始まる園生活 2. 新しい「仲間とのふれあい」への手がかり 3. 集団の「形成」について 4. 集団の存続 5. 集団の「構造」について
12	保護者との関わり	保育者の専門性を生かす 保育者と保護者の良好な人間関係のために

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	保育者同士の関わり	保育者の言動から子どもは学ぶ 道徳的育ち
14	かかわりの育ちを「みる」	社会・文化に生きる子ども ワーク「私は・・・」
15	まとめ	全体のまとめ 小テスト

平成29年度

科目名	保育内容演習 ことばと遊びⅠ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	小林 徹		
開講期	Ⅱ		
授業概要	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。		
達成目標	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。		
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等） 期末レポート50点
教科書	谷田貝公昭・廣澤満之編『実践保育内容シリーズ④言葉』一藝社、2014 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015		
参考書	授業内で指示		
学生への要望	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。		
オフィスタイム	毎週月曜14：30-15：30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	領域「言葉」のねらい	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容を確認し、人間にとって、ことばの果たしている役割を各人の体験をふまえて考える。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
2	子どもにとっての「言葉」	言葉の3つの機能を確認し、子どもにとって「言葉」がどのような役割を果たすものかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
3	領域「言葉」と小学校「国語」との関連	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
4	前言語期のコミュニケーション	言葉を発するまでの発達の变化を概観し、その発達を支えるコミュニケーションの在り方や発達のメカニズムについて考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
5	話し言葉の発達	話し言葉の発達の流れを概観し、そこに保育者とのコミュニケーションがどのように関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
6	書き言葉の発達児童文化財①	子どもが文字を獲得する流れを確認し、保育者がどのように援助すべきかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
7	言葉を豊かにする保育環境	保育実践の中で言葉を育むために保育者が果たす役割や保育室等の保育環境について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	養育者との関わりから育つ言葉	言葉を育てるために保護者や養育者が果たす役割や言葉かけの実際について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 事前学習：当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
9	子どもどうしの関わりから育つ言葉	日常生活の中で子どもどうしの関わりがどのように言葉を育むかを事例を通して学び、そこに保育者がどう関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 事前学習：当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
10	子どもにとっての児童文化とは	児童文化と言葉の関係を概観し、言葉を育む児童文化財について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 事前学習：当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
11	さまざまな児童文化財	紙芝居、ペープサート、パネルシアター、劇遊び等の理論と実践について学習する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 事前学習：当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
12	言葉を豊かにする言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて概観し、そのことと言語・文字の獲得との関連について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 事前学習：当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
13	言葉に関連する障がい	言葉のつまずき(障がい)の種類を概観し、その早期発見や対応について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 事前学習：当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
14	母語が日本語ではない子どもの言葉	我が国に多く存在する多文化子育ての子どもやバイリンガルの子ども等についての事例を学習し、その言語習得の援助と今後の課題について考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 事前学習：当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
15	まとめ・現代における言葉の諸問題	こどもと言語環境、マスメディアの影響、早期教育、外国語教育等について取り上げた上で、これまでの学習内容を振り返り、保育者としてこどものことばをどう育むかを考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 事前学習：当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。

科目名	保育内容演習 ことばと遊びⅠ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	小林 徹		
開講期	Ⅱ		
授業概要	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。		
達成目標	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてのどの程度理解できたか。 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。		
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等） 期末レポート50点
教科書	谷田貝公昭・廣澤満之編『実践保育内容シリーズ④言葉』一藝社、2014 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015		
参考書	授業内で指示		
学生への要望	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。		
オフィスタイム	毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	領域「言葉」のねらい	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容を確認し、人間にとって、ことばの果たしている役割を各人の体験をふまえて考える。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
2	子どもにとっての「言葉」	言葉の3つの機能を確認し、子どもにとって「言葉」がどのような役割を果たすものかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
3	領域「言葉」と小学校「国語」との関連	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
4	前言語期のコミュニケーション	言葉を発するまでの発達の变化を概観し、その発達を支えるコミュニケーションの在り方や発達のメカニズムについて考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
5	話し言葉の発達	話し言葉の発達の流れを概観し、そこに保育者とのコミュニケーションがどのように関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
6	書き言葉の発達児童文化財①	子どもが文字を獲得する流れを確認し、保育者がどのように援助すべきかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
7	言葉を豊かにする保育環境	保育実践の中で言葉を育むために保育者が果たす役割や保育室等の保育環境について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	養育者との関わりから育つ言葉	言葉を育てるために保護者や養育者が果たす役割や言葉かけの実際について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
9	子どもどうしの関わりから育つ言葉	日常生活の中で子どもどうしの関わりがどのように言葉を育むかを事例を通して学び、そこに保育者がどう関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
10	子どもにとっての児童文化とは	児童文化と言葉の関係を概観し、言葉を育む児童文化財について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
11	さまざまな児童文化財	紙芝居、ペープサート、パネルシアター、劇遊び等の理論と実践について学習する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
12	言葉を豊かにする言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて概観し、そのことと言語・文字の獲得との関連について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
13	言葉に関連する障がい	言葉のつまずき(障がい)の種類を概観し、その早期発見や対応について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
14	母語が日本語ではない子どもの言葉	我が国に多く存在する多文化子育ての子どもやバイリンガル子ども等についての事例を学習し、その言語習得の援助と今後の課題について考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
15	まとめ・現代における言葉の諸問題	こどもと言語環境、マスメディアの影響、早期教育、外国語教育等について取り上げた上で、これまでの学習内容を振り返り、保育者としてこどものことをどう育むかを考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。

科目名	保育内容演習 ことばと遊びⅠ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	小林 徹		
開講期	Ⅱ		
授業概要	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。		
達成目標	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてのどの程度理解できたか。 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。		
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等） 期末レポート50点
教科書	谷田貝公昭・廣澤満之編『実践保育内容シリーズ④言葉』一藝社、2014 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015		
参考書	授業内で指示		
学生への要望	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。		
オフィスタイム	毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	領域「言葉」のねらい	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容を確認し、人間にとって、ことばの果たしている役割を各人の体験をふまえて考える。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
2	子どもにとっての「言葉」	言葉の3つの機能を確認し、子どもにとって「言葉」がどのような役割を果たすものかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
3	領域「言葉」と小学校「国語」との関連	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
4	前言語期のコミュニケーション	言葉を発するまでの発達の变化を概観し、その発達を支えるコミュニケーションの在り方や発達のメカニズムについて考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
5	話し言葉の発達	話し言葉の発達の流れを概観し、そこに保育者とのコミュニケーションがどのように関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
6	書き言葉の発達児童文化財①	子どもが文字を獲得する流れを確認し、保育者がどのように援助すべきかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
7	言葉を豊かにする保育環境	保育実践の中で言葉を育むために保育者が果たす役割や保育室等の保育環境について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	養育者との関わりから育つ言葉	言葉を育てるために保護者や養育者が果たす役割や言葉かけの実際について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
9	子どもどうしの関わりから育つ言葉	日常生活の中で子どもどうしの関わりがどのように言葉を育むかを事例を通して学び、そこに保育者がどう関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
10	子どもにとっての児童文化とは	児童文化と言葉の関係を概観し、言葉を育む児童文化財について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
11	さまざまな児童文化財	紙芝居、ペープサート、パネルシアター、劇遊び等の理論と実践について学習する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
12	言葉を豊かにする言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて概観し、そのことと言語・文字の獲得との関連について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
13	言葉に関連する障がい	言葉のつまずき(障がい)の種類を概観し、その早期発見や対応について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
14	母語が日本語ではない子どもの言葉	我が国に多く存在する多文化子育ての子どもやバイリンガル子ども等についての事例を学習し、その言語習得の援助と今後の課題について考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
15	まとめ・現代における言葉の諸問題	こどもと言語環境、マスメディアの影響、早期教育、外国語教育等について取り上げた上で、これまでの学習内容を振り返り、保育者としてこどものことをどう育むかを考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。

科目名	保育内容演習 ことばと遊びⅠ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	小林 徹		
開講期	Ⅱ		
授業概要	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。		
達成目標	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてのどの程度理解できたか。 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。		
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等） 期末レポート50点
教科書	谷田貝公昭・廣澤満之編『実践保育内容シリーズ④言葉』一藝社、2014 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館、2008 厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館、2015		
参考書	授業内で指示		
学生への要望	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。		
オフィスタイム	毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	領域「言葉」のねらい	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容を確認し、人間にとって、ことばの果たしている役割を各人の体験をふまえて考える。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
2	子どもにとっての「言葉」	言葉の3つの機能を確認し、子どもにとって「言葉」がどのような役割を果たすものかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
3	領域「言葉」と小学校「国語」との関連	幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
4	前言語期のコミュニケーション	言葉を発するまでの発達の变化を概観し、その発達を支えるコミュニケーションの在り方や発達のメカニズムについて考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
5	話し言葉の発達	話し言葉の発達の流れを概観し、そこに保育者とのコミュニケーションがどのように関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
6	書き言葉の発達児童文化財①	子どもが文字を獲得する流れを確認し、保育者がどのように援助すべきかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。
7	言葉を豊かにする保育環境	保育実践の中で言葉を育むために保育者が果たす役割や保育室等の保育環境について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回） 【事前】当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	養育者との関わりから育つ言葉	言葉を育てるために保護者や養育者が果たす役割や言葉かけの実際について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
9	子どもどうしの関わりから育つ言葉	日常生活の中で子どもどうしの関わりがどのように言葉を育むかを事例を通して学び、そこに保育者がどう関わるかを考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
10	子どもにとっての児童文化とは	児童文化と言葉の関係を概観し、言葉を育む児童文化財について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
11	さまざまな児童文化財	紙芝居、ペープサート、パネルシアター、劇遊び等の理論と実践について学習する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
12	言葉を豊かにする言葉遊び	日本に伝わるさまざまな言葉遊びについて概観し、そのことと言語・文字の獲得との関連について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
13	言葉に関連する障がい	言葉のつまずき(障がい)の種類を概観し、その早期発見や対応について考察する。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
14	母語が日本語ではない子どもの言葉	我が国に多く存在する多文化子育ての子どもやバイリンガルの子ども等についての事例を学習し、その言語習得の援助と今後の課題について考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。
15	まとめ・現代における言葉の諸問題	こどもと言語環境、マスメディアの影響、早期教育、外国語教育等について取り上げた上で、これまでの学習内容を振り返り、保育者としてこどものことをどう育むかを考える。 社会人として必要な敬語を学習する。(毎回) 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回) 【事前】当日の内容をテキストで確認する(1時間)。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する(1時間)。

科目名	保育内容演習 ことばと遊びⅡ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	小林 徹		
開講期	Ⅲ		
授業概要	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。		
達成目標	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。		
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等） 期末レポート50点
教科書	松本和美編著『保育に役立つ言語表現教材』みらい, 2014		
参考書	授業内で指示		
学生への要望	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。		
オフィスタイム	毎週月曜13:00-14:00、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	この授業のねらい	この授業ではさまざまな言語表現教材を紹介し、実習を経験した学生とともに、子どもたちの言語活動を豊かにする教材や、それを活かす指導計画づくりについて考えていく。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
2	自己紹介とは	学生の自己紹介の経験を持ち寄り、子どもたちに効果的で他の学習にもつながる自己紹介を考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
3	絵本とは①	絵本とは何か。絵本の読み聞かせの目的。絵本の楽しみ方等について考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
4	絵本とは②	絵本の種類。絵本の選び方について考察し、実際に子どもの発達段階を考えた絵本選びに挑戦する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
5	絵本とは③	絵本の読み聞かせに際した留意点や環境構成、導入の方法等について考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
6	素話（ストーリーテリング）とは①	素話とは何か、素話の種類、保育現場での展開等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
7	素話（ストーリーテリング）とは②	素話を演じるポイント、素話の作り方等について考察する。素話を作る。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
8	紙芝居とは①	紙芝居とは何か、絵本との違い、演じるためのポイント等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
9	紙芝居とは②	「折り込み絵芝居」について学び、実際に作って演じる。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
10	その他の児童文化財①	ペープサート、人形劇等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
11	その他の児童文化財②	パネルシアター、エプロンシアター等の理論と実践について学習する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
12	指導案の作成と発表①	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
13	指導案の作成と発表②	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
14	指導案の作成と発表③	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	まとめ・領域「言葉」と小学校「国語」との関連	<p>これまでの学習内容を振り返り、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。</p> <p>社会人として必要な言葉を学習する。(毎回)</p> <p>絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)</p>

科目名	保育内容演習 ことばと遊びⅡ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	小林 徹		
開講期	Ⅲ		
授業概要	1. 乳幼児のことばの発達・保育に関する基本的な知識を得る。 2. 言葉のもつ意味について考えを深め、ことばを育むための手立てを学ぶ。 3. 保育者のことばの特性について理解し、子どもに適したことばの使い方を学ぶ。 4. さまざまな児童文化財にふれ、子どもに合った実践方法を考える。 5. ことばを促す「ねらい」を持った指導計画を作成する。 6. ことばの発達に問題を持つ子どもへの適切な対応を知る。		
達成目標	1. 乳幼児のことばの発達やそれを育むための手立てをどの程度理解できたか。 2. 児童文化財の実践方法とその指導計画の作成についてどの程度理解できたか。 3. 保育者としてふさわしいことばの使い方をどの程度理解し、実践できたか。		
受講資格	幼児教育学科の学生を中心とする	成績評価 方法	平常点50点（振り返りシート、小テスト、絵本読み聞かせ等） 期末レポート50点
教科書	松本和美編著『保育に役立つ言語表現教材』みらい, 2014		
参考書	授業内で指示		
学生への要望	乳幼児期のことばの発達とそれを育む多様な遊び、さらには保育者として必要な正しい日本語を学んでほしい。		
オフィスタイム	毎週月曜13:00-14:00、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		
自学自習	事前学習：当日の内容をテキストで確認する（1時間）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（1時間）。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	この授業のねらい	この授業ではさまざまな言語表現教材を紹介し、実習を経験した学生とともに、子どもたちの言語活動を豊かにする教材や、それを活かす指導計画づくりについて考えていく。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
2	自己紹介とは	学生の自己紹介の経験を持ち寄り、子どもたちに効果的で他の学習にもつながる自己紹介を考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
3	絵本とは①	絵本とは何か。絵本の読み聞かせの目的。絵本の楽しみ方等について考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
4	絵本とは②	絵本の種類。絵本の選び方について考察し、実際に子どもの発達段階を考えた絵本選びに挑戦する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
5	絵本とは③	絵本の読み聞かせに際した留意点や環境構成、導入の方法等について考える。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
6	素話（ストーリーテリング）とは①	素話とは何か、素話の種類、保育現場での展開等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
7	素話（ストーリーテリング）とは②	素話を演じるポイント、素話の作り方等について考察する。素話を作る。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
8	紙芝居とは①	紙芝居とは何か、絵本との違い、演じるためのポイント等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
9	紙芝居とは②	「折り込み絵芝居」について学び、実際に作って演じる。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
10	その他の児童文化財①	ペープサート、人形劇等について考察する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
11	その他の児童文化財②	パネルシアター、エプロンシアター等の理論と実践について学習する。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
12	指導案の作成と発表①	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
13	指導案の作成と発表②	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）
14	指導案の作成と発表③	言語表現教材を活用した指導案を作成し、それに基づいた発表を行う。 社会人として必要な言葉を学習する。（毎回） 絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。（毎回）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	まとめ・領域「言葉」と小学校「国語」との関連	<p>これまでの学習内容を振り返り、幼稚園教育要領、保育所保育指針における領域「言葉」の内容と小学校学習指導要領の教科「国語」を比較検討し、その共通点と相違点を確認した上で、園と小学校の望ましい連携の在り方について考察する。</p> <p>社会人として必要な言葉を学習する。(毎回)</p> <p>絵本の読み聞かせ、言葉遊び等の実践を発表する。(毎回)</p>

科目名	保育内容演習 表現と創造 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	早川 仁			
開講期	II			
授業概要	<p>○ 幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○ 学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○ 総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>大別して、三つの内容を行なう。 1. 感性と想像力と身体の発現として、他者を感じ、動き、歌い、描き、作り、演じることを総合的に体験する。 2. 幼児の表現にかかわりながら、ともに歌い、伴奏し、作り、描くこと、また絵本やお話を総合的に表現して遊ぶことを体験的に学ぶ。 3. 学内での学びを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域の施設において、子どもたちの前で表現し、また遊びを組織・指導することを体験し、ふりかえる。</p>			
達成目標	1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現方法について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者とのかわり・対応の中で動き表現することができる。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点	
教科書	三瓶令子・庄司康生編 「表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー」 2009年 大学図書出版			
参考書	大場牧夫著 「表現原論ー幼児の『あrawし』と領域『表現』」 1996年 萌文書林 榎沢良彦編著 「保育内容・表現」 2009年 同文書院			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	三瓶、毎休休み・V限目、841研究室。 早川、毎休休み・V限目、826研究室。 庄司、月曜日の休休み・V限目、841研究室。			
自学自習	○事前・事後学習について 事前：各自授業ノートの準備をし、シラバイにある活動内容や方法目的など事前に予習しまとめておくこと（毎回30分） 事後：授業を振り返り、活動内容・感想や反省点を考察し、ノート記録をすること。（毎回30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション	全クラス 授業オリエンテーション ・ II期授業の進め方について ・ えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク参加グループ分け ・ 活動内容計画についての話し合いと準備
2	えぼか準備① / テキスト L2 / マーブリング①	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備① Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1~10~1」「一人一歩~三人三歩」 DBクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。
3	えぼか準備② / テキスト L10 / マーブリング②	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備② Aクラス 音楽劇へのステップ~何かになって遊んでみる体験をする。「バランスで動く」「アクションで歌う」 DBクラス マーブリング②表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。
4	えぼか準備③ / テキスト L9	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備③ Aクラス 絵本の音探し~絵本を歌ったり、絵本に効果音をつける体験をする。「ぐりとぐら」「ぐるんぱの幼稚園」「ヘリコプターたち」 Dクラス Bクラス 自主活動
5	テキスト L2 / マーブリング①	Cクラス Dクラス Bクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1~10~1」「一人一歩~三人三歩」Bクラス Aクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
6	テキスト L10 / マー ブリング②	Cクラス Dクラス Bクラス 音楽劇へのステップ～何かになって遊んでみる体験をする。「バランスで動く」「アクションで歌う」 Aクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。
7	テキスト L9 / えぼか 準備①	Cクラス Dクラス Bクラス 絵本の音探し～絵本を歌ったり、絵本に効果音をつける体験をする。 「ぐりとぐら」「ぐるんぱのようちえん」「ヘリコプターたち」 Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備①
8	テキスト L20 / えぼ か準備②	Cクラス Dクラス Bクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼ ぼ ぼ ぼ」 Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備
9	デカルコマニー / えぼか 準備③	Cクラス Dクラス Bクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。 Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備③
10	テキスト L12 / テ キスト L20 / えぼか 準備①	Cクラス Bクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「ぺったんこ ペったんこ」外 Aクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼ ぼ ぼ ぼ」 Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備①
11	マーブリング① / テキス ト L12 / えぼか準備 / テキスト16	Cクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。 Aクラス 歌って、動いて、つくって、遊んでみる体験をする。「ぺったんこ ペったんこ」外 Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備② Bテキスト 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。
12	マーブリング② / デカル コマニー / えぼか準備③ ①	Cクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。 Aクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。 Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備③ Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備①
13	テキスト L12 / え ぼか準備②	Cクラス Aクラス 自主活動 Dクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「ぺったんこ ペったんこ」 外 Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備②
14	テキスト L16 / えぼ か準備③	Cクラス Aクラス Dクラス 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。 Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備③
15	フィールド応用ワーク ～ 地域ボランティアえぼか参 加	えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク クラス →C 10月29日(土) クラス →A 11月19日(土) クラス →D 12月3日(土) クラス →B 12月17日(土)

科目名	保育内容演習 表現と創造 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	早川 仁			
開講期	II			
授業概要	<p>○ 幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○ 学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○ 総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>大別して、三つの内容を行なう。 1. 感性と想像力と身体の発現として、他者を感じ、動き、歌い、描き、作り、演じることを総合的に体験する。 2. 幼児の表現にかかわりながら、ともに歌い、伴奏し、作り、描くこと、また絵本やお話を総合的に表現して遊ぶことを体験的に学ぶ。 3. 学内での学びを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域の施設において、子どもたちの前で表現し、また遊びを組織・指導することを体験し、ふりかえる。</p>			
達成目標	<p>1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現方法について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者とのかわり・対応の中で動き表現することができる。</p>			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点	
教科書	三瓶令子・庄司康生編 「表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー」 2009年 大学図書出版			
参考書	大場牧夫著 「表現原論ー幼児の『あrawし』と領域『表現』」 1996年 萌文書林 榎沢良彦編著 「保育内容・表現」 2009年 同文書院			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	三瓶、毎昼休み・V限目、841研究室。 早川、毎昼休み・V限目、826研究室。 庄司、月曜日の昼休み・V限目、841研究室。			
自学自習	事前：各自授業ノートの準備をし、シラバイにある活動内容や方法目的など事前に予習しまとめておくこと（毎回30分） 事後：授業を振り返り、活動内容・感想や反省点を考察し、ノート記録をすること。（毎回30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション	全クラス 授業オリエンテーション（担当教員ー三瓶・早川・庄司） ・Ⅱ期授業の進め方について ・えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク参加グループ分け ・活動内容計画についての話し合いと準備
2	えぼか準備① / テキスト L2 / マープリング①	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）
3	えぼか準備② / テキスト L10 / マープリング②	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）
4	えぼか準備③ / テキスト L9	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス デカルコマニー① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	テキスト L 2 / マーブリ ング①	Cクラス Dクラス Bクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。 (担当教員一三瓶・庄司)
6	テキスト L 1 0 / マー ブリング②	Cクラス Dクラス Bクラス 音楽劇へのステップ～何かになって遊んでみる体験をする。「バランスで動く」「アクションで歌う」 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Aクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。 (担当教員一三瓶・早川)
7	テキスト L 9 / えぼか 準備①	Cクラス Dクラス Bクラス 絵本の音探し～絵本を歌ったり、絵本に効果音をつける体験をする。 「ぐりとぐら」「ぐるんぱのようちえん」「ヘリコプターたち」 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
8	テキスト L 2 0 / えぼ か準備②	Cクラス Dクラス Bクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼぼぼぼぼ」 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Aクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
9	デカルコマニー / えぼか 準備③	Cクラス Dクラス Bクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。 (担当教員一三瓶・早川) Aクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
10	テキスト L 1 2 / テ キスト L 2 0 / えぼか 準備①	Cクラス Bクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」外 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼぼぼぼぼ」 (担当教員一三瓶・庄司) Dクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
11	マーブリング① / テキ スト L 1 2 / えぼか準備 / テキスト 1 6	Cクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。(担当教員一三瓶・早川) Aクラス 歌って、動いて、つくって、遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」(担当教員一三瓶・庄司) Dクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司) Bテキスト 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。(担当教員一三瓶・庄司)
12	マーブリング② / デカル コマニー / えぼか準備③ ①	Cクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。(担当教員一三瓶・早川) Aクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。(担当教員一三瓶・早川) Dクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司)
13	テキスト L 1 2 / え ぼか準備②	Cクラス Aクラス 表現研究活動 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Dクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」(担当教員一三瓶・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司)
14	テキスト L 1 6 / えぼ か準備③	Cクラス Aクラス Dクラス 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。 (担当教員一三瓶・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
15	フィールド応用ワーク ～ 地域ボランティアえぼか参 加	えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク(担当教員一三瓶・早川) クラス →C 10月29日(日) クラス →A 11月12日(日) クラス →D 11月26日(日) クラス →B 12月17日(日)

科目名	保育内容演習 表現と創造 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	早川 仁			
開講期	II			
授業概要	<p>○ 幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○ 学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○ 総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>大別して、三つの内容を行なう。 1. 感性と想像力と身体の発現として、他者を感じ、動き、歌い、描き、作り、演じることを総合的に体験する。 2. 幼児の表現にかかわりながら、ともに歌い、伴奏し、作り、描くこと、また絵本やお話を総合的に表現して遊ぶことを体験的に学ぶ。 3. 学内での学びを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域の施設において、子どもたちの前で表現し、また遊びを組織・指導することを体験し、ふりかえる。</p>			
達成目標	<p>1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現方法について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者とのかわり・対応の中で動き表現することができる。</p>			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点	
教科書	三瓶令子・庄司康生編 「表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー」 2009年 大学図書出版			
参考書	大場牧夫著 「表現原論ー幼児の『あrawし』と領域『表現』」 1996年 萌文書林 榎沢良彦編著 「保育内容・表現」 2009年 同文書院			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	三瓶、毎昼休み・V限目、841研究室。 早川、毎昼休み・V限目、826研究室。 庄司、月曜日の昼休み・V限目、841研究室。			
自学自習	事前：各自授業ノートの準備をし、シラバイにある活動内容や方法目的など事前に予習しまとめておくこと（毎回30分） 事後：授業を振り返り、活動内容・感想や反省点を考察し、ノート記録をすること。（毎回30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション	全クラス 授業オリエンテーション（担当教員ー三瓶・早川・庄司） ・Ⅱ期授業の進め方について ・えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク参加グループ分け ・活動内容計画についての話し合いと準備
2	えぼか準備① / テキスト L2 / マープリング①	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）
3	えぼか準備② / テキスト L10 / マープリング②	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）
4	えぼか準備③ / テキスト L9	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス デカルコマニー① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	テキスト L 2 / マーブリ ング①	Cクラス Dクラス Bクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。 (担当教員一三瓶・庄司)
6	テキスト L 1 0 / マー ブリング②	Cクラス Dクラス Bクラス 音楽劇へのステップ～何かになって遊んでみる体験をする。「バランスで動く」「アクションで歌う」 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Aクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。 (担当教員一三瓶・早川)
7	テキスト L 9 / えぼか 準備①	Cクラス Dクラス Bクラス 絵本の音探し～絵本を歌ったり、絵本に効果音をつける体験をする。 「ぐりとぐら」「ぐるんぱのようちえん」「ヘリコプターたち」 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
8	テキスト L 2 0 / えぼ か準備②	Cクラス Dクラス Bクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼぼぼぼぼ」 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
9	デカルコマニー / えぼか 準備③	Cクラス Dクラス Bクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。 (担当教員一三瓶・早川) Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
10	テキスト L 1 2 / テ キスト L 2 0 / えぼか 準備①	Cクラス Bクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」外 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼぼぼぼぼ」 (担当教員一三瓶・庄司) Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
11	マーブリング① / テキ スト L 1 2 / えぼか準備 / テキスト 1 6	Cクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。(担当教員一三瓶・早川) Aクラス 歌って、動いて、つくって、遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」(担当教員一三瓶・庄司) Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司) Bテキスト 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。(担当教員一三瓶・庄司)
12	マーブリング② / デカル コマニー / えぼか準備③ ①	Cクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。(担当教員一三瓶・早川) Aクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。(担当教員一三瓶・早川) Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司)
13	テキスト L 1 2 / え ぼか準備②	Cクラス Aクラス 表現研究活動 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Dクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」(担当教員一三瓶・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司)
14	テキスト L 1 6 / えぼ か準備③	Cクラス Aクラス Dクラス 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。 (担当教員一三瓶・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
15	フィールド応用ワーク ～ 地域ボランティアえぼか参 加	えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク(担当教員一三瓶・早川) クラス →C 10月29日(日) クラス →A 11月12日(日) クラス →D 11月26日(日) クラス →B 12月17日(日)

科目名	保育内容演習 表現と創造 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	早川 仁			
開講期	II			
授業概要	<p>○ 幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○ 学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○ 総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>大別して、三つの内容を行なう。 1. 感性と想像力と身体の発現として、他者を感じ、動き、歌い、描き、作り、演じることを総合的に体験する。 2. 幼児の表現にかかわりながら、ともに歌い、伴奏し、作り、描くこと、また絵本やお話を総合的に表現して遊ぶことを体験的に学ぶ。 3. 学内での学びを総合・応用するフィールド応用体験ワークとして、地域の施設において、子どもたちの前で表現し、また遊びを組織・指導することを体験し、ふりかえる。</p>			
達成目標	<p>1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現方法について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者とのかわり・対応の中で動き表現することができる。</p>			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 1年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点	
教科書	三瓶令子・庄司康生編 「表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー」 2009年 大学図書出版			
参考書	大場牧夫著 「表現原論ー幼児の『あrawし』と領域『表現』」 1996年 萌文書林 榎沢良彦編著 「保育内容・表現」 2009年 同文書院			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	三瓶、毎昼休み・V限目、841研究室。 早川、毎昼休み・V限目、826研究室。 庄司、月曜日の昼休み・V限目、841研究室。			
自学自習	事前：各自授業ノートの準備をし、シラバイにある活動内容や方法目的など事前に予習しまとめておくこと（毎回30分） 事後：授業を振り返り、活動内容・感想や反省点を考察し、ノート記録をすること。（毎回30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション	全クラス 授業オリエンテーション（担当教員ー三瓶・早川・庄司） ・Ⅱ期授業の進め方について ・えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク参加グループ分け ・活動内容計画についての話し合いと準備
2	えぼか準備① / テキスト L2 / マープリング①	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）
3	えぼか準備② / テキスト L10 / マープリング②	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス マープリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）
4	えぼか準備③ / テキスト L9	Cクラス えぼか(本宮市民元気いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備（担当教員ー三瓶・早川・庄司） Aクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」（担当教員ー三瓶・庄司） D Bクラス デカルコマニー① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。（担当教員ー早川）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	テキスト L2 / マーブリ ング①	Cクラス Dクラス Bクラス 他者とともに動くレッスンを体験する。「1～10～1」「一人一歩～三人三歩」 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。 (担当教員一三瓶・庄司)
6	テキスト L10 / マー ブリング②	Cクラス Dクラス Bクラス 音楽劇へのステップ～何かになって遊んでみる体験をする。「バランスで動く」「アクションで歌う」 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Aクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。 (担当教員一三瓶・早川)
7	テキスト L9 / えぼか 準備①	Cクラス Dクラス Bクラス 絵本の音探し～絵本を歌ったり、絵本に効果音をつける体験をする。 「ぐりとぐら」「ぐるんぱのようちえん」「ヘリコプターたち」 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
8	テキスト L20 / えぼ か準備②	Cクラス Dクラス Bクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼぼぼぼぼ」 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
9	デカルコマニー / えぼか 準備③	Cクラス Dクラス Bクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。 (担当教員一三瓶・早川) Aクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
10	テキスト L12 / テ キスト L20 / えぼか 準備①	Cクラス Bクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」外 (担当教員一三瓶・庄司) Aクラス 絵本で子どもとあそぶ体験をする。「ママ」「ぼぼぼぼぼ」 (担当教員一三瓶・庄司) Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
11	マーブリング① / テキ スト L12 / えぼか準備 / テキスト16	Cクラス マーブリング① 材料と技法の知識を身に付け、それらを生かして造形表現する。(担当教員一三瓶・早川) Aクラス 歌って、動いて、つくって、遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」(担当教員一三瓶・庄司) Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司) Bテキスト 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。(担当教員一三瓶・庄司)
12	マーブリング② / デカル コマニー / えぼか準備③ ①	Cクラス マーブリング② 表現技法を深め、それらを生かした描画を試みる。(担当教員一三瓶・早川) Aクラス デカルコマニー 基本となる3つの表現方法を知り、技法を身に付ける。(担当教員一三瓶・早川) Dクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司)
13	テキスト L12 / え ぼか準備②	Cクラス Aクラス 表現研究活動 (担当教員一三瓶・早川・庄司) Dクラス 歌って、動いて、つくって遊んでみる体験をする。「べったんこ べったんこ」(担当教員一三瓶・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備(担当教員一三瓶・早川・庄司)
14	テキスト L16 / えぼ か準備③	Cクラス Aクラス Dクラス 子どもとともに歌うことについて、実践を通して体験する。 (担当教員一三瓶・庄司) Bクラス えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク準備 (担当教員一三瓶・早川・庄司)
15	フィールド応用ワーク ～ 地域ボランティアえぼか参 加	えぼか(本宮市民元氣いきいき応援プラザ)フィールドワーク(担当教員一三瓶・早川) クラス →C 10月29日(日) クラス →A 11月12日(日) クラス →D 11月26日(日) クラス →B 12月17日(日)

科目名	保育内容演習 表現と創造Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	早川 仁, 三瓶 令子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>○幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>内容・方法 ①パネルシアターの制作、及び発表。 ②他者とともに動くワーク。(身体感覚の覚醒) ③粘土活動の体験。 ④紙芝居・絵本等の読み聞かせ体験。 ⑤あそび歌やリズムで動く体験。 これらの活動は、子どもの表現を視野に入れながら、グループで 語り・動き・声・造形等の統合による総合表現体験をする。</p>			
達成目標	1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現内容について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者との関わり・対応の中で動き表現することができる。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点	
教科書	三瓶令子・庄司康生 編 『表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー』 大学図書出版 2009年			
参考書	大場牧夫著 『表現原論ー幼児の「あrawし」と領域「表現」』 萌文書林 1996年 榎沢良彦編著『保育内容・表現』 同文書院 2006年			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	三瓶、火・水曜日Ⅲ・Ⅳ時限 841研究室 早川、火・水曜日Ⅲ・Ⅳ時限 826研究室。庄司、月曜日の昼休み・16時～17時 841研究室			
自学自習	事前：各自授業ノートの準備をし、シラバイにある活動内容や方法目的など事前に予習しまとめておくこと（毎回30分） 事後：授業を振り返り、活動内容・感想や反省点を考察し、ノート記録をすること。（毎回30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション A・C・D・Bクラス	授業の狙い・目標・日程・内容・評価基準などについて理解する(j授業担当教員一三瓶・早川) パネルシアターの導入 DVD鑑賞等による
2	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ①)	パネルシアター制作①(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布~制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備~ 制作開始
3	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ②)	パネルシアター制作②(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布~制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備~ 制作完成
4	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ③)	パネルシアター制作③(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布~制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備~ 制作完成
5	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ④)	パネルシアター発表練習①(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習
6	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ⑤)	パネルシアター発表練習②(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習
7	保育教材の体験・探求(造形表現)	・幼児~少年期にかけての描画を通じた成長過程を理解する。(j授業担当教員一早川) ・描画表現指導の在り方を考える。
8	保育教材の体験・探求(音楽表現)	教育実習Ⅳへ向けての音楽教材研究と指導案作成のアイデア(j授業担当教員一三瓶) ・ペープサートによる歌あそび体験等
9	保育の中の音楽的活動について①A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について①D・Bクラス①	A・Cクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	保育の中の造形的活動について①A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について①D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶)
11	保育の中の音楽的活動について②A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶)
12	保育の中の造形的活動について②A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶)
13	保育の中の音楽的活動について③A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について③D・Bクラス②	A・Cクラス 年齢に応じた音楽教材と遊び方について(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶)
14	保育の中の造形的活動について③A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について③D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) B・Dクラス 年齢(発達)に応じた音楽教材の選び方と遊び方について(j授業担当教員一三瓶)
15	保育における表現を考える A・C・D・Bクラス	<ul style="list-style-type: none"> ・レジジョ・エミリアの事例等から(j授業担当教員一三瓶) ・国内の幼稚園・保育所の事例から ・保育事例のリフレクションから保育者の役割を考える。

科目名	保育内容演習 表現と創造Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	早川 仁, 三瓶 令子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>○幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>内容・方法 ①パネルシアターの制作、及び発表。 ②他者とともに動くワーク。(身体感覚の覚醒) ③粘土活動の体験。 ④紙芝居・絵本等の読み聞かせ体験。 ⑤あそび歌やリズムで動く体験。 これらの活動は、子どもの表現を視野に入れながら、グループで 語り・動き・声・造形等の統合による総合表現体験をする。</p>			
達成目標	1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現内容について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者との関わり・対応の中で動き表現することができる。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点	
教科書	三瓶令子・庄司康生 編 『表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー』 大学図書出版 2009年			
参考書	大場牧夫著 『表現原論ー幼児の「あrawし」と領域「表現」』 萌文書林 1996年 榎沢良彦編著『保育内容・表現』 同文書院 2006年			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	三瓶、火・水曜日Ⅲ・Ⅳ時限 841研究室 早川、火・水曜日Ⅲ・Ⅳ時限 826研究室。庄司、月曜日の昼休み・16時～17時 841研究室			
自学自習	事前：各自授業ノートの準備をし、シラバイにある活動内容や方法目的など事前に予習しまとめておくこと(毎回30分) 事後：授業を振り返り、活動内容・感想や反省点を考察し、ノート記録をすること。(毎回30分)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション A・C・D・Bクラス	授業の狙い・目標・日程・内容・評価基準などについて理解する(j授業担当教員一三瓶・早川) パネルシアターの導入 DVD鑑賞等による
2	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ①)	パネルシアター制作①(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布~制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備~ 制作開始
3	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ②)	パネルシアター制作②(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布~制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備~ 制作完成
4	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ③)	パネルシアター制作③(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布~制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備~ 制作完成
5	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ④)	パネルシアター発表練習①(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習
6	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ⑤)	パネルシアター発表練習②(3人グループで同じ内容の作品を3点=一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習
7	保育教材の体験・探求(造形表現)	・幼児~少年期にかけての描画を通じた成長過程を理解する。(j授業担当教員一早川) ・描画表現指導の在り方を考える。
8	保育教材の体験・探求(音楽表現)	教育実習Ⅳへ向けての音楽教材研究と指導案作成のアイデア(j授業担当教員一三瓶) ・ペープサートによる歌あそび体験等
9	保育の中の音楽的活動について①A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について①D・Bクラス①	A・Cクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	保育の中の造形的活動について①A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について①D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶)
11	保育の中の音楽的活動について②A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶)
12	保育の中の造形的活動について②A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶)
13	保育の中の音楽的活動について③A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について③D・Bクラス②	A・Cクラス 年齢に応じた音楽教材と遊び方について(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶)
14	保育の中の造形的活動について③A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について③D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) B・Dクラス 年齢(発達)に応じた音楽教材の選び方と遊び方について(j授業担当教員一三瓶)
15	保育における表現を考える A・C・D・Bクラス	・レジジョ・エミリアの事例等から(j授業担当教員一三瓶) ・国内の幼稚園・保育所の事例から ・保育事例のリフレクションから保育者の役割を考える。

科目名	保育内容演習 表現と創造Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	早川 仁, 三瓶 令子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>○幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>内容・方法 ①パネルシアターの制作、及び発表。 ②他者とともに動くワーク。(身体感覚の覚醒) ③粘土活動の体験。 ④紙芝居・絵本等の読み聞かせ体験。 ⑤あそび歌やリズムで動く体験。 これらの活動は、子どもの表現を視野に入れながら、グループで 語り・動き・声・造形等の統合による総合表現体験をする。</p>			
達成目標	1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現内容について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者との関わり・対応の中で動き表現することができる。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点	
教科書	三瓶令子・庄司康生 編 『表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー』 大学図書出版 2009年			
参考書	大場牧夫著 『表現原論ー幼児の「あrawし」と領域「表現」』 萌文書林 1996年 榎沢良彦編著『保育内容・表現』 同文書院 2006年			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	三瓶、火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室 早川、火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 826研究室。庄司、月曜日の昼休み・16時～17時 841研究室			
自学自習	事前：各自授業ノートの準備をし、シラバイにある活動内容や方法目的など事前に予習しまとめておくこと（毎回30分） 事後：授業を振り返り、活動内容・感想や反省点を考察し、ノート記録をすること。（毎回30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション A・C・D・Bクラス	授業の狙い・目標・日程・内容・評価基準などについて理解する（j授業担当教員一三瓶・早川） パネルシアターの導入 DVD鑑賞等による
2	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ①)	パネルシアター制作①(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～・制作開始
3	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ②)	パネルシアター制作②(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～・制作完成
4	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ③)	パネルシアター制作③(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～・制作完成
5	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ④)	パネルシアター発表練習①(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習
6	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ⑤)	パネルシアター発表練習②(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習
7	保育教材の体験・探求(造形表現)	・幼児～少年期にかけての描画を通じた成長過程を理解する。(j授業担当教員一早川) ・描画表現指導の在り方を考える。
8	保育教材の体験・探求(音楽表現)	教育実習Ⅳへ向けての音楽教材研究と指導案作成のアイディア(j授業担当教員一三瓶) ・ペープサートによる歌あそび体験等
9	保育の中の音楽的活動について①A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について①D・Bクラス①	A・Cクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	保育の中の造形的活動について①A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について①D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶)
11	保育の中の音楽的活動について②A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶)
12	保育の中の造形的活動について②A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶)
13	保育の中の音楽的活動について③A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について③D・Bクラス②	A・Cクラス 年齢に応じた音楽教材と遊び方について(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶)
14	保育の中の造形的活動について③A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について③D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) B・Dクラス 年齢(発達)に応じた音楽教材の選び方と遊び方について(j授業担当教員一三瓶)
15	保育における表現を考える A・C・D・Bクラス	・レジジョ・エミリアの事例等から(j授業担当教員一三瓶) ・国内の幼稚園・保育所の事例から ・保育事例のリフレクションから保育者の役割を考える。

科目名	保育内容演習 表現と創造Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	早川 仁, 三瓶 令子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>○幼児の感性と表現にかかわって、これを促し育むかわり方と内容を実践的に探求する。 ○学生自身の感受性と感覚をひらき、生き生きと動き表現することの基礎を、体験と実技を通して養う。 ○総合的な表現活動の体験を通して表現力を育成する。</p> <p>内容・方法 ①パネルシアターの制作、及び発表。 ②他者とともに動くワーク。(身体感覚の覚醒) ③粘土活動の体験。 ④紙芝居・絵本等の読み聞かせ体験。 ⑤あそび歌やリズムで動く体験。 これらの活動は、子どもの表現を視野に入れながら、グループで 語り・動き・声・造形等の統合による総合表現体験をする。</p>			
達成目標	1. 「教育要領」「保育指針」中の「領域表現」の『ねらい』と『内容』に沿いながら、子どもの表現を見とり、かかわることについて基本的な理解を有している。 2. 「領域表現」の保育内容について、素材、楽器、遊具、および自分の身体と言葉(語り・演劇的・児童文化的表現)等による表現内容について理解し体験している。 3. 自分自身が、幼児や人々の前で表現することができ、他者との関わり・対応の中で動き表現することができる。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	練習課程と表現力 20点 成果発表 30点 ノート及び作品提出 50点	
教科書	三瓶令子・庄司康生 編 『表現者を育てる20のレッスンー保育者・初等教員養成のためにー』 大学図書出版 2009年			
参考書	大場牧夫著 『表現原論ー幼児の「あrawし」と領域「表現」』 萌文書林 1996年 榎沢良彦編著『保育内容・表現』 同文書院 2006年			
学生への要望	○動きやすい服装。汚れても良い服装で参加すること。 ○事前・事後学習について			
オフィスタイム	三瓶、火・水曜日Ⅲ・Ⅳ時限 841研究室 早川、火・水曜日Ⅲ・Ⅳ時限 826研究室。庄司、月曜日の昼休み・16時～17時 841研究室			
自学自習	事前：各自授業ノートの準備をし、シラバイにある活動内容や方法目的など事前に予習しまとめておくこと（毎回30分） 事後：授業を振り返り、活動内容・感想や反省点を考察し、ノート記録をすること。（毎回30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション A・C・D・Bクラス	授業の狙い・目標・日程・内容・評価基準などについて理解する（j授業担当教員一三瓶・早川） パネルシアターの導入 DVD鑑賞等による
2	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ①)	パネルシアター制作①(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～ 制作開始
3	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ②)	パネルシアター制作②(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～ 制作完成
4	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ③)	パネルシアター制作③(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一早川) ・材料配布～制作手順とポイントの説明を受ける(Pペーパー描画についてなど)。 色材(マジックペン・ボスカ・絵の具・クレヨン)・仕掛けに応じた道具(針・糸・ボンド・はさみ・カッター等)は各自準備～ 制作完成
5	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ④)	パネルシアター発表練習①(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習
6	保育教材の体験・探求(パネルシアターの制作体験と発表 ⑤)	パネルシアター発表練習②(3人グループで同じ内容の作品を3点＝一人1作つくる)(j授業担当教員一三瓶・早川) ・実習に向けて・歌・語り・動作・手遊びの練習
7	保育教材の体験・探求(造形表現)	・幼児～少年期にかけての描画を通じた成長過程を理解する。(j授業担当教員一早川) ・描画表現指導の在り方を考える。
8	保育教材の体験・探求(音楽表現)	教育実習Ⅳへ向けての音楽教材研究と指導案作成のアイデア(j授業担当教員一三瓶) ・ペープサートによる歌あそび体験等
9	保育の中の音楽的活動について①A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について①D・Bクラス①	A・Cクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一早川)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	保育の中の造形的活動について①A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について①D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 教育実習Ⅳにおける音楽表現活動の振り返り。レポート提出とディスカッション(j授業担当教員一三瓶)
11	保育の中の音楽的活動について②A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶)
12	保育の中の造形的活動について②A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について②D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 園における日常生活の中での音楽表現と行事の中での音楽表現について⇒事例ビデオより(j授業担当教員一三瓶)
13	保育の中の音楽的活動について③A・Cクラス / 保育の中の造形的活動について③D・Bクラス②	A・Cクラス 年齢に応じた音楽教材と遊び方について(j授業担当教員一三瓶) D・Bクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶)
14	保育の中の造形的活動について③A・Cクラス / 保育の中の音楽的活動について③D・Bクラス	A・Cクラス 粘土活動から保育を捉えてみる。立体造形の発達とそれに伴う環境構成・活動支援方法を試みる(j授業担当教員一三瓶) B・Dクラス 年齢(発達)に応じた音楽教材の選び方と遊び方について(j授業担当教員一三瓶)
15	保育における表現を考える A・C・D・Bクラス	・レジジョ・エミリアの事例等から(j授業担当教員一三瓶) ・国内の幼稚園・保育所の事例から ・保育事例のリフレクションから保育者の役割を考える。

平成29年度

科目名	保育内容演習 生活と環境Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅱ			
授業概要	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。			
達成目標	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。			
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	平常点：50点 提出物：50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。	
教科書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	授業のなかで適時紹介します。			
学生への要望	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください（評価対象です）。 ④雨天時の掲示をよく見てください。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習：授業で指示した内容についてまとめてくる。（1時間） 復習：授業で更に指示した内容を調査し、まとめてくる（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション／自然遊び1	授業内容全体の説明を行います。その後、観察の理論負荷性に関する絵をみます。
2	子どもにとっての自然環境の意味1	ネイチャーゲーム（私は誰でしょう・動物交差点）を実施する。
3	子どもにとっての自然環境の意味2	ネイチャーゲーム（コウモリとガ）を実施する。
4	子どもにとっての自然環境の意味3	保育者は、「環境の構成」を通して子どもの学びにはたらきかけています。プリント資料を用いて、環境の構成の考え方を学んだ後、ワークシートを用いてグループ学習を行い、環境の構成における保育者の位置づけを考えます。
5	数量をテーマにした教材づくり1	子どもの数量に関する好奇心をはぐむ教材として、すごろくづくりをします。
6	数量をテーマにした教材づくり2	子どもの数量に関する好奇心をはぐむ教材として、すごろくづくりをします。
7	数量をテーマにした教材づくり3	完成したスゴロクで実際に遊びながら、お互いの作品を評価する。
8	水をテーマにした遊び1	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、子どもの身近な対象の1つである水をテーマにした教材づくりを行います。この回では、スライムと水中シャボン玉を行います。
9	水をテーマにした遊び2	水をテーマにしたものづくりとして、ペットボトルを活用した浮沈子づくりなどを行います。
10	自然マップづくり	開成山公園に遠足で行くことを想定して、自然マップ作りをします。
11	幼少期の体験活動の実態	各種統計データから幼少期の自然、科学的な体験活動の実態を探ります。
12	身近な材料を用いたリースづくり	サツマイモのツルを乾燥させてクリスマスリースをつくる。
13	身近な材料を用いた紙皿シアターづくり	紙皿を用いて、アオムシ・チョウ、オタマジャクシ・カエル、双葉の苗→サクラに変化するシアターをつくる。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。
15	まとめ	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心を持たせるために保育者がすべきことを考える。身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにさせるために保育者がすべきことを考える。

科目名	保育内容演習 生活と環境 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	II			
授業概要	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。			
達成目標	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。			
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	平常点：50点 提出物：50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。	
教科書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	授業のなかで適時紹介します。			
学生への要望	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください（評価対象です）。 ④雨天時の掲示をよく見てください。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習：授業で指示した内容についてまとめてくる。（1時間） 復習：授業で更に指示した内容を調査し、まとめてくる（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション／自然遊び1	授業内容全体の説明を行います。その後、観察の理論的負荷性に関する絵をみます。
2	子どもにとっての自然環境の意味1	ネイチャーゲーム（私は誰でしょう・動物交差点）を実施する。
3	子どもにとっての自然環境の意味2	ネイチャーゲーム（コウモリとガ）を実施する。
4	子どもにとっての自然環境の意味3	保育者は、「環境の構成」を通して子どもの学びにはたらきかけています。プリント資料を用いて、環境の構成の考え方を学んだ後、ワークシートを用いてグループ学習を行い、環境の構成における保育者の位置づけを考えます。
5	数量をテーマにした教材づくり1	子どもの数量に関する好奇心をはぐむ教材として、すごろくづくりをします。
6	数量をテーマにした教材づくり2	子どもの数量に関する好奇心をはぐむ教材として、すごろくづくりをします。
7	数量をテーマにした教材づくり3	完成したスゴロクで実際に遊びながら、お互いの作品を評価する。
8	水をテーマにした遊び1	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、子どもの身近な対象の1つである水をテーマにした教材づくりを行います。この回では、スライムと水中シャボン玉を行います。
9	水をテーマにした遊び2	水をテーマにしたものづくりとして、ペットボトルを活用した浮沈子づくりなどを行います。
10	自然マップづくり	開成山公園に遠足で行くことを想定して、自然マップ作りをします。
11	幼少期の体験活動の実態	各種統計データから幼少期の自然、科学的な体験活動の実態を探ります。
12	身近な材料を用いたリースづくり	サツマイモのツルを乾燥させてクリスマスリースをつくる。
13	身近な材料を用いた紙皿シアターづくり	紙皿を用いて、アオムシ→チョウ、オタマジャクシ→カエル、双葉の苗→サクラに変化するシアターをつくる。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。
15	まとめ	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心を持たせるために保育者がすべきことを考える。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにさせるために保育者がすべきことを考える。

科目名	保育内容演習 生活と環境 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	II			
授業概要	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。			
達成目標	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。			
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	平常点:50点 提出物:50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。	
教科書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
参考書	授業のなかで適時紹介します。			
学生への要望	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください(評価対象です)。 ④雨天時の掲示をよく見てください。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習:授業で指示した内容についてまとめてくる。(1時間) 復習:授業で更に指示した内容を調査し、まとめてくる(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション/自然遊び1	授業内容全体の説明を行います。その後、観察の理論的負荷性に関する絵をみます。
2	子どもにとっての自然環境の意味1	ネイチャーゲーム(私は誰でしょう・動物交差点)を実施する。
3	子どもにとっての自然環境の意味2	ネイチャーゲーム(コウモリとガ)を実施する。
4	子どもにとっての自然環境の意味3	保育者は、「環境の構成」を通して子どもの学びにはたらきかけています。プリント資料を用いて、環境の構成の考え方を学んだ後、ワークシートを用いてグループ学習を行い、環境の構成における保育者の位置づけを考えます。
5	数量をテーマにした教材づくり1	子どもの数量に関する好奇心をはぐむ教材として、すごろくづくりをします。
6	数量をテーマにした教材づくり2	子どもの数量に関する好奇心をはぐむ教材として、すごろくづくりをします。
7	数量をテーマにした教材づくり3	完成したスゴロクで実際に遊びながら、お互いの作品を評価する。
8	水をテーマにした遊び1	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、子どもの身近な対象の1つである水をテーマにした教材づくりを行います。この回では、スライムと水中シャボン玉を行います。
9	水をテーマにした遊び2	水をテーマにしたものづくりとして、ペットボトルを活用した浮沈子づくりなどを行います。
10	自然マップづくり	開成山公園に遠足で行くことを想定して、自然マップ作りをします。
11	幼少期の体験活動の実態	各種統計データから幼少期の自然、科学的な体験活動の実態を探ります。
12	身近な材料を用いたリースづくり	サツマイモのツルを乾燥させてクリスマスリースをつくる。
13	身近な材料を用いた紙皿シアターづくり	紙皿を用いて、アオムシ→チョウ、オタマジャクシ→カエル、双葉の苗→サクラに変化するシアターをつくる。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。
15	まとめ	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心を持たせるために保育者がすべきことを考える。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにさせるために保育者がすべきことを考える。

科目名	保育内容演習 生活と環境 I		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 必修
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	II			
授業概要	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに触れる体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるよう工夫すること。			
達成目標	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。			
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	平常点：50点 提出物：50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。	
教科書	幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定子ども園教育・保育要領			
参考書	授業のなかで適時紹介します。			
学生への要望	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください（評価対象です）。 ④雨天時の掲示をよく見てください。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習：授業で指示した内容についてまとめてくる。（1時間） 復習：授業で更に指示した内容を調査し、まとめてくる（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション／自然遊び1	授業内容全体の説明を行います。その後、観察の理論的負荷性に関する絵をみます。
2	子どもにとっての自然環境の意味1	ネイチャーゲーム（私は誰でしょう・動物交差点）を実施する。
3	子どもにとっての自然環境の意味2	ネイチャーゲーム（コウモリとガ）を実施する。
4	子どもにとっての自然環境の意味3	保育者は、「環境の構成」を通して子どもの学びにはたらきかけています。プリント資料を用いて、環境の構成の考え方を学んだ後、ワークシートを用いてグループ学習を行い、環境の構成における保育者の位置づけを考えます。
5	数量をテーマにした教材づくり1	子どもの数量に関する好奇心をはぐむ教材として、すごろくづくりをします。
6	数量をテーマにした教材づくり2	子どもの数量に関する好奇心をはぐむ教材として、すごろくづくりをします。
7	数量をテーマにした教材づくり3	完成したスゴロクで実際に遊びながら、お互いの作品を評価する。
8	水をテーマにした遊び1	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、子どもの身近な対象の1つである水をテーマにした教材づくりを行います。この回では、スライムと水中シャボン玉を行います。
9	水をテーマにした遊び2	水をテーマにしたものづくりとして、ペットボトルを活用した浮沈子づくりなどを行います。
10	自然マップづくり	開成山公園に遠足で行くことを想定して、自然マップ作りをします。
11	幼少期の体験活動の実態	各種統計データから幼少期の自然、科学的な体験活動の実態を探ります。
12	身近な材料を用いたリースづくり	サツマイモのツルを乾燥させてクリスマスリースをつくる。
13	身近な材料を用いた紙皿シアターづくり	紙皿を用いて、アオムシ→チョウ、オタマジャクシ→カエル、双葉の苗→サクラに変化するシアターをつくる。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。
15	まとめ	身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味・関心を持たせるために保育者がすべきことを考える。 身近な事象を見たり、考えたり、扱ったりする中で、物の性質や数量、文字などに対する感覚を豊かにさせるために保育者がすべきことを考える。

科目名	保育内容演習 生活と環境Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅲ			
授業概要	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児が、遊び中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えられることができるようになる過程を大切にすること。特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。			
達成目標	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	平常点:50点 提出物:50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。	
教科書	ありません。			
参考書	授業のなかで適時紹介します。			
学生への要望	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください（評価対象です）。 ④雨天時の掲示をよく見てください。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習：授業で指示した内容についてまとめておく（1時間） 復習：授業で更に指示した内容について調査し、まとめておく（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション／自然観察 1	授業内容全体の説明を行います。 開成山公園の桜の観察に行きます。
2	子どもにとっての自然環境 1	ネイチャーゲームの一つであるカモフラージュを行います。自然界の中にある人工物を見つけるゲームです。次に、フィールドビンゴを予定しています。
3	子どもにとっての自然環境 2	ネイチャーゲームの一つであるコウモリとガを行います。次に、カメラゲームを行います。カメラゲームでは、二人組になって、カメラ役とカメラマン役に分かれて行います。
4	子どもにとっての自然環境	開成山公園のバラ園に行つて、バラのスケッチをします。
5	数量をテーマにした教材	子どもの数に対する好奇心をはぐくむ教材として、おはじき遊びを体験します。
6	文字をテーマにした教材	子どもの文字に対する好奇心をはぐくむ教材として、かるた遊びを体験します。
7	子どもにとっての自然環境	子どもに人気のある身近な動物としてカタツムリを取り上げ、観察を行う。
8	子どもにとっての自然環境	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、シロツメグザを使って王冠づくりを体験します。
9	幼稚園・保育所の震災後の現状	現職の幼稚園教諭を招いて、県内の幼稚園・保育所の震災後の現状についてお話を伺う
10	指導案の作成	幼稚園教育要領の領域環境のねらい、内容を踏まえた指導案をグループ毎に作成する。
11	模擬授業 1	グループ毎に発表する。
12	模擬授業 2	グループ毎に発表する。
13	模擬授業 3	グループ毎に発表する。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。
15	まとめ	幼児に身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持たせるために、どのような活動を行うかを考える。

科目名	保育内容演習 生活と環境Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅲ			
授業概要	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児が、遊び中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えられることができるようになる過程を大切にすること。特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。			
達成目標	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	平常点:50点 提出物:50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。	
教科書	ありません。			
参考書	授業のなかで適時紹介します。			
学生への要望	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください（評価対象です）。 ④雨天時の掲示をよく見てください。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習：授業で指示した内容についてまとめておく（1時間） 復習：授業で更に指示した内容について調査し、まとめておく（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション／自然観察 1	授業内容全体の説明を行います。 開成山公園の桜の観察に行きます。
2	子どもにとっての自然環境 1	ネイチャーゲームの一つであるカモフラージュを行います。自然界の中にある人工物を見つけるゲームです。次に、フィールドビンゴを予定しています。
3	子どもにとっての自然環境 2	ネイチャーゲームの一つであるコウモリとガを行います。次に、カメラゲームを行います。カメラゲームでは、二人組になって、カメラ役とカメラマン役に分かれて行います。
4	子どもにとっての自然環境	開成山公園のバラ園に行つて、バラのスケッチをします。
5	数量をテーマにした教材	子どもの数に対する好奇心をはぐくむ教材として、おはじき遊びを体験します。
6	文字をテーマにした教材	子どもの文字に対する好奇心をはぐくむ教材として、かるた遊びを体験します。
7	子どもにとっての自然環境	子どもに人気のある身近な動物としてカタツムリを取り上げ、観察を行う。
8	子どもにとっての自然環境	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、シロツメグザを使って王冠づくりを体験します。
9	幼稚園・保育所の震災後の現状	現職の幼稚園教諭を招いて、県内の幼稚園・保育所の震災後の現状についてお話を伺う
10	指導案の作成	幼稚園教育要領の領域環境のねらい、内容を踏まえた指導案をグループ毎に作成する。
11	模擬授業 1	グループ毎に発表する。
12	模擬授業 2	グループ毎に発表する。
13	模擬授業 3	グループ毎に発表する。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。
15	まとめ	幼児に身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持たせるために、どのような活動を行うかを考える。

科目名	保育内容演習 生活と環境Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅲ			
授業概要	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児が、遊び中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気づき、自分なりに考えられることができるようになる過程を大切にすること。特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。			
達成目標	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	平常点：50点 提出物：50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。	
教科書	ありません。			
参考書	授業のなかで適時紹介します。			
学生への要望	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください（評価対象です）。 ④雨天時の掲示をよく見てください。			
オフィスタイム	木曜日 3限～4限 金曜日 4限 場所 821研究室			
自学自習	予習：授業で指示した内容についてまとめておく（1時間） 復習：授業で更に指示した内容について調査し、まとめておく（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション／自然観察 1	授業内容全体の説明を行います。 開成山公園の桜の観察に行きます。
2	子どもにとっての自然環境 1	ネイチャーゲームの一つであるカモフラージュを行います。自然界の中にある人工物を見つけるゲームです。次に、フィールドビンゴを予定しています。
3	子どもにとっての自然環境 2	ネイチャーゲームの一つであるコウモリとガを行います。次に、カメラゲームを行います。カメラゲームでは、二人組になって、カメラ役とカメラマン役に分かれて行きます。
4	子どもにとっての自然環境	開成山公園のバラ園に行き、バラのスケッチをします。
5	数量をテーマにした教材	子どもの数に対する好奇心をはぐくむ教材として、おはじき遊びを体験します。
6	文字をテーマにした教材	子どもの文字に対する好奇心をはぐくむ教材として、かるた遊びを体験します。
7	子どもにとっての自然環境	子どもに人気のある身近な動物としてカタツムリを取り上げ、観察を行う。
8	子どもにとっての自然環境	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、シロツメグサを使って王冠づくりを体験します。
9	幼稚園・保育所の震災後の現状	現職の幼稚園教諭を招いて、県内の幼稚園・保育所の震災後の現状についてお話を伺う
10	指導案の作成	幼稚園教育要領の領域環境のねらい、内容を踏まえた指導案をグループ毎に作成する。
11	模擬授業 1	グループ毎に発表する。
12	模擬授業 2	グループ毎に発表する。
13	模擬授業 3	グループ毎に発表する。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。
15	まとめ	幼児に身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持たせるために、どのような活動を行うかを考える。

科目名	保育内容演習 生活と環境Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	Ⅲ			
授業概要	子どもは、環境を通して多くのことを学んでいます。いまの子どもの抱える課題は、環境の不備に起因するものが少なくありません。本授業では保育内容領域の1つである「環境」について、今日的な課題に対処するために必要な発展的な知識とスキルおよび判断力を学んでいきます。幼児が、遊び中で周囲の環境とかかわり、次第に周囲の世界に好奇心を抱き、その意味や操作の仕方に関心をもち、物事の法則性に気付き、自分なりに考えられることができるようになる過程を大切にすること。特に、他の幼児の考えなどに触れ、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、自ら考えようとする気持ちが育つようにすること。			
達成目標	①子どもにとっての自然環境の意味を考えることができますか。 ②「環境の構成」の視点から、子どもの学びを考えることができますか。 ③「協同的な学び」の視点から、自然遊びをとらえることができますか。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	平常点:50点 提出物:50点 ※希望する受講者には、評価状況をお知らせします。学生証を必ず持参して、本人がオフィスタイムに来室してください。	
教科書	ありません。			
参考書	授業のなかで適時紹介します。			
学生への要望	①協同的な学習スタイルを取り入れています。 グループメンバー同士、協力し合って課題に取り組んでください。 ②集合時間と提出物の提出期限を守ってください。 ③提出物の「提出日」を必ず記入してください（評価対象です）。 ④雨天時の掲示をよく見てください。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習：授業で指示した内容についてまとめておく（1時間） 復習：授業で更に指示した内容について調査し、まとめておく（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション／自然観察 1	授業内容全体の説明を行います。 開成山公園の桜の観察に行きます。
2	子どもにとっての自然環境 1	ネイチャーゲームの一つであるカモフラージュを行います。自然界の中にある人工物を見つけるゲームです。次に、フィールドビンゴを予定しています。
3	子どもにとっての自然環境 2	ネイチャーゲームの一つであるコウモリとガを行います。次に、カメラゲームを行います。カメラゲームでは、二人組になって、カメラ役とカメラマン役に分かれて行います。
4	子どもにとっての自然環境	開成山公園のバラ園に行つて、バラのスケッチをします。
5	数量をテーマにした教材	子どもの数に対する好奇心をはぐくむ教材として、おはじき遊びを体験します。
6	文字をテーマにした教材	子どもの文字に対する好奇心をはぐくむ教材として、かるた遊びを体験します。
7	子どもにとっての自然環境	子どもに人気のある身近な動物としてカタツムリを取り上げ、観察を行う。
8	子どもにとっての自然環境	身近なものを活用した教材づくりを体得するため、シロツメグザを使って王冠づくりを体験します。
9	幼稚園・保育所の震災後の現状	現職の幼稚園教諭を招いて、県内の幼稚園・保育所の震災後の現状についてお話を伺う
10	指導案の作成	幼稚園教育要領の領域環境のねらい、内容を踏まえた指導案をグループ毎に作成する。
11	模擬授業 1	グループ毎に発表する。
12	模擬授業 2	グループ毎に発表する。
13	模擬授業 3	グループ毎に発表する。
14	世界の幼児教育改革と学力	世界中で進行中の幼児教育改革を、学力問題に関連付けながら典型的な事例をもとに説明します。
15	まとめ	幼児に身近な環境に親しみ、自然と触れ合う中で様々な事象に興味や関心を持たせるために、どのような活動を行うかを考える。

平成29年度

科目名	社会的養護内容	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	未定		
開講期	IV		
授業概要	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。		
達成目標	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40%）、授業内レポート（30%）、試験（30%）により評価する。
教科書	随時、資料を配布する。		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事からを取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。 事前学習：当日の内容を参考書で確認する（30分）。 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる（30分）。		
オフィスタイム	（前期）月曜1, 2, 5限目・水曜4限目・木曜1, 2, 5限目・金曜1～4限目 （後期）月曜3～5限目・火曜1, 2限目・木曜終日・金曜1～4限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。
2	児童虐待について	・児童虐待の概要について学ぶ。 ・児童虐待と社会的養護との関わりについて理解する。
3	社会的養護の実際	・施設養護について理解する。 ・里親制度について理解する。
4	児童の自立支援について	・児童の自立支援について具体的に学ぶ。
5	施設養護の基本的な援助技術	・カウンセリングの基本についてグループ討議を通して学ぶ。 ・ケースワーク、グループワーク、ケアワークについてグループ討議を通して学ぶ。
6	職種理解とチームワーク	・社会的養護に関連する職種の理解と施設内外のスタッフとの円滑なチームワークについて考察する。
7	児童福祉施設援助者としての専門性	・ソーシャルワーカーとしての専門性についてグループ討議を通して考察する。
8	社会的養護の課題と今後	・学習してきたことから現在の課題を考察するとともに有効な解決方法を考察する。

平成29年度

科目名	社会的養護内容	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	未定		
開講期	IV		
授業概要	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。		
達成目標	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40%）、授業内レポート（30%）、試験（30%）により評価する。
教科書	随時、資料を配布する。		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事からを取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。 事前学習：当日の内容を参考書で確認する（30分）。 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる（30分）。		
オフィスタイム	（前期）月曜1, 2, 5限目・水曜4限目・木曜1, 2, 5限目・金曜1～4限目 （後期）月曜3～5限目・火曜1, 2限目・木曜終日・金曜1～4限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。
2	児童虐待について	・児童虐待の概要について学ぶ。 ・児童虐待と社会的養護との関わりについて理解する。
3	社会的養護の実際	・施設養護について理解する。 ・里親制度について理解する。
4	児童の自立支援について	・児童の自立支援について具体的に学ぶ。
5	施設養護の基本的な援助技術	・カウンセリングの基本についてグループ討議を通して学ぶ。 ・ケースワーク、グループワーク、ケアワークについてグループ討議を通して学ぶ。
6	職種理解とチームワーク	・社会的養護に関連する職種の理解と施設内外のスタッフとの円滑なチームワークについて考察する。
7	児童福祉施設援助者としての専門性	・ソーシャルワーカーとしての専門性についてグループ討議を通して考察する。
8	社会的養護の課題と今後	・学習してきたことから現在の課題を考察するとともに有効な解決方法を考察する。

平成29年度

科目名	社会的養護内容	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	未定		
開講期	IV		
授業概要	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。		
達成目標	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40%）、授業内レポート（30%）、試験（30%）により評価する。
教科書	随時、資料を配布する。		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事からを取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。 事前学習：当日の内容を参考書で確認する（30分）。 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる（30分）。		
オフィスタイム	（前期）月曜1, 2, 5限目・水曜4限目・木曜1, 2, 5限目・金曜1～4限目 （後期）月曜3～5限目・火曜1, 2限目・木曜終日・金曜1～4限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。
2	児童虐待について	・児童虐待の概要について学ぶ。 ・児童虐待と社会的養護との関わりについて理解する。
3	社会的養護の実際	・施設養護について理解する。 ・里親制度について理解する。
4	児童の自立支援について	・児童の自立支援について具体的に学ぶ。
5	施設養護の基本的な援助技術	・カウンセリングの基本についてグループ討議を通して学ぶ。 ・ケースワーク、グループワーク、ケアワークについてグループ討議を通して学ぶ。
6	職種理解とチームワーク	・社会的養護に関連する職種の理解と施設内外のスタッフとの円滑なチームワークについて考察する。
7	児童福祉施設援助者としての専門性	・ソーシャルワーカーとしての専門性についてグループ討議を通して考察する。
8	社会的養護の課題と今後	・学習してきたことから現在の課題を考察するとともに有効な解決方法を考察する。

平成29年度

科目名	社会的養護内容	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	未定		
開講期	IV		
授業概要	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。		
達成目標	社会的養護の基本理念に沿って、施設で生活する児童の援助方法・職員の専門性に対する理解を、演習等もまじえて実践的に習得することを目標とする。		
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	出席を含む授業態度（40%）、授業内レポート（30%）、試験（30%）により評価する。
教科書	随時、資料を配布する。		
参考書	授業の中で、随時紹介する。		
学生への要望	身近な事からを取り上げ、イメージしやすい授業を心がけるので、積極的な授業参加を望む。 事前学習：当日の内容を参考書で確認する（30分）。 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる（30分）。		
オフィスタイム	（前期）月曜1, 2, 5限目・水曜4限目・木曜1, 2, 5限目・金曜1～4限目 （後期）月曜3～5限目・火曜1, 2限目・木曜終日・金曜1～4限目		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	・授業内容、評価方法についての説明を行う。
2	児童虐待について	・児童虐待の概要について学ぶ。 ・児童虐待と社会的養護との関わりについて理解する。
3	社会的養護の実際	・施設養護について理解する。 ・里親制度について理解する。
4	児童の自立支援について	・児童の自立支援について具体的に学ぶ。
5	施設養護の基本的な援助技術	・カウンセリングの基本についてグループ討議を通して学ぶ。 ・ケースワーク、グループワーク、ケアワークについてグループ討議を通して学ぶ。
6	職種理解とチームワーク	・社会的養護に関連する職種の理解と施設内外のスタッフとの円滑なチームワークについて考察する。
7	児童福祉施設援助者としての専門性	・ソーシャルワーカーとしての専門性についてグループ討議を通して考察する。
8	社会的養護の課題と今後	・学習してきたことから現在の課題を考察するとともに有効な解決方法を考察する。

平成29年度

科目名	教育実習Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	猪股 照子, 折笠 国康, 賀門 康博, 奥 美代, 仲西 真美子			
開講期	Ⅰ			
授業概要	教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習、教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）、教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践との関連の理解を図ると共に、実習の反省を通して、保育の改善の方法も学ぶ。現場に行くため社会的態度、現場への適応の仕方を含め主体的、自発的に学ぶ姿勢を形成する。 幼児の発達、幼児期にふさわしい生活の展開や教師の役割についての理解 保育の実際と計画や保育場面の記録の取り方			
達成目標	①教育実習生として、どのような態度で臨めばよいのかを理解できたか。 ②教師のあるべき姿、幼児のあるべき姿を理解できたか。 ③1人ひとりに応じる指導について理解できたか。 ④実習記録（日誌・指導計画（日案））を書く意味や書き方を理解できたか。			
受講資格	幼児教育学科1年「幼二種」免許取得希望者	成績評価 方法	・平常点、授業への取り組み 課題・レポート・確認テストの 総合評価60点 ・ノート40点 (ノートの提出・1期終了時)	
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・実習に関する資料を随時、配布する。 配布された資料をファイリングしておくこと ・幼稚園・保育所・施設実習（ミネルヴァ書房） ・文部科学省幼稚園教育要領解説（フレーベル館） ・保育所保育指針（フレーベル館） ・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館） 			
参考書	森上史朗・柏女霊峰編保育用語辞典（ミネルヴァ書房）			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。 ・講義室の座席は、番号順とする。 ・授業連絡はWeb上で行います。確認してください。また、実習掲示板での連絡もあるので確認すること。 【教育実習掲示：83年館3階 831講義室前】 			
オフィスタイム	必要に応じて随時対応する。 83年館3階 831研究室 月曜日・火曜日10:30~16:00			
自学自習	講義内容のノート整理と理解			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	教育実習の意義	オリエンテーション 教育実習とは 幼稚園実習の概要 学外幼稚園実習 希望調査についての説明を受ける。教科書・ノート購入と使い方の説明 (猪股・折笠・賀門・奥・仲西)
2	教育実習の理解・幼児理解	幼稚園教育の基本や目標についての理解 「学外幼稚園実習先」希望調査票提出 (猪股・仲西)
3	教育実習についての留意事項	幼稚園の一日の生活の流れを理解する。訪問の仕方 電話のかけ方 学外幼稚園先へ依頼文書配布 (猪股・仲西)
4	実習方法① 附属幼稚園見学	附属幼稚園にて園長講和 「附属幼稚園の基礎実習について」 (賀門・奥)
5	幼稚園教育の基本1	2歳から6歳の発達を視野に入れた保育のポイントについて
6	幼稚園教育の基本2	教師の陥りがちな視点について理解する (折笠)
7	幼稚園教育の基本3	子どもの見方・見え方と保育者の視点 (折笠)
8	実習方法②	附属幼稚園関係書類配布 記録の取り方 保育者の姿 (賀門・奥)
9	実習方法③	保育の実際と計画について (賀門・奥)
10	幼児の発達・保育の実際	幼児の発達と保育の実際について (猪股・仲西)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	実習方法④	保育の実際と計画について (猪股・仲西)
12	実習方法⑤	幼児の発達理解とエピソード演習 (猪股・仲西)
13	実習方法⑥	幼児への具体的な関わり方演習 (猪股・仲西)
14	幼稚園実習の評価と意義	実習を通しての自己評価と他者評価について理解し、次回の実習への課題を明確化 (猪股・仲西)
15	教育実習 I のまとめ	課題への明確化 確認テスト ノートの整理 (猪股・折笠・賀門・奥・仲西)

平成29年度

科目名	教育実習Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	猪股 照子, 折笠 国康, 賀門 康博, 奥 美代, 仲西 真美子			
開講期	Ⅰ			
授業概要	教育実習Ⅱ（附属幼稚園の基礎実習、教育実習Ⅲ（学外 観察参加実習）、教育実習Ⅳ（学外 本実習）学内での学習と、現場での実践との関連の理解を図ると共に、実習の反省を通して、保育の改善の方法も学ぶ。現場に行くため社会的態度、現場への適応の仕方を含め主体的、自発的に学ぶ姿勢を形成する。 幼児の発達、幼児期にふさわしい生活の展開や教師の役割についての理解 保育の実際と計画や保育場面の記録の取り方			
達成目標	①教育実習生として、どのような態度で臨めばよいのかを理解できたか。 ②教師のあるべき姿、幼児のあるべき姿を理解できたか。 ③1人ひとりに応じる指導について理解できたか。 ④実習記録（日誌・指導計画（日案））を書く意味や書き方を理解できたか。			
受講資格	幼児教育学科1年「幼二種」免許取得希望者	成績評価 方法	・平常点、授業への取り組み 課題・レポート・確認テストの 総合評価60点 ・ノート40点 (ノートの提出・1期終了時)	
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・授業・実習に関する資料を随時、配布する。 配布された資料をファイリングしておくこと ・幼稚園・保育所・施設実習（ミネルヴァ書房） ・文部科学省幼稚園教育要領解説（フレーベル館） ・保育所保育指針（フレーベル館） ・幼保連携型認定こども園教育・保育解説（フレーベル館） 			
参考書	・森上史朗・柏女霊峰編保育用語辞典（ミネルヴァ書房）			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・常日頃から基本的な生活態度を身につけ、目的意識をもって主体的意欲的に受講する。 ・欠席・遅刻はしないこと。 ・講義室の座席は、番号順とする。 ・授業連絡はWeb上で行います。確認してください。また、実習掲示板での連絡もあるので確認すること。 【教育実習掲示：83年館3階 831講義室前】 			
オフィスタイム	必要に応じて随時対応する。 83年館3階 831研究室 月曜日・火曜日10:30~16:00			
自学自習	講義内容のノート整理と理解			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	教育実習の意義	オリエンテーション 教育実習とは 附属幼稚園実習の概要 学外幼稚園実習」希望調査についての説明を受ける。 教科書・ノート購入使い方説明 (猪股・折笠・賀門・奥・仲西)
2	教育実習の理解・幼児理解	幼稚園教育の基本や目標についての理解 「学外幼稚園実習先」希望調査票提出 (猪股・仲西)
3	教育実習についての留意事項	幼稚園の一日の生活の流れを理解する。訪問の仕方 電話の掛け方 学外幼稚園先への依頼文書配布 (猪股・仲西)
4	実習方法① 附属幼稚園見学	附属幼稚園にて園長講和 「附属幼稚園の基礎実習について」 (賀門・奥)
5	幼稚園教育の基本1	2歳から6歳の発達を視野に入れた保育のポイントについて学ぶ (折笠)
6	幼稚園教育の基本2	教師の陥りがちな視点について理解する (折笠)
7	幼稚園教育の基本3	子どもの見方・見え方と保育者の視点 (折笠)

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	実習の方法②	附属幼稚園関係書類配布 記録の取り方 保育者の姿 (賀門・奥)
9	実習方法③	保育の実際と計画について (賀門・奥)
10	幼児の発達・保育の実際	幼児の発達と保育の実際について (猪股・仲西)
11	実習方法④	保育の実際と計画について (猪股・仲西)
12	実習の方法⑤	幼児の発達理解とエピソード演習 (猪股・仲西)
13	実習の方法⑥	幼児への具体的な関わり方演習 (猪股・仲西)
14	幼稚園実習の評価と意義	実習を通しての自己評価と他者評価について理解し、次回の実習への課題を明確にする。 (猪股・仲西)
15	教育実習1のまとめ	課題への明確化 確認テスト ノートの整理 (猪股・折笠・賀門・奥・仲西)

平成29年度

科目名	教育実習Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	猪股 照子		
開講期	通年		
授業概要	附属幼稚園の平常保育実習（基礎実習）を通し、 ・附属幼稚園で幼児と共に楽しく活動し、その生活を理解する。（遊び、生活集団、集団関係等） ・幼稚園における保育者の役割を知り、自から幼児に温かく接し、保育者としての行動を見習う。（活動の援助、誘導、保育環境の整備等） ・実習生自身、自己理解を深め、向上心に努める。（生活習慣の改善、技能の訓練など。）		
達成目標	①附属幼稚園実習において、保育活動の準備及び展開課程を知ることができたか。 ②教師のあるべき姿、幼児のあるべき姿を理解できたか。 ③幼児の受容、活動の援助、誘導、保育環境の整備について理解できたか。		
受講資格	幼児教育学科 教職課程履修者	成績評価 方法	①実習園からの評価表（40点）、 ②実習日誌（30点）、 ③教育実習に関する学習状況（実習後の提出物、事後指導）（30点）
教科書	幼稚園・保育所・施設実習（ミネルヴァ書房） 幼稚園教育要領（フレーベル館） 保育所保育指針（フレーベル館） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（フレーベル館）		
参考書	森上史朗・柏女霊峰編保育用語辞典（ミネルヴァ書房）		
学生への要望	常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習を行えるようにすること。 授業終了後に各自一回、事後指導を受けることを条件とする。 （輪番制） 事後指導は各班毎、1時限単位で行う。		
オフィスタイム	必要に応じて随時対応します。 83年間3階 831研究室 月曜日・火曜日10:30~16:00		
自学自習	附属幼稚園の一日の振り返りを日誌に順を追って丁寧に記入する。 誤字脱字に気を付けてまた、文章表現にも気を付ける		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	教育実習Ⅱ 附属幼稚園（平常実習） 11班編成	附属幼稚園において「平常実習を」1週間実施する。 前期に1班から3班事後指導終了 後期に8班事後指導時に演習指導する
2	事後指導 輪番制11回（事後指導表作成配布）	実習終了者（班毎）を対象として個別に事後指導を受ける。 園からの評価と自己反省・自己課題を明確にする。 幼稚園教諭に必要な資質について理解する。 実習を通して得た問題点や課題を確認する。 必要な今後の学習を確認する 課題を実現させていく具体的な方法を考える。
3	事後指導演習①	自己紹介カード
4	事後指導演習②	ペープサート
5	事後指導演習③	軍手人形またはエプロンシアター
6	事後指導演習④	パネルシアター
7	事後指導演習⑤	作品の発表

科目名	教育実習Ⅲ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	猪股 照子		
開講期	通年		
授業概要	1. 教育実習Ⅱ（附属幼稚園における平常保育実習）の体験をもとに、学外実習をする。学外の実習園において、1週間保育活動に参加しながら、幼児と保育について理解を深める。 2. 教育実習Ⅳ（本実習）に備えて、実習園の保育方針や保育方法、保育方法・園の環境、組織、職員構成、園児の生活環境、年間の主な行事など、園の概況を理解するとともに、1日の保育の流れ、保育者の仕事の内容などを知る。 3. 幼児の自発性を尊重し、保育者に学ぶ心をもって保育活動に加わり、さまざまな幼児の実態、保育者の導き方、保育教材の活用の仕方などを学ぶ。 4. 保育者の補助活動を行いながら、現場の仕事に慣れる。 ※保育内容については、『教育実習要項』と教科書・幼稚園教育要領を参照する。		
達成目標	①実習園の保育方針や保育方法、保育方法・園の環境、組織、職員構成、園児の生活環境、年間の主な行事など、園の概況を理解できたか。 ②1日の保育の流れ、保育者の仕事を理解できたか。 ③幼児の実態、保育者の導き方、保育教材の活用の仕方など理解できたか。		
受講資格	幼児教育学科1年 教職課程履修者	成績評価 方法	①実習園からの評価表（50点） ②実習日誌（30点） ③教育実習に関する学習状況（事前学習・事後指導学習）（20点） （事前・事後指導で欠席の場合は減点する。）
教科書	教育・保育・施設実習（ミネルヴァ書房） 幼稚園教育要領（フレーベル館） 保育所保育指針（フレーベル館） 幼保連携認定こども園教育・保育要領（フレーベル館）		
参考書	森上史朗・柏女霊峰編保育用語辞典（ミネルヴァ書房）		
学生への要望	常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的に実習に臨むこと。 事前指導（Ⅱ期）、事後指導（Ⅲ期）を受講すること。 事後指導は個別に行う。（輪番制）※1時限に約10名の参加とする。		
オフィスタイム	必要に応じて随時対応します。 83年間 3階 831 月曜日・火曜日10:30~16:00		
自学自習	幼稚園教育要領と保育所保育指針の授業時に課題提供した所を学ぶこと		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業内容について説明を受ける。 観察参加実習の意義・ねらい、実習方法について理解する 学外幼稚園実習希望園の確認 夏休みの課題提出
2	事前指導 「観察参加実習」	幼児の発達と保育の実際の理解
3	事前指導 「観察参加実習」	観察参加実習日誌の記録の取り方・記入の仕方 幼児の事例により言葉かけや援助の仕方
4	事前指導 「観察参加実習」	実習関係書類配布（教育実習の手引き、日誌・出勤表・同意表・自動車通勤願い） 書類作成（誓約書・実習の心構え）
5	事前指導 「観察参加実習」	お礼状の書き方 書類作成
6	事前指導 「観察参加実習」	観察参加実習についての質疑応答 Ⅲ期「教育実習Ⅲ」（事後指導）の内容を把握する。 部分実習計画の立て方 Ⅲ期「教育実習Ⅲ」の事後指導確認
7	教育実習Ⅲ（観察参加実習） 学外幼稚園において1週間実施	学外幼稚園において1週間の実習を行う。 『教育実習の手引き』冊子を参照する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	事後指導（輪番制） Ⅲ期に受ける	実習終了者を対象として個別に事後指導を行う。 園からの評価と自己反省・自己課題を明確にする。 実習を通して得た問題点や課題を確認させる。 必要な今後の学習を確認させる。

平成29年度

科目名	教育実習Ⅳ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	猪股 照子		
開講期	通年		
授業概要	教育実習Ⅲ（観察参加実習）の体験をもとに、学外実習園において2週間の保育場面に参加し、保育者としての役割を取りながら、体験を通して保育者にふさわしい態度及び保育技術を習得する。 ※実習内容については、『教育実習要項』に示してある。		
達成目標	①園の教育理念や地域の特徴、園での教育課程について理解できたか。 ②園での幼児の姿から一人ひとりの個人差を尊重しながら、保育することの意味を理解することができたか。 ③指導計画を立案し、ねらいに沿った保育を実施することができたか。 ④社会人、職業人としての態度及び保育技術を身につけることができたか。		
受講資格	幼児教育学科2年 教職課程履修者	成績評価 方法	①実習園からの評価表（40点） ②実習日誌（40点） ③実習の反省レポート「実習を振り返って」・自己評価（10点） ④教育実習に関する学習状況（事前事後指導）（10点）
教科書	幼稚園実習・保育所・施設実習（ミネルヴァ書房） 幼稚園教育要領（フレーベル館） 保育所保育指針（フレーベル館） 幼保認定子ども園保育教育要領フレーベル館） 教育実習要項		
参考書	森上史朗・柏女霊峰編保育用語辞典（ミネルヴァ書房）		
学生への要望	常日頃から基本的な生活習慣を身につけ、目的意識や課題意識を持って、意欲的・積極的に実習を行 学外実習（本実習）の事前・事後指導を受けることを条件とする 事前指導は合同で行う。教室が変わるので注意して臨むこと。 事後指導は個別に行う。（輪番制）※1時限に約10名参加とする。		
オフィスタイム	必要に応じて随時対応します。 83年間 3階 831 月曜日・火曜日10:30~16:00		
自学自習	幼稚園教育要領・保育所保育指針を読む		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	教育実習Ⅳ(学外幼稚園・本実習)事前指導① 幼稚園教育の基本の確認 事前指導	教育実習Ⅳ(学外幼稚園・本実習)2週間実施する。 本実習の内容については、【教育実習要項】に示してあるので参考にする。 保育内容(5領域)の目指すことの確認をする。 幼児の発達の変化に対する計画について理解する。「観察参加実習・附属幼稚園実習」返却
2	事前指導② 日誌の書き方	幼稚園(本実習)の日誌の書き方を学ぶ。(エピソード事例を用いて記入の仕方の演習) 「本実習日誌」「出勤表」配布
3	事前指導③ 日誌の記入要点指導・指導計画作成	本実習の要点記入演習 実習中の実習生としての常識・心構えの確認 指導計画を作成するに当たり事例を用い実践演習
4	事前指導④ 指導計画作成要点指導 実践指導	本実習の指導計画作成要点指導 保育実践実践演習(活動の場の設定・発達年齢に応じた言葉かけ事例)
5	事前指導⑤ 保育実践内容	保育用具・固定遊具等、年齢に応じた対応の仕方 年齢に応じた遊びの事例 集団遊びの事例と援助の仕方
6	教育実習Ⅳ 本実習	学外幼稚園にて2週間実施
7	事後指導 実習後の事後指導を受け、自己課題の明確化	実習経験の考察を行う。 実習についての自己反省 実習で得た問題点や課題の確認
8	事後指導 実習後の事後指導を受けて、自己課題を明確化	実習を通して得た問題点や課題を確認 課題を実現させていく具体的な方法を考える。必要な今後の学習の確認。 実習員からの評価と自己反省(輪番制) 履修者を対象として個別に自己指導を行う。
9	後期事後指導	ガイダンス 夏休み課題提出 後期事後指導計画について
10	後期事後指導	10回実施 個別指導 グループ討議・発表
11	幼稚園免許書類作成	印鑑・筆記用具持参
12	1年生の授業時に参加	代表の学生が1年生の授業時に実習について体験談を話す 日誌や政策したもの持参
13	後期事後指導	全実習を終えて 社会人及び保育者としての心構え

科目名	児童文化		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	真船 均			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ①子どもの世界の理解 ②幼児教育の本質究明</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 宮澤賢治の「児童文学」を通して、子どもの世界と幼児教育を理解していく。宮澤賢治に関する最新の研究成果を踏まえて進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来たか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来たか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来たか。</p>			
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ①子どもの世界の理解 ②幼児教育の本質究明</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 宮澤賢治の「児童文学」を通して、子どもの世界と幼児教育を理解していく。宮澤賢治に関する最新の研究成果を踏まえて進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来たか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来たか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来たか。</p>			
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	①課題70点（10点×7回） ②期末試験30点	
教科書	宮澤賢治『新編 銀河鉄道の夜』新潮文庫			
参考書	特になし			
学生への要望	授業へは積極的に関わり、予習、復習に励んで下さい。			
オフィスタイム	水曜3限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業説明、『どんぐりと山猫』	授業の進め方、評価方法を説明する。『どんぐりと山猫』を読み、課題①を提出する。
2	『どんぐりと山猫』の理解	課題①を返却し解説する。課題①-2を提出する。
3	『どんぐりと山猫』の分析	この作品の主題と教育的背景を分析する。
4	『よだかの星』の読解	『よだかの星』を長岡輝子の朗読を通して読み、課題②を提出する。
5	『よだかの星』の分析	課題②を返却し解説する。この作品の「自己犠牲」と「他者救済」の思想についての課題③を提出する。
6	『永訣の朝』、『無声慟哭』の読解	課題③を返却し解説する。最愛の妹を失った時の哀惜極まりない詩を長岡輝子の朗読を通して読み、課題④を提出する。
7	梅原猛「賢治論」、『雨ニモマケズ』	課題④を返却し解説する。梅原猛「賢治論」、『雨ニモマケズ』を解説する。
8	『めくもりの向こうに』の鑑賞	TVドキュメンタリー『めくもりの向こうに～乳児院 親の愛を知らない子供たちのふるさと』を鑑賞する。
9	『ゼロ弾きのゴーシュ』の読解	長岡輝子の朗読を通して読み、課題⑤を提出する。
10	『ゼロ弾きのゴーシュ』の理解	アニメ『ゼロ弾きのゴーシュ』を鑑賞し、課題⑥を提出する。
11	『ゼロ弾きのゴーシュ』の分析	課題⑤と⑥を返却し、ゴーシュと小動物たちとの交流から教育の本質を分析する。
12	『銀河鉄道の夜』の読解	『銀河鉄道の夜』を読み、「自己犠牲」によって「他者救済」を実行する親友に支えられて、明日に向けて「生きる」ジョバンニの物語を理解する。
13	『銀河鉄道の夜』の理解	『銀河鉄道の夜』を引き続き読む。課題⑦を提出する。
14	『銀河鉄道の夜』の分析	課題⑦を返却し、作者は何故主人公をカンパネラではなくジョバンニにしたかを考える。
15	学習の振り返り	学習全体を振り返り、不足を補い、到達目標が得られるようにする。

科目名	児童文化	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	真船 均		
開講期	I		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ①子どもの世界の理解 ②幼児教育の本質究明</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 宮澤賢治の「児童文学」を通して、子どもの世界と幼児教育を理解していく。宮澤賢治に関する最新の研究成果を踏まえて進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来たか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来たか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来たか。</p>		
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ①子どもの世界の理解 ②幼児教育の本質究明</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 宮澤賢治の「児童文学」を通して、子どもの世界と幼児教育を理解していく。宮澤賢治に関する最新の研究成果を踏まえて進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来たか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来たか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来たか。</p>		
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	①課題70点（10点×7回） ②期末試験30点
教科書	宮澤賢治『新編 銀河鉄道の夜』新潮文庫		
参考書	特になし		
学生への要望	授業へは積極的に関わり、予習、復習に励んで下さい。		
オフィスタイム	水曜3限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業説明、『どんぐりと山猫』	授業の進め方、評価方法を説明する。『どんぐりと山猫』を読み、課題①を提出する。
2	『どんぐりと山猫』の理解	課題①を返却し解説する。課題①-2を提出する。
3	『どんぐりと山猫』の分析	この作品の主題と教育的背景を分析する。
4	『よだかの星』の読解	『よだかの星』を長岡輝子の朗読を通して読み、課題②を提出する。
5	『よだかの星』の分析	課題②を返却し解説する。この作品の「自己犠牲」と「他者救済」の思想についての課題③を提出する。
6	『永訣の朝』、『無声慟哭』の読解	課題③を返却し解説する。最愛の妹を失った時の哀惜極まりない詩を長岡輝子の朗読を通して読み、課題④を提出する。
7	梅原猛「賢治論」、『雨ニモマケズ』	課題④を返却し解説する。梅原猛「賢治論」、『雨ニモマケズ』を解説する。
8	『めくもりの向こうに』の鑑賞	TVドキュメンタリー『めくもりの向こうに～乳児院 親の愛を知らない子供たちのふるさと』を鑑賞する。
9	『ゼロ弾きのゴーシュ』の読解	長岡輝子の朗読を通して読み、課題⑤を提出する。
10	『ゼロ弾きのゴーシュ』の理解	アニメ『ゼロ弾きのゴーシュ』を鑑賞し、課題⑥を提出する。
11	『ゼロ弾きのゴーシュ』の分析	課題⑤と⑥を返却し、ゴーシュと小動物たちとの交流から教育の本質を分析する。
12	『銀河鉄道の夜』の読解	『銀河鉄道の夜』を読み、「自己犠牲」によって「他者救済」を実行する親友に支えられて、明日に向けて「生きる」ジョバンニの物語を理解する。
13	『銀河鉄道の夜』の理解	『銀河鉄道の夜』を引き続き読む。課題⑦を提出する。
14	『銀河鉄道の夜』の分析	課題⑦を返却し、作者は何故主人公をカンパネラではなくジョバンニにしたかを考える。
15	学習の振り返り	学習全体を振り返り、不足を補い、到達目標が得られるようにする。

科目名	児童文化		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	真船 均			
開講期	I			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ①子どもの世界の理解 ②幼児教育の本質究明</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 宮澤賢治の「児童文学」を通して、子どもの世界と幼児教育を理解していく。宮澤賢治に関する最新の研究成果を踏まえて進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来たか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来たか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来たか。</p>			
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ①子どもの世界の理解 ②幼児教育の本質究明</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 宮澤賢治の「児童文学」を通して、子どもの世界と幼児教育を理解していく。宮澤賢治に関する最新の研究成果を踏まえて進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来たか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来たか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来たか。</p>			
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	①課題70点（10点×7回） ②期末試験30点	
教科書	宮澤賢治『新編 銀河鉄道の夜』新潮文庫			
参考書	特になし			
学生への要望	授業へは積極的に関わり、予習、復習に励んで下さい。			
オフィスタイム	水曜3限の教務部非常勤控室			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業説明、『どんぐりと山猫』	授業の進め方、評価方法を説明する。『どんぐりと山猫』を読み、課題①を提出する。
2	『どんぐりと山猫』の理解	課題①を返却し解説する。課題①-2を提出する。
3	『どんぐりと山猫』の分析	この作品の主題と教育的背景を分析する。
4	『よだかの星』の読解	『よだかの星』を長岡輝子の朗読を通して読み、課題②を提出する。
5	『よだかの星』の分析	課題②を返却し解説する。この作品の「自己犠牲」と「他者救済」の思想についての課題③を提出する。
6	『永訣の朝』、『無声慟哭』の読解	課題③を返却し解説する。最愛の妹を失った時の哀惜極まりない詩を長岡輝子の朗読を通して読み、課題④を提出する。
7	梅原猛「賢治論」、『雨ニモマケズ』	課題④を返却し解説する。梅原猛「賢治論」、『雨ニモマケズ』を解説する。
8	『めくもりの向こうに』の鑑賞	TVドキュメンタリー『めくもりの向こうに～乳児院 親の愛を知らない子供たちのふるさと』を鑑賞する。
9	『ゼロ弾きのゴーシュ』の読解	長岡輝子の朗読を通して読み、課題⑤を提出する。
10	『ゼロ弾きのゴーシュ』の理解	アニメ『ゼロ弾きのゴーシュ』を鑑賞し、課題⑥を提出する。
11	『ゼロ弾きのゴーシュ』の分析	課題⑤と⑥を返却し、ゴーシュと小動物たちとの交流から教育の本質を分析する。
12	『銀河鉄道の夜』の読解	『銀河鉄道の夜』を読み、「自己犠牲」によって「他者救済」を実行する親友に支えられて、明日に向けて「生きる」ジョバンニの物語を理解する。
13	『銀河鉄道の夜』の理解	『銀河鉄道の夜』を引き続き読む。課題⑦を提出する。
14	『銀河鉄道の夜』の分析	課題⑦を返却し、作者は何故主人公をカンパネラではなくジョバンニにしたかを考える。
15	学習の振り返り	学習全体を振り返り、不足を補い、到達目標が得られるようにする。

科目名	児童文化	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	真船 均		
開講期	I		
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ①子どもの世界の理解 ②幼児教育の本質究明</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 宮澤賢治の「児童文学」を通して、子どもの世界と幼児教育を理解していく。宮澤賢治に関する最新の研究成果を踏まえて進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来たか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来たか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来たか。</p>		
達成目標	<p>〔授業の目的・ねらい〕 ①子どもの世界の理解 ②幼児教育の本質究明</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕 宮澤賢治の「児童文学」を通して、子どもの世界と幼児教育を理解していく。宮澤賢治に関する最新の研究成果を踏まえて進める。</p> <p>〔授業修了時の達成課題（到達目標）〕 授業の目的・ねらいを達成し、80点以上の評価を得られるようにする。</p> <p>〔履修カルテの評価項目〕 ①宮澤賢治の「子どもたちへのメッセージ」をどの程度理解出来たか。 ②宮澤賢治の「人間とはどうあるべきか」をどの程度理解出来たか。 ③宮澤賢治の「教育についての考え」をどの程度理解出来たか。</p>		
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	①課題70点（10点×7回） ②期末試験30点
教科書	宮澤賢治『新編 銀河鉄道の夜』新潮文庫		
参考書	特になし		
学生への要望	授業へは積極的に関わり、予習、復習に励んで下さい。		
オフィスタイム	水曜3限の教務部非常勤控室		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業説明、『どんぐりと山猫』	授業の進め方、評価方法を説明する。『どんぐりと山猫』を読み、課題①を提出する。
2	『どんぐりと山猫』の理解	課題①を返却し解説する。課題①-2を提出する。
3	『どんぐりと山猫』の分析	この作品の主題と教育的背景を分析する。
4	『よだかの星』の読解	『よだかの星』を長岡輝子の朗読を通して読み、課題②を提出する。
5	『よだかの星』の分析	課題②を返却し解説する。この作品の「自己犠牲」と「他者救済」の思想についての課題③を提出する。
6	『永訣の朝』、『無声慟哭』の読解	課題③を返却し解説する。最愛の妹を失った時の哀惜極まりない詩を長岡輝子の朗読を通して読み、課題④を提出する。
7	梅原猛「賢治論」、『雨ニモマケズ』	課題④を返却し解説する。梅原猛「賢治論」、『雨ニモマケズ』を解説する。
8	『めくもりの向こうに』の鑑賞	TVドキュメンタリー『めくもりの向こうに～乳児院 親の愛を知らない子供たちのふるさと』を鑑賞する。
9	『ゼロ弾きのゴーシュ』の読解	長岡輝子の朗読を通して読み、課題⑤を提出する。
10	『ゼロ弾きのゴーシュ』の理解	アニメ『ゼロ弾きのゴーシュ』を鑑賞し、課題⑥を提出する。
11	『ゼロ弾きのゴーシュ』の分析	課題⑤と⑥を返却し、ゴーシュと小動物たちとの交流から教育の本質を分析する。
12	『銀河鉄道の夜』の読解	『銀河鉄道の夜』を読み、「自己犠牲」によって「他者救済」を実行する親友に支えられて、明日に向けて「生きる」ジョバンニの物語を理解する。
13	『銀河鉄道の夜』の理解	『銀河鉄道の夜』を引き続き読む。課題⑦を提出する。
14	『銀河鉄道の夜』の分析	課題⑦を返却し、作者は何故主人公をカンパネラではなくジョバンニにしたかを考える。
15	学習の振り返り	学習全体を振り返り、不足を補い、到達目標が得られるようにする。

科目名	保育表現技術 音楽Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	三瓶 令子, 小澤 啓子			
開講期	通年			
授業概要	○子どもの生活における音楽的活動の意味を理解する。 ○保育者として子どもにこちよく届く声をつくる。 ○多くの歌唱曲(子どもの歌・あそび歌)にふれながら教材研究を行い、表現力を養う。 ○保育者として必要な音楽的基礎力を養う。			
達成目標	保育者となるために ①表現についての保育者の二つの役割りを、理解できたか。 ・自分自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること。 ②表現者としての声(無理なく届く声)を、どの程度つくることができたか。 ③子どもの表現に関わるピアノ伴奏が、どの程度弾けるようになったか。 ④幼児曲の6つのジャンルを理解し、どの程度表現できるようになったか。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	○レポートの内容 30点 ○期末試験 70点	
教科書	津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版 2014年			
参考書	三瓶 令子・庄司 康生=編 古瀬 百合子外3名執筆 『表現者を育てる20のレッスン』 大学図書出版 2009年			
学生への要望	○授業の中で適宜資料(主に楽譜)を配布するので、各自ファイルを準備すること。 ○毎時間出席し、授業を通して体験的に学ぶこと。			
オフィスタイム	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室			
自学自習	○事前・事後学修について 事前: シラバス記載の教材に必ず目を通して授業に臨むこと。 (1時間) 事後: 授業で取り上げた教材を必ず復習(歌う・弾く)し、講義内容(楽典・子どもの発達と音楽等)についてを整理しておくこと。 (1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(授業について理解し、心構えをつくる)	○カリキュラム内での授業の位置付けについて。(特に幼児教育における音楽の特性を中心に) ○あそび歌で楽しむ。(積み重ねあそび歌「かっこうのごあいさつ」)⇒音楽授業への緊張、先入観を取り除き、お互いのコミュニケーションを図る。 ○テキストの配布と説明。
2	保育における音楽とは	○保育の場での音楽の役割りについて ○歌と伴奏との関係について ○歌声とからだとの関係について(ゼスチャーとアクションの違いについて) ・幼児曲「とんぼのめがね」をサンプリングしてみる
3	基本となる音符と拍子について・発声の基本について①	○4分音符・2分音符・付点2分音符・8分音符についての説明とワーク ○4分の4・4分の3・4分の2拍子についての説明とワーク ○発声のためのワーク「ピッコロミニ」 ・リズム打ち・メロディー唱〜発声のワーク ・母音で歌う(パカラマナ・ピキリミニ・ブルムヌ・ペケレメネ・ポコロモノ)
4	発声の基本について②	○声と呼吸との関係について 息を吸うこと吐くことについて ・発声のワーク「ピッコロミニ」母音で歌う ・発声のドリル「楽しい発声のドリル」 1(あくび)喉の奥を空けて声を出すレッスン 2(ため息)喉の奥を脱力させて声を出すレッスン 3(犬のおなか)腹筋を使って声を出すレッスン ・VTRによる同ドリルの確認
5	発声の基本について③	○声とからだとの関係について ゼスチャーとアクションの違いについて ・「からだ語る」ということのワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」 ○幼児曲 ・歌詞(母国語)とメロディーとの関係について ・歌詞とイメージについて ・4分の2拍子の確認 スキップのリズム・16分音符についての説明
6	幼児曲を歌う①	○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す) ○幼児曲 ・「タヤけこやけ」「とんぼのめがね」4分の2拍子の確認 ・「どんぐりころころ」16分音符の確認 歌詞の注意(どんぐりころころどんぶりこ) ・「かえるの合唱」輪唱(カノン)の体験 合唱(ハモること)の基礎 歌詞のイメージをからだで表現
7	幼児曲を歌う②	○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す) ○幼児曲 ・「うみ」「こいのぼり」4分の3拍子のリズムあそび 歌詞のイメージとからだの広がり さまざまな伴奏形について ・「しゃぼんだま」リピートについての説明 歌詞について(野口雨情と中山晋平について) ○あそび歌「小さな畑」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	保育における歌と伴奏について① 小澤先生	○歌の伴奏をすることについて ・ピアノを歌わせることについて ・メロディーとプレスについて ・メロディーと拍頭について ・二段楽譜の伴奏法と三段楽譜の伴奏法について
9	保育における歌と伴奏について② 小澤先生	○即興伴奏の基礎 鍵盤上で伴奏の基礎を学ぶ ・主要三和音(カデンツ)についての説明とワーク ・移調奏についての説明とワーク
10	保育における歌と伴奏について③ 小澤先生	○即興演奏の基礎 テキスト「即興のためのピアノ伴奏」を使用したワーク ・リトミック的なピアノ伴奏(動きのためのピアノ)についての説明とワーク ・変奏やバリエーションについての説明と教師の模範演奏
11	幼児曲を子どもと歌う方法について①	○保育士の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲・生活のうた 「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」
12	幼児曲を子どもと歌う方法について②	○保育者の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)○幼児曲「かめの遠足」物(ペープサート等)を作って歌う 4分の3拍子のリズムあそびをする「ふうせん」「だから雨ふり」
13	幼児曲を子どもと歌う方法について③	○保育者の表現力 ・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲 ・「さんぽ」マーチのテンポをからだで覚える(120/1分)シェーカーで遊ぶ ・「とけいのうた」園行事と歌との関係について学ぶ 動いて遊ぶ ・「時計の歌」リトミックについて説明 動きとリズムについて
14	幼児曲を子どもと歌う方法について④	○保育者の役割 ・自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲 ・「うちゅうせんのうた」生活の中のアソビ歌について 他領域との接点 ・「アイアイ」ラテンのリズム(8ビート)についての説明 アイアイ(サル)についての理解と他領域との接点 ・「森のくまさん」交互唱についての説明 ・「山の音楽家」楽器を弾き動作をしながら歌う体験
15	I期授業のまとめ	○保育者の表現力について ・表現についての保育者としての二つの役割について ①自身が「表現者」として成長すること ②「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる 声を無理なく届かせる ○幼児曲を振り返って歌ってみる ・イメージを大切に歌う曲 ・リズムであそびながら歌う曲 ・物を使って歌う曲 ・交互唱の曲 ・カノン・対話の歌・ラテンのリズムで歌う曲 ・楽器を使っとうたう曲等
16	I期の振り返りとII期授業の説明	○からだと声の関係をもう一度振り返る。 ○II期授業の内容について ・子どもの発達の実態を踏まえた表現方法、音楽あそびについて学習する。 ・子どもの歌に対するピアノ伴奏の方法について⇒コードネームについて他。 ・我が国西洋音楽の黎明期を理解する。 ・幼稚園・保育園(所)における行事における音楽について学習する。
17	歌うことにおける想像力と働きかけ①	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 ○幼児曲 ・「にんげんっていいな」反復記号について(リピート・D.S.・Coda等)・総小節数を数える。 ・「ホ!ホ!ホ!」動作を付けたリズムあそびの体験・アフタービートについて・タイについて ・「バスごっこ」動作を付けたリズムあそびの体験
18	歌うことにおける想像力と働きかけ②	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 ○幼児曲 ・「おおきい木」詞のイメージをからだで感じて歌で表現するレッスン・変拍子について。 ・「きのこ」動作を付けたリズムあそびの体験 ・「十五夜さんのもちつき」「あんたがたどさ」わらべうたについて・動作を付けたリズムあそびの体験。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	歌うことにおける想像力と働きかけ③	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一年生になったら」「せんせいとおともだち」「めだかのがっこう」季節・行事と歌 ・「うれしいひなまつり」「たなばたさま」季節・行事と歌
20	保育における歌と伴奏について①小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
21	子どもの発達と音楽の役割り① 歌うことにおける想像力と働きかけ④	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等) <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あさやけゆうやけ」「ゆうやけこやけ」
22	子どもの発達と音楽の役割り② 歌うことにおける想像力と働きかけ⑤	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等) <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもいでアルバム」8分の6拍子について ・「みんなともだち」「ありがとう・さようなら」「空より高く」季節・行事と歌
23	歌うことにおける想像力と働きかけ⑥	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にじ」レシタティーポについて ・「あわてんぼうのサンタクロース」アウフタクト(弱起の曲)について ・「うさぎ野原のクリスマス」季節・行事と歌
24	保育における歌と伴奏について②小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
25	保育における歌と伴奏について③小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
26	歌うことにおける想像力と働きかけ⑦ 楽器の演奏法とあそびについて①	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さよならマーチ」「お化けなんてないさ」「ふしぎなポケット」 <p>○楽器演奏法の基本について カスタネット・タンブリン・鈴・ウッドブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うさぎ野原のクリスマス」
27	歌うことにおける想像力と働きかけ⑧ 楽器の演奏法とあそびについて②	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぶらんこ」「やぎさんゆうびん」「ありさんのおはなし」 <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三角とらいアングル」「カスタネットでチャチャチャ」「タンブリンの輪」
28	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 楽器の演奏法とあそびについて③	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」「世界中のこどもたちが」 <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて ミュージックベルとトーンチャイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小さな世界」「ドレミの歌」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 ○幼児曲 <ul style="list-style-type: none"> ・「そうだったらいいのにな」「おかあさん」「アイスクリームのうた」 1年間を通して学んだ内容について概括をたどり、2年次の授業や実習へ繋げていく。 振り返りレポート提出
30	期末試験への準備	<p>試験の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2人でペアをつくる。1人はピアノ（または別の楽器でも良い）、もう1人は歌をうたいながら表現的なパフォーマンスをする。 ○全員の前で演じ、また鑑賞することにより、それぞれの方法を学び、理解する。 上記内容についての準備をする。（試験は試験期間中に実施する。）

科目名	保育表現技術 音楽Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	三瓶 令子, 小澤 啓子			
開講期	通年			
授業概要	○子どもの生活における音楽的活動の意味を理解する。 ○保育者として子どもにこちよく届く声をつくる。 ○多くの歌唱曲(子どもの歌・あそび歌)にふれながら教材研究を行い、表現力を養う。 ○保育者として必要な音楽的基礎力を養う。			
達成目標	保育者となるために ①表現についての保育者の二つの役割りを、理解できたか。 ・自分自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること。 ②表現者としての声(無理なく届く声)を、どの程度つくることができたか。 ③子どもの表現に関わるピアノ伴奏が、どの程度弾けるようになったか。 ④幼児曲の6つのジャンルを理解し、どの程度表現できるようになったか。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	○レポートの内容 30点 ○期末試験 70点	
教科書	津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版 2014年			
参考書	三瓶 令子・庄司 康生=編 古瀬 百合子外3名執筆 『表現者を育てる20のレッスン』 大学図書出版 2009年			
学生への要望	○授業の中で適宜資料(主に楽譜)を配布するので、各自ファイルを準備すること。 ○毎時間出席し、授業を通して体験的に学ぶこと。			
オフィスタイム	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室			
自学自習	○事前・事後学修について 事前: シラバス記載の教材に必ず目を通して授業に臨むこと。 (1時間) 事後: 授業で取り上げた教材を必ず復習(歌う・弾く)し、講義内容(楽典・子どもの発達と音楽等)についてを整理しておくこと。 (1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(授業について理解し、心構えをつくる)	○カリキュラム内での授業の位置付けについて。(特に幼児教育における音楽の特性を中心に) ○あそび歌で楽しむ。(積み重ねあそび歌「かっこうのごあいさつ」)⇒音楽授業への緊張、先入観を取り除き、お互いのコミュニケーションを図る。 ○テキストの配布と説明。
2	保育における音楽とは	○保育の場での音楽の役割りについて ○歌と伴奏との関係について ○歌声とからだとの関係について(ゼスチャーとアクションの違いについて) ・幼児曲「とんぼのめがね」をサンプリングしてみる
3	基本となる音符と拍子について・発声の基本について①	○4分音符・2分音符・付点2分音符・8分音符についての説明とワーク ○4分の4・4分の3・4分の2拍子についての説明とワーク ○発声のためのワーク「ピッコロミニ」 ・リズム打ち・メロディー唱〜発声のワーク ・母音で歌う(パカラマナ・ピキリミニ・ブルムヌ・ペケレメネ・ポコロモノ)
4	発声の基本について②	○声と呼吸との関係について 息を吸うこと吐くことについて ・発声のワーク「ピッコロミニ」母音で歌う ・発声のドリル「楽しい発声のドリル」 1(あくび)喉の奥を空けて声を出すレッスン 2(ため息)喉の奥を脱力させて声を出すレッスン 3(犬のおなか)腹筋を使って声を出すレッスン ・VTRによる同ドリルの確認
5	発声の基本について③	○声とからだとの関係について ゼスチャーとアクションの違いについて ・「からだ語る」ということのワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」 ○幼児曲 ・歌詞(母国語)とメロディーとの関係について ・歌詞とイメージについて ・4分の2拍子の確認 スキップのリズム・16分音符についての説明
6	幼児曲を歌う①	○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す) ○幼児曲 ・「タヤけこやけ」「とんぼのめがね」4分の2拍子の確認 ・「どんぐりころころ」16分音符の確認 歌詞の注意(どんぐりころころどんぶりこ) ・「かえるの合唱」輪唱(カノン)の体験 合唱(ハモること)の基礎 歌詞のイメージをからだで表現
7	幼児曲を歌う②	○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す) ○幼児曲 ・「うみ」「こいのぼり」4分の3拍子のリズムあそび 歌詞のイメージとからだの広がり さまざまな伴奏形について ・「しゃぼんだま」リピートについての説明 歌詞について(野口雨情と中山晋平について) ○あそび歌「小さな畑」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	保育における歌と伴奏について① 小澤先生	○歌の伴奏をすることについて ・ピアノを歌わせることについて ・メロディーとプレスについて ・メロディーと拍頭について ・二段楽譜の伴奏法と三段楽譜の伴奏法について
9	保育における歌と伴奏について② 小澤先生	○即興伴奏の基礎 鍵盤上で伴奏の基礎を学ぶ ・主要三和音(カデンツ)についての説明とワーク ・移調奏についての説明とワーク
10	保育における歌と伴奏について③ 小澤先生	○即興演奏の基礎 テキスト「即興のためのピアノ伴奏」を使用したワーク ・リトミック的なピアノ伴奏(動きのためのピアノ)についての説明とワーク ・変奏やバリエーションについての説明と教師の模範演奏
11	幼児曲を子どもと歌う方法について①	○保育士の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲・生活のうた 「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」
12	幼児曲を子どもと歌う方法について②	○保育者の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)○幼児曲「かめの遠足」物(ペープサート等)を作って歌う 4分の3拍子のリズムあそびをする「ふうせん」「だから雨ふり」
13	幼児曲を子どもと歌う方法について③	○保育者の表現力 ・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲 ・「さんぽ」マーチのテンポをからだで覚える(120/1分)シェーカーで遊ぶ ・「とけいのうた」園行事と歌との関係について学ぶ 動いて遊ぶ ・「時計の歌」リトミックについて説明 動きとリズムについて
14	幼児曲を子どもと歌う方法について④	○保育者の役割 ・自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲 ・「うちゅうせんのうた」生活の中のアソビ歌について 他領域との接点 ・「アイアイ」ラテンのリズム(8ビート)についての説明 アイアイ(サル)についての理解と他領域との接点 ・「森のくまさん」交互唱についての説明 ・「山の音楽家」楽器を弾き動作をしながら歌う体験
15	I期授業のまとめ	○保育者の表現力について ・表現についての保育者としての二つの役割について ①自身が「表現者」として成長すること ②「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる 声を無理なく届かせる ○幼児曲を振り返って歌ってみる ・イメージを大切に歌う曲 ・リズムであそびながら歌う曲 ・物を使って歌う曲 ・交互唱の曲 ・カノン・対話の歌・ラテンのリズムで歌う曲 ・楽器を使っとうたう曲等
16	I期の振り返りとII期授業の説明	○からだと声の関係をもう一度振り返る。 ○II期授業の内容について ・子どもの発達の実態を踏まえた表現方法、音楽あそびについて学習する。 ・子どもの歌に対するピアノ伴奏の方法について⇒コードネームについて他。 ・我が国西洋音楽の黎明期を理解する。 ・幼稚園・保育園(所)における行事における音楽について学習する。
17	歌うことにおける想像力と働きかけ①	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 ○幼児曲 ・「にんげんっていいな」反復記号について(リピート・D.S.・Coda等)・総小節数を数える。 ・「ホ!ホ!ホ!」動作を付けたリズムあそびの体験・アフタービートについて・タイについて ・「バスごっこ」動作を付けたリズムあそびの体験
18	歌うことにおける想像力と働きかけ②	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 ○幼児曲 ・「おおきい木」詞のイメージをからだで感じて歌で表現するレッスン・変拍子について。 ・「きのこ」動作を付けたリズムあそびの体験 ・「十五夜さんのもちつき」「あんたがたどさ」わらべうたについて・動作を付けたリズムあそびの体験。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	歌うことにおける想像力と働きかけ③	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一年生になったら」「せんせいとおともだち」「めだかのがっこう」季節・行事と歌 ・「うれしいひなまつり」「たなばたさま」季節・行事と歌
20	保育における歌と伴奏について①小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
21	子どもの発達と音楽の役割① 歌うことにおける想像力と働きかけ④	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等) <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あさやけゆうやけ」「ゆうやけこやけ」
22	子どもの発達と音楽の役割② 歌うことにおける想像力と働きかけ⑤	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等) <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもいでアルバム」8分の6拍子について ・「みんなともだち」「ありがとう・さようなら」「空より高く」季節・行事と歌
23	歌うことにおける想像力と働きかけ⑥	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にじ」レシタティーポについて ・「あわてんぼうのサンタクロース」アウフタクト(弱起の曲)について ・「うさぎ野原のクリスマス」季節・行事と歌
24	保育における歌と伴奏について②小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
25	保育における歌と伴奏について③小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
26	歌うことにおける想像力と働きかけ⑦ 楽器の演奏法とあそびについて①	<p>○基本を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さよならマーチ」「お化けなんてないさ」「ふしぎなポケット」 <p>○楽器演奏法の基本について カスタネット・タンブリン・鈴・ウッドブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うさぎ野原のクリスマス」
27	歌うことにおける想像力と働きかけ⑧ 楽器の演奏法とあそびについて②	<p>○基本を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぶらんこ」「やぎさんゆうびん」「ありさんのおはなし」 <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三角とらいアングル」「カスタネットでチャチャチャ」「タンブリンの輪」
28	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 楽器の演奏法とあそびについて③	<p>○基本を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」「世界中のこどもたちが」 <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて ミュージックベルとトーンチャイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小さな世界」「ドレミの歌」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 ○幼児曲 <ul style="list-style-type: none"> ・「そうだったらいいのにな」「おかあさん」「アイスクリームのうた」 1年間を通して学んだ内容について概括をたどり、2年次の授業や実習へ繋げていく。 振り返りレポート提出
30	期末試験への準備	<p>試験の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2人でペアをつくる。1人はピアノ（または別の楽器でも良い）、もう1人は歌をうたいながら表現的なパフォーマンスをする。 ○全員の前で演じ、また鑑賞することにより、それぞれの方法を学び、理解する。 上記内容についての準備をする。（試験は試験期間中に実施する。）

科目名	保育表現技術 音楽Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	三瓶 令子, 小澤 啓子			
開講期	通年			
授業概要	○子どもの生活における音楽的活動の意味を理解する。 ○保育者として子どもにこちよく届く声をつくる。 ○多くの歌唱曲(子どもの歌・あそび歌)にふれながら教材研究を行い、表現力を養う。 ○保育者として必要な音楽的基礎力を養う。			
達成目標	保育者となるために ①表現についての保育者の二つの役割りを、理解できたか。 ・自分自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること。 ②表現者としての声(無理なく届く声)を、どの程度つくることができたか。 ③子どもの表現に関わるピアノ伴奏が、どの程度弾けるようになったか。 ④幼児曲の6つのジャンルを理解し、どの程度表現できるようになったか。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	○レポートの内容 30点 ○期末試験 70点	
教科書	津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版 2014年			
参考書	三瓶 令子・庄司 康生=編 古瀬 百合子外3名執筆 『表現者を育てる20のレッスン』 大学図書出版 2009年			
学生への要望	○授業の中で適宜資料(主に楽譜)を配布するので、各自ファイルを準備すること。 ○毎時間出席し、授業を通して体験的に学ぶこと。			
オフィスタイム	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室			
自学自習	○事前・事後学修について 事前: シラバス記載の教材に必ず目を通して授業に臨むこと。 (1時間) 事後: 授業で取り上げた教材を必ず復習(歌う・弾く)し、講義内容(楽典・子どもの発達と音楽等)についてを整理しておくこと。 (1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(授業について理解し、心構えをつくる)	○カリキュラム内での授業の位置付けについて。(特に幼児教育における音楽の特性を中心に) ○あそび歌で楽しむ。(積み重ねあそび歌「かっこうのごあいさつ」)⇒音楽授業への緊張、先入観を取り除き、お互いのコミュニケーションを図る。 ○テキストの配布と説明。
2	保育における音楽とは	○保育の場での音楽の役割りについて ○歌と伴奏との関係について ○歌声とからだとの関係について(ゼスチャーとアクションの違いについて) ・幼児曲「とんぼのめがね」をサンプリングしてみる
3	基本となる音符と拍子について・発声の基本について①	○4分音符・2分音符・付点2分音符・8分音符についての説明とワーク ○4分の4・4分の3・4分の2拍子についての説明とワーク ○発声のためのワーク「ピッコロミニ」 ・リズム打ち・メロディー唱〜発声のワーク ・母音で歌う(パカラマナ・ピキリミニ・ブルムヌ・ペケレメネ・ポコロモノ)
4	発声の基本について②	○声と呼吸との関係について 息を吸うこと吐くことについて ・発声のワーク「ピッコロミニ」母音で歌う ・発声のドリル「楽しい発声のドリル」 1(あくび)喉の奥を空けて声を出すレッスン 2(ため息)喉の奥を脱力させて声を出すレッスン 3(犬のおなか)腹筋を使って声を出すレッスン ・VTRによる同ドリルの確認
5	発声の基本について③	○声とからだとの関係について ゼスチャーとアクションの違いについて ・「からだ語る」ということのワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」 ○幼児曲 ・歌詞(母国語)とメロディーとの関係について ・歌詞とイメージについて ・4分の2拍子の確認 スキップのリズム・16分音符についての説明
6	幼児曲を歌う①	○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す) ○幼児曲 ・「タヤケこやけ」「とんぼのめがね」4分の2拍子の確認 ・「どんぐりころころ」16分音符の確認 歌詞の注意(どんぐりころころどんぶりこ) ・「かえるの合唱」輪唱(カノン)の体験 合唱(ハモること)の基礎 歌詞のイメージをからだで表現
7	幼児曲を歌う②	○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す) ○幼児曲 ・「うみ」「こいのぼり」4分の3拍子のリズムあそび 歌詞のイメージとからだの広がり さまざまな伴奏形について ・「しゃぼんだま」リピートについての説明 歌詞について(野口雨情と中山晋平について) ○あそび歌「小さな畑」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	保育における歌と伴奏について① 小澤先生	○歌の伴奏をすることについて ・ピアノを歌わせることについて ・メロディーとプレスについて ・メロディーと拍頭について ・二段楽譜の伴奏法と三段楽譜の伴奏法について
9	保育における歌と伴奏について② 小澤先生	○即興伴奏の基礎 鍵盤上で伴奏の基礎を学ぶ ・主要三和音(カデンツ)についての説明とワーク ・移調奏についての説明とワーク
10	保育における歌と伴奏について③ 小澤先生	○即興演奏の基礎 テキスト「即興のためのピアノ伴奏」を使用したワーク ・リトミック的なピアノ伴奏(動きのためのピアノ)についての説明とワーク ・変奏やバリエーションについての説明と教師の模範演奏
11	幼児曲を子どもと歌う方法について①	○保育士の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲・生活のうた 「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」
12	幼児曲を子どもと歌う方法について②	○保育者の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)○幼児曲「かめの遠足」物(ペープサート等)を作って歌う 4分の3拍子のリズムあそびをする「ふうせん」「だから雨ふり」
13	幼児曲を子どもと歌う方法について③	○保育者の表現力 ・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲 ・「さんぽ」マーチのテンポをからだで覚える(120/1分)シェーカーで遊ぶ ・「とけいのうた」園行事と歌との関係について学ぶ 動いて遊ぶ ・「時計の歌」リトミックについて説明 動きとリズムについて
14	幼児曲を子どもと歌う方法について④	○保育者の役割 ・自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲 ・「うちゅうせんのうた」生活の中のアソビ歌について 他領域との接点 ・「アイアイ」ラテンのリズム(8ビート)についての説明 アイアイ(サル)についての理解と他領域との接点 ・「森のくまさん」交互唱についての説明 ・「山の音楽家」楽器を弾き動作をしながら歌う体験
15	I期授業のまとめ	○保育者の表現力について ・表現についての保育者としての二つの役割について ①自身が「表現者」として成長すること ②「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる 声を無理なく届かせる ○幼児曲を振り返って歌ってみる ・イメージを大切に歌う曲 ・リズムであそびながら歌う曲 ・物を使って歌う曲 ・交互唱の曲 ・カノン・対話の歌・ラテンのリズムで歌う曲 ・楽器を使っとうたう曲等
16	I期の振り返りとII期授業の説明	○からだと声の関係をもう一度振り返る。 ○II期授業の内容について ・子どもの発達の実態を踏まえた表現方法、音楽あそびについて学習する。 ・子どもの歌に対するピアノ伴奏の方法について⇒コードネームについて他。 ・我が国西洋音楽の黎明期を理解する。 ・幼稚園・保育園(所)における行事における音楽について学習する。
17	歌うことにおける想像力と働きかけ①	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 ○幼児曲 ・「にんげんっていいな」反復記号について(リピート・D.S.・Coda等)・総小節数を数える。 ・「ホ!ホ!ホ!」動作を付けたリズムあそびの体験・アフタービートについて・タイについて ・「バスごっこ」動作を付けたリズムあそびの体験
18	歌うことにおける想像力と働きかけ②	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 ○幼児曲 ・「おおきい木」詞のイメージをからだで感じて歌で表現するレッスン・変拍子について。 ・「きのこ」動作を付けたリズムあそびの体験 ・「十五夜さんのもちつき」「あんたがたどさ」わらべうたについて・動作を付けたリズムあそびの体験。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	歌うことにおける想像力と働きかけ③	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一年生になったら」「せんせいとおともだち」「めだかのがっこう」季節・行事と歌 ・「うれしいひなまつり」「たなばたさま」季節・行事と歌
20	保育における歌と伴奏について①小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
21	子どもの発達と音楽の役割り① 歌うことにおける想像力と働きかけ④	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等) <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あさやけゆうやけ」「ゆうやけこやけ」
22	子どもの発達と音楽の役割り② 歌うことにおける想像力と働きかけ⑤	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等) <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもいでアルバム」8分の6拍子について ・「みんなともだち」「ありがとう・さようなら」「空より高く」季節・行事と歌
23	歌うことにおける想像力と働きかけ⑥	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にじ」レシタティーポについて ・「あわてんぼうのサンタクロース」アウフタクト(弱起の曲)について ・「うさぎ野原のクリスマス」季節・行事と歌
24	保育における歌と伴奏について②小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
25	保育における歌と伴奏について③小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
26	歌うことにおける想像力と働きかけ⑦ 楽器の演奏法とあそびについて①	<p>○基本を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さよならマーチ」「お化けなんてないさ」「ふしぎなポケット」 <p>○楽器演奏法の基本について カスタネット・タンブリン・鈴・ウッドブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うさぎ野原のクリスマス」
27	歌うことにおける想像力と働きかけ⑧ 楽器の演奏法とあそびについて②	<p>○基本を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぶらんこ」「やぎさんゆうびん」「ありさんのおはなし」 <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三角とらいアングル」「カスタネットでチャチャチャ」「タンブリンの輪」
28	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 楽器の演奏法とあそびについて③	<p>○基本を見直す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」「世界中のこどもたちが」 <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて ミュージックベルとトーンチャイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小さな世界」「ドレミの歌」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 ○幼児曲 <ul style="list-style-type: none"> ・「そうだったらいいのにな」「おかあさん」「アイスクリームのうた」 1年間を通して学んだ内容について概括をたどり、2年次の授業や実習へ繋げていく。 振り返りレポート提出
30	期末試験への準備	<p>試験の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2人でペアをつくる。1人はピアノ（または別の楽器でも良い）、もう1人は歌をうたいながら表現的なパフォーマンスをする。 ○全員の前で演じ、また鑑賞することにより、それぞれの方法を学び、理解する。 上記内容についての準備をする。（試験は試験期間中に実施する。）

科目名	保育表現技術 音楽Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	三瓶 令子, 小澤 啓子			
開講期	通年			
授業概要	○子どもの生活における音楽的活動の意味を理解する。 ○保育者として子どもにこちよく届く声をつくる。 ○多くの歌唱曲(子どもの歌・あそび歌)にふれながら教材研究を行い、表現力を養う。 ○保育者として必要な音楽的基礎力を養う。			
達成目標	保育者となるために ①表現についての保育者の二つの役割りを、理解できたか。 ・自分自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること。 ②表現者としての声(無理なく届く声)を、どの程度つくることができたか。 ③子どもの表現に関わるピアノ伴奏が、どの程度弾けるようになったか。 ④幼児曲の6つのジャンルを理解し、どの程度表現できるようになったか。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	○レポートの内容 30点 ○期末試験 70点	
教科書	津布楽 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』ドレミ楽譜出版 2014年			
参考書	三瓶 令子・庄司 康生=編 古瀬 百合子外3名執筆 『表現者を育てる20のレッスン』 大学図書出版 2009年			
学生への要望	○授業の中で適宜資料(主に楽譜)を配布するので、各自ファイルを準備すること。 ○毎時間出席し、授業を通して体験的に学ぶこと。			
オフィスタイム	火・水曜日のⅢ・Ⅳ時限 841研究室			
自学自習	○事前・事後学修について 事前: シラバス記載の教材に必ず目を通して授業に臨むこと。 (1時間) 事後: 授業で取り上げた教材を必ず復習(歌う・弾く)し、講義内容(楽典・子どもの発達と音楽等)についてを整理しておくこと。 (1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(授業について理解し、心構えをつくる)	○カリキュラム内での授業の位置付けについて。(特に幼児教育における音楽の特性を中心に) ○あそび歌で楽しむ。(積み重ねあそび歌「かっこうのごあいさつ」)⇒音楽授業への緊張、先入観を取り除き、お互いのコミュニケーションを図る。 ○テキストの配布と説明。
2	保育における音楽とは	○保育の場での音楽の役割りについて ○歌と伴奏との関係について ○歌声とからだとの関係について(ゼスチャーとアクションの違いについて) ・幼児曲「とんぼのめがね」をサンプリングしてみる
3	基本となる音符と拍子について・発声の基本について①	○4分音符・2分音符・付点2分音符・8分音符についての説明とワーク ○4分の4・4分の3・4分の2拍子についての説明とワーク ○発声のためのワーク「ピッコロミニ」 ・リズム打ち・メロディー唱〜発声のワーク ・母音で歌う(パカラマナ・ピキリミニ・ブルムヌ・ペケレメネ・ポコロモノ)
4	発声の基本について②	○声と呼吸との関係について 息を吸うこと吐くことについて ・発声のワーク「ピッコロミニ」母音で歌う ・発声のドリル「楽しい発声のドリル」 1(あくび)喉の奥を空けて声を出すレッスン 2(ため息)喉の奥を脱力させて声を出すレッスン 3(犬のおなか)腹筋を使って声を出すレッスン ・VTRによる同ドリルの確認
5	発声の基本について③	○声とからだとの関係について ゼスチャーとアクションの違いについて ・「からだ語る」ということのワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」 ○幼児曲 ・歌詞(母国語)とメロディーとの関係について ・歌詞とイメージについて ・4分の2拍子の確認 スキップのリズム・16分音符についての説明
6	幼児曲を歌う①	○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す) ○幼児曲 ・「タヤけこやけ」「とんぼのめがね」4分の2拍子の確認 ・「どんぐりころころ」16分音符の確認 歌詞の注意(どんぐりころころどんぶりこ) ・「かえるの合唱」輪唱(カノン)の体験 合唱(ハモること)の基礎 歌詞のイメージをからだで表現
7	幼児曲を歌う②	○発声のワーク「ピッコロミニ」「楽しい発声のドリル1・2・3」動作を入れて歌う(毎回繰り返す) ○幼児曲 ・「うみ」「こいのぼり」4分の3拍子のリズムあそび 歌詞のイメージとからだの広がり さまざまな伴奏形について ・「しゃぼんだま」リピートについての説明 歌詞について(野口雨情と中山晋平について) ○あそび歌「小さな畑」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	保育における歌と伴奏について① 小澤先生	○歌の伴奏をすることについて ・ピアノを歌わせることについて ・メロディーとプレスについて ・メロディーと拍頭について ・二段楽譜の伴奏法と三段楽譜の伴奏法について
9	保育における歌と伴奏について② 小澤先生	○即興伴奏の基礎 鍵盤上で伴奏の基礎を学ぶ ・主要三和音(カデンツ)についての説明とワーク ・移調奏についての説明とワーク
10	保育における歌と伴奏について③ 小澤先生	○即興演奏の基礎 テキスト「即興のためのピアノ伴奏」を使用したワーク ・リトミック的なピアノ伴奏(動きのためのピアノ)についての説明とワーク ・変奏やバリエーションについての説明と教師の模範演奏
11	幼児曲を子どもと歌う方法について①	○保育士の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲・生活のうた 「あさのうた」「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」
12	幼児曲を子どもと歌う方法について②	○保育者の表現力・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク)○幼児曲「かめの遠足」物(ペープサート等)を作って歌う 4分の3拍子のリズムあそびをする「ふうせん」「だから雨ふり」
13	幼児曲を子どもと歌う方法について③	○保育者の表現力 ・保育者の役割 自身が「表現者」として成長すること「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲 ・「さんぽ」マーチのテンポをからだで覚える(120/1分)シェーカーで遊ぶ ・「とけいのうた」園行事と歌との関係について学ぶ 動いて遊ぶ ・「時計の歌」リトミックについて説明 動きとリズムについて
14	幼児曲を子どもと歌う方法について④	○保育者の役割 ・自身が「表現者」として成長すること ・「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる(声を無理なく届かせるワーク) ○幼児曲 ・「うちゅうせんのうた」生活の中のアソビ歌について 他領域との接点 ・「アイアイ」ラテンのリズム(8ビート)についての説明 アイアイ(サル)についての理解と他領域との接点 ・「森のくまさん」交互唱についての説明 ・「山の音楽家」楽器を弾き動作をしながら歌う体験
15	I期授業のまとめ	○保育者の表現力について ・表現についての保育者としての二つの役割について ①自身が「表現者」として成長すること ②「幼児の表現を育てる者」として成長すること ・表現者としての声を育てる 声を無理なく届かせる ○幼児曲を振り返って歌ってみる ・イメージを大切に歌う曲 ・リズムであそびながら歌う曲 ・物を使って歌う曲 ・交互唱の曲 ・カノン・対話の歌・ラテンのリズムで歌う曲 ・楽器を使っとうたう曲等
16	I期の振り返りとII期授業の説明	○からだと声の関係をもう一度振り返る。 ○II期授業の内容について ・子どもの発達の実態を踏まえた表現方法、音楽あそびについて学習する。 ・子どもの歌に対するピアノ伴奏の方法について⇒コードネームについて他。 ・我が国西洋音楽の黎明期を理解する。 ・幼稚園・保育園(所)における行事における音楽について学習する。
17	歌うことにおける想像力と働きかけ①	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 ○幼児曲 ・「にんげんっていいな」反復記号について(リピート・D.S.・Coda等)・総小節数を数える。 ・「ホ!ホ!ホ!」動作を付けたリズムあそびの体験・アフタービートについて・タイについて ・「バスごっこ」動作を付けたリズムあそびの体験
18	歌うことにおける想像力と働きかけ②	○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。 ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。 ○幼児曲 ・「おおきい木」詞のイメージをからだで感じて歌で表現するレッスン・変拍子について。 ・「きのこ」動作を付けたリズムあそびの体験 ・「十五夜さんのもちつき」「あんたがたどさ」わらべうたについて・動作を付けたリズムあそびの体験。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
19	歌うことにおける想像力と働きかけ③	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術をふかめていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一年生になったら」「せんせいとおともだち」「めだかのがっこう」季節・行事と歌 ・「うれしいひなまつり」「たなばたさま」季節・行事と歌
20	保育における歌と伴奏について①小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
21	子どもの発達と音楽の役割り① 歌うことにおける想像力と働きかけ④	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等) <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あさやけゆうやけ」「ゆうやけこやけ」
22	子どもの発達と音楽の役割り② 歌うことにおける想像力と働きかけ⑤	<p>○年齢に応じた音楽的な関わりについて学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手あそび・歌あそび・視覚的な物(ペープサート・パネルシアター・落とし絵・絵本等) <p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おもいでアルバム」8分の6拍子について ・「みんなともだち」「ありがとう・さようなら」「空より高く」季節・行事と歌
23	歌うことにおける想像力と働きかけ⑥	<p>○保育者が歌うことと、子どもが歌うことについてを把握する。</p> <p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが逮捕津であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「にじ」レシタティーポについて ・「あわてんぼうのサンタクロース」アウフタクト(弱起の曲)について ・「うさぎ野原のクリスマス」季節・行事と歌
24	保育における歌と伴奏について②小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
25	保育における歌と伴奏について③小澤先生	<p>○テキスト「表現のためのやさしいピアノ即興演奏」、各種プリントより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の場における即興演奏について(動きにおけるピアノ奏法) ・コードネームによる伴奏法について(歌の伴奏としてのピアノ奏法)Cコード・Fコード・Gコードについて ・効果音としてのピアノ奏法
26	歌うことにおける想像力と働きかけ⑦ 楽器の演奏法とあそびについて①	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「さよならマーチ」「お化けなんてないさ」「ふしぎなポケット」 <p>○楽器演奏法の基本について カスタネット・タンブリン・鈴・ウッドブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「うさぎ野原のクリスマス」
27	歌うことにおける想像力と働きかけ⑧ 楽器の演奏法とあそびについて②	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぶらんこ」「やぎさんゆうびん」「ありさんのおはなし」 <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「三角とらいアングル」「カスタネットでチャチャチャ」「タンブリンの輪」
28	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 楽器の演奏法とあそびについて③	<p>○基本を見直す。</p> <p>○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。</p> <p>○幼児曲</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「あめふりくまのこ」「いぬのおまわりさん」「世界中のこどもたちが」 <p>○楽器演奏法の基本とあそびについて ミュージックベルとトーンチャイム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小さな世界」「ドレミの歌」

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	歌うことにおける想像力と働きかけ⑨ 1年間のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> ○基本を見直す。 ○教師の想像力と働きかけが大切であることを踏まえ、自分自身の感性、技術を深めていく。 ○幼児曲 <ul style="list-style-type: none"> ・「そうだったらいいのにな」「おかあさん」「アイスクリームのうた」 1年間を通して学んだ内容について概括をたどり、2年次の授業や実習へ繋げていく。 振り返りレポート提出
30	期末試験への準備	<p>試験の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ○2人でペアをつくる。1人はピアノ（または別の楽器でも良い）、もう1人は歌をうたいながら表現的なパフォーマンスをする。 ○全員の前で演じ、また鑑賞することにより、それぞれの方法を学び、理解する。 上記内容についての準備をする。（試験は試験期間中に実施する。）

科目名	保育表現技術 音楽Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	磯部 哲夫、菅原 美謝			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>○保育表現技術音楽Ⅰ、保育表現技術器楽Ⅰ、で学んだ音楽の表現技術について、更に深めていく。</p> <p>○幼児の発達、創造性、感覚の実態を把握するとともに、実際に楽器や声を通して自身の創造性や即興性、伴奏法等を深めていく。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>○担当者は2名とし、隔週で展開する。</p> <p>①主に楽器あそびを主とした内容。</p> <p>②主に歌うことを主とした内容と、コードネームによる伴奏法についての内容。</p>			
達成目標	<p>①子どもの育ちやあそびの中で展開される楽器あそびや音楽表現を、どの程度理解、または実践できるようになったか。</p> <p>②保育実践において、子どもの表現に関わるピアノ伴奏がどの程度できるようになったか。</p> <p>③保育者としての声（無理なく届く声）をどの程度できるようになったか。</p>			
受講資格	短大幼児教育学科2年生	成績評価 方法	実技試験70%、授業取り組みへの意欲・態度30%	
教科書	『ポケットいっぱいのおうた』 鈴木恵津子著 教育芸術社 2011 『現場で生かせる幼児合奏』 三瓶令子ほか5名著 圭文社 2016 適宜プリントを配付			
参考書	特になし			
学生への要望	・菅原の授業は動きやすい服装を着用すること。 ・コードの仕組みを確実に修得し、瞬時に鍵盤で押さえられるように練習を重ねること。			
オフィスタイム	菅原：火曜日お昼、または放課後、83年館非常勤控室 磯部：月・水曜日のV限、木曜日のⅡ・Ⅳ限、芸術館No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：課題の楽曲に対し譜読み、楽器練習を行うこと（1時間） 復習：既習の楽曲に対し課題を整理して練習を行うこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業への心構えと形態について。 担当：磯部・菅原
2	発声法1、コードの押さえ方1	①腹式呼吸を身に付ける。 ②メジャーコード、マイナーコードの仕組みを理解する。 担当：磯部
3	楽器の扱い方	①楽器の扱い方を覚え、子どもの表現活動での楽器導入の方法を学ぶ。 ②簡単なリズムに慣れる。 担当：菅原
4	発声法2、コードの押さえ方2	①腹式呼吸、息の流し方を身に付ける。 ②メジャーコード、マイナーコードを鍵盤に置き換えてみる。 ③簡単な楽曲を演奏してみる。 担当：磯部
5	鍵盤ハーモニカ指導法	①保育現場での鍵盤ハーモニカ指導法を学ぶ。 ②小打楽器でのリズム打ちを中心とした簡単な合奏。 担当：菅原
6	発声法3、コードの押さえ方3	①腹式呼吸、息の流し方、共鳴を身に付ける。 ②コードの転回形を理解し、鍵盤に置き換えてみる。 ③簡単な楽曲を演奏してみる。 担当：磯部
7	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について①	①各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。 ②木琴、鉄琴、小打楽器による合奏。 担当：菅原
8	歌唱法1、弾き語り1	①楽曲に合ったフレー징の処理法を理解する。 ②童謡、ポピュラー音楽のコード演奏。 担当：磯部
9	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について②	①各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。 ②鍵盤ハーモニカ、音板楽器、小打楽器による合奏。 担当：菅原
10	歌唱法2、弾き語り2	①楽曲に合ったフレー징の処理法を理解する。 ②童謡、ポピュラー音楽のコードを使った弾き語り。 担当：磯部
11	簡単編曲と発表の環境設定	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考える。 担当：菅原
12	歌唱法3、弾き語り3	①楽曲に合ったフレー징の処理法を理解する。 ②童謡、ポピュラー音楽のコードを使った弾き語り。 担当：磯部
13	簡単編曲と発表の環境設定②	①子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考える。 ②グループごとにオリジナル合奏曲をつくる。 担当：菅原
14	まとめ	コードを使った弾き語りの発表。 担当：磯部
15	まとめ	①年齢に応じた音楽表現について整理する。 ②オリジナル合奏曲をグループごとに発表する。 担当：菅原

科目名	保育表現技術 音楽Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	磯部 哲夫、菅原 美謝			
開講期	Ⅲ			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>○保育表現技術音楽Ⅰ、保育表現技術器楽Ⅰ、で学んだ音楽の表現技術について、更に深めていく。</p> <p>○幼児の発達、創造性、感覚の実態を把握するとともに、実際に楽器や声を通して自身の創造性や即興性、伴奏法等を深めていく。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>○担当者は2名とし、隔週で展開する。</p> <p>①主に楽器あそびを主とした内容。</p> <p>②主に歌うことを主とした内容と、コードネームによる伴奏法についての内容。</p>			
達成目標	<p>①子どもの育ちやあそびの中で展開される楽器あそびや音楽表現を、どの程度理解、または実践できるようになったか。</p> <p>②保育実践において、子どもの表現に関わるピアノ伴奏がどの程度できるようになったか。</p> <p>③保育者としての声（無理なく届く声）をどの程度できるようになったか。</p>			
受講資格	短大幼児教育学科2年生	成績評価 方法	実技試験70%、授業取り組みへの意欲・態度30%	
教科書	『ポケットいっぱいのおうた』 鈴木恵津子著 教育芸術社 2011 『現場で生かせる幼児合奏』 三瓶令子ほか5名著 圭文社 2016 適宜プリントを配付			
参考書	特になし			
学生への要望	・菅原の授業は動きやすい服装を着用すること。 ・コードの仕組みを確実に修得し、瞬時に鍵盤で押さえられるように練習を重ねること。			
オフィスタイム	菅原：火曜日お昼、または放課後、83年館非常勤控室 磯部：月・水曜日のV限、木曜日のⅡ・Ⅳ限、芸術館No.1音楽科研究室			
自学自習	予習：課題の楽曲に対し譜読み、楽器練習を行うこと（1時間） 復習：既習の楽曲に対し課題を整理して練習を行うこと（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	授業への心構えと形態について。担当：磯部・菅原
2	発声法1、コードの押さえ方1	①腹式呼吸を身に付ける。 ②メジャーコード、マイナーコードの仕組みを理解する。 担当：磯部
3	楽器の扱い方	①楽器の扱い方を覚え、子どもの表現活動での楽器導入の方法を学ぶ。 ②簡単なリズムに慣れる。 担当：菅原
4	発声法2、コードの押さえ方2	①腹式呼吸、息の流し方を身に付ける。 ②メジャーコード、マイナーコードを鍵盤に置き換えてみる。 ③簡単な楽曲を演奏してみる。 担当：磯部
5	鍵盤ハーモニカ指導法	①保育現場での鍵盤ハーモニカ指導法を学ぶ。 ②小打楽器でのリズム打ちを中心とした簡単な合奏。 担当：菅原
6	発声法3、コードの押さえ方3	①腹式呼吸、息の流し方、共鳴を身に付ける。 ②コードの転回形を理解し、鍵盤に置き換えてみる。 ③簡単な楽曲を演奏してみる。 担当：磯部
7	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について①	①各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。 ②木琴、鉄琴、小打楽器による合奏。 担当：菅原
8	歌唱法1、弾き語り1	①楽曲に合ったフレー징の処理法を理解する。 ②童謡、ポピュラー音楽のコード演奏。 担当：磯部
9	3歳児、4歳児、5歳児の音楽表現について②	①各年齢に応じた指導法と音楽活動を実践する。 ②鍵盤ハーモニカ、音板楽器、小打楽器による合奏。 担当：菅原
10	歌唱法2、弾き語り2	①楽曲に合ったフレー징の処理法を理解する。 ②童謡、ポピュラー音楽のコードを使った弾き語り。 担当：磯部
11	簡単編曲と発表の環境設定	子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考える。担当：菅原
12	歌唱法3、弾き語り3	①楽曲に合ったフレー징の処理法を理解する。 ②童謡、ポピュラー音楽のコードを使った弾き語り。 担当：磯部
13	簡単編曲と発表の環境設定②	①子どもの曲を合奏用に編曲する方法を学ぶ。発表の環境設定について考える。 ②グループごとにオリジナル合奏曲をつくる。 担当：菅原
14	まとめ	コードを使った弾き語りの発表。 担当：磯部
15	まとめ	①年齢に応じた音楽表現について整理する。 ②オリジナル合奏曲をグループごとに発表する。 担当：菅原

科目名	保育表現技術 器楽Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	三瓶 令子、渡辺 桂子、小澤 啓子、鈴木 明美、佐久間 智子、加藤 幸恵、横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	<p>【ピアノ表現技術】 Ⅰ期は、ピアノ演奏の基礎技法を習得させ、豊かな音楽性を自主的に体得させることを目的とする。また授業は演奏技術のみの学習にとどまらず、音楽に対する興味、関心、即興力の伸長を優先させることを基本としたい。具体的目標は、個々のレベルに合わせた基礎的な技術（タッチ、音色、指の形、指使い等）の習得である。またⅡ期は、個々のピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、アンサンブルの力・またアンサンブルによる音楽の楽しさを体得させる内容を実践する。具体的目標は、幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲（おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類）を課題とする。ML授業については、4人1組のグループを作り、1曲を4人で合わせ、1コマに1曲仕上げる。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 ピアノ進度が比較的進んでいる学生は、ML授業に替えてハンドベル選択が可能である。ハンドベルを選択した学生は、アンサンブルに優れ、保育者となる学生には理想的な楽器である。ピアノとの平行履修となる。</p>			
達成目標	<p>個人レッスン ①学生各々ピアノ演奏の基礎技法の習得がどの程度できたか。 ②ピアノに対する恐怖心、不安感が解消できたか。 ③ピアノに対する興味、関心がどの位わいてきたか。</p> <p>ML授業（Ⅱ期より） ①4人のテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できるか ②ハーモニーの美しさを感じることができるか。 ③他の人の演奏を聴きながら、自分の演奏ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を感じ、協力して演奏できるか ②メロディーと伴奏のバランス、ハーモニーの美しさを感じられるか。 ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できるか。</p>			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)	
教科書	<p>【ピアノ】 吉野 幸男・三瓶 令子 外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版 2011年 その他プリント等</p> <p>【ハンドベル】 ベル用楽譜を入手し、適宜学生と相談の上選択</p>			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	<p>○毎時間休まないうでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分×6日＝3時間の自己練習をしてレッスンに臨むこと。 ○爪をカットし、髪の毛が前に下がらないようにまとめてくること。</p>			
オフィスタイム	月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控え室			
自学自習	<p>自学自習として 事前：課題として出された曲を必ず予習し、授業に臨むこと。 (毎日30分×6日＝3時間) 事後：レッスンを受けて指導された内容を復習し、次回のレッスンで再度確認を受ける事。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	(授業内容については、添付資料を参照してください。) ・器楽演習の授業形態の説明→Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・各グレード別のグループ分けの結果を受け、個人レッスンの担当者が決定する。 ・使用テキストの紹介。
2	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ①	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
3	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ②	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
4	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ③	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ④	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
6	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑤	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
7	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑥	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
8	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑦	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
9	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑧	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
10	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑨	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
11	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑩	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
12	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑪	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
13	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑫	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
14	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑬	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
15	I期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。
16	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験①	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
17	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験②	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 MLレッスン→4人でのアンサンブル体験

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験③	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
19	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験④	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
20	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑤	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
21	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑥	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
22	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑦	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
23	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑧	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
24	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑨	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
25	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑩	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
26	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑪	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
27	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑫	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
28	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑬	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
29	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑭	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
30	II期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。

科目名	保育表現技術 器楽Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	三瓶 令子、渡辺 桂子、小澤 啓子、佐久間 智子、加藤 幸恵、菅原 美謝、本橋 美恵子			
開講期	通年			
授業概要	<p>【ピアノ表現技術】 I期は、ピアノ演奏の基礎技法を習得させ、豊かな音楽性を自主的に体得させることを目的とする。また授業は演奏技術のみの学習にとどまらず、音楽に対する興味、関心、即興力の伸長を優先させることを基本としたい。具体的目標は、個々のレベルに合わせた基礎的な技術（タッチ、音色、指の形、指使い等）の習得である。またII期は、個々のピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、アンサンブルの力・またアンサンブルによる音楽の楽しさを体得させる内容を実践する。具体的目標は、幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲（おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類）を課題とする。ML授業については、4人1組のグループを作り、1曲を4人で合わせ、1コマに1曲仕上げる。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 ピアノ進度が比較的進んでいる学生は、ML授業に替えてハンドベル選択が可能である。ハンドベルを選択した学生は、アンサンブルに優れ、保育者となる学生には理想的な楽器である。ピアノとの平行履修となる。</p>			
達成目標	<p>個人レッスン ①学生各々ピアノ演奏の基礎技法の習得がどの程度できたか。 ②ピアノに対する恐怖心、不安感が解消できたか。 ③ピアノに対する興味、関心がどの位わいてきたか。</p> <p>ML授業（II期より） ①4人のテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できるか ②ハーモニーの美しさを感じることができるか。 ③他の人の演奏を聴きながら、自分の演奏ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を感じ、協力して演奏できるか ②メロディーと伴奏のバランス、ハーモニーの美しさを感じられるか。 ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できるか。</p>			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価方法	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)	
教科書	<p>【ピアノ】 吉野 幸男・三瓶 令子 外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版 2011年 その他プリント等</p> <p>【ハンドベル】 ベル用楽譜を入手し、適宜学生と相談の上選択</p>			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分×6日＝3時間の自己練習をしてレッスンに臨むこと。 ○爪をカットし、髪の毛が前に下がらないようにまとめてくること。</p>			
オフィスタイム	月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控え室			
自学自習	<p>自学自習として 事前：課題として出された曲を必ず予習し、授業に臨むこと。 (毎日30分×6日＝3時間) 事後：レッスンを受けて指導された内容を復習し、次回のレッスンで再度確認を受ける事。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	(授業内容については、添付資料を参照してください。) ・器楽演習の授業形態の説明→Iコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・各グレード別のグループ分けの結果を受け、個人レッスンの担当者が決定する。 ・使用テキストの紹介。
2	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ①	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
3	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ②	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
4	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ③	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ④	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
6	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
7	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
8	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
9	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
10	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
11	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
12	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
13	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
14	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
15	I期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。
16	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 ・幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
17	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 ・幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験③	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
19	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験④	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
20	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑤	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
21	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑥	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
22	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑦	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
23	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑧	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
24	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑨	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
25	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑩	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
26	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑪	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
27	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑫	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
28	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑬	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
29	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑭	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
30	II期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。

科目名	保育表現技術 器楽Ⅰ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	三瓶 令子、渡辺 桂子、小澤 啓子、鈴木 明美、佐久間 智子、加藤 幸恵、横溝 聡子			
開講期	通年			
授業概要	<p>【ピアノ表現技術】 Ⅰ期は、ピアノ演奏の基礎技法を習得させ、豊かな音楽性を自主的に体得させることを目的とする。また授業は演奏技術のみの学習にとどまらず、音楽に対する興味、関心、即興力の伸長を優先させることを基本としたい。具体的目標は、個々のレベルに合わせた基礎的な技術（タッチ、音色、指の形、指使い等）の習得である。またⅡ期は、個々のピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、アンサンブルの力・またアンサンブルによる音楽の楽しさを体得させる内容を実践する。具体的目標は、幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲（おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類）を課題とする。ML授業については、4人1組のグループを作り、1曲を4人で合わせ、1コマに1曲仕上げる。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 ピアノ進度が比較的進んでいる学生は、ML授業に替えてハンドベル選択が可能である。ハンドベルを選択した学生は、アンサンブルに優れ、保育者となる学生には理想的な楽器である。ピアノとの平行履修となる。</p>			
達成目標	<p>個人レッスン ①学生各々ピアノ演奏の基礎技法の習得がどの程度できたか。 ②ピアノに対する恐怖心、不安感が解消できたか。 ③ピアノに対する興味、関心がどの位わいてきたか。</p> <p>ML授業（Ⅱ期より） ①4人のテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できるか ②ハーモニーの美しさを感じることができるか。 ③他の人の演奏を聴きながら、自分の演奏ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を感じ、協力して演奏できるか ②メロディーと伴奏のバランス、ハーモニーの美しさを感じられるか。 ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できるか。</p>			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価方法	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験（2回）での評価60点（各30点）	
教科書	<p>【ピアノ】 吉野 幸男・三瓶 令子 外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版 2011年 その他プリント等</p> <p>【ハンドベル】 ベル用楽譜を入手し、適宜学生と相談の上選択</p>			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	<p>○毎時間休まないうでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分×6日＝3時間の自己練習をしてレッスンに臨むこと。 ○爪をカットし、髪の毛が前に下がらないようにまとめてくること。</p>			
オフィスタイム	月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控え室			
自学自習	<p>自学自習として 事前：課題として出された曲を必ず予習し、授業に臨むこと。 （毎日30分×6日＝3時間） 事後：レッスンを受けて指導された内容を復習し、次回のレッスンで再度確認を受ける事。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<p>(授業内容については、添付資料を参照してください。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・器楽演習の授業形態の説明→Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・各グレード別のグループ分けの結果を受け、個人レッスンの担当者が決定する。 ・使用テキストの紹介。
2	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ①	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
3	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ②	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
4	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ③	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法（タッチ、音色、指の形、指使い等）を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・Ⅰ期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ④	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
6	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑤	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
7	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑥	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
8	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑦	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
9	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑧	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
10	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑨	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
11	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑩	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
12	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑪	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
13	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑫	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
14	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑬	<ul style="list-style-type: none"> 各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1~24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
15	I期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。
16	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験①	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
17	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験②	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 MLレッスン→4人でのアンサンブル体験

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験③	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
19	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験④	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
20	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑤	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
21	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑥	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
22	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑦	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
23	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑧	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
24	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑨	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
25	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑩	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
26	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑪	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
27	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑫	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
28	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑬	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
29	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑭	・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
30	II期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。

科目名	保育表現技術 器楽 I		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 1単位 選択
担当教員	三瓶 令子、渡辺 桂子、小澤 啓子、佐久間 智子、加藤 幸恵、菅原 美謝、本橋 美恵子			
開講期	通年			
授業概要	<p>【ピアノ表現技術】 I期は、ピアノ演奏の基礎技法を習得させ、豊かな音楽性を自主的に体得させることを目的とする。また授業は演奏技術のみの学習にとどまらず、音楽に対する興味、関心、即興力の伸長を優先させることを基本としたい。具体的目標は、個々のレベルに合わせた基礎的な技術（タッチ、音色、指の形、指使い等）の習得である。またII期は、個々のピアノ演奏の基本技術を向上させると同時に、アンサンブルの力・またアンサンブルによる音楽の楽しさを体得させる内容を実践する。具体的目標は、幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲（おはようのうた2種類・おべんとう・おかえりのうた2種類）を課題とする。ML授業については、4人1組のグループを作り、1曲を4人で合わせ、1コマに1曲仕上げる。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 ピアノ進度が比較的進んでいる学生は、ML授業に替えてハンドベル選択が可能である。ハンドベルを選択した学生は、アンサンブルに優れ、保育者となる学生には理想的な楽器である。ピアノとの平行履修となる。</p>			
達成目標	<p>個人レッスン ①学生各々ピアノ演奏の基礎技法の習得がどの程度できたか。 ②ピアノに対する恐怖心、不安感が解消できたか。 ③ピアノに対する興味、関心がどの位わいてきたか。</p> <p>ML授業（II期より） ①4人のテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できるか ②ハーモニーの美しさを感じることができるか。 ③他の人の演奏を聴きながら、自分の演奏ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を感じ、協力して演奏できるか ②メロディーと伴奏のバランス、ハーモニーの美しさを感じられるか。 ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できるか。</p>			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価方法	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)	
教科書	<p>【ピアノ】 吉野 幸男・三瓶 令子 外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版 2011年 その他プリント等</p> <p>【ハンドベル】 ベル用楽譜を入手し、適宜学生と相談の上選択</p>			
参考書	進度に合わせて、適宜楽譜を紹介する。			
学生への要望	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○毎日最低30分×6日＝3時間の自己練習をしてレッスンに臨むこと。 ○爪をカットし、髪の毛が前に下がらないようにまとめてくること。</p>			
オフィスタイム	月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控え室			
自学自習	<p>自学自習として 事前：課題として出された曲を必ず予習し、授業に臨むこと。 (毎日30分×6日＝3時間) 事後：レッスンを受けて指導された内容を復習し、次回のレッスンで再度確認を受ける事。</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	(授業内容については、添付資料を参照してください。) ・器楽演習の授業形態の説明→Iコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・各グレード別のグループ分けの結果を受け、個人レッスンの担当者が決定する。 ・使用テキストの紹介。
2	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ①	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
3	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ②	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
4	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ③	・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ④	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
6	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
7	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
8	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑦	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
9	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑧	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
10	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑨	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
11	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑩	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
12	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑪	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
13	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑫	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
14	基礎的なピアノ演奏法を学ぶ⑬	<ul style="list-style-type: none"> ・各人の進度に合わせて、基礎的な技法(タッチ、音色、指の形、指使い等)を習得する。 ・テキスト「ピアノテキスト」のLesson 1～24の内容について、個人の進度に合わせたグレートレッスンを。 ・進度の進んでいる学生は、上記テキストの応用[その1]参考曲・応用[その2]表現のための音楽の内容をレッスンする。 ・I期の15回は、MLレッスンを個人レッスンの準備、または振り返りとする。
15	I期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。
16	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 ・幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
17	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 ・幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 ・MLレッスン→4人でのアンサンブル体験

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験③	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
19	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験④	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
20	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑤	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
21	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑥	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう、おかえりのうた2種類)を課題とする。 MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
22	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑦	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
23	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑧	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
24	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑨	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
25	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑩	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
26	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑪	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
27	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑫	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
28	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑬	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
29	個々のピアノ演奏の基本技術の向上と、複数でのアンサンブル体験⑭	<ul style="list-style-type: none"> 個人レッスン→I期テキスト内容の継続したレッスンによる基本技術の向上。 幼稚園・保育所での生活のための曲を6曲(おはようのうた2種類・おべんとう MLレッスン→4人でのアンサンブル体験
30	II期のまとめ、及び確認	15回のレッスンを通して得た奏法を振り返り、確認テストの準備をする。

科目名	保育表現技術 器楽Ⅱ		
担当教員	三瓶 令子、小澤 啓子、鈴木明美、加藤 幸恵、本橋 美恵子、佐久間 智子	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
開講期	通年		
授業概要	<p>【ピアノ表現技術】 Ⅲ期は、ピアノ演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそべる演奏、即興力、応用力の伸長をはかることを目標とする。またⅣ期では、教育実習・保育実習をすべて終えたことを踏まえ、これまで学んだことを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそぶことができる演奏、即興力、応用力の伸長を図ることを目的とする。 ML授業については、アンサンブル力の更なる向上と、コードネーム等による即興伴奏法を学ぶ。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 Ⅰ・Ⅱ期でハンドベルを選択した学生は、更にベルの演奏方法やアンサンブル力を深める。また地域ボランティア活動等に出向き本学幼児教育学生として、地域交流を図る。</p>		
達成目標	<p>個人レッスン ①幼児曲の弾き歌いに於いて、歌を生かす伴奏が出来るか。 ②幼児曲の曲想をイメージして歌うことが出来るか。 ③簡単な曲で子どもとあそぶことが出来るか。</p> <p>ML授業 ①他の人のテンポやリズム感に共感し、協力して演奏できるか。 ②コードネーム等による即興伴奏法ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニーの美しさを感じられる ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。</p>		
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)
教科書	<p>吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版社 2011 津布 崇 杏里・桑原 章草 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 2014年 の中から選択</p>		
参考書	個人に合わせて適宜使用する		
学生への要望	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○爪をきちんと切ってくること。 ○髪の毛は、下がらないようにまとめてくること。</p>		
オフィスタイム	<p>月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控入室</p>		
自学自習	<p>○事前・事後学修について 事前：課題として出された曲を必ず予習し、授業に臨むこと。 (毎日30分×6日=3時間) 事後：レッスンを受けて指導された内容を復習し、次回のレッスンで再度確認を受ける事。 (毎日30分×6日=3時間)</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	春休みの課題(幼児曲の弾き歌い)確認	・ピアノ担当教員全員の前で、春休みの課題(幼児曲15曲)の中から1曲を弾き歌いする。
2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の担当教員を入れ替える。 ・授業形態は、1年次同様Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行事のうた(8曲) 季節のうた(10曲) その他(24曲) ・授業方法は、1年次で学んだ基礎的内容をもとに、上記幼児曲(43曲)の弾き歌いができるようにする。
3	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
4	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
5	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験③	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
6	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験④	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
7	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。

科目名	保育表現技術 器楽Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	三瓶 令子			
開講期	通年			
授業概要	<p>【ピアノ表現技術】 Ⅲ期は、ピアノ演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそべる演奏、即興力、応用力の伸長をはかることを目標とする。またⅣ期では、教育実習・保育実習をすべて終えたことを踏まえ、これまで学んだことを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそぶことができる演奏、即興力、応用力の伸長を図ることを目的とする。 ML授業については、アンサンブル力の更なる向上と、コードネーム等による即興伴奏法を学ぶ。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 Ⅰ・Ⅱ期でハンドベルを選択した学生は、更にベルの演奏方法やアンサンブル力を深める。また地域ボランティア活動等に出向き本学幼児教育学生として、地域交流を図る。</p>			
達成目標	<p>個人レッスン ①幼児曲の弾き歌いに於いて、歌を生かす伴奏が出来るか。 ②幼児曲の曲想をイメージして歌うことが出来るか。 ③簡単な曲で子どもとあそぶことが出来るか。</p> <p>ML授業 ①他の人のテンポやリズム感に共感し、協力して演奏できるか。 ②コードネーム等による即興伴奏法ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニーの美しさを感じられる ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)	
教科書	<p>吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版社 2011 津布 奈 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 2014年 の中から選択</p>			
参考書	個人に合わせて適宜使用する			
学生への要望	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○爪をきちんと切ってくること。 ○髪の毛は、下がらないようにまとめてくること。</p>			
オフィスタイム	<p>月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控え室</p>			
自学自習	<p>○事前・事後学修について 事前：課題として出された曲を必ず予習し、授業に臨むこと。 (毎日30分×6日=3時間) 事後：レッスンを受けて指導された内容を復習し、次回のレッスンで再度確認を受ける事。 (毎日30分×6日=3時間)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	春休みの課題(幼児曲の弾き歌い)確認	・ピアノ担当教員全員の前で、春休みの課題(幼児曲15曲)の中から1曲を弾き歌いする。
2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の担当教員を入れ替える。 ・授業形態は、1年次同様Iコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行事のうた(8曲) 季節のうた(10曲) その他(24曲) ・授業方法は、1年次で学んだ基礎的内容をもとに、上記幼児曲(43曲)の弾き歌いができるようにする。
3	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験 ①	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
4	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験 ②	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
5	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験 ③	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
6	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験 ④	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
7	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験 ⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
8	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験 ⑥	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。

科目名	保育表現技術 器楽Ⅱ		
担当教員	三瓶 令子、小澤 啓子、鈴木明美、加藤 幸恵、本橋 美恵子、佐久間 智子	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
開講期	通年		
授業概要	<p>【ピアノ表現技術】 Ⅲ期は、ピアノ演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそべる演奏、即興力、応用力の伸長をはかることを目標とする。またⅣ期では、教育実習・保育実習をすべて終えたことを踏まえ、これまで学んだことを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそぶことができる演奏、即興力、応用力の伸長を図ることを目的とする。 ML授業については、アンサンブル力の更なる向上と、コードネーム等による即興伴奏法を学ぶ。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 Ⅰ・Ⅱ期でハンドベルを選択した学生は、更にベルの演奏方法やアンサンブル力を深める。また地域ボランティア活動等に出向き本学幼児教育学生として、地域交流を図る。</p>		
達成目標	<p>個人レッスン ①幼児曲の弾き歌いに於いて、歌を生かす伴奏が出来るか。 ②幼児曲の曲想をイメージして歌うことが出来るか。 ③簡単な曲で子どもとあそぶことが出来るか。</p> <p>ML授業 ①他の人のテンポやリズム感に共感し、協力して演奏できるか。 ②コードネーム等による即興伴奏法ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニーの美しさを感じられる ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。</p>		
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)
教科書	<p>吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版社 2011 津布 崇 杏里・桑原 章草 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』 全国大学音楽教育学会 編著 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 2014年 の中から選択</p>		
参考書	個人に合わせて適宜使用する		
学生への要望	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○爪をきちんと切ってくること。 ○髪の毛は、下がらないようにまとめてくること。</p>		
オフィスタイム	<p>月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控入室</p>		
自学自習	<p>○事前・事後学修について 事前：課題として出された曲を必ず予習し、授業に臨むこと。 (毎日30分×6日=3時間) 事後：レッスンを受けて指導された内容を復習し、次回のレッスンで再度確認を受ける事。 (毎日30分×6日=3時間)</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	春休みの課題(幼児曲の弾き歌い)確認	・ピアノ担当教員全員の前で、春休みの課題(幼児曲15曲)の中から1曲を弾き歌いする。
2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の担当教員を入れ替える。 ・授業形態は、1年次同様Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行事のうた(8曲) 季節のうた(10曲) その他(24曲) ・授業方法は、1年次で学んだ基礎的内容をもとに、上記幼児曲(43曲)の弾き歌いができるようにする。
3	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
4	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
5	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験③	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
6	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験④	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
7	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパトリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。

科目名	保育表現技術 器楽Ⅱ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	三瓶 令子, 渡辺 桂子, 小澤 啓子, 鈴木 明美, 本橋 美恵子			
開講期	通年			
授業概要	<p>【ピアノ表現技術】 Ⅲ期は、ピアノ演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそべる演奏、即興力、応用力の伸長をはかることを目標とする。またⅣ期では、教育実習・保育実習をすべて終えたことを踏まえ、これまで学んだことを基盤に置き、演奏技術のみの学習に留まらず、子どもの発達に応じてピアノであそぶことが出来る演奏、即興力、応用力の伸長を図ることを目的とする。 ML授業については、アンサンブル力の更なる向上と、コードネーム等による即興伴奏法を学ぶ。</p> <p>【ハンドベル表現技術】 Ⅰ・Ⅱ期でハンドベルを選択した学生は、更にベルの演奏方法やアンサンブル力を深める。また地域ボランティア活動等に向き本学幼児教育学生として、地域交流を図る。</p>			
達成目標	<p>個人レッスン ①幼児曲の弾き歌いに於いて、歌を生かす伴奏が出来るか。 ②幼児曲の曲想をイメージして歌うことが出来るか。 ③簡単な曲で子どもとあそぶことが出来るか。</p> <p>ML授業 ①他の人のテンポやリズム感到共感し、協力して演奏できるか。 ②コードネーム等による即興伴奏法ができるか。</p> <p>ハンドベル ①11人でテンポやリズム感等を共感し、協力して演奏できる。 ②メロディーと伴奏のバランスハーモニーの美しさを感じられる ③ハンドベル奏法を理解し、周りの人との調和を取りながら自己表現できる。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	毎授業でのレッスン成果40点 定期試験(2回)での評価60点(各30点)	
教科書	<p>吉野 幸男・三瓶 令子外10名 執筆・編集者 『ピアノテキスト』ドレミ楽譜出版社 2011 津布 幸 杏里・桑原 章寧 共著 『保育・教育の現場で使える! 弾き歌いピアノ曲集』 全国大学音楽教育学会 編者 『明日へ歌い継ぐ 日本の子どもの歌—唱歌童謡140年の歩み』音楽之友社 2014年 の中から選択</p>			
参考書	個人に合わせて適宜使用する			
学生への要望	<p>○毎時間休まないでレッスンを受けること。 ○爪をきちんと切ってくること。 ○髪の毛は、下がらないようにまとめてくること。</p>			
オフィスタイム	月曜日・金曜日：お昼休み 場所：83年館4F 非常動控入室			
自学自習	<p>○事前・事後学修について 事前：課題として出された曲を必ず予習し、授業に臨むこと。 (毎日30分×6日=3時間) 事後：レッスンを受けて指導された内容を復習し、次回のレッスンで再度確認を受ける事。 (毎日30分×6日=3時間)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	春休みの課題(幼児曲の弾き歌い)確認	・ピアノ担当教員全員の前で、春休みの課題(幼児曲15曲)の中から1曲を弾き歌いする。
2	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次の担当教員を入れ替える。 ・授業形態は、1年次同様Ⅰコマ90分を45分ずつに分割し、個人レッスンとMLのレッスンとする。 ・授業内容については、添付資料(参考曲)を参照する。行事のうた(8曲) 季節のうた(10曲) その他(24曲) ・授業方法は、1年次で学んだ基礎的内容をもとに、上記幼児曲(43曲)の弾き歌いができるようにする。
3	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験①	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
4	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験②	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
5	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験③	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
6	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験④	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。
7	幼児曲の弾きうたいレパトリーを増やす MLによるアンサンブル・即興演奏体験⑤	<ul style="list-style-type: none"> ・個人レッスン→個人の進度に合わせて、上記幼児曲の弾き歌いをし、レパートリーを増やす。 ・進度の進んでいる学生は、極力原曲での伴奏に挑戦する。 ・MLレッスン→アンサンブル体験、及びコードネーム等による即興演奏体験をする。

科目名	保育表現技術 体育Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	柴田 卓			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①幼児体育・運動遊びを実践し、その意義を理解する。 ②実践を通して計画方法・指導方法・評価方法を理解する。 ③授業の振り返りを通して、指導のポイントや安全面についての理解を深め、実践的なスキルを習得する。 [授業全体の概要] 実技や講義を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた指導のポイントや安全面、環境設定を学習するために、ロールプレイやケーススタディを多く実施する。また、ポートフォリオを活用した振り返りによって、専門性や実践力を高める。			
達成目標	①幼児期の運動・健康について理解する。 ②幼児体育の指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③幼体体育・運動遊びを子どもと保育者の目線で実践し、その意味と価値を理解する。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	ノート50点 実技20点 レポート20点 平常点10点	
教科書	柴田卓 石森真由子編, 楽しく学ぶ運動遊びのすすめ-ポートフォリオを活用した保育実践力の探求-, みらい, 2017			
参考書	幼児期運動指針策定委員会, 幼児期運動指針ガイドブック, 文部科学省, 2013			
学生への要望	テキスト、筆記用具を持参すること 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること			
オフィスタイム	月曜日3・4時限 金曜日3・4時限 824研究室			
自学自習	復習60分 テキスト内のポートフォリオに学習したこと記入する。 予習30分 その中できづいた疑問や課題を自身で調べ、次回の内容と関連するページを読み込んでおくこと			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション (体育館)	授業の目的と概要・評価方法・準備物を確認する。
2	アイスブレイクと準備体操	遊びを通してより良い関係性を築く手法を理解する。 幼児期における準備体操の意義と手法を理解する。
3	道具を使わない遊びⅠ	鬼遊びの導入・展開・発展方法を理解する。 (じゃんけんゲームや伝承遊びなど)
4	道具を使わない遊びⅡ	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解する。(協力・コミュニケーションスキルなど)
5	道具を使った遊びⅠ	ボールを使ったチャレンジ遊びを理解する。
6	道具を使った遊びⅡ	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解する
7	グループ演習① (集団遊びの制作)	グループでオリジナルの集団遊びを作成する。(グループワーク)
8	グループ演習② (集団遊びの発表)	作成した遊びを発表・実践し評価する。(ロールプレイ) 第1回ノート提出
9	ドッジボールの導入方法	一斉指導における説明の方法とドッジボールにおける導入について学習する。
10	ドッジボールの展開・評価方法	ドッジボールの展開方法および勝敗の扱い方を学習する。
11	グループ演習③ (リズム体操)	子ども向けの音楽を選択し、振り付けを考える。
12	グループ演習④ (リズム体操)	リズム体操の作成を通して、子どもが楽しめる動作と指導言語を理解する。
13	グループ演習⑤ (リズム体操)	リズム体操の発表 (ロールプレイ)
14	親子体操	親子体操の種目と展開方法について理解する。
15	講義 (教室)	自分たちの発表したリズム体操の映像を見ながら、お互いに評価を行う。
16	縄跳び	短・長縄跳びを使った遊びを理解する。(単・長縄跳びの導入・展開)
17	外遊び	外でダイナミックに遊ぶ方法と留意点を理解する。
18	跳箱Ⅰ	跳箱を使った遊びを理解する。(跳箱を使った遊びの導入・展開)
19	跳箱Ⅱ	跳箱の技術と指導のポイントを理解する。(跳箱の指導法と留意点)
20	マットⅠ	マットを使った遊びを理解する。(マットを使った遊びの導入・展開)
21	マットⅡ	マット運動の技術と指導のポイントを理解する。(前転・後転・側転の指導法)
22	グループ演習⑥ (リスクマネジメント)	マット・跳箱・トランポリンの指導を通して、運動遊びにおけるリスクマネジメントと安全教育について理解する。第3回ノート提出
23	運動会種目Ⅰ	徒競走・リレー・障害物競争の導入・展開方法について理解する。
24	運動会種目Ⅱ	年中児の発表種目について理解する。(バルーン演技等)
25	運動会種目Ⅲ	年長児の発表種目について理解する。(組体操の演技等)
26	伝承遊び	はないちもんめなど伝承遊びや歌遊びを理解する。
27	グループ演習⑦ (実習計画・準備)	実習で実施できる運動遊び(場所・道具・ルール)を考え、指導案を作成する。
28	グループ演習⑧ (実習計画・準備)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	グループ演習⑨(実習計画・準備)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。
30	まとめ	保育における運動遊びの意義について、1年間を振り返りながらレポートを作成する。第4回ノート提出

科目名	保育表現技術 体育Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	柴田 卓			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①幼児体育・運動遊びを実践し、その意義を理解する。 ②実践を通して計画方法・指導方法・評価方法を理解する。 ③授業の振り返りを通して、指導のポイントや安全面についての理解を深め、実践的なスキルを習得する。 [授業全体の内容の概要] 実技や講義を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた指導のポイントや安全面、環境設定を学習するために、ロールプレイやケーススタディを多く実施する。また、ポートフォリオを活用した振り返りによって、専門性や実践力を高める。			
達成目標	①幼児期の運動・健康について理解する。 ②幼児体育の指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③幼体体育・運動遊びを子どもと保育者の目線で実践し、その意味と価値を理解する。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	ノート50点 実技20点 レポート20点 平常点10点	
教科書	柴田卓 石森真由子編, 楽しく学ぶ運動遊びのすすめ-ポートフォリオを活用した保育実践力の探求-, みらい, 2017			
参考書	幼児期運動指針策定委員会, 幼児期運動指針ガイドブック, 文部科学省, 2013			
学生への要望	テキスト、筆記用具を持参すること 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること			
オフィスタイム	月曜日3・4時限 金曜日3・4時限 824研究室			
自学自習	復習60分 テキスト内のポートフォリオに学習したこと記入する。 予習30分 その中できづいた疑問や課題を自身で調べ、次回の内容と関連するページを読み込んでおくこと			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション (体育館)	授業の目的と概要・評価方法・準備物を確認する。
2	アイスブレイクと準備体操	遊びを通してより良い関係性を築く手法を理解する。 幼児期における準備体操の意義と手法を理解する。
3	道具を使わない遊びⅠ	鬼遊びの導入・展開・発展方法を理解する。 (じゃんけんゲームや伝承遊びなど)
4	道具を使わない遊びⅡ	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解する。(協力・コミュニケーションスキルなど)
5	道具を使った遊びⅠ	ボールを使ったチャレンジ遊びを理解する。
6	道具を使った遊びⅡ	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解する
7	グループ演習① (集団遊びの制作)	グループでオリジナルの集団遊びを作成する。(グループワーク)
8	グループ演習② (集団遊びの発表)	作成した遊びを発表・実践し評価する。(ロールプレイ) 第1回ノート提出
9	ドッジボールの導入方法	一斉指導における説明の方法とドッジボールにおける導入について学習する。
10	ドッジボールの展開・評価方法	ドッジボールの展開方法および勝敗の扱い方を学習する。
11	グループ演習③ (リズム体操)	子ども向けの音楽を選択し、振り付けを考える。
12	グループ演習④ (リズム体操)	リズム体操の作成を通して、子どもが楽しめる動作と指導言語を理解する。
13	グループ演習⑤ (リズム体操)	リズム体操の発表 (ロールプレイ)
14	親子体操	親子体操の種目と展開方法について理解する。
15	講義 (教室)	自分たちの発表したリズム体操の映像を見ながら、お互いに評価を行う。
16	縄跳び	短・長縄跳びを使った遊びを理解する。(単・長縄跳びの導入・展開)
17	外遊び	外でダイナミックに遊ぶ方法と留意点を理解する。
18	跳箱Ⅰ	跳箱を使った遊びを理解する。(跳箱を使った遊びの導入・展開)
19	跳箱Ⅱ	跳箱の技術と指導のポイントを理解する。(跳箱の指導法と留意点)
20	マットⅠ	マットを使った遊びを理解する。(マットを使った遊びの導入・展開)
21	マットⅡ	マット運動の技術と指導のポイントを理解する。(前転・後転・側転の指導法)
22	グループ演習⑥ (リスクマネジメント)	マット・跳箱・トランポリンの指導を通して、運動遊びにおけるリスクマネジメントと安全教育について理解する。第3回ノート提出
23	運動会種目Ⅰ	徒競走・リレー・障害物競争の導入・展開方法について理解する。
24	運動会種目Ⅱ	年中児の発表種目について理解する。(バルーン演技等)
25	運動会種目Ⅲ	年長児の発表種目について理解する。(組体操の演技等)
26	伝承遊び	はないちもんめなど伝承遊びや歌遊びを理解する。
27	グループ演習⑦ (実習計画・準備)	実習で実施できる運動遊び(場所・道具・ルール)を考え、指導案を作成する。
28	グループ演習⑧ (実習計画・準備)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	グループ演習⑨(実習計画・準備)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。
30	まとめ	保育における運動遊びの意義について、1年間を振り返りながらレポートを作成する。第4回ノート提出

科目名	保育表現技術 体育Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	柴田 卓			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①幼児体育・運動遊びを実践し、その意義を理解する。 ②実践を通して計画方法・指導方法・評価方法を理解する。 ③授業の振り返りを通して、指導のポイントや安全面についての理解を深め、実践的なスキルを習得する。 [授業全体の概要] 実技や講義を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた指導のポイントや安全面、環境設定を学習するために、ロールプレイやケーススタディを多く実施する。また、ポートフォリオを活用した振り返りによって、専門性や実践力を高める。			
達成目標	①幼児期の運動・健康について理解する。 ②幼児体育の指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③幼体体育・運動遊びを子どもと保育者の目線で実践し、その意味と価値を理解する。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	ノート50点 実技20点 レポート20点 平常点10点	
教科書	柴田卓 石森真由子編, 楽しく学ぶ運動遊びのすすめ-ポートフォリオを活用した保育実践力の探求-, みらい, 2017			
参考書	幼児期運動指針策定委員会, 幼児期運動指針ガイドブック, 文部科学省, 2013			
学生への要望	テキスト、筆記用具を持参すること 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること			
オフィスタイム	月曜日3・4時限 金曜日3・4時限 824研究室			
自学自習	復習60分 テキスト内のポートフォリオに学習したこと記入する。 予習30分 その中できづいた疑問や課題を自身で調べ、次回の内容と関連するページを読み込んでおくこと			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション (体育館)	授業の目的と概要・評価方法・準備物を確認する。
2	アイスブレイクと準備体操	遊びを通してより良い関係性を築く手法を理解する。 幼児期における準備体操の意義と手法を理解する。
3	道具を使わない遊びⅠ	鬼遊びの導入・展開・発展方法を理解する。 (じゃんけんゲームや伝承遊びなど)
4	道具を使わない遊びⅡ	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解する。(協力・コミュニケーションスキルなど)
5	道具を使った遊びⅠ	ボールを使ったチャレンジ遊びを理解する。
6	道具を使った遊びⅡ	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解する
7	グループ演習①(集団遊びの制作)	グループでオリジナルの集団遊びを作成する。(グループワーク)
8	グループ演習②(集団遊びの発表)	作成した遊びを発表・実践し評価する。(ロールプレイ) 第1回ノート提出
9	ドッジボールの導入方法	一斉指導における説明の方法とドッジボールにおける導入について学習する。
10	ドッジボールの展開・評価方法	ドッジボールの展開方法および勝敗の扱い方を学習する。
11	グループ演習③(リズム体操)	子ども向けの音楽を選択し、振り付けを考える。
12	グループ演習④(リズム体操)	リズム体操の作成を通して、子どもが楽しめる動作と指導言語を理解する。
13	グループ演習⑤(リズム体操)	リズム体操の発表(ロールプレイ)
14	親子体操	親子体操の種目と展開方法について理解する。
15	講義(教室)	自分たちの発表したリズム体操の映像を見ながら、お互いに評価を行う。
16	縄跳び	短・長縄跳びを使った遊びを理解する。(単・長縄跳びの導入・展開)
17	外遊び	外でダイナミックに遊ぶ方法と留意点を理解する。
18	跳箱Ⅰ	跳箱を使った遊びを理解する。(跳箱を使った遊びの導入・展開)
19	跳箱Ⅱ	跳箱の技術と指導のポイントを理解する。(跳箱の指導法と留意点)
20	マットⅠ	マットを使った遊びを理解する。(マットを使った遊びの導入・展開)
21	マットⅡ	マット運動の技術と指導のポイントを理解する。(前転・後転・側転の指導法)
22	グループ演習⑥(リスクマネジメント)	マット・跳箱・トランポリンの指導を通して、運動遊びにおけるリスクマネジメントと安全教育について理解する。第3回ノート提出
23	運動会種目Ⅰ	徒競走・リレー・障害物競争の導入・展開方法について理解する。
24	運動会種目Ⅱ	年中児の発表種目について理解する。(バルーン演技等)
25	運動会種目Ⅲ	年長児の発表種目について理解する。(組体操の演技等)
26	伝承遊び	はないちもんめなど伝承遊びや歌遊びを理解する。
27	グループ演習⑦(実習計画・準備)	実習で実施できる運動遊び(場所・道具・ルール)を考え、指導案を作成する。
28	グループ演習⑧(実習計画・準備)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	グループ演習⑨(実習計画・準備)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。
30	まとめ	保育における運動遊びの意義について、1年間を振り返りながらレポートを作成する。第4回ノート提出

科目名	保育表現技術 体育Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	柴田 卓			
開講期	通年			
授業概要	[授業の目的・ねらい] ①幼児体育・運動遊びを実践し、その意義を理解する。 ②実践を通して計画方法・指導方法・評価方法を理解する。 ③授業の振り返りを通して、指導のポイントや安全面についての理解を深め、実践的なスキルを習得する。 [授業全体の概要] 実技や講義を通して、さまざまな視点から運動の面白さを探究し、子どもが意欲的かつ主体的に取り組む運動遊びの内容や指導方法を習得する。また、対象年齢に応じた指導のポイントや安全面、環境設定を学習するために、ロールプレイやケーススタディを多く実施する。また、ポートフォリオを活用した振り返りによって、専門性や実践力を高める。			
達成目標	①幼児期の運動・健康について理解する。 ②幼児体育の指導計画・指導方法・評価方法を理解する。 ③幼体体育・運動遊びを子どもと保育者の目線で実践し、その意味と価値を理解する。			
受講資格	幼児教育学科1年生	成績評価 方法	ノート50点 実技20点 レポート20点 平常点10点	
教科書	柴田卓 石森真由子編, 楽しく学ぶ運動遊びのすすめ-ポートフォリオを活用した保育実践力の探求-, みらい, 2017			
参考書	幼児期運動指針策定委員会, 幼児期運動指針ガイドブック, 文部科学省, 2013			
学生への要望	テキスト、筆記用具を持参すること 運動着であること アクセサリーを身に着けないこと 気温によってタオル、水分補給、着替えを準備すること			
オフィスタイム	月曜日3・4時限 金曜日3・4時限 824研究室			
自学自習	復習60分 テキスト内のポートフォリオに学習したこと記入する。 予習30分 その中できづいた疑問や課題を自身で調べ、次回の内容と関連するページを読み込んでおくこと			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(体育館)	授業の目的と概要・評価方法・準備物を確認する。
2	アイスブレイクと準備体操	遊びを通してより良い関係性を築く手法を理解する。 幼児期における準備体操の意義と手法を理解する。
3	道具を使わない遊びⅠ	鬼遊びの導入・展開・発展方法を理解する。 (じゃんけんゲームや伝承遊びなど)
4	道具を使わない遊びⅡ	ルール・課題の設定、説明の仕方などを理解する。また、グループ作りの方法やその活動におけるポイントを理解する。(協力・コミュニケーションスキルなど)
5	道具を使った遊びⅠ	ボールを使ったチャレンジ遊びを理解する。
6	道具を使った遊びⅡ	フラフープ・コーンを使った遊びの導入・展開方法を理解する
7	グループ演習①(集団遊びの制作)	グループでオリジナルの集団遊びを作成する。(グループワーク)
8	グループ演習②(集団遊びの発表)	作成した遊びを発表・実践し評価する。(ロールプレイ) 第1回ノート提出
9	ドッジボールの導入方法	一斉指導における説明の方法とドッジボールにおける導入について学習する。
10	ドッジボールの展開・評価方法	ドッジボールの展開方法および勝敗の扱い方を学習する。
11	グループ演習③(リズム体操)	子ども向けの音楽を選択し、振り付けを考える。
12	グループ演習④(リズム体操)	リズム体操の作成を通して、子どもが楽しめる動作と指導言語を理解する。
13	グループ演習⑤(リズム体操)	リズム体操の発表(ロールプレイ)
14	親子体操	親子体操の種目と展開方法について理解する。
15	講義(教室)	自分たちの発表したリズム体操の映像を見ながら、お互いに評価を行う。
16	縄跳び	短・長縄跳びを使った遊びを理解する。(単・長縄跳びの導入・展開)
17	外遊び	外でダイナミックに遊ぶ方法と留意点を理解する。
18	跳箱Ⅰ	跳箱を使った遊びを理解する。(跳箱を使った遊びの導入・展開)
19	跳箱Ⅱ	跳箱の技術と指導のポイントを理解する。(跳箱の指導法と留意点)
20	マットⅠ	マットを使った遊びを理解する。(マットを使った遊びの導入・展開)
21	マットⅡ	マット運動の技術と指導のポイントを理解する。(前転・後転・側転の指導法)
22	グループ演習⑥(リスクマネジメント)	マット・跳箱・トランポリンの指導を通して、運動遊びにおけるリスクマネジメントと安全教育について理解する。第3回ノート提出
23	運動会種目Ⅰ	徒競走・リレー・障害物競争の導入・展開方法について理解する。
24	運動会種目Ⅱ	年中児の発表種目について理解する。(バルーン演技等)
25	運動会種目Ⅲ	年長児の発表種目について理解する。(組体操の演技等)
26	伝承遊び	はないちもんめなど伝承遊びや歌遊びを理解する。
27	グループ演習⑦(実習計画・準備)	実習で実施できる運動遊び(場所・道具・ルール)を考え、指導案を作成する。
28	グループ演習⑧(実習計画・準備)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	グループ演習⑨(実習計画・準備)	作成した指導案をもとに発表し、学生同士で評価する。
30	まとめ	保育における運動遊びの意義について、1年間を振り返りながらレポートを作成する。第4回ノート提出

科目名	保育表現技術 体育Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	自分自身の身体を理解し把握することにより、各自の身体表現能力をさらに高め、質の高い保育実践を目指し保育現場に役立てることを目的とする。 子どもの身体表現を豊かにするための指導力向上のため、保育者自らが身体表現力を高められるようにする。さらに、自らの心身の健康のために、楽しくダンスを行うことができるようにする。			
達成目標	① 舞踊動作の創作活動を楽しむことができたか。 ② 身体表現を豊かにすることができたか。 ③ 種々のダンスを楽しく体験できたか。			
受講資格	幼児教育学科 2年AB	成績評価 方法	ポートフォリオ40点、試験30点、提出物等30点	
教科書	特になし			
参考書	松本千代栄『舞踊学の現在』（文理閣、2011） 松本千代枝『松本千代栄撰集2 人間発達と表現一幼・小期』（明治図書、2008）			
学生への要望	こどもたちの身体を理解するためには、自分の身体認識がされていなければなりません。自分の長所のすべてを他に表現し理解を得られるように、内面の表出を心がけましょう。ひいては、自己啓発にもつながり、幼児の表現能力を引き出せるノウハウを身に付けることにもつながります。			
オフィスタイム	木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20） Ⅳ限目（14：30～16：00） 825研究室（一柳）			
自学自習	日常生活のなかで十分適度な筋力は養えます。できれば毎日腹筋等継続してください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開内容の説明 ・授業の目的：本授業は選択授業であることを認識すること。ダンスおよび舞台パフォーマンスに特に関心の強いかたのニーズを満足させるための授業を目的とする。 ・授業の準備、窓の開閉、掃除係の分担決め ・授業の準備として、体育館中央のネットをひく。 ・服装等：ジャージ上下またはダンス用のウェアを着てもよい。靴は運動用シューズまたはダンスシューズ。 ・授業前半ではヨガマットを使用してストレッチを行う。ヨガマットの上に敷く大判のバスタオルを毎回持参すること。
2	身体表現の基礎	<p>前半：アップ（ウォーキング、ジョギング、スキップ、ギャロップ、ケンケンパ等）。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部位を意識して行うとより効果的です。</p> <p>後半：姿勢と立ち姿の確認。座った姿勢、立った姿勢。自分の体のゆがみを確認します。 動きの種類：歩行：日常的歩行、スポーツ的歩行、舞台的歩行。</p>
3	楽しくダンスを踊り汗を流しましょう	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：バレエ的身体表現 ポードブラ（上肢の滑らかな舞踊動作の練習） リズムカルなダンスで楽しむ</p>
4	身体表現運動―バレエ的身体表現	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：バレエ的身体表現（下肢、移動運動） 立ち方、歩き方、足のポジション、アラベスク</p>
5	舞踊小品の創作-1	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：舞踊小作品の創作-1 卒業研究で舞台表現を選択した方々とそうでない方に分かれてそれぞれグループで創作をする。ミュージカル作品を参考に。舞踊音源の探索と、リズム的舞踊表現の模倣から始めてもよい。1分ほど創作</p>
6	舞踊小品の創作-2	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：舞踊小作品の創作-1 卒業研究で舞台表現を選択した方々とそうでない方に分かれてそれぞれグループで創作をする。ミュージカル作品を参考に。舞踊音源の探索と、リズム的舞踊表現の模倣から始めてもよい。さらに1分ほど創作。</p>
7	舞踊小品の創作-3	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：舞踊小作品の創作-1 卒業研究で舞台表現を選択した方々とそうでない方に分かれてそれぞれグループで創作をする。ミュージカル作品を参考に。舞踊音源の探索と、リズム的舞踊表現の模倣から始めてもよい。さらに1分ほど創作。</p>
8	舞踊小品の発表会	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：舞踊小品の発表会。自己の作品を発表するとともに、他グループの作品を鑑賞する。鑑賞ポイントを押さえながら、鑑賞し、自己の作品と比較考察する。身体表現の豊かさの構築に役立てる。</p>
9		

科目名	保育表現技術 体育Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	一柳 智子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	自分自身の身体を理解し把握することにより、各自の身体表現能力をさらに高め、質の高い保育実践を目指し保育現場に役立てることを目的とする。 子どもの身体表現を豊かにするための指導力向上のため、保育者自らが身体表現力を高められるようにする。さらに、自らの心身の健康のために、楽しくダンスを行うことができるようにする。 自分自身の身体を理解することによって身体表現力を高め、質の高い保育実践を目指し保育現場に役立てることを目的とする。			
達成目標	① 協力してダンスの小さい作品を創作できたか。 ② 身体表現を豊かにすることができたか。 ③ 種々のダンスを楽しく体験できたか。			
受講資格	幼児教育学科2年CD	成績評価 方法	ポートフォリオ40点、試験30点、提出物等30点	
教科書	特になし			
参考書	松本千代栄『舞踊学の現在』（文理閣、2011） 松本千代栄『松本千代栄撰集2人間発達と表現—幼・小期』（明治図書、2008）			
学生への要望	こどもたちの身体を理解するためには、自分の身体認識がされていなければなりません。 自分の長所のすべてを他に表現し理解を得られるように、内面の表出を心がけましょう。ひいては、自己啓発にもつながり、幼児の表現能力を引き出せるノウハウを身に着けることにもつながります。			
オフィスタイム	木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20） Ⅳ限目（14：30～16：00） 825研究室（一柳）			
自学自習	日常生活のなかで十分適度な筋力は養えます。できれば毎日腹筋等継続してください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の展開内容の説明 ・授業の目的：本授業は選択授業であることを認識すること。ダンスおよび舞台パフォーマンスに特に関心の強いかたのニーズを満足させるための授業を目的とする。 ・授業の準備、窓の開閉、掃除係の分担決め ・授業の準備として、体育館中央のネットをひく。 ・服装等：ジャージ上下またはダンス用のウェアを着てもよい。靴は運動用シューズまたはダンスシューズ。 ・授業前半ではヨガマットを使用してストレッチを行う。ヨガマットの上に敷く大判のバスタオルを毎回持参すること。
2	身体表現の基礎	<p>前半：アップ（ウォーキング、ジョギング、スキップ、ギャロップ、ケンケンバ等）。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部位を意識して行うとより効果的です。</p> <p>後半：姿勢と立ち姿の確認。座った姿勢、立った姿勢。 自分の体のゆがみを確認します。 動きの種類：歩行：日常的歩行、スポーツ的歩行、舞台的歩行。</p>
3	楽しくダンスを踊り舞踊的基礎体力を養いましょう	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：バレエ的身体表現 ポードブラ（上肢の滑らかな舞踊動作の練習） リズムカルなダンスで楽しむ</p>
4	身体表現運動—バレエ的身体表現	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：バレエ的身体表現（下肢、移動運動） 立ち方、歩き方、足のポジション、アラベスク</p>
5	舞踊小品の創作-1	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：舞踊小作品の創作-1 卒業研究で舞台表現を選択した方々とそうでない方に分かれてそれぞれグループで創作をする。ミュージカル作品を参考にする。舞踊音源の探索と、リズム的舞踊表現の模倣から始めてもよい。1分ほど創作</p>
6	舞踊小品の創作-2	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：舞踊小作品の創作-1 卒業研究で舞台表現を選択した方々とそうでない方に分かれてそれぞれグループで創作をする。ミュージカル作品を参考にする。舞踊音源の探索と、リズム的舞踊表現の模倣から始めてもよい。さらに1分ほど創作。</p>
7	舞踊小品の創作-3	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：舞踊小作品の創作-1 卒業研究で舞台表現を選択した方々とそうでない方に分かれてそれぞれグループで創作をする。ミュージカル作品を参考にする。舞踊音源の探索と、リズム的舞踊表現の模倣から始めてもよい。さらに1分ほど創作。</p>
8	舞踊小品の発表会	<p>前半：準備運動。基本動作から。呼吸とともにストレッチ。腹筋の各所を意識して鍛えましょう。股関節、肩関節など関節の可動範囲を大きくしましょう。準備運動は自分の体の各部分を詳細に意識して行うと、より効果的です。</p> <p>後半：舞踊小品の発表会。自己の作品を発表するとともに、他グループの作品を鑑賞する。鑑賞ポイントを押さえながら、鑑賞し、自己の作品と比較考察する。身体表現の豊かさの構築に役立てる。</p>
9		

科目名	保育表現技術 造形 I	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	草野 葉子		
開講期	通年		
授業概要	<p>子どもの感性とイメージの世界を豊かにし創造力を養うには、環境のひとつである保育者のかかわりが重要となる。それは保育者の価値観や感性、想像力や創造力、体験の幅により左右される。豊かな保育環境を構成できる保育者について造形活動の視点からとらえ、その資質と表現力の向上を図る。</p> <p>基本となる造形素材・描画材を取り上げ、その特徴や魅力と活用方法について自ら表現する体験を通して学ぶと共に感性と表現力を養う。自然を含む身近な環境や生活の場に造形素材を求め体験の幅を拡大する。また、子どもの作品鑑賞や活動事例から発達過程を学び、造形の視点から子どもをとらえ理解を深める。</p>		
達成目標	<p>①素材の特徴や魅力を知り活用することができる。</p> <p>②造形や描画素材が身近に存在することを知る。</p> <p>③さまざまな素材を応用発展させて、自分の考えや思いを表現することができる。</p> <p>④幼児期の特徴と発達過程について、描画や造形活動の視点から理解することができる。</p>		
受講資格	幼児教育学科の学生（主として1年生）	成績評価 方法	課題取組結果としての作品・活動状況と記録にて評価する。 配点は作品50点、記録30点、活動状況（平常点）20点。
教科書	教科書は使用せず、課題に応じた印刷物等の資料により行う。		
参考書	課題により授業時に指示する。		
学生への要望	<p>◎活動に必要な道具・材料（事前連絡）を忘れず持参し授業に臨む。</p> <p>◎失敗を恐れず実験的な取り組みを積極的に進行。</p> <p>◎活動記録・作品等の提出期限の厳守。</p>		
オフィスタイム	月曜～木曜 15:00～17:00 83年館2階823研究室		
自学自習	<p>予習：授業計画に基づいて関連分野の資料等に目を通す。次回授業に使用する材料や道具について準備を行う。（30分）</p> <p>復習：授業内容を振り返り活動記録に記す。（30分）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・イメージと色	<p>1. 「保育表現技術造形 I」のねらいと授業計画及び準備物について説明。</p> <p>2. イメージの表現。</p> <p>①イメージと色の関係について表現を通して考える。</p> <p>②形のないものを表現する体験をする。</p> <p>③感情を色で表現する体験を通し、自己と対話する。</p>
2	描画コミュニケーション	<p>描画による他者との対話を通し、相手の心持やイメージを共有する。</p> <p>①ペアドローイング・スクイグルを体験する。</p> <p>②相手の心持や息遣いを感じとり表現する。</p> <p>③感受性を刺激し豊かにする。</p>
3	自然を凝視める	<p>造形と子どもについて自然との関係から考える。</p> <p>1. 自然の造形美を味わう。</p> <p>①身近な植物を観察し、その造形美に触れる。</p> <p>②観察する目を養う。</p> <p>2. 自然環境と子どもについて考える。</p> <p>子どもの記録を紹介し、子どもと自然環境との関係について造形の視点から考える。</p>
4	布による表現 I	<p>テーマ：布と環境</p> <p>自在に変化する布の特徴をいかした造形表現体験。</p> <p>①自在に変化する布の特徴を知る。</p> <p>②光・空気等環境の影響により表情が変化する布の魅力を知る。</p> <p>③身体に布を巻きつけた表現を行う。</p> <p>④「③」の取り組みを相互に発表し、布の多様性を学ぶ。</p>
5	布による表現 II	<p>テーマ：布と紐と環境</p> <p>「布による表現 I」の体験を基に、紐を加えた造形表現体験。</p> <p>①紐が加わり表現方法の幅が拡大することを知る。</p> <p>②活動場所にある物を積極的に取り入れ、環境をいかした表現に取り組む。</p> <p>③「見立て」による表現や遊びを創造する。</p> <p>④作品を発表し相互に学びを共有する。</p>
6	布による表現 III	<p>活動記録のまとめ</p> <p>「布による表現 I・II」の作品と活動内容を写真と記録にまとめる。</p> <p>①作品写真によりグループで話し合い取り組みを振り返る。</p> <p>②布による表現の活動を振り返り、布の特徴や表現素材としての収穫を記録する。</p>
7	身近な素材による表現 I	<p>平面表現「コラージュ」</p> <p>雑誌や新聞等の写真や文字等を切り抜き貼りあわせて平面を構成する。</p> <p>①写真等素材の持つ表情の豊かさを味わい楽しむ。</p> <p>②見立て表現の体験を通し物を見る目や発想力を刺激する。</p> <p>③切り抜きの再構成により新たな世界を創り出す。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	身近な素材による表現Ⅱ	平面表現《紙芝居作り》 コラージュ作品に物語を添えて紙芝居を作る。 ①即興による物語づくりを体験する。 ②紙芝居作りを通して保育教材への展開を考える。
9	身近な素材による表現Ⅲーその1	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その1） ①素材を観察し、その特徴や性質を知る。 ②加工方法について研究する。 ③作品の構想を練る。
10	身近な素材による表現Ⅲーその2	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その2） ①作品構想を基に具体化する。 ②素材の特徴をいかし、他の素材と組み合わせにより豊かな作品にする。
11	身近な素材による表現Ⅳ	作品発表会：コラージュ紙芝居と立体作品の発表会 ①他者の取り組みから素材の活用方法や表現の多様性について学ぶ。 ②作品発表により、情報の整理と伝達方法について学ぶ。 ③活動過程と発表会の結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。
12	色材による表現Ⅰ	テーマ：色材の基礎知識とクレパスの特性をいかした表現体験 色材の組成を土台に、クレパスの特徴及び魅力を知ると共に、身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①組成から色材の特性を知る。 ②カラーカーボン・スクラッチ・ステンシルを体験し、技法の相違によるクレパスの表情の変化を味わう。 ③生活用品が表現道具として使用できることを知る。
13	色材による表現Ⅱ	テーマ：水彩の特性をいかした表現体験 水溶性色材の特性をいかした水彩の魅力と身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①ひたし染め・ステンシル等の技法体験を通し水彩の特徴と表情の豊かさを知る。 ②自然混色による偶発的な色や形の面白さを味わう。 ③身近な素材が表現道具として使用できることを知る。
14	色材による表現Ⅲ	テーマ：版画による表現体験 身近な素材を活用した表現により、版画の魅力と多様性を学ぶ。 ①スタンピング・縄文遊びの技法を体験し、版画の多様性を知る。 ②素材の違いによる表情の変化を味わう。 ③野菜や生活用品等様々な物が表現道具として使用できることを知る。
15	色材による表現Ⅳ	テーマ：まとめの作品づくり クレパス・水彩による表現体験Ⅰ～Ⅲを基にコラージュによる作品づくり。 ①表現体験したものを素材として使用し、その一部を切り取り貼りあわせてカードに仕立てる。 ②各技法の異なる表情からイメージを拡大し、見立てや抽象的な表現として自分の考えや思いを描く。
16	ペーパークラフトⅠ	紙について、その性質や加工方法を学ぶ。 1. 紙の性質 ①紙の繊維の方向について知る。 ②繊維の方向と加工の関係について学ぶ。 2. 加工方法の基礎（その1） ①「切る・折る」の加工による立体表現の基礎を体験する。 ②曲線折りによる曲面や陰影の美しさを味わう。
17	ペーパークラフトⅡ	1. 加工方法の基礎（その2） ①「丸める」加工と繊維の方向の関係について学ぶ。 ②「伸びる」性質を踏まえ「伸ばす」加工によるレリーフ表現を体験する。 2. 応用表現（その1） ①「斜め折り」による「動く」ペーパークラフトの原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。
18	ペーパークラフトⅢ	応用表現（その2） ①「切る・折る」の応用として立体表現「飛び出し」の原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。
19	ペーパークラフトⅣー①	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その1） 加工方法の基礎や応用表現を基にまとめとしての作品をつくる。 ①保育教材や生活の中で使用できるものをつくる。 ②ペーパークラフトⅠ～Ⅲを土台に作品構想を練る。 ③作品構想に基づき実験を行う。
20	ペーパークラフトⅣー②	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その2） 作品をまとめ完成させる。 ①構想にあった紙を選択する。 ②実験結果をまとめて作品として完成させる。
21	ペーパークラフトⅤー作品鑑賞会	完成させた作品を相互に鑑賞する。 ①他者の取り組みから基礎加工の応用発展や素材の活用について吸収し学びあう。 ②活動過程と鑑賞結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。
22	光と影による表現Ⅰ	光と色の関係について、切り紙や折り紙を通して学ぶ。 ①日本の伝統切り紙と外国の折り紙を体験し、光との関係から色に変化することを知る。 ②重なりによる色や形の変化を味わう。 ③色彩の魅力を楽しむ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	光と影による表現Ⅱ	光と物体との関係からできる影の魅力を味わう。 ①各種素材を光にかざし影の表情の違いを知る。 ②光の遮断・透過により異なる影ができることを知る。 ③さまざまな物で影をつくる。
24	光と影による表現Ⅲ	光と影による作品づくり。 ①さまざまな物を組み合わせて光と影による見立て表現を行う。 ②表現実験をもとに影絵として作品にまとめる。
25	素材体験Ⅰー小麦粉を素材とした表現体験①	フィンガーペインティングー色のりと身体による表現体験 ①小麦粉を使用しの色り作りを体験し、色のりの作り方を学ぶ。 ②色のりの感触を味わう。 ③手の動きによる色のりの表情の変化を味わう。
26	素材体験Ⅱー小麦粉を素材とした表現体験②	小麦粉粘土ー粘土の特徴と魅力 ①小麦粉粘土の作り方を学ぶ。 ②小麦粉粘土の特徴を知る。 ③粘土遊びを通して感触や立体造形の魅力を味わう。
27	素材体験Ⅲーお菓子を素材とした表現体験	お菓子による造形表現 ①色・形・模様等お菓子の表情の豊かさを味わう。 ②お菓子の特徴をいかした立体造形の魅力を味わう。 ③保育の場における行事や親子活動への発展的展開を考える。
28	描画・造形活動からみた子どもⅠ	描画及び造形活動の視点から幼児期を理解する。 ①子どもの描画及び造形活動を年齢別に概観し発達過程について学ぶ。 ②実例をもとに各時期の特徴について学ぶ。
29	描画・造形活動からみた子どもⅡ	描画及び造形活動に表現された子どもの内面について考える。 ①描画や造形作品に表出された子どもの内面をさぐる。 ②造形活動における保育者の役割と子どもの行動の関係について考える。
30	まとめ	保育環境と造形。 ①保育環境とは何かについて造形の視点から考える。 ②保育環境を創りだす者に求められる資質について考える。

科目名	保育表現技術 造形Ⅰ		対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	草野 葉子			
開講期	通年			
授業概要	<p>子どもの感性とイメージの世界を豊かにし創造力を養うには、環境のひとつである保育者のかかわりが重要となる。それは保育者の価値観や感性、想像力や創造力、体験の幅により左右される。豊かな保育環境を構成できる保育者について造形活動の視点からとらえ、その資質と表現力の向上を図る。</p> <p>基本となる造形素材・描画材を取り上げ、その特徴や魅力と活用方法について自ら表現する体験を通して学ぶと共に感性と表現力を養う。自然を含む身近な環境や生活の場に造形素材を求め体験の幅を拡大する。また、子どもの作品鑑賞や活動事例から発達過程を学び、造形の視点から子どもをとらえ理解を深める。</p>			
達成目標	<p>①素材の特徴や魅力を知り活用することができる。</p> <p>②造形や描画素材が身近に存在することを知る。</p> <p>③さまざまな素材を応用発展させて、自分の考えや思いを表現することができる。</p> <p>④幼児期の特徴と発達過程について、描画や造形活動の視点から理解することができる。</p>			
受講資格	幼児教育学科の学生（主として1年生）	成績評価 方法	課題取組結果としての作品・活動状況と記録にて評価する。 配点は作品50点、記録30点、活動状況（平常点）20点。	
教科書	教科書は使用せず、課題に応じた印刷物等の資料により行う。			
参考書	課題により授業時に指示する。			
学生への要望	<p>◎活動に必要な道具・材料（事前連絡）を忘れず持参し授業に臨む。</p> <p>◎失敗を恐れず実験的な取り組みを積極的に行う。</p> <p>◎活動記録・作品等の提出期限の厳守。</p>			
オフィスタイム	月曜～木曜 15:00～17:00 83年館2階823研究室			
自学自習	<p>予習：授業計画に基づいて関連分野の資料等に目を通す。次回授業に使用する材料や道具について準備を行う。（30分）</p> <p>復習：授業内容を振り返り活動記録に記す。（30分）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・イメージと色	<p>1. 「保育表現技術造形Ⅰ」のねらいと授業計画及び準備物について説明。</p> <p>2. イメージの表現。</p> <p>①イメージと色の関係について表現を通して考える。</p> <p>②形のないものを表現する体験をする。</p> <p>③感情を色で表現する体験を通し、自己と対話する。</p>
2	描画コミュニケーション	<p>描画による他者との対話を通し、相手の心持やイメージを共有する。</p> <p>①ペアドローイング・スキュルを体験する。</p> <p>②相手の心持や息遣いを感じとり表現する。</p> <p>③感受性を刺激し豊かにする。</p>
3	自然を凝視める	<p>造形と子どもについて自然との関係から考える。</p> <p>1. 自然の造形美を味わう。</p> <p>①身近な植物を観察し、その造形美に触れる。</p> <p>②観察する目を養う。</p> <p>2. 自然環境と子どもについて考える。</p> <p>子どもの記録を紹介し、子どもと自然環境との関係について造形の視点から考える。</p>
4	布による表現Ⅰ	<p>テーマ：布と環境</p> <p>自在に変化する布の特徴をいかした造形表現体験。</p> <p>①自在に変化する布の特徴を知る。</p> <p>②光・空気等環境の影響により表情が変化する布の魅力を知る。</p> <p>③身体に布を巻きつけた表現を行う。</p> <p>④「③」の取り組みを相互に発表し、布の多様性を学ぶ。</p>
5	布による表現Ⅱ	<p>テーマ：布と紐と環境</p> <p>「布による表現Ⅰ」の体験を基に、紐を加えた造形表現体験。</p> <p>①紐が加わり表現方法の幅が拡大することを知る。</p> <p>②活動場所にある物を積極的に取り入れ、環境をいかした表現に取り組む。</p> <p>③「見立て」による表現や遊びを創造する。</p> <p>④作品を発表し相互に学びを共有する。</p>
6	布による表現Ⅲ	<p>活動記録のまとめ</p> <p>「布による表現Ⅰ・Ⅱ」の作品と活動内容を写真と記録にまとめる。</p> <p>①作品写真によりグループで話し合い取り組みを振り返る。</p> <p>②布による表現の活動を振り返り、布の特徴や表現素材としての収穫を記録する。</p>
7	身近な素材による表現Ⅰ	<p>平面表現「コラージュ」</p> <p>雑誌や新聞等の写真や文字等を切り抜き貼りあわせて平面を構成する。</p> <p>①写真等素材の持つ表情の豊かさを味わい楽しむ。</p> <p>②見立て表現の体験を通し物を見る目や発想力を刺激する。</p> <p>③切り抜きの再構成により新たな世界を創り出す。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	身近な素材による表現Ⅱ	平面表現《紙芝居作り》 コラージュ作品に物語を添えて紙芝居を作る。 ①即興による物語づくりを体験する。 ②紙芝居作りを通して保育教材への展開を考える。
9	身近な素材による表現Ⅲーその1	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その1） ①素材を観察し、その特徴や性質を知る。 ②加工方法について研究する。 ③作品の構想を練る。
10	身近な素材による表現Ⅲーその2	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その2） ①作品構想を基に具体化する。 ②素材の特徴をいかし、他の素材と組み合わせでより豊かな作品にする。
11	身近な素材による表現Ⅳ	作品発表会：コラージュ紙芝居と立体作品の発表会 ①他者の取り組みから素材の活用方法や表現の多様性について学ぶ。 ②作品発表により、情報の整理と伝達方法について学ぶ。 ③活動過程と発表会の結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。
12	色材による表現Ⅰ	テーマ：色材の基礎知識とクレパスの特性をいかした表現体験 色材の組成を土台に、クレパスの特徴及び魅力を知ると共に、身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①組成から色材の特性を知る。 ②カラーカーボン・スクラッチ・ステンシルを体験し、技法の相違によるクレパスの表情の変化を味わう。 ③生活用品が表現道具として使用できることを知る。
13	色材による表現Ⅱ	テーマ：水彩の特性をいかした表現体験 水溶性色材の特性をいかした水彩の魅力と身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①ひたし染め・ステンシル等の技法体験を通し水彩の特徴と表情の豊かさを知る。 ②自然混色による偶発的な色や形の面白さを味わう。 ③身近な素材が表現道具として使用できることを知る。
14	色材による表現Ⅲ	テーマ：版画による表現体験 身近な素材を活用した表現により、版画の魅力と多様性を学ぶ。 ①スタンピング・縄文遊びの技法を体験し、版画の多様性を知る。 ②素材の違いによる表情の変化を味わう。 ③野菜や生活用品等様々な物が表現道具として使用できることを知る。
15	色材による表現Ⅳ	テーマ：まとめの作品づくり クレパス・水彩による表現体験Ⅰ～Ⅲを基にコラージュによる作品づくり。 ①表現体験したものを素材として使用し、その一部を切り取り貼りあわせてカードに仕立てる。 ②各技法の異なる表情からイメージを拡大し、見立てや抽象的な表現として自分の考えや思いを描く。
16	ペーパークラフトⅠ	紙について、その性質や加工方法を学ぶ。 1. 紙の性質 ①紙の繊維の方向について知る。 ②繊維の方向と加工の関係について学ぶ。 2. 加工方法の基礎（その1） ①「切る・折る」の加工による立体表現の基礎を体験する。 ②曲線折りによる曲面や陰影の美しさを味わう。
17	ペーパークラフトⅡ	1. 加工方法の基礎（その2） ①「丸める」加工と繊維の方向の関係について学ぶ。 ②「伸びる」性質を踏まえ「伸ばす」加工によるレリーフ表現を体験する。 2. 応用表現（その1） ①「斜め折り」による「動く」ペーパークラフトの原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。
18	ペーパークラフトⅢ	応用表現（その2） ①「切る・折る」の応用として立体表現「飛び出し」の原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。
19	ペーパークラフトⅣー①	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その1） 加工方法の基礎や応用表現を基にまとめとしての作品をつくる。 ①保育教材や生活の中で使用できるものをつくる。 ②ペーパークラフトⅠ～Ⅲを土台に作品構想を練る。 ③作品構想に基づき実験を行う。
20	ペーパークラフトⅣー②	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その2） 作品をまとめ完成させる。 ①構想にあった紙を選択する。 ②実験結果をまとめて作品として完成させる。
21	ペーパークラフトⅤー作品鑑賞会	完成させた作品を相互に鑑賞する。 ①他者の取り組みから基礎加工の応用発展や素材の活用について吸収し学びあう。 ②活動過程と鑑賞結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。
22	光と影による表現Ⅰ	光と色の関係について、切り紙や折り紙を通して学ぶ。 ①日本の伝統切り紙と外国の折り紙を体験し、光との関係から色に変化することを知る。 ②重なりによる色や形の変化を味わう。 ③色彩の魅力を楽しむ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	光と影による表現Ⅱ	光と物体との関係からできる影の魅力を味わう。 ①各種素材を光にかざし影の表情の違いを知る。 ②光の遮断・透過により異なる影ができることを知る。 ③さまざまな物で影をつくる。
24	光と影による表現Ⅲ	光と影による作品づくり。 ①さまざまな物を組み合わせて光と影による見立て表現を行う。 ②表現実験をもとに影絵として作品にまとめる。
25	素材体験Ⅰー小麦粉を素材とした表現体験①	フィンガーペインティングー色のりと身体による表現体験 ①小麦粉を使用しの色り作りを体験し、色のりの作り方を学ぶ。 ②色のりの感触を味わう。 ③手の動きによる色のりの表情の変化を味わう。
26	素材体験Ⅱー小麦粉を素材とした表現体験②	小麦粉粘土ー粘土の特徴と魅力 ①小麦粉粘土の作り方を学ぶ。 ②小麦粉粘土の特徴を知る。 ③粘土遊びを通して感触や立体造形の魅力を味わう。
27	素材体験Ⅲーお菓子を素材とした表現体験	お菓子による造形表現 ①色・形・模様等お菓子の表情の豊かさを味わう。 ②お菓子の特徴をいかした立体造形の魅力を味わう。 ③保育の場における行事や親子活動への発展的展開を考える。
28	描画・造形活動からみた子どもⅠ	描画及び造形活動の視点から幼児期を理解する。 ①子どもの描画及び造形活動を年齢別に概観し発達過程について学ぶ。 ②実例をもとに各時期の特徴について学ぶ。
29	描画・造形活動からみた子どもⅡ	描画及び造形活動に表現された子どもの内面について考える。 ①描画や造形作品に表出された子どもの内面をさぐる。 ②造形活動における保育者の役割と子どもの行動の関係について考える。
30	まとめ	保育環境と造形。 ①保育環境とは何かについて造形の視点から考える。 ②保育環境を創りだす者に求められる資質について考える。

科目名	保育表現技術 造形Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	草野 葉子		
開講期	通年		
授業概要	<p>子どもの感性とイメージの世界を豊かにし創造力を養うには、環境のひとつである保育者のかかわりが重要となる。それは保育者の価値観や感性、想像力や創造力、体験の幅により左右される。豊かな保育環境を構成できる保育者について造形活動の視点からとらえ、その資質と表現力の向上を図る。</p> <p>基本となる造形素材・描画材を取り上げ、その特徴や魅力と活用方法について自ら表現する体験を通して学ぶと共に感性と表現力を養う。自然を含む身近な環境や生活の場に造形素材を求め体験の幅を拡大する。また、子どもの作品鑑賞や活動事例から発達過程を学び、造形の視点から子どもをとらえ理解を深める。</p>		
達成目標	<p>①素材の特徴や魅力を知り活用することができる。</p> <p>②造形や描画素材が身近に存在することを知る。</p> <p>③さまざまな素材を応用発展させて、自分の考えや思いを表現することができる。</p> <p>④幼児期の特徴と発達過程について、描画や造形活動の視点から理解することができる。</p>		
受講資格	幼児教育学科の学生（主として1年生）	成績評価 方法	課題取組結果としての作品・活動状況と記録にて評価する。 配点は作品50点、記録30点、活動状況（平常点）20点。
教科書	教科書は使用せず、課題に応じた印刷物等の資料により行う。		
参考書	課題により授業時に指示する。		
学生への要望	<p>◎活動に必要な道具・材料（事前連絡）を忘れず持参し授業に臨む。</p> <p>◎失敗を恐れず実験的な取り組みを積極的に行う。</p> <p>◎活動記録・作品等の提出期限の厳守。</p>		
オフィスタイム	月曜～木曜 15:00～17:00 83年館2階823研究室		
自学自習	<p>予習：授業計画に基づいて関連分野の資料等に目を通す。次回授業に使用する材料や道具について準備を行う。（30分）</p> <p>復習：授業内容を振り返り活動記録に記す。（30分）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・イメージと色	<p>1. 「保育表現技術造形Ⅰ」のねらいと授業計画及び準備物について説明。</p> <p>2. イメージの表現。</p> <p>①イメージと色の関係について表現を通して考える。</p> <p>②形のないものを表現する体験をする。</p> <p>③感情を色で表現する体験を通し、自己と対話する。</p>
2	描画コミュニケーション	<p>描画による他者との対話を通し、相手の心持やイメージを共有する。</p> <p>①ペアドローイング・スキュルを体験する。</p> <p>②相手の心持や息遣いを感じとり表現する。</p> <p>③感受性を刺激し豊かにする。</p>
3	自然を凝視める	<p>造形と子どもについて自然との関係から考える。</p> <p>1. 自然の造形美を味わう。</p> <p>①身近な植物を観察し、その造形美に触れる。</p> <p>②観察する目を養う。</p> <p>2. 自然環境と子どもについて考える。</p> <p>子どもの記録を紹介し、子どもと自然環境との関係について造形の視点から考える。</p>
4	布による表現Ⅰ	<p>テーマ：布と環境</p> <p>自在に変化する布の特徴をいかした造形表現体験。</p> <p>①自在に変化する布の特徴を知る。</p> <p>②光・空気等環境の影響により表情が変化する布の魅力を知る。</p> <p>③身体に布を巻きつけた表現を行う。</p> <p>④「③」の取り組みを相互に発表し、布の多様性を学ぶ。</p>
5	布による表現Ⅱ	<p>テーマ：布と紐と環境</p> <p>「布による表現Ⅰ」の体験を基に、紐を加えた造形表現体験。</p> <p>①紐が加わり表現方法の幅が拡大することを知る。</p> <p>②活動場所にある物を積極的に取り入れ、環境をいかした表現に取り組む。</p> <p>③「見立て」による表現や遊びを創造する。</p> <p>④作品を発表し相互に学びを共有する。</p>
6	布による表現Ⅲ	<p>活動記録のまとめ</p> <p>「布による表現Ⅰ・Ⅱ」の作品と活動内容を写真と記録にまとめる。</p> <p>①作品写真によりグループで話し合い取り組みを振り返る。</p> <p>②布による表現の活動を振り返り、布の特徴や表現素材としての収穫を記録する。</p>
7	身近な素材による表現Ⅰ	<p>平面表現「コラージュ」</p> <p>雑誌や新聞等の写真や文字等を切り抜き貼りあわせて平面を構成する。</p> <p>①写真等素材の持つ表情の豊かさを味わい楽しむ。</p> <p>②見立て表現の体験を通し物を見る目や発想力を刺激する。</p> <p>③切り抜きの再構成により新たな世界を創り出す。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	身近な素材による表現Ⅱ	平面表現《紙芝居作り》 コラージュ作品に物語を添えて紙芝居を作る。 ①即興による物語づくりを体験する。 ②紙芝居作りを通して保育教材への展開を考える。
9	身近な素材による表現Ⅲ－その1	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その1） ①素材を観察し、その特徴や性質を知る。 ②加工方法について研究する。 ③作品の構想を練る。
10	身近な素材による表現Ⅲ－その2	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その2） ①作品構想を基に具体化する。 ②素材の特徴をいかし、他の素材と組み合わせにより豊かな作品にする。
11	身近な素材による表現Ⅳ	作品発表会：コラージュ紙芝居と立体作品の発表会 ①他者の取り組みから素材の活用方法や表現の多様性について学ぶ。 ②作品発表により、情報の整理と伝達方法について学ぶ。 ③活動過程と発表会の結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。
12	色材による表現Ⅰ	テーマ：色材の基礎知識とクレパスの特性をいかした表現体験 色材の組成を土台に、クレパスの特徴及び魅力を知ると共に、身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①組成から色材の特性を知る。 ②カラーカーボン・スクラッチ・ステンシルを体験し、技法の相違によるクレパスの表情の変化を味わう。 ③生活用品が表現道具として使用できることを知る。
13	色材による表現Ⅱ	テーマ：水彩の特性をいかした表現体験 水溶性色材の特性をいかした水彩の魅力と身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①ひたし染め・ステンシル等の技法体験を通し水彩の特徴と表情の豊かさを知る。 ②自然混色による偶発的な色や形の面白さを味わう。 ③身近な素材が表現道具として使用できることを知る。
14	色材による表現Ⅲ	テーマ：版画による表現体験 身近な素材を活用した表現により、版画の魅力と多様性を学ぶ。 ①スタンピング・縄文遊びの技法を体験し、版画の多様性を知る。 ②素材の違いによる表情の変化を味わう。 ③野菜や生活用品等様々な物が表現道具として使用できることを知る。
15	色材による表現Ⅳ	テーマ：まとめの作品づくり クレパス・水彩による表現体験Ⅰ～Ⅲを基にコラージュによる作品づくり。 ①表現体験したものを素材として使用し、その一部を切り取り貼りあわせてカードに仕立てる。 ②各技法の異なる表情からイメージを拡大し、見立てや抽象的な表現として自分の考えや思いを描く。
16	ペーパークラフトⅠ	紙について、その性質や加工方法を学ぶ。 1. 紙の性質 ①紙の繊維の方向について知る。 ②繊維の方向と加工の関係について学ぶ。 2. 加工方法の基礎（その1） ①「切る・折る」の加工による立体表現の基礎を体験する。 ②曲線折りによる曲面や陰影の美しさを味わう。
17	ペーパークラフトⅡ	1. 加工方法の基礎（その2） ①「丸める」加工と繊維の方向の関係について学ぶ。 ②「伸びる」性質を踏まえ「伸ばす」加工によるレリーフ表現を体験する。 2. 応用表現（その1） ①「斜め折り」による「動く」ペーパークラフトの原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。
18	ペーパークラフトⅢ	応用表現（その2） ①「切る・折る」の応用として立体表現「飛び出し」の原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。
19	ペーパークラフトⅣ－①	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その1） 加工方法の基礎や応用表現を基にまとめとしての作品をつくる。 ①保育教材や生活の中で使用できるものをつくる。 ②ペーパークラフトⅠ～Ⅲを土台に作品構想を練る。 ③作品構想に基づき実験を行う。
20	ペーパークラフトⅣ－②	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その2） 作品をまとめ完成させる。 ①構想にあった紙を選択する。 ②実験結果をまとめて作品として完成させる。
21	ペーパークラフトⅤ－作品鑑賞会	完成させた作品を相互に鑑賞する。 ①他者の取り組みから基礎加工の応用発展や素材の活用について吸収し学びあう。 ②活動過程と鑑賞結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。
22	光と影による表現Ⅰ	光と色の関係について、切り紙や折り紙を通して学ぶ。 ①日本の伝統切り紙と外国の折り紙を体験し、光との関係から色に変化することを知る。 ②重なりによる色や形の変化を味わう。 ③色彩の魅力を楽しむ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	光と影による表現Ⅱ	光と物体との関係からできる影の魅力を味わう。 ①各種素材を光にかざし影の表情の違いを知る。 ②光の遮断・透過により異なる影ができることを知る。 ③さまざまな物で影をつくる。
24	光と影による表現Ⅲ	光と影による作品づくり。 ①さまざまな物を組み合わせて光と影による見立て表現を行う。 ②表現実験をもとに影絵として作品にまとめる。
25	素材体験Ⅰー小麦粉を素材とした表現体験①	フィンガーペインティングー色のりと身体による表現体験 ①小麦粉を使用しの色り作りを体験し、色のりの作り方を学ぶ。 ②色のりの感触を味わう。 ③手の動きによる色のりの表情の変化を味わう。
26	素材体験Ⅱー小麦粉を素材とした表現体験②	小麦粉粘土ー粘土の特徴と魅力 ①小麦粉粘土の作り方を学ぶ。 ②小麦粉粘土の特徴を知る。 ③粘土遊びを通して感触や立体造形の魅力を味わう。
27	素材体験Ⅲーお菓子を素材とした表現体験	お菓子による造形表現 ①色・形・模様等お菓子の表情の豊かさを味わう。 ②お菓子の特徴をいかした立体造形の魅力を味わう。 ③保育の場における行事や親子活動への発展的展開を考える。
28	描画・造形活動からみた子どもⅠ	描画及び造形活動の視点から幼児期を理解する。 ①子どもの描画及び造形活動を年齢別に概観し発達過程について学ぶ。 ②実例をもとに各時期の特徴について学ぶ。
29	描画・造形活動からみた子どもⅡ	描画及び造形活動に表現された子どもの内面について考える。 ①描画や造形作品に表出された子どもの内面をさぐる。 ②造形活動における保育者の役割と子どもの行動の関係について考える。
30	まとめ	保育環境と造形。 ①保育環境とは何かについて造形の視点から考える。 ②保育環境を創りだす者に求められる資質について考える。

科目名	保育表現技術 造形Ⅰ	対象 単位数 必修	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 必修
担当教員	草野 葉子		
開講期	通年		
授業概要	<p>子どもの感性とイメージの世界を豊かにし創造力を養うには、環境のひとつである保育者のかかわりが重要となる。それは保育者の価値観や感性、想像力や創造力、体験の幅により左右される。豊かな保育環境を構成できる保育者について造形活動の視点からとらえ、その資質と表現力の向上を図る。</p> <p>基本となる造形素材・描画材を取り上げ、その特徴や魅力と活用方法について自ら表現する体験を通して学ぶと共に感性と表現力を養う。自然を含む身近な環境や生活の場に造形素材を求め体験の幅を拡大する。また、子どもの作品鑑賞や活動事例から発達過程を学び、造形の視点から子どもをとらえ理解を深める。</p>		
達成目標	<p>①素材の特徴や魅力を知り活用することができる。</p> <p>②造形や描画素材が身近に存在することを知る。</p> <p>③さまざまな素材を応用発展させて、自分の考えや思いを表現することができる。</p> <p>④幼児期の特徴と発達過程について、描画や造形活動の視点から理解することができる。</p>		
受講資格	幼児教育学科の学生（主として1年生）	成績評価 方法	課題取組結果としての作品・活動状況と記録にて評価する。 配点は作品50点、記録30点、活動状況（平常点）20点。
教科書	教科書は使用せず、課題に応じた印刷物等の資料により行う。		
参考書	課題により授業時に指示する。		
学生への要望	<p>◎活動に必要な道具・材料（事前連絡）を忘れず持参し授業に臨む。</p> <p>◎失敗を恐れず実験的な取り組みを積極的に行う。</p> <p>◎活動記録・作品等の提出期限の厳守。</p>		
オフィスタイム	月曜～木曜 15:00～17:00 83年館2階823研究室		
自学自習	<p>予習：授業計画に基づいて関連分野の資料等に目を通す。次回授業に使用する材料や道具について準備を行う。（30分）</p> <p>復習：授業内容を振り返り活動記録に記す。（30分）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス・イメージと色	<p>1. 「保育表現技術造形Ⅰ」のねらいと授業計画及び準備物について説明。</p> <p>2. イメージの表現。</p> <p>①イメージと色の関係について表現を通して考える。</p> <p>②形のないものを表現する体験をする。</p> <p>③感情を色で表現する体験を通し、自己と対話する。</p>
2	描画コミュニケーション	<p>描画による他者との対話を通し、相手の心持やイメージを共有する。</p> <p>①ペアドローイング・スクイグルを体験する。</p> <p>②相手の心持や息遣いを感じとり表現する。</p> <p>③感受性を刺激し豊かにする。</p>
3	自然を凝視める	<p>造形と子どもについて自然との関係から考える。</p> <p>1. 自然の造形美を味わう。</p> <p>①身近な植物を観察し、その造形美に触れる。</p> <p>②観察する目を養う。</p> <p>2. 自然環境と子どもについて考える。</p> <p>子どもの記録を紹介し、子どもと自然環境との関係について造形の視点から考える。</p>
4	布による表現Ⅰ	<p>テーマ：布と環境</p> <p>自在に変化する布の特徴をいかした造形表現体験。</p> <p>①自在に変化する布の特徴を知る。</p> <p>②光・空気等環境の影響により表情が変化する布の魅力を知る。</p> <p>③身体に布を巻きつけた表現を行う。</p> <p>④「③」の取り組みを相互に発表し、布の多様性を学ぶ。</p>
5	布による表現Ⅱ	<p>テーマ：布と紐と環境</p> <p>「布による表現Ⅰ」の体験を基に、紐を加えた造形表現体験。</p> <p>①紐が加わり表現方法の幅が拡大することを知る。</p> <p>②活動場所にある物を積極的に取り入れ、環境をいかした表現に取り組む。</p> <p>③「見立て」による表現や遊びを創造する。</p> <p>④作品を発表し相互に学びを共有する。</p>
6	布による表現Ⅲ	<p>活動記録のまとめ</p> <p>「布による表現Ⅰ・Ⅱ」の作品と活動内容を写真と記録にまとめる。</p> <p>①作品写真によりグループで話し合い取り組みを振り返る。</p> <p>②布による表現の活動を振り返り、布の特徴や表現素材としての収穫を記録する。</p>
7	身近な素材による表現Ⅰ	<p>平面表現「コラージュ」</p> <p>雑誌や新聞等の写真や文字等を切り抜き貼りあわせて平面を構成する。</p> <p>①写真等素材の持つ表情の豊かさを味わい楽しむ。</p> <p>②見立て表現の体験を通し物を見る目や発想力を刺激する。</p> <p>③切り抜きの再構成により新たな世界を創り出す。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	身近な素材による表現Ⅱ	平面表現《紙芝居作り》 コラージュ作品に物語を添えて紙芝居を作る。 ①即興による物語づくりを体験する。 ②紙芝居作りを通して保育教材への展開を考える。
9	身近な素材による表現Ⅲ－その1	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その1） ①素材を観察し、その特徴や性質を知る。 ②加工方法について研究する。 ③作品の構想を練る。
10	身近な素材による表現Ⅲ－その2	立体表現：身近な素材を使用して立体造形を行う（その2） ①作品構想を基に具体化する。 ②素材の特徴をいかし、他の素材と組み合わせにより豊かな作品にする。
11	身近な素材による表現Ⅳ	作品発表会：コラージュ紙芝居と立体作品の発表会 ①他者の取り組みから素材の活用方法や表現の多様性について学ぶ。 ②作品発表により、情報の整理と伝達方法について学ぶ。 ③活動過程と発表会の結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。
12	色材による表現Ⅰ	テーマ：色材の基礎知識とクレパスの特性をいかした表現体験 色材の組成を土台に、クレパスの特徴及び魅力を知ると共に、身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①組成から色材の特性を知る。 ②カラーカーボン・スクラッチ・ステンシルを体験し、技法の相違によるクレパスの表情の変化を味わう。 ③生活用品が表現道具として使用できることを知る。
13	色材による表現Ⅱ	テーマ：水彩の特性をいかした表現体験 水溶性色材の特性をいかした水彩の魅力と身近な素材が道具として活用できることを学ぶ。 ①ひたし染め・ステンシル等の技法体験を通し水彩の特徴と表情の豊かさを知る。 ②自然混色による偶発的な色や形の面白さを味わう。 ③身近な素材が表現道具として使用できることを知る。
14	色材による表現Ⅲ	テーマ：版画による表現体験 身近な素材を活用した表現により、版画の魅力と多様性を学ぶ。 ①スタンピング・縄文遊びの技法を体験し、版画の多様性を知る。 ②素材の違いによる表情の変化を味わう。 ③野菜や生活用品等様々な物が表現道具として使用できることを知る。
15	色材による表現Ⅳ	テーマ：まとめの作品づくり クレパス・水彩による表現体験Ⅰ～Ⅲを基にコラージュによる作品づくり。 ①表現体験したものを素材として使用し、その一部を切り取り貼りあわせてカードに仕立てる。 ②各技法の異なる表情からイメージを拡大し、見立てや抽象的な表現として自分の考えや思いを描く。
16	ペーパークラフトⅠ	紙について、その性質や加工方法を学ぶ。 1. 紙の性質 ①紙の繊維の方向について知る。 ②繊維の方向と加工の関係について学ぶ。 2. 加工方法の基礎（その1） ①「切る・折る」の加工による立体表現の基礎を体験する。 ②曲線折りによる曲面や陰影の美しさを味わう。
17	ペーパークラフトⅡ	1. 加工方法の基礎（その2） ①「丸める」加工と繊維の方向の関係について学ぶ。 ②「伸びる」性質を踏まえ「伸ばす」加工によるレリーフ表現を体験する。 2. 応用表現（その1） ①「斜め折り」による「動く」ペーパークラフトの原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。
18	ペーパークラフトⅢ	応用表現（その2） ①「切る・折る」の応用として立体表現「飛び出し」の原理を学ぶ。 ②基本原理を基に実験を行い表現の拡大を図る。
19	ペーパークラフトⅣ－①	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その1） 加工方法の基礎や応用表現を基にまとめとしての作品をつくる。 ①保育教材や生活の中で使用できるものをつくる。 ②ペーパークラフトⅠ～Ⅲを土台に作品構想を練る。 ③作品構想に基づき実験を行う。
20	ペーパークラフトⅣ－②	ペーパークラフトまとめとしての作品づくり（その2） 作品をまとめ完成させる。 ①構想にあった紙を選択する。 ②実験結果をまとめて作品として完成させる。
21	ペーパークラフトⅤ－作品鑑賞会	完成させた作品を相互に鑑賞する。 ①他者の取り組みから基礎加工の応用発展や素材の活用について吸収し学びあう。 ②活動過程と鑑賞結果を記録し、活動の振り返りとまとめを行う。
22	光と影による表現Ⅰ	光と色の関係について、切り紙や折り紙を通して学ぶ。 ①日本の伝統切り紙と外国の折り紙を体験し、光との関係から色に変化することを知る。 ②重なりによる色や形の変化を味わう。 ③色彩の魅力を楽しむ。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	光と影による表現Ⅱ	光と物体との関係からできる影の魅力を味わう。 ①各種素材を光にかざし影の表情の違いを知る。 ②光の遮断・透過により異なる影ができることを知る。 ③さまざまな物で影をつくる。
24	光と影による表現Ⅲ	光と影による作品づくり。 ①さまざまな物を組み合わせて光と影による見立て表現を行う。 ②表現実験をもとに影絵として作品にまとめる。
25	素材体験Ⅰー小麦粉を素材とした表現体験①	フィンガーペインティングー色のりと身体による表現体験 ①小麦粉を使用しの色り作りを体験し、色のりの作り方を学ぶ。 ②色のりの感触を味わう。 ③手の動きによる色のりの表情の変化を味わう。
26	素材体験Ⅱー小麦粉を素材とした表現体験②	小麦粉粘土ー粘土の特徴と魅力 ①小麦粉粘土の作り方を学ぶ。 ②小麦粉粘土の特徴を知る。 ③粘土遊びを通して感触や立体造形の魅力を味わう。
27	素材体験Ⅲーお菓子を素材とした表現体験	お菓子による造形表現 ①色・形・模様等お菓子の表情の豊かさを味わう。 ②お菓子の特徴をいかした立体造形の魅力を味わう。 ③保育の場における行事や親子活動への発展的展開を考える。
28	描画・造形活動からみた子どもⅠ	描画及び造形活動の視点から幼児期を理解する。 ①子どもの描画及び造形活動を年齢別に概観し発達過程について学ぶ。 ②実例をもとに各時期の特徴について学ぶ。
29	描画・造形活動からみた子どもⅡ	描画及び造形活動に表現された子どもの内面について考える。 ①描画や造形作品に表出された子どもの内面をさぐる。 ②造形活動における保育者の役割と子どもの行動の関係について考える。
30	まとめ	保育環境と造形。 ①保育環境とは何かについて造形の視点から考える。 ②保育環境を創りだす者に求められる資質について考える。

科目名	保育表現技術 造形Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	早川 仁		
開講期	Ⅲ		
授業概要	保育に関して環境構成や、適する造形素材・用具知識・技法を幼児発達過程の理解と共に学び、自己研究を積み重ねて造形活動の側面から保育実践力を身につける。		
達成目標	1 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する。 * この授業では描画基礎を身に付けることを中心目標に置く。 2 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする。 3 造形活動を通して保育実践力を身につける。		
受講資格	保育表現技術造形Ⅰを取得していることが望ましい。	成績評価 方法	・授業課題作品 60点 ・平常点 10点 ・宿題作品 30点
教科書	特になし。		
参考書	著一V・ローエンフェルド 訳一竹内清 「美術による人間形成」 1989年 黎明書房 (特に用意しなくとも良いが一読しておく事を薦める)。		
学生への要望	毎回、運動着着用で授業に臨むこと。 毎回、授業終了時に清掃を行うこと。 課題作品提出締切日を厳守すること。		
オフィスタイム	月曜日・水曜日・金曜日の5時限目 826研究室。		
自学自習	自学自習課題) 毎週1時間程度。 ・アニメキャラクター全身描画1体(計10体)・折り紙壁面構成1ページ(計10作)。 予習一次回課題内容の準備(材料・用具の準備も含む)。 復習一授業の中で仕上がらなかった課題を次回までに仕上げしておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション・校内スケッチ4月7日(金)	1 授業オリエンテーション 配布物と内容説明(授業の約束・授業日程表) ・授業目的・授業計画内容・受講上の約束事等の説明を理解する。 2 スケッチ課題「わたしが気になる場所」 ・校内で「自分にとっての春」を探索してスケッチ記録する。 ・それがなぜ自分にとっての春なのか、個々の生活体験に基づいた情感や美意識でスケッチする。 描画素材一水彩・色鉛筆・クレヨンなど(鉛筆・ペンなどの単色も可)
2	壁面構成①4月14日(金)	壁面構成とは何かを学ぶ。 ・幼児が、「自然の変化や身の回りを美しく飾ることについて興味関心を持ち、豊かな心情や思考力を培う」。 又、「行事・伝統習慣に馴染み理解する」。ことが出来るようにしていくための方法であることを理解する。 A 自然・B 行事・C 造形装飾、3つのテーマから各自1つ選択し、壁面構成する 選択テーマの研究(行事の調べ、季節の動植物、デザイン構成など)～アイディアスケッチ作成～提出(中間指導)。
3	壁面構成②4月21日(金)	・用紙、素材、制作道具を各自準備し、表現の狙い・画面構図・配色等を検討して、作品制作。～完成～提出 締切5月12日(金)まで。 ・鑑賞会 学内に作品を掲示。これを互いに鑑賞し、表現を学び合う。*素材は各自購入 *サイズ指定=全版二分の一 ・ベース素材=厚手の紙であれば自由(模造紙は薄いので不可・ボール紙は可) ・装飾素材=自由(保育現場で使用する身近なものがより望ましい) ・立体平面どちらも可・個人制作とする・優秀作品は83年館1階掲示
4	実習準備研究① 計画案の実例から学ぶ 5月12日(金)	*計画案プリント・計画案作成ポイント資料配布 1 計画案の実例から学ぶ(先輩の実習指導案・報告書 資料から) ・発達段階・現場環境・活動時間・衛生・安全などを考慮した計画が立てられるよう、指導案作成のポイントを理解する。 2 各自実習で実践してみたい造形活動内容を造形工作資料など用いて決定し素材・手順など教材研究する。 *次回までに必要な素材の購入・用具準備の計画を立てる。
5	実習準備研究② 5月19日(金)	1 実際の制作を通して教材研究する。 2 教材研究と並行しながら計画案を作成する。(次回5月26日(金)までに仕上げる) 3 模擬授業発表グルーピング(1G6名程度)～担当配役決定(実習生1名・園児1その他全員) *対象年齢・環境構成・実施時間など明確しておく。 次回までにグループ検討会で使用する材料を実習生役の学生を中心にグループで準備。
6	実習準備研究③ 5月26日(金)	模擬授業グループ内検討会～発表練習 ・グループ内で、実習生役学生の計画案に基づき模擬授業を行う。 より良い実習が充実できるように授業内容について適切であるか等、検討し合う。(幼児役も含めて一指定年齢の幼児ならどんな行動をするかなども検討してみる) ・次回の発表練習
7	実習準備研究④ 6月2日(金)	各グループ模擬授業発表 発表を通して、他の教材展開の仕方、活動のポイントや発展展開の可能性・安全面・幼児の発達興味関心との整合性、時間配分など学び合う

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	実習準備研究⑤ 行事ポスター制作① 6月23日(金)	1、 実習で実践した(造形活動)実施報告書記載 2、 授業研究用アンケート。 3、 保育現場での行事に関わる制作活動の一環としてポスターを描く。ポスターとは何か 表現の目的を参考作品を鑑賞しながら探る。 内容日程・参考作品鑑賞・文字情報・技法について～下絵制作。サイズ=F-6

科目名	保育表現技術 造形Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	早川 仁		
開講期	Ⅲ		
授業概要	保育に関して環境構成や、適する造形素材・用具知識・技法を幼児発達過程の理解と共に学び、自己研究を積み重ねて造形活動の側面から保育実践力を身につける。		
達成目標	1 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する。 * この授業では描画基礎を身に付けることを中心目標に置く。 2 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする。 3 造形活動を通して保育実践力を身につける。		
受講資格	保育表現技術造形Ⅰを取得していることが望ましい。	成績評価 方法	・授業課題作品 60点 ・平常点 10点 ・宿題作品 30点
教科書	特になし。		
参考書	著一V・ローエンフェルド 訳一竹内清 「美術による人間形成」 1989年 黎明書房 (特に用意しなくとも良いが一読しておく事を薦める)。		
学生への要望	毎回、運動着着用で授業に臨むこと。 毎回、授業終了時に清掃を行うこと。 課題作品提出締切日を厳守すること。		
オフィスタイム	月曜日・水曜日・金曜日の5時限目 826研究室。		
自学自習	自学自習課題) 毎週1時間程度。 ・アニメキャラクター全身描画1体(計10体)・折り紙壁面構成1ページ(計10作)。 予習一次回課題内容の準備(材料・用具の準備も含む)。 復習一授業の中で仕上がらなかった課題を次回までに仕上げしておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション・校内スケッチ4月7日(金)	1 授業オリエンテーション 配布物と内容説明(授業の約束・授業日程表) ・授業目的・授業計画内容・受講上の約束事等の説明を理解する。 2 スケッチ課題「わたしが気になる場所」 ・校内で「自分にとっての春」を探索してスケッチ記録する。 ・それがなぜ自分にとっての春なのか、個々の生活体験に基づいた情感や美意識でスケッチする。 描画素材一水彩・色鉛筆・クレヨンなど(鉛筆・ペンなどの単色も可)
2	壁面構成①4月14日(金)	壁面構成とは何かを学ぶ。 ・幼児が、「自然の変化や身の回りを美しく飾ることについて興味関心を持ち、豊かな心情や思考力を培う」。 又、「行事・伝統習慣に馴染み理解する」。ことが出来るようにしていくための方法であることを理解する。 A 自然・B 行事・C 造形装飾、3つのテーマから各自1つ選択し、壁面構成する 選択テーマの研究(行事の調べ、季節の動植物、デザイン構成など)～アイディアスケッチ作成～提出(中間指導)。
3	壁面構成②4月21日(金)	・用紙、素材、制作道具を各自準備し、表現の狙い・画面構図・配色等を検討して、作品制作。～完成～提出 締切5月12日(金)まで。 ・鑑賞会 学内に作品を掲示。これを互いに鑑賞し、表現を学び合う。*素材は各自購入 *サイズ指定=全版二分の一 ・ベース素材=厚手の紙であれば自由(模造紙は薄いので不可・ボール紙は可) ・装飾素材=自由(保育現場で使用する身近なものがより望ましい) ・立体平面どちらも可・個人制作とする・優秀作品は83年館1階掲示
4	実習準備研究① 計画案の実例から学ぶ 5月12日(金)	*計画案プリント・計画案作成ポイント資料配布 1 計画案の実例から学ぶ(先輩の実習指導案・報告書 資料から) ・発達段階・現場環境・活動時間・衛生・安全などを考慮した計画が立てられるよう、指導案作成のポイントを理解する。 2 各自実習で実践してみたい造形活動内容を造形工作資料など用いて決定し素材・手順など教材研究する。 *次回までに必要な素材の購入・用具準備の計画を立てる。
5	実習準備研究② 5月19日(金)	1 実際の制作を通して教材研究する。 2 教材研究と並行しながら計画案を作成する。(次回5月26日(金)までに仕上げる) 3 模擬授業発表グルーピング(1G6名程度)～担当配役決定(実習生1名・園児1その他全員) *対象年齢・環境構成・実施時間など明確しておく。 次回までにグループ検討会で使用する材料を実習生役の学生を中心にグループで準備。
6	実習準備研究③ 5月26日(金)	模擬授業グループ内検討会～発表練習 ・グループ内で、実習生役学生の計画案に基づき模擬授業を行う。 より良い実習が充実できるように授業内容について適切であるか等、検討し合う。(幼児役も含めて一指定年齢の幼児ならどんな行動をするかなども検討してみる) ・次回の発表練習
7	実習準備研究④ 6月2日(金)	各グループ模擬授業発表 発表を通して、他の教材展開の仕方、活動のポイントや発展展開の可能性・安全面・幼児の発達興味関心との整合性、時間配分など学び合う

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	実習準備研究⑤ 行事ポスター制作① 6月23日(金)	1、 実習で実践した(造形活動)実施報告書記載 2、 授業研究用アンケート。 3、 保育現場での行事に関わる制作活動の一環としてポスターを描く。ポスターとは何か 表現の目的を参考作品を鑑賞しながら探る。 内容日程・参考作品鑑賞・文字情報・技法について～下絵制作。サイズ=F-6

科目名	保育表現技術 造形Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	早川 仁		
開講期	Ⅲ		
授業概要	保育に関して環境構成や、適する造形素材・用具知識・技法を幼児発達過程の理解と共に学び、自己研究を積み重ねて造形活動の側面から保育実践力を身につける。		
達成目標	1 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する。 * この授業では描画基礎を身に付けることを中心目標に置く。 2 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする。 3 造形活動を通して保育実践力を身につける。		
受講資格	保育表現技術造形Ⅰを取得していることが望ましい。	成績評価 方法	・授業課題作品 60点 ・平常点 10点 ・宿題作品 30点
教科書	特になし。		
参考書	著一V・ローエンフェルド 訳一竹内清 「美術による人間形成」 1989年 黎明書房 (特に用意しなくとも良いが一読しておく事を薦める)。		
学生への要望	毎回、運動着着用で授業に臨むこと。 毎回、授業終了時に清掃を行うこと。 課題作品提出締切日を厳守すること。		
オフィスタイム	月曜日・水曜日・金曜日の5時限目 826研究室。		
自学自習	自学自習課題) 毎週1時間程度。 ・アニメキャラクター全身描画1体(計10体)・折り紙壁面構成1ページ(計10作)。 予習一次回課題内容の準備(材料・用具の準備も含む)。 復習一授業の中で仕上がらなかった課題を次回までに仕上げしておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション・校内スケッチ4月7日(金)	1 授業オリエンテーション 配布物と内容説明(授業の約束・授業日程表) ・授業目的・授業計画内容・受講上の約束事等の説明を理解する。 2 スケッチ課題「わたしが気になる場所」 ・校内で「自分にとっての春」を探索してスケッチ記録する。 ・それがなぜ自分にとっての春なのか、個々の生活体験に基づいた情感や美意識でスケッチする。 描画素材一水彩・色鉛筆・クレヨンなど(鉛筆・ペンなどの単色も可)
2	壁面構成①4月14日(金)	壁面構成とは何かを学ぶ。 ・幼児が、「自然の変化や身の回りを美しく飾ることについて興味関心を持ち、豊かな心情や思考力を培う」。 又、「行事・伝統習慣に馴染み理解する」。ことが出来るようにしていくための方法であることを理解する。 A 自然・B 行事・C 造形装飾、3つのテーマから各自1つ選択し、壁面構成する 選択テーマの研究(行事の調べ、季節の動植物、デザイン構成など)～アイディアスケッチ作成～提出(中間指導)。
3	壁面構成②4月21日(金)	・用紙、素材、制作道具を各自準備し、表現の狙い・画面構図・配色等を検討して、作品制作。～完成～提出 締切5月12日(金)まで。 ・鑑賞会 学内に作品を掲示。これを互いに鑑賞し、表現を学び合う。*素材は各自購入 *サイズ指定=全版二分の一 ・ベース素材=厚手の紙であれば自由(模造紙は薄いので不可・ボール紙は可) ・装飾素材=自由(保育現場で使用する身近なものがより望ましい) ・立体平面どちらも可・個人制作とする・優秀作品は83年館1階掲示
4	実習準備研究① 計画案の実例から学ぶ 5月12日(金)	*計画案プリント・計画案作成ポイント資料配布 1 計画案の実例から学ぶ(先輩の実習指導案・報告書 資料から) ・発達段階・現場環境・活動時間・衛生・安全などを考慮した計画が立てられるよう、指導案作成のポイントを理解する。 2 各自実習で実践してみたい造形活動内容を造形工作資料など用いて決定し素材・手順など教材研究する。 *次回までに必要な素材の購入・用具準備の計画を立てる。
5	実習準備研究② 5月19日(金)	1 実際の制作を通して教材研究する。 2 教材研究と並行しながら計画案を作成する。(次回5月26日(金)までに仕上げる) 3 模擬授業発表グルーピング(1G6名程度)～担当配役決定(実習生1名・園児一その他全員) *対象年齢・環境構成・実施時間など明確しておく。 次回までにグループ検討会で使用する材料を実習生役の学生を中心にグループで準備。
6	実習準備研究③ 5月26日(金)	模擬授業グループ内検討会～発表練習 ・グループ内で、実習生役学生の計画案に基づき模擬授業を行う。 より良い実習が充実できるように授業内容について適切であるか等、検討し合う。(幼児役も含めて一指定年齢の幼児ならどんな行動をするかなども検討してみる) ・次回の発表練習
7	実習準備研究④ 6月2日(金)	各グループ模擬授業発表 発表を通して、他の教材展開の仕方、活動のポイントや発展展開の可能性・安全面・幼児の発達興味関心との整合性、時間配分など学び合う

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	実習準備研究⑤ 行事ポスター制作① 6月23日(金)	1、 実習で実践した(造形活動)実施報告書記載 2、 授業研究用アンケート。 3、 保育現場での行事に関わる制作活動の一環としてポスターを描く。ポスターとは何か 表現の目的を参考作品を鑑賞しながら探る。 内容日程・参考作品鑑賞・文字情報・技法について～下絵制作。サイズ=F-6

科目名	保育表現技術 造形Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	早川 仁		
開講期	Ⅲ		
授業概要	保育に関して環境構成や、適する造形素材・用具知識・技法を幼児発達過程の理解と共に学び、自己研究を積み重ねて造形活動の側面から保育実践力を身につける。		
達成目標	1 保育における造形活動に適した環境構成・造形素材・用具などの知識、基礎技法を修得する。 * この授業では描画基礎を身に付けることを中心目標に置く。 2 幼児の発達過程を造形表現の側面から理解できるようにする。 3 造形活動を通して保育実践力を身につける。		
受講資格	保育表現技術造形Ⅰを取得していることが望ましい。	成績評価 方法	・授業課題作品 60点 ・平常点 10点 ・宿題作品 30点
教科書	特になし。		
参考書	著一V・ローエンフェルド 訳一竹内清 「美術による人間形成」 1989年 黎明書房 (特に用意しなくとも良いが一読しておく事を薦める)。		
学生への要望	毎回、運動着着用で授業に臨むこと。 毎回、授業終了時に清掃を行うこと。 課題作品提出締切日を厳守すること。		
オフィスタイム	月曜日・水曜日・金曜日の5時限目 826研究室。		
自学自習	毎週1時間程度。 ・アニメキャラクター全身描画1体(計10体)・折り紙壁面構成1ページ(計10作)。 予習一次回課題内容の準備(材料・用具の準備も含む)。 復習一授業の中で仕上がらなかった課題を次回までに仕上げしておくこと。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション・校内スケッチ4月7日(金)	1 授業オリエンテーション 配布物と内容説明(授業の約束・授業日程表) ・授業目的・授業計画内容・受講上の約束事等の説明を理解する。 2 スケッチ課題「わたしが気になる場所」 ・校内で「自分にとっての春」を探索してスケッチ記録する。 ・それがなぜ自分にとっての春なのか、個々の生活体験に基づいた情感や美意識でスケッチする。 描画素材=水彩・色鉛筆・クレヨンなど(鉛筆・ペンなどの単色も可)
2	壁面構成①4月14日(金)	壁面構成とは何かを学ぶ。 ・幼児が、「自然の変化や身の回りを美しく飾ることについて興味関心を持ち、豊かな心情や思考力を培う」。 又、「行事・伝統習慣に馴染み理解する」。ことが出来るようにしていくための方法であることを理解する。 A 自然・B 行事・C 造形装飾、3つのテーマから各自1つ選択し、壁面構成する 選択テーマの研究(行事の調べ、季節の動植物、デザイン構成など)～アイディアスケッチ作成～提出(中間指導)。
3	壁面構成②4月21日(金)	・用紙、素材、制作道具を各自準備し、表現の狙い・画面構図・配色等を検討して、作品制作。～完成～提出 締切5月12日(金)まで。 ・鑑賞会 学内に作品を掲示。これを互いに鑑賞し、表現を学び合う。*素材は各自購入 *サイズ指定=全版二分の一 ・ベース素材=厚手の紙であれば自由(模造紙は薄いので不可・ボール紙は可) ・装飾素材=自由(保育現場で使用する身近なものがより望ましい) ・立体平面どちらも可・個人制作とする・優秀作品は83年館1階掲示
4	実習準備研究① 計画案の実例から学ぶ 5月12日(金)	*計画案プリント・計画案作成ポイント資料配布 1 計画案の実例から学ぶ(先輩の実習指導案・報告書 資料から) ・発達段階・現場環境・活動時間・衛生・安全などを考慮した計画が立てられるよう、指導案作成のポイントを理解する。 2 各自実習で実践してみたい造形活動内容を造形工作資料など用いて決定し素材・手順など教材研究する。 *次回までに必要な素材の購入・用具準備の計画を立てる。
5	実習準備研究② 5月19日(金)	1 実際の制作を通して教材研究する。 2 教材研究と並行しながら計画案を作成する。(次回5月26日(金)までに仕上げる) 3 模擬授業発表グルーピング(1G6名程度)～担当配役決定(実習生1名・園児1その他全員)*対象年齢・環境構成・実施時間など明確しておく。 次回までにグループ検討会で使用する材料を実習生役の学生を中心にグループで準備。
6	実習準備研究③ 5月26日(金)	模擬授業グループ内検討会～発表練習 ・グループ内で、実習生役学生の計画案に基づき模擬授業を行う。 より良い実習が充実できるように授業内容について適切であるか等、検討し合う。(幼児役も含めて一指定年齢の幼児ならどんな行動をするかなども検討してみる) ・次回の発表練習
7	実習準備研究④ 6月2日(金)	各グループ模擬授業発表 発表を通して、他の教材展開の仕方、活動のポイントや発展展開の可能性・安全面・幼児の発達興味関心との整合性、時間配分など学び合う

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	実習準備研究⑤ 行事ポスター制作① 6月23日(金)	1、 実習で実践した(造形活動)実施報告書記載 2、 授業研究用アンケート。 3、 保育現場での行事に関わる制作活動の一環としてポスターを描く。ポスターとは何か 表現の目的を参考作品を鑑賞しながら探る。 内容日程・参考作品鑑賞・文字情報・技法について～下絵制作。サイズ=F-6

平成29年度

科目名	保育実習指導 I		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子			
開講期	通年			
授業概要	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。			
達成目標	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。			
受講資格	幼児教育学科1年	成績評価 方法	平常点50点（提出物の有無、遅刻や授業態度の減点） 授業内テストの成績、提出物の内容50点	
教科書	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館, 2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館, 2015			
参考書	保育実習の手引き（平成29年度版） 福島県保育実習施設（平成29年度）いづれも福島県保育者養成校連絡会編			
学生への要望	本授業はⅠ期に8コマ、Ⅱ期に8コマ（あわせて2単位）、保育実習の事前指導として開設される。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	Ⅰ期：毎週月曜13：00-14：00、822研究室 Ⅱ期：毎週月曜14：30-15：30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
自学自習	事前学習：当日の内容を参考書で確認する（30分）。 事後学習：授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる（30分）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育実習の意義①	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、保育所実習の概要、実習希望先の確認
2	実習の内容と課題の明確化	実習の内容および課題、実習希望先の調整
3	実習についての留意事項	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理、実習希望先の決定
4	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて
5	実習の記録①	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方
6	実習の記録②	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方
7	実習の計画①	実習における保育計画（指導案）の作成について
8	実習の計画②	実習における保育計画（指導案）の作成について
9	保育実習の意義②	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、施設実習の概要
10	実習の内容と課題の明確化	施設実習における心構え・準備について、実習施設別の基本的な特徴の理解、実習希望先の確認
11	施設実習と守秘義務・個人情報の保護	実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方、実習希望先の調整
12	施設実習の実際	実習の留意事項について、施設実習の基本的な理解と、実習場面における園生や職員との関わりについて、実習希望先の決定
13	保育所実習事前指導①	実習生としての心構え、実習日誌の配布、誓約書について
14	保育所実習事前指導②	実習の課題の明確化、実習日誌の記入、保菌検査・抗体検査について
15	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて（外部の専門家を講師に予定している）
16	保育所実習の実際③	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて（外部の専門家を講師に予定している）

平成29年度

科目名	保育実習指導 I		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子			
開講期	通年			
授業概要	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。			
達成目標	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。			
受講資格	幼児教育学科 1年	成績評価 方法	平常点 50点 (提出物の有無、遅刻や授業態度の減点) 授業内テストの成績、提出物の内容 50点	
教科書	厚生労働省編『保育所保育指針解説書』フレーベル館, 2008 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館, 2015			
参考書	保育実習の手引き (平成29年度版) 福島県保育実習施設 (平成29年度) いずれも福島県保育者養成校連絡会編			
学生への要望	本授業はⅠ期に8コマ、Ⅱ期に8コマ (あわせて2単位)、保育実習の事前指導として開設される。 保育実習 (保育所・施設) は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	Ⅰ期: 毎週月曜13:00-14:00、822研究室 Ⅱ期: 毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談 (cobalt@koriyama-kgc.ac.jp) にメールして日時を設定)			
自学自習	事前学習: 当日の内容を参考書で確認する (30分)。 事後学習: 授業を踏まえて各授業の要点をノートにまとめる (30分)。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育実習の意義①	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、保育所実習の概要、実習希望先の確認
2	実習の内容と課題の明確化	実習の内容および課題、実習希望先の調整
3	実習についての留意事項	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理、実習希望先の決定
4	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて
5	実習の記録①	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方
6	実習の記録②	実習における実践、観察、記録について、実習日誌の書き方
7	実習の計画①	実習における保育計画 (指導案) の作成について
8	実習の計画②	実習における保育計画 (指導案) の作成について
9	保育実習の意義②	オリエンテーション、実習の目的、保育実習とは、施設実習の概要
10	実習の内容と課題の明確化	施設実習における心構え・準備について、実習施設別の基本的な特徴の理解、実習希望先の確認
11	施設実習と守秘義務・個人情報の保護	実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方、実習希望先の調整
12	施設実習の実際	実習の留意事項について、施設実習の基本的な理解と、実習場面における園生や職員との関わりについて、実習希望先の決定
13	保育所実習事前指導①	実習生としての心構え、実習日誌の配布、誓約書について
14	保育所実習事前指導②	実習の課題の明確化、実習日誌の記入、保菌検査・抗体検査について
15	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて (外部の専門家を講師に予定している)
16	保育所実習の実際③	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて (外部の専門家を講師に予定している)

科目名	保育実習指導Ⅱ又はⅢ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。			
達成目標	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	平常点50点（提出物の有無、遅刻や授業態度の減点） 提出物の内容50点	
教科書	厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館, 2008。適宜、資料等配布。			
参考書	保育実習の手引き（平成28年度版）、福島県保育実習施設（平成28年度）いずれも福島県保育者養成校連絡会編			
学生への要望	本授業はⅢ期に8コマ（1単位）、保育実習の事前指導として開設される。保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	毎週月曜13:00-14:00、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
自学自習	事前学習：当日の内容を参考書で確認する（30分）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育実習の振り返り①	オリエンテーション、本授業の目的、保育所実習の概要、反省・感想（小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
2	保育実習の振り返り②	保育所実習の概要、反省・感想（小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
3	実習で学んだ重要事項①	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理（小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
4	実習で学んだ重要事項②	保育所実習における保育計画と実践、観察、記録及び評価、実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方。（小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
5	福祉職として働くために①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。（小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
6	福祉職として働くために②	施設実習の基本的な理解と実習場面における園生や職員との関わりについて。実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点。（小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子およびゲストスピーカーを予定） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
7	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と実習場面における子どもや職員との関わりについて。（小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子および外部の専門家を講師に予定している） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
8	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて（小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋子および外部の専門家を講師に予定している） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
14		
15		

平成29年度

科目名	保育実習指導Ⅱ又はⅢ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 1単位 選択
担当教員	小林 徹, 猪股 照子, 星野 朋			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。 3. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。 4. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。 5. 実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、課題や学習目標を明確にする。			
達成目標	1. 保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にすることができたか。 2. 実習施設における子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解することができたか。 3. 実習の保育計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解することができたか。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	平常点50点（提出物の有無、遅刻や授業態度の減点） 提出物の内容50点	
教科書	厚生労働省編『保育所保育指針』フレーベル館, 2008。適宜、資料等配布。			
参考書	保育実習の手引き（平成28年度版）、福島県保育実習施設（平成28年度）いずれも福島県保育者養成校連絡会編			
学生への要望	本授業はⅢ期に8コマ（1単位）、保育実習の事前指導として開設される。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、本授業内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。本授業の受講に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	毎週月曜13:00-14:00、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
自学自習	事前学習：当日の内容を参考書で確認する（30分）。 事後学習：授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育実習の振り返り①	オリエンテーション、本授業の目的、保育所実習の概要、反省・感想 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
2	保育実習の振り返り②	保育所実習の概要、反省・感想 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
3	実習で学んだ重要事項①	子どもの人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務・信用失墜行為の禁止、個人情報保護法と保育、実習生に求められる情報管理 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
4	実習で学んだ重要事項②	保育所実習における保育計画と実践、観察、記録及び評価 実習の内容と日誌、ケース記録の書き方の基本、守秘義務を考慮した日誌の書き方 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
5	福祉職として働くために①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて 実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
6	福祉職として働くために②	施設実習の基本的な理解と、実習場面における園生や職員との関わりについて 実習することと実際に保育所に勤務することの接続と困難点 （ゲストスピーカーを予定） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
7	保育所実習の実際①	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて （外部の専門家を講師に予定している） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
8	保育所実習の実際②	保育所実習の留意事項および保育所の基本的な理解と、実習場面における子どもや職員との関わりについて （外部の専門家を講師に予定している） 【事前】当日の内容を参考書で確認する（30分）。 【事後】授業を踏まえて振り返りシートを作成する（30分）。
14		
15		

平成29年度

科目名	保育実習Ⅰ-1		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 1年 2単位 選択
担当教員	小林 徹			
開講期	Ⅱ			
授業概要	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。			
達成目標	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%	
教科書	保育実習の手引き（平成29年度版） 福島県保育者養成校連絡会編			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	毎週月曜14：30-15：30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育所実習の内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ・ 養護と教育が一体となって行われる保育 ・ 保育所の社会的役割と責任
2	保育所実習の内容	2. 観察に基づく保育理解 ・ 子どもの心身の状態や活動の記録 ・ 保育士等の動きや実践の観察 ・ 保育所の生活の流れや展開の把握
3	保育所実習の内容	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・ 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・ 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 ・ 地域社会との連携
4	保育所実習の内容	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・ 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解 ・ 作成した指導計画に基づく保育実践と評価
5	保育所実習の内容	5. 保育士の業務と職業倫理 ・ 多様な保育の展開と保育士の業務 ・ 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6	保育所実習の内容	6. 自己の課題の明確化
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・ 意欲・積極性 ・ 責任感 ・ 探究心 ・ 協調性

平成29年度

科目名	保育実習 I-2		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	小林 徹			
開講期	前期			
授業概要	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。			
達成目標	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 利用者への理解を深め、支援について理解できたか。 3 支援の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%	
教科書	保育実習の手引き（平成28年度版） 福島県保育実習施設（平成28年度版） いずれも福島県保育者養成校連絡会編			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	毎週月曜14:30-15:30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	1. 施設の役割と機能 ・施設の生活と一日の流れ ・施設の役割と機能
2	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	2. 利用者の理解 ・利用者の観察とその理解 ・個々の状態に応じた援助やかかわり
3	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	3. 養護内容・生活環境 ・計画に基づく活動や援助 ・利用者の心身の状態に応じた対応 ・利用者の活動と生活の環境 ・健康管理、安全対策の理解
4	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	4. 計画と記録 ・支援計画の理解と活用 ・記録に基づく省察・自己評価
5	居住型児童福祉施設等及び障害児通所施設等における実習の内容	5. 専門職としての保育士の役割と倫理 ・保育士の業務内容 ・職員間の役割分担や連携 ・保育士の役割と職業倫理
6	実習生としてふさわしい適切な態度	・意欲・積極性 ・責任感 ・探究心 ・協調性

科目名	保育実習Ⅱ		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	小林 徹			
開講期	Ⅲ			
授業概要	1 保育所の役割や機能を具体的に理解する。 2 観察や、子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 3 既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。 4 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解する。 5 保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。 6 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨む。			
達成目標	1 保育所の役割や機能、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解できたか。 2 子どもへの理解を深め、子どもの保育及び保護者への支援について理解できたか。 3 保育の計画、観察、記録及び自己評価等について具体的に理解できたか。 4 実習生としてふさわしい適切な態度で実習に臨めたか。			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%	
教科書	保育実習の手引き（平成28年度版） 福島県保育者養成校連絡会編			
参考書	特に指定しない			
学生への要望	実習は、実際の保育現場で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。			
オフィスタイム	毎週月曜13：00-14：00、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	保育所実習の内容	1. 保育所の役割や機能の具体的展開 ・ 養護と教育が一体となって行われる保育 ・ 保育所の社会的役割と責任
2	保育所実習の内容	2. 観察に基づく保育理解 ・ 子どもの心身の状態や活動の記録 ・ 保育士等の動きや実践の観察 ・ 保育所の生活の流れや展開の把握
3	保育所実習の内容	3. 子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 ・ 環境を通して行う保育、生活や遊びを通して総合的に行う保育の理解 ・ 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 ・ 地域社会との連携
4	保育所実習の内容	4. 指導計画の作成、実践、観察、記録、評価 ・ 保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育課程の理解 ・ 作成した指導計画に基づく保育実践と評価
5	保育所実習の内容	5. 保育士の業務と職業倫理 ・ 多様な保育の展開と保育士の業務 ・ 多様な保育の展開と保育士の職業倫理
6	保育所実習の内容	6. 自己の課題の明確化
7	実習生としてふさわしい適切な態度	・ 意欲・積極性 ・ 責任感 ・ 探究心 ・ 協調性

平成29年度

科目名	保育実習Ⅲ	対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	小林 徹		
開講期	通年		
授業概要	1 児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。 2 家庭と地域の生活実態にふれて、児童家庭福祉及び社会的養護に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を養う。 3 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。 4 保育士としての自己の課題を明確化する。		
達成目標	1 児童福祉施設等の役割や機能、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力について実践を通して理解を深めることができたか。 2 保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解し、自己の課題を明確にできたか。		
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	大学による評価 50% 福祉施設による実習の評価 50%
教科書	保育実習の手引き（平成28年度版）福島県保育実習施設（平成28年度版） いずれも福島県保育者養成校連絡会編		
学生への要望	実習は、実際の施設で行われるので、社会人のマナーを厳守し、緊張感と感謝の心をもって取り組むこと。 保育実習（保育所・施設）は、保育士資格取得に関わるたいへん重要な科目であり、事前指導の内容を正確に理解しない場合、資格が取得できない危険性がある。実習に際しては、慎重かつ真摯な態度が不可欠である。		
オフィスタイム	毎週月曜14：30-15：30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koriyama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	児童福祉施設等（保育所以外）の役割と機能	児童福祉施設等（保育所以外）の役割や機能について実践を通して理解を深める。
2	施設における支援の実際	1, 受容し、共感する態度 2, 個人差や生活環境に伴う子どものニーズの把握と子ども理解 3, 個別支援計画の作成と実践 4, 子どもの家族への支援と対応 5, 多様な専門職との連携 6, 地域社会との連携
3	保育士の多様な業務と職業倫理	保育士の業務内容や職業倫理について具体的な実践に結びつけて理解する。
4	保育士としての自己の課題を明確化	保育士としての自己の課題を明確化する。
5	実習生としてふさわしい適切な態度	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲・積極性 ・責任感 ・探究心 ・協調性

科目名	教職・保育実践演習		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 選択
担当教員	富士盛 公年			
開講期	IV			
授業概要	<p>建学の精神である「尊敬」「責任」「自由」の実践を通しての、「個の確立と他との協調」を教育目標とする本学園での教職実践演習では、ここに位置づけて次の目標を目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「尊敬」の実践による到達目標 教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長する姿勢が身についている。 「責任」の実践による到達目標 高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。 「自由」の実践による到達目標 子どもの発達や心身の状況に応じて、抱える課題を理解でき、受容的な態度で、柔軟で適切な指導により、豊かな人間的交流を進展させることができる。 <p>1回 富士盛、折笠、草野、伊藤 履修カルテ入力やレポート作成 2～5回 クラスごとの討議や課題研究 富士盛 箱庭療法を体験する 草野 ◎保育者のかかわりと子どもの育ちについて保育記録や文献を手掛かりに考える。 猪股 乳幼児の養護と教育が一体となった保育のかかわりを言語化し討議発表する。 伊藤 幼児のもつ科学的認識能力を伸ばすためにはどのように幼児に接すればよいか討議する。 6～9回 富士盛 自分のメンタルヘルスについてコントロールできるようにする。 草野 視点を変えて討議を行い保育者の役割とその影響について考えを深化させる。 永瀬 齊藤公子の実践を学び、乳児保育についてさらに学修を深化させる。 伊藤 保育士として笑顔で幼児に接するにはどのような生き方をすれば良いか討議する。</p> <p>10～13回 附属幼稚園の教諭を呼んで話を聞く 担当 富士盛、折笠、伊藤、草野 14回 郡山市私立幼稚園の園長先生の話聞く 担当 三瓶、富士盛、折笠、伊藤、草野 15回 まとめのレポート作成と履修カルテの完成 担当 富士盛、折笠、伊藤、草野</p>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> ①現場の先生方の話を聞いてそれを理解し、実践的な見地から自分なりの考えを述べるができる。 ②教育実習を終えて、現場で通用できる指導案を書くことができる。 ③今までの学習を反省総括し、実践的な教育力を自分につける。 			
受講資格	最終学年の後期	成績評価 方法	特別講義の感想 40点 発表・プレゼンテーションの評価 30点 まとめのレポート 30点	
教科書	授業でプリントを配布			
参考書	授業中に紹介する			
学生への要望	<p>教職の授業の中で最後になる本授業では、今までの講義、演習、実習などを通じて学習したことを総括し、自分に不足した部分をさらに学ぶことになる。 実践的でまとめになるこの授業を通じて、現場の教員となって課題に直面した時にそれを解決する力を身につけてほしい。そのためにも積極的に授業に参加し、発表や話し合いで自分の力を高めることを学生に要望する。 事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。</p>			
オフィスタイム	授業の責任者 富士盛研究室（833） 火曜日午後4時から5時 水曜日午後4時から5時			
自学自習	予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーションと履修カルテの指導	第1回 9月13日 「オリエンテーションと履修カルテの指導」 授業についてのオリエンテーションと履修カルテの記入についての指導を各クラスごとに行う。担当富士盛、折笠、草野、伊藤
2	①課題説明と討議	第2回 9月20日 クラス4展開①課題説明と討議 A組猪股 B組草野 C組富士盛（ D組伊藤
3	①課題説明と討議	第3回 9月27日 クラス4展開①課題説明と討議 B組猪股 C組草野 D組富士盛 A組伊藤
4	①課題説明と討議	第4回 10月11日 クラス4展開①課題説明と討議 C組猪股 D組草野 A組富士盛 B組伊藤
5	①課題説明と討議	第5回 10月18日 クラス4展開①課題説明と討議 D組猪股 A組草野 B組富士盛 C組伊藤
6	②討議とレポート作成	第6回 10月25日 クラス4展開②討議とレポート作成 A組猪股 B組草野 C組富士盛 D組伊藤
7	②討議とレポート作成	第7回 11月1日 クラス4展開②討議とレポート作成 B組猪股 C組草野 D組富士盛 A組伊藤
8	②討議とレポート作成	第8回 11月8日 クラス4展開②討議とレポート作成 C組猪股 D組草野 A組富士盛 B組伊藤
9	②討議とレポート作成	第9回 11月15日 クラス4展開②討議とレポート作成 D組猪股 A組草野 B組富士盛 C組伊藤
10	③事例研究	第10回 附属幼稚園と連携して事例研究
11	③事例研究	第11回 附属幼稚園と連携して事例研究
12	③事例研究	第12回 附属幼稚園と連携して事例研究
13	④事例研究	第12回 附属幼稚園と連携して事例研究
14	演習「現場への教職としての態度を学ぶ実践研究」	第14回演習 郡山市内の私立幼稚園園長から教職への期待、役割、態度を学ぶ

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	まとめ	第15回 1月24日 履修カルテの最終確認、レポート提出 「教育職についての理解」教育職に求める資質・能力を持っているか。自己理解と自己反省を促すディスカッションを行い、履修カルテを完成させ、最終レポートを提出する。 担当 富士盛 折笠、草野、伊藤

科目名	卒業研究		
担当教員	三瓶 令子, 富士盛 公年, 一柳 智子, 早川 仁, 草野 葉子, 小林 徹, 山上 裕子, 折笠 国康, 永瀬 悦子, 伊藤 哲章, ポール バーナミィ, 柴田 卓, 猪股 照子	対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
開講期	通年		
授業概要	この分野では、子どもを対象とした音楽劇(オペレッタ・ミュージカル)の制作発表をする。オペレッタは、言葉と音楽・動きが総合された音楽劇であり、オペレッタ制作を通して、学生同士の協働による表現活動を目指したい。 ○出来るだけ子どもに近いところで、子どもに届く表現を大切に研究する。 ○基礎技能の音楽・造形・体育(ダンス)で学んだそれぞれの表現方法を、総合的に表現出来るようにする。 ○協働で表現活動をするという学びの場を共有し、発表の機会を体験する。		
達成目標	○オペレッタ制作を通して学生同士協働的に学ぶことができるようになる。 ○出来るだけ子どもに近いところで、子どもに届く表現ができるようになる。 ○基礎技能の音楽・造形・体育(ダンス)で学んだそれぞれの表現方法を、総合的に表現できるようになる。		
受講資格	幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	平常点(取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度等) 60点 成果(研究発表、本文、『保育研究』原稿) 40点
教科書	なし		
参考書	適宜推薦		
学生への要望	○グループで学びあうルールやマナーを守る。 ○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。 ○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。 ○毎回、基礎的なレッスン(ストレッチ・発声・言葉のレッスン等)を行なう。		
オフィスタイム	三瓶 時間：火・水のIV時限 場所：83年館4F 841研究室		
自学自習	事前・事後学修 事前学修：グループ内での自己の役割を認識し、それに向けて毎回の準備をして授業に臨む。(30分) 事後学修：時間外活動を有効に生かし、毎回課題に対する復習と自己鍛錬を行う		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	○メンバーの顔合わせと自己紹介 ○リーダー・サブリーダー・舞台監督等の選出 ○1年間の日程確認
2	テーマの選択①	○話し合い(それぞれの希望を出し合う) ○資料検索(図書館・絵本室・VTR・DVD) ○先行研究の鑑賞
3	テーマの選択②	○話し合い(それぞれの希望を出し合う) ○資料検索(図書館・絵本室・VTR・DVD) ○先行研究の鑑賞
4	オペレッタとは何か(オペレッタ制作の意義)	○オペレッタで「子どもの表現」を育てる ○オペレッタで「子どもの表現を育てる者」として育つ ○オペレッタ制作の役割(キャスト・スタッフ・脚本・音楽・音響・照明・衣装・大道具・小道具・場面構成)
5	基礎レッスンと脚本制作①	○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチュエーションでのレッスン) ○脚本制作 ・演劇の脚本とオペレッタの脚本の違いを把握する ・音楽化可能な脚本とする ・出来るだけ子どもに近い表現内容とする ・時間配分を考える ・スタッフ・キャストの人数配分を考える
6	基礎レッスンと脚本制作②	○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチュエーションでのレッスン) ○脚本制作 ・演劇の脚本とオペレッタの脚本の違いを把握する ・音楽化可能な脚本とする ・出来るだけ子どもに近い表現内容とする ・時間配分を考える ・スタッフ・キャストの人数配分を考える
7	脚本の読み合わせと内容検討	○オペレッタの脚本となっているか ○音楽化可能な脚本か ○子どもに近い表現内容か ○時間配分はどうか ○スタッフ・キャストの人数配分はどうか
8	キャスト及び楽器隊とスタッフの決定	○キャスト ・自薦・他薦・オーディション等で決める ○楽器隊、及びスタッフ ・希望者を募る

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	制作・練習①	○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める ○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する ○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする ○スタッフは、各役割ごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える
10	制作・練習②	○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める ○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する ○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする ○スタッフは、各役割ごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える
11	制作・練習③	○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める ○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する ○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする ○スタッフは、各役割ごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える
12	制作・練習④	○キャスト・楽器隊・スタッフごとに同時平行で進める ○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する ○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする ○スタッフは、各役割ごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える
13	もみじ会準備(チャイルドシアター)①	○1・2年生の各グループリーダー同士でチャイルドシアター全体を見直し、全体のプログラムを作る。 ○発表会場の環境を整え、練習やハーサルスケジュールを作る。 ○オペレッタの卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・声・言葉・動き・音響・照明等)
14	もみじ会準備(チャイルドシアター)②	○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。 ○オペレッタの卒研グループは、観客(子ども)に届く表現方法を工夫し、卒研としてより質の高い作品となるよう仕上げる。(音楽・発声・言葉・動き・音響・照明等)
15	もみじ会発表(チャイルドシアター)①	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。 ○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。 ○発表内容の記録(写真、VTR、DVD等)撮り、反省の機会を設ける。
16	もみじ会発表(チャイルドシアター)②	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。 ○発表期間中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。 ○発表内容の記録(写真、VTR、DVD等)撮り、反省の機会を設ける。
17	もみじ会反省	○もみじ会全体、チャイルドシアター全体、オペレッタ全体(1,2年生全体)、オペレッタ卒研とし、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真、VTR、DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。
18	卒研発表へ向けての練習①	○もみじ会の内容を分析し、卒研発表会へ向けてより質の高い内容とするための工夫をする。 ○発表会場(記念講堂)を視野に入れ、人、物、空間等を検討する。 ○授業とのバランスを考え、計画表を作成する。
19	卒研発表へ向けての練習②	○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。 ○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチュエーションでのレッスン)を毎回行う。 ○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する ○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする ○スタッフは、各役割ごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える
20	卒研発表へ向けての練習③	○記念講堂の広さを把握し、表現方法、内容を工夫する。 ○基礎レッスン(ストレッチ・発声・言葉・身体・セチュエーションでのレッスン)を毎回行う。 ○キャストは、個人の役作りを深めると共に、協働で表現活動をする事で、学びの場を共有する ○楽器隊は、場面や役に合った曲創りをし、様々な楽器を活用することでよりイメージを膨らませる工夫をする ○スタッフは、各役割ごとに(音響・照明・衣装・大道具・小道具等)、より舞台効果が出るようなアイデアを考える
21	記念講堂機材説明会	○講堂機材全般の操作方法を取得する。 ○特にスタッフは、実際に機材にふれ、操作方法を覚える。 ○機材操作の注意事項を把握し、事故・故障の原因を作らないよう慎重に取り扱うよう注意する。
22	卒研発表へ向けての練習④	○発表に向けて、舞台監督を中心に、全体の仕上げに入る。 ○キャスト・スタッフ共に意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの役割りを果たす中で、協同的に学んでいく。
23	卒研発表へ向けての練習⑤	○発表に向けて、舞台監督を中心に、全体の仕上げに入る。 ○キャスト・スタッフ共に意見交換を密接にし、1人1人がそれぞれの役割りを果たす中で、協同的に学んでいく。
24	卒研発表会	○1年生全員と、2年生の論文発表のメンバー他来場者に、発表目的や制作課程の説明、発表をする。 ○作品の発表を観て頂く。 ○記録(VTR、DVD、写真等)を撮る。
25	つどいへ向けての練習	○オペレッタ卒研として、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真、VTR、DVD等)観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。 ○つどいに向けて、更に内容を吟味、整理していく。
26	劇とあそびのつどいリハーサル①	○オペレッタ単独ではなく、各リーダー同士連絡を密にして、つどい全体が学科行事として地域にアピールできるようにする。特に舞台発表は全体として統一した流れとなるように、それぞれのグループ同士、将来の保育者を目指し、協働的に学んでいく。 ○一方で、それぞれのパートの内容を、更に吟味、整理していく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
27	リハーサル振り返り①	<ul style="list-style-type: none"> ○記録(写真, VTR, DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。 ○つどい全体が学科行事として地域にアピールできているか検討する。特に舞台発表は全体として統一した流れとなっているか検討する。 ○全体のタイムレコーダーの確認。
28	劇とあそびのつどいリハーサル②	<ul style="list-style-type: none"> ○つどい当日の疑似体験を経験し、落ちないように準備する。
29	リハーサル振り返り②	<ul style="list-style-type: none"> ○全体の確認。
30	劇とあそびのつどい	<ul style="list-style-type: none"> ○学生の創造的表現力・運営力及び発表力を高め、学習意欲の高揚を図ることを目的とし、1年生・2年生の全学生が、年度末の発表としての発表活動を行なう。 更に、保育者養成機関として、地域社会のサービスを図る。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	早川 仁			
開講期	通年			
授業概要	・この卒業研究では子どもの成長発達に欠かせない自然環境・地域社会や児童文化などを含め、教育と文化の両面から学生自身が最も興味関心の深い課題を設定し、それらが子どもの成長発達にどのような意義を持っているかなどについて研究する。			
達成目標	1、発達に関わる造形遊びの製作などを行なう。 2、研究の成果を幼稚園や保育所での実習、又は地域社会のボランティア体験・学内行事発表会などで実践し、それらを通して子どもも理解と保育者としての資質を向上させる。 3、研究活動を通して本学建学の精神「尊敬・責任・自由」を体現する。又、グループ活動によりコミュニケーション能力を高める。			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	・平常点（出席、取り組み姿勢、意欲、他との協力、チームへの貢献など）60点。 ・成果（研究発表、本文、「保育研究」原稿）40点	
教科書	特になし			
参考書	担当教員より必要に応じて指示			
学生への要望	・自己課題の解決に向けて積極的に取り組むこと。 ・活動後に毎回清掃を行うこと。			
オフィスタイム	水曜日・金曜日 15:00~17:00 826研究室			
自学自習	事前：次回活動内容（資料・素材・用具など）を個人又はグループで準備練習しておくこと（1時間）。 事後：活動を振り返り、研究記録を取る。反省点や計画の遅れなどを確認し合い、個人又はグループで遅れた課題を練習・仕上げをしておく（1時間）。			

～授業内容とスケジュール～

回	項目	授業内容
1	授業オリエンテーション	4月12日（水） ・オリエンテーション・シラバイ説明（人形劇指導趣旨及び活動日程説明。） ・自己紹介 ・自己確認シート記録 ・シナリオ（既成のお話）～シナリオ原作の決定 ・人形形態について（棒使い人形）
2	先輩の作品鑑賞・役割組織づくり	4月19日（水） ・先輩の作品鑑賞を通して研究意欲を高める。人形劇にたいする理解を深める。 ・チームの役割組織をつくり互いの責任を明確にすると共にチームワークを高める。
3	シナリオ検討 登場キャラクター確定	4月26日（水） ・台本選定～人形劇に合わせた台本の手直し。 ・台本読み合わせ。 ・人形デザイン。
4	シナリオ原案検討～修正。	5月10日（水） シナリオ原案を全員で検討する～人形劇の演出効果を考慮したシナリオ修正をする。
5	人形製作	5月17日（水） ・もみじ会用人形制作（12月卒研発表会、講堂発表の試作品として制作） 人形の構造を研究・検討する
6	人形制作	5月24日（水） 人形制作 構造の研究
7	人形制作・操作練習	5月31日（水） 人形制作構造の研究 ・人形完成作品の完成。 ・操作練習 棒使い人形の操作について研究する。
8	立ち稽古（行動線の確認） 立ち稽古（音の表現）	6月28日（水） ・人形を用いて演じるときの動作一連の流れを稽古する。 ・行動線確認。 ・発声練習。
9	立ち稽古 大小道具・背景制作	7月5日（水） *（施設実習1班除く） 立ち稽古を行う。 必要な大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。
10	立ち稽古 大小道具・背景制作	7月12日（水） *（施設実習2班除く） 立ち稽古を行う。必要な大小道具・背景を検討しデザイン～制作する。
11	立ち稽古 大小道具・背景制作	7月19日（水）*（施設実習2班除く） 立ち稽古 大小道具・背景制作
12	後期オリエンテーション	9月13日（水） 後期授業内容、卒研行事等の確認。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
13	もみじ会中間発表準備1	9月20日(水) ・卒業研究中間発表としての「もみじ会」に向け、発表準備をする。 ・「もみじ会」の発表会場舞台構造により大小道具準備又は、演出機材等の操作練習をする。
14	もみじ会中間発表準備2	9月27日(水) ・幕間の発表内容も含めて準備、練習する。
15	もみじ会中間発表練習	補講 10月4日(水)～6日(金) ・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。
16	中間発表準備・練習	補講 10月4日(水)～6日(金) ・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。
17	中間発表準備・練習	補講 10月4日(水)～6日(金) ・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。
18	中間発表準備・練習～もみじ会発表10月7日(土)～10月8日(日)	補講 10月4日(水)～6日(金) ・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。
19	中間発表準備・練習～もみじ会発表10月7日(土)～10月8日(日)	補講10月4日(水)～6日(金) ・卒業研究の中間発表として「もみじ会」に向けた発表練習をする。 ・発表会場舞台等の設営 ・各係毎に発表会運営に関する業務にあたる。
20	もみじ会反省会	10月11日(水) ・「もみじ会」発表記録ビデオから客観的に自分たちの演技を確認する。 ・来場者の感想アンケートなどを基にして作品内容、演技内容等、活動全般の反省をする。 ・卒研発表に向けたシナリオ及び人形の制作計画。
21	シナリオ・人形の手直し2	10月18日(水) ・卒業研究発表会に向けて、「もみじ会」中間発表反省を基に人形、シナリオの手直しをする
22	卒研発表練習1 記念講堂機材担当者の決定	10月25日(水) ・記念講堂の舞台を生かしたシナリオと演出の手直しをする。 ・次回の記念講堂機材担当者の決定と説明会で学ぶ内容の確認をする。
23	機材操作説明会	11月 1日(水) ・記念講堂機材説明会で演出機材の操作内容を学ぶ。 ・機材演出を作品に活かす工夫を研究する。
24	ステージ発表練習	11月 8日(水) ・ステージ発表練習(演技・機材による演出) ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。
25	ステージ発表練習	11月15日(水) ・ステージ発表練習(演技・機材による演出) ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。
26	ステージ発表練習	11月22日(水) ・ステージ発表練習(演技・機材による演出) ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。
27	ステージ発表練習	11月29日(水) ・ステージ発表練習(演技・機材による演出)。 ・記念講堂発表用の大・小道具を製作する。。
28	卒研発表リハーサル ①	12月 6日(水) 卒研発表リハーサル 建学記念講堂で行う。
29	卒研発表リハーサル ②	12月13日(水)。 卒研発表リハーサルを行う(見学記念講堂)。
30	卒研発表会(論文発表)・ 卒研発表会(舞台発表)	12月20日(水) ・卒研発表会(論文発表)を聴講する。 ・卒研発表会(舞台発表)を上演する。 *1月24日(水) ・論文・冊子原稿最終提出日 卒研反省～劇と遊びのつどい準備

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	伊藤 哲章			
開講期	通年			
授業概要	近年の研究成果より、幼児が持っている生物の知識は、一種の生物学（素朴生物学）を構成していることが明らかとなった。幼児の持つ生物学は、あくまでも身近な動物や植物との接触、自分自身の身体についての体験などの日常生活経験を通して、幼児自身が自ら構成した要素が強い。			
達成目標	本授業では、附属幼稚園の園児らを対象に各種の調査を行い、素朴生物学について明らかにする。 素朴生物学の構成要素は、①生物/無生物の区別と心/身体の区別、②動植物に関して一貫したもっともらしい予測を可能とする推論様式（擬人化）、③生物現象に関する非意図的な因果的説明の枠組み（生氣論）の3つである。			
受講資格	2年生に進級した学生	成績評価 方法	平常点60点（姿勢、意欲等）成果40点（研究発表、本文、保育研究）として評価する。	
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	積極的にゼミに参加し、無断欠席をしないこと。			
オフィスタイム	木曜日3限～4限 金曜日4限 場所 821研究室			
自学自習	予習 幼児の科学的な認識に関する本を読むこと（1時間） 復習 卒研で取り組んだ内容をまとめること（1時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	研究の基礎 オリエンテーション	素生物学の研究の基礎的な説明
2	研究の基礎	素朴生物学の研究調査の方法の説明
3	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い
4	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定
5	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い
6	調査用紙作成 1	調査用紙作成についての話し合い
7	調査用紙作成 2	調査用紙作成についての話し合い
8	調査の分析 1	統計処理の説明①
9	調査の分析 2	統計処理の説明②
10	調査の分析 3	統計処理の説明③
11	調査のまとめ 1	分析結果のまとめについての話し合い
12	調査のまとめ 2	分析結果のまとめについての話し合い
13	調査のまとめ 3	分析結果のまとめについての話し合い
14	研究発表の準備 1	研究発表の準備作業
15	研究発表の準備 2	研究発表の準備作業
16	中間発表 1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討
17	中間発表 2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討
18	追加調査準備 1	追加の調査用紙の作成
19	追加調査準備 2	追加の調査用紙の作成
20	追加調査の集計 1	追加調査の集計とまとめ
21	追加調査の集計 2	追加調査の集計とまとめ
22	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明
23	卒業研究のまとめ 1	考察を検討する 全員で検討する
24	卒業研究のまとめ 2	考察を検討する 全員で検討する
25	卒業研究発表準備 1	発表のリハーサル
26	卒業研究発表準備 2	発表のリハーサル
27	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション
28	論文作成 1	論文の作成
29	論文作成 2	論文の作成
30	論文提出のための準備	論文の最終確認、印刷、製本

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	富士盛 公年			
開講期	通年			
授業概要	本授業は幼児教育学科の学生として、実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、必要な能力の養成を目指している。特にこの心理学の卒業研究では、学生がテーマを選び、心理学の調査や参考文献の読み方を学び、実際に調査をしたり、作業によって、コラージュなどの作成で、テーマごとに研究を深め、年度末の発表と論文作成を行う。			
達成目標	本学の学生は、建学の理念である「尊敬・責任・自由」の精神を持って遂行することが求められる。本授業では実際に保育や幼稚園教育の現場に出て、この理念を持って、幼児に対しては責任を持ち、児童の保護者に対しては尊敬の念を持って、保育者として活動する力を形成することを目指す。			
受講資格	幼児教育学科2年	成績評価 方法	授業態度、意欲などを60点、発表の成果を40点として評価する。	
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	現場に出たら、いろいろな経験に遭遇する。それに対応できるだけの知識や理論を習得するのは大変困難なことである。それを自覚して、十分に熱意を持って取り組んでほしい。事前にはあらかじめ配布済みのプリントを読み、関連の事例などについてまとめておくこと。事後にはコメントを提出してよく復習すること。			
オフィスタイム	火曜日の4時から5時、水曜日4時から5時 富士盛研究室			
自学自習	予習 参考文献を読み、当日に学習すべきことをまとめる。 復習 学習したことをまとめ、課題についてさらに学修の準備をする。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明
2	研究の基礎	心理学の研究調査の方法の説明
3	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い
4	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定
5	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い
6	調査用紙作成 1	調査用紙作成についての話し合い
7	調査用紙作成 2	調査用紙作成についての話し合い
8	調査の分析 1	KJ法分類についての説明 KJ法分類実施
9	調査の分析 2	KJ法分類実施
10	調査の分析 3	KJ法分類実施
11	調査のまとめ 1	分析結果のまとめについての話し合い
12	調査のまとめ 2	分析結果のまとめについての話し合い
13	調査のまとめ 3	分析結果のまとめについての話し合い
14	研究発表の準備 1	研究発表の準備作業
15	研究発表の準備 2	研究発表の準備作業
16	中間発表 1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討
17	中間発表 2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討
18	追加調査準備 1	追加の調査用紙の作成
19	追加調査準備 2	追加の調査用紙の作成
20	追加調査の集計 1	追加調査の集計とまとめ
21	追加調査の集計 2	追加調査の集計とまとめ
22	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明
23	卒業研究のまとめ 1	考察を検討する 全員で検討する
24	卒業研究のまとめ 2	考察を検討する 全員で検討する
25	卒業研究発表準備 1	発表のリハーサル
26	卒業研究発表準備 2	発表のリハーサル
27	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション
28	論文作成 1	論文の作成
29	論文作成 2	論文の作成
30	論文提出のための準備	論文の最終確認、印刷、製本

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	一柳 智子			
開講期	通年			
授業概要	<p>幼児教育や保育の現場で実践に役立つ表現力を身に付ける。具体的には、感じたことや考えたことを身体によってリズムカルに表現することで、豊かな感性や表現力を養い創造性を豊かにすることである。</p> <p>・リズム劇の創作と発表、論文作成、『保育研究』冊子原稿作成</p> <p>建学の精神である「尊敬・責任・自由」の理念を追求し、グループ活動での協調性を大切にし、各人が積極的に活動すること。お互いのアイデアを出し合い、発表会や論文の提出に向け、共同作業での実践力を身に付けること。</p>			
達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. グループで1つの作品を作り上げることが目標であるので、協調性とともにもグループをまとめる力を養成する。 2. 舞台における身体表現の発表を経験し、幼児教育および保育の現場に役立てられるようにする。 3. 自己の心身の健康を意識するだけでなく、子どもたちの心身の健康の指導のための知識と経験を得る。 			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	平常点60点（取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度、担当の係） 成果40点（研究発表、本文、『保育研究』原稿）	
教科書	特になし			
参考書	適宜紹介する			
学生への要望	<p>熱心に授業に取り組むことはもちろんのこと、グループ活動では主体的に関わりながら、協調性をもって積極的に活動することが重要である。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①先行研究の検討 ②題材、テーマ、ストーリーの創作 ③振付創作、曲の選択 ④実技活動（練習によるスキルの向上） ⑤発表会の運営と実践 ⑥卒業論文の作成と「保育研究」冊子の原稿作成と提出 			
オフィスタイム	木曜日 Ⅲ限目（12：50～14：20） Ⅳ限目（14：30～16：00） 825研究室（一柳）			
自学自習	週1回の卒業研究の時間だけでは、身体訓練が不足になるので、日常的に身体能力の向上に努めるよう心掛けてください。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	リズム劇 メンバー決定、リーダーの選出をする。
2	研究テーマの構想について	リズム劇 研究テーマ、ストーリーなど構想を練る。
3	ストーリー決定	リズム劇 各クラスから出た案を基に一つのストーリーの概略を創り上げる。
4	ストーリー完成	リズム劇 出来上がったストーリーの場面構成と感情抽出を行い、キャストをどうするか相談する。
5	役割分担、選曲	リズム劇 選曲をどうするか決める。
6	リズムカルな身体作りの実践	リズム劇 ステップワーク、リズムカルな身体作りと身体表現の基礎運動を実施する。
7	即興表現、振り付け、選曲	リズム劇 即興表現と振り付けによる創作活動を行う。
8	創作活動	リズム劇 共通のキャスト同士で振付を創作する。
9	創作活動・脚本作成・衣装考案	リズム劇 選曲したものに振付を創作する。
10	創作・衣装考案 もみじ会中間発表に向けての取り組み	リズム劇 衣装考案、振り付け創作を進める。
11	衣装考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	リズム劇 衣装考案、振り付け創作を進める。
12	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	リズム劇 衣装考案、大道具考案、振り付け創作を進める。
13	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	リズム劇 前回と同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。
14	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	リズム劇 前回同様に進める。舞台を発表の工夫と研究。
15	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表に向けての取り組み	リズム劇 前回同様に進める。照明や舞台装置の工夫をする。
16	衣装制作・舞台大道具考案・創作 もみじ会中間発表	リズム劇 もみじ会中間発表と反省会。
17	卒業研究機材説明会	リズム劇 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
18	卒業論文の準備・発表会の準備	リズム劇 卒業論文の準備と役割を分担する。卒業研究発表会に向けての準備をする。
19	卒業研究発表会に向けての準備・卒業論文作成	リズム劇 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。
20	卒業研究発表会に向けての準備・練習	リズム劇 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。卒業論文を作成する。
21	卒業研究発表会に向けての準備・VTR制作	リズム劇 卒業研究発表会に向けて舞台練習を進める。
22	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	リズム劇 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。
23	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備	リズム劇 卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。
24	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	リズム劇 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。
25	卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習	リズム劇 卒業論文の作成・卒業研究発表会の準備と練習を進める。
26	保育研究冊子原稿の作成・卒業研究発表会に向けての踊り込み	リズム劇 保育研究冊子原稿の作成と、一致協力して発表会に向けての踊り込みを進める。
27	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み1回目リハーサル	リズム劇 卒業研究発表会に向けての準備・踊り込みを徹底する。
28	卒業研究発表会に向けての準備・踊り込み2回目リハーサル, 卒業論文・保育研究冊子の原稿作成	リズム劇 前回同様に進め、完成度を高める。卒業論文・保育研究冊子の原稿作成も同時に進める。
29	卒業研究発表会・反省会	リズム劇 卒業研究の発表会に全精力を傾注し堂々とする。反省会を行い、論文に反映させる。
30	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	リズム劇 卒業論文・保育研究冊子原稿の完成させ、提出する。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	小林 徹			
開講期	通年			
授業概要	この卒業研究では、子どもの生活や成長に関わる種々の問題を扱う。具体的には、障がい児や支援の必要な子どもへの対応、虐待や家庭内暴力などの問題について、文献研究やフィールドワークによって、理解を深める。Ⅲ期は、全員そろってのフィールドワークと文献購読を行い、Ⅳ期は、研究論文の執筆に向けた研究を行う。もみじ会での展示、卒業研究発表会での発表、研究倫理を十分に踏まえた研究論文の執筆と冊子「保育研究」の原稿執筆と全員で協力して進めていく。			
達成目標	この卒業研究では、子どもの生活や成長に関わる種々の問題を扱う。具体的には、障がい児や支援の必要な子どもへの対応、虐待や家庭内暴力などの問題について、文献研究やフィールドワークによって、理解を深める。Ⅲ期は、全員そろってのフィールドワークと文献購読を行い、Ⅳ期は、研究論文の執筆に向けた研究を行う。もみじ会での展示、卒業研究発表会での発表、研究倫理を十分に踏まえた研究論文の執筆と冊子「保育研究」の原稿執筆と全員で協力して進めていく。			
受講資格	幼児教育学科	成績評価 方法	平常点（研究態度、議論への参加、遅刻・欠席等の減点） 60% 展示、発表、研究成果40%	
教科書	小林徹・栗山宣夫編著『ライフステージを見通した障害児の保育・教育』みらい、2016			
参考書	玉井邦夫『子どもの虐待を考える』講談社現代新書、2001			
学生への要望	授業を休まず、予復習も怠らない、やる気のある学生の履修を希望する。			
オフィスタイム	Ⅲ期：毎週月曜13：00～14：00、822研究室 Ⅳ期：毎週月曜14：30～15：30、822研究室 それ以外は個別相談（cobalt@koryama-kgc.ac.jpにメールして日時を設定）			
自学自習	事前学習：課題図書を読む。訪問先の下調べ。展示物・発表資料・論文等の準備等。 事後学習：レポート作成。展示物・発表資料・論文等の手直し等。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	卒業研究の位置づけ 研究方法の指導 年間予定の確認
2	フィールドワーク1	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。
3	フィールドワーク2	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。
4	フィールドワーク3	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。
5	フィールドワーク4	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。
6	フィールドワーク5	特別支援教育、障がい児保育、障がい児施設等の現場を訪問し、施設および実践を見学し、インタビューを行う。
7	フィールドワークのまとめ	見学後のレポートの提出 再構成担当者を決めて、まとめを作成する。
8	テキスト購読1	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待を考える」を輪読する。
9	テキスト購読2	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待を考える」を輪読する。
10	テキスト購読3	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待を考える」を輪読する。
11	テキスト購読4	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待を考える」を輪読する。
12	テキスト購読5	「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」「子どもの虐待を考える」を輪読する。
13	これまでのまとめと研究活動計画	これまでの内容を振り返る。 研究テーマの内容と活動計画を立案する。
14	研究テーマの決定	資料の収集と整理の方法や論文の書き方を学ぶ。 研究方法の検討。 取り組みたい内容や研究テーマを検討する。 資料や参考書を持ち寄り、研究テーマ決定。
15	研究活動1	もみじ会での展示発表に向けて構想を練る。 教員とメンバーとグループディスカッション
16	研究活動2	もみじ会での展示発表に向けた準備を行う。 教員とメンバーとグループディスカッション
17	中間発表	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する。
18	研究活動3	中間発表「もみじ会」での反省をもとに、研究内容の検討を行う。①
19	研究活動4	中間発表「もみじ会」での反省をもとに、研究内容の検討を行う。②
20	研究活動5	これまでの研究成果を振り返り、今後の研究の方向性を定める。①
21	研究活動6	これまでの研究成果を振り返り、今後の研究の方向性を定める。②
22	論文執筆の準備	研究テーマを卒研担当者に提出。 研究論文の構成を考える。
23	論文執筆作業1 論文提出方法	研究結果の整理と考察 発表用原稿・作品の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。 論文のフォーマットを知る
24	論文執筆作業2	研究結果の整理と考察 研究発表に向けて、発表（プレゼンテーション）の準備をする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	論文執筆作業3	研究結果の整理と考察 発表用原稿の仕上げ、担当者に提出し指導を受ける。
26	卒業研究発表の練習	発表用原稿を準備し、発表の練習をする。
27	卒業研究発表会	卒業研究の完成と成果発表
28	研究まとめ1	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。①
29	研究まとめ2	卒業研究発表を終え、1年間の卒業研究の成果を論文提出規定に従って、執筆し提出準備をする。②
30	論文提出	「卒業研究論文」冊子原稿、及び「保育研究」の原稿の提出

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	草野 葉子			
開講期	通年			
授業概要	玩具や絵本その他の児童文化財や子どもの描画・造形活動と保育について制作を中心とした研究を行う。表現方法や素材活用の実験研究を通して、児童文化財や保育環境について作品制作過程から理解を深めるとともに新たな提案をめざす。研究は個人またはグループで行い、研究経過報告の機会を持ち相互に高め合う。			
達成目標	①テーマに基づき資料収集や制作実験に意欲的に取り組み、研究する姿勢を身に着ける。 ②表現方法や素材に関する知識を深め、かつ表現技術も向上させる。 ③研究成果に独自の視点または新たな取り組みを盛り込む。 ④研究過程や成果を分かりやすくまとめて発表することができる。			
受講資格	幼児教育学科 2年生。	成績評価 方法	研究成果40点（作品：30点・論文：10点）、平常点60点（研究態度・意欲・貢献度 各20点）	
教科書	教科書は使用せず、必要に応じて資料等を印刷し配布する。			
参考書	研究内容に応じて指示する。			
学生への要望	自ら課題をもって意欲的に取り組む。 資料収集、実験研究等課外の時間を積極的に活用する。			
オフィスタイム	月曜から木曜 15：00～17：00 83年館2階823研究室。			
自学自習	予習：研究計画に基づき必要とする資料を探し目を通す。実験に要する材料や道具を準備する。（30分） 復習：実験研究の結果を振り返り各自のノートに記録し、次回研究の方向付けをする。（30分）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	研究課題を決めるⅠ	関心ある研究内容について発表し、学生相互に意識を高めあう。 取り組みたい内容について発表することにより、自分の研究テーマや意識を明確にする。
2	研究課題を決めるⅡ	資料や参考作品の収集—その1 資料等により各自の関心を視覚的にとらえ、研究課題の焦点をより明確にしていく。
3	研究課題を決めるⅢ	資料や参考作品の収集—その2 前回より深化させた資料や参考作品を持ち寄り、研究課題を決める。
4	研究活動の計画	基礎研究・制作実験・中間発表（実践）・制作を柱に活動計画を立てる。
5	論文書き方指導Ⅰ・基礎研究Ⅰ	論文の書き方指導Ⅰ ◎研究の基本的進め方と論文の基本的構成について。 ◎研究論理について。 研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その1 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。
6	基礎研究Ⅱ	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その2 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。
7	基礎研究Ⅲ	研究課題に関連する各種技法の表現体験と資料収集—その3 ◎各種表現方法を体験し、表現に関する視野の拡大と技術の基礎力を養う。 ◎関連分野の資料収集により研究課題に関する基礎知識を養う。 ◎各自の研究課題を軸に基礎研究をまとめる。
8	制作実験Ⅰ	課題を具体化する—その① 基礎研究をもとに研究課題の構想を具体化し制作実験する。
9	制作実験Ⅱ	課題を具体化する—その② 制作実験の継続。
10	制作実験Ⅲ	課題を具体化する—その③ 制作実験の継続。
11	制作実験Ⅳ	課題を具体化する—その④ 研究経過報告会に向けて制作実験結果をまとめる。
12	制作実験Ⅴ	課題を視覚化する—その⑤「研究経過報告会」 制作実験結果を相互に発表し講評しあう。
13	中間発表Ⅰ	研究成果の中間発表の実施計画。 ◎「研究経過報告会」の結果を基に、中間発表の目的を明確にする。 ◎中間発表の方法について具体化し、準備を行う。
14	中間発表Ⅱ	研究中間発表を行う。 ◎研究過程を実験作品としてまとめ、学園行事や実習において実践する。 ◎中間発表目的に基づき結果を記録する。
15	中間発表Ⅲ	中間発表の結果と考察。 中間発表記録をもとに研究内容の検討と考察を行う。
16	制作Ⅰ	中間発表の検討考察をもとに本研究制作の構想を具体化する。 本作品構想を発表し相互に講評を行い、研究内容をより充実させる。
17	制作Ⅱ	本研究構想に基づき各自制作する。
18	制作Ⅲ	本研究構想に基づき各自制作する。
19	制作Ⅳ	本研究構想に基づき各自制作する。
20	制作Ⅴ	本研究構想に基づき各自制作する。
21	制作Ⅵ	本研究構想に基づき各自制作する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
22	制作Ⅶ	作品を完成させる。
23	制作Ⅷ	完成作品の相互発表をする。 作品を相互に発表し、異なる視点からの助言を通して作品を見直す。
24	制作Ⅸ	相互発表を受け作品の手直しと最終確認をする。
25	論文書き方指導Ⅱ・研究まとめⅠ	論文の書き方指導Ⅱ ◎本文、「保育研究」の原稿の書き方指導。 ◎研究題目等の調査及び提出用USB配布。 書き方指導を基に発表原稿を作成する。 ◎研究経過及び成果をわかりやすく順序だてて整理する。 ◎資料写真の確認と撮影。
26	研究まとめⅡ	卒業研究発表の準備及び発表練習。 研究結果をパワーポイントにまとめ、発表原稿とあわせて練習を行う。
27	研究まとめⅢ	卒業研究発表会 研究成果を作品と共に発表する。
28	研究まとめⅣ	卒業研究結果をまとめるーその① 研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。
29	研究まとめⅤ	卒業研究結果をまとめるーその② ◎研究過程と結果を文章及び写真資料等によりわかりやすく整理し研究論文にまとめる。 ◎研究論文を基に、卒業研究要旨集「保育研究」の原稿を指定書式により作成する。
30	研究まとめⅥ	研究論文と卒業研究要旨集「保育研究」の最終確認。 ◎論文内容及び書式の最終確認をする。 ◎研究論文は配布のUSBメモリへ入れ、「保育研究」は印刷して提出。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	山上 裕子			
開講期	通年			
授業概要	保育活動で使用するさまざまな「モノ」（絵本、玩具、遊具等）を手がかりにして、保育の世界を探究する。例えば、「モノ」の誕生の背景やその後の歴史、使用することによる保育のねらいや注意点など、多様なテーマが考えられる。文献だけでなく実際幼稚園を訪れて、実地調査もおこないたい。テーマの設定の仕方、探究の方法、記録の取り方、文章の書き方など、研究方法の基礎も合わせて指導する。			
達成目標	①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。 ②課題を解決するための方法を身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。 ③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。			
受講資格	幼児教育学科2学年	成績評価 方法	平常点（60点）、研究成果（40点：研究発表、本文、『保育研究』原稿）	
教科書	特に指定はしない。			
参考書	適時、紹介する。			
学生への要望	どんな小さなことでもよいので、疑問に思ったことをメモとること。			
オフィスタイム	水曜日：12：00～12：50 金曜日：12：50～14：20 場所：833研究室			
自学自習	テーマに関する文献を探し、手にし、読み進めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	授業の内容、進め方、評価について説明を聞く。何を研究したいのかを出し合う。「自己確認シート」の記入をす
2	研究の模索	過去の研究冊子『保育研究』を調査し、自身の興味の方向を定めていく。
3	研究の模索	図書館で資料を収集する。
4	研究の模索	図書館で資料を収集し、テーマの方向性を探る。
5	研究の確認	これまでの資料収集の結果を報告する。
6	研究を進める	図書館で、資料収集を引き続き行い、メモを取る。
7	研究を進める	これまで閲覧した資料を整理する。
8	研究を進める	資料の整理を引き続き行う。
9	研究の確認②	資料の整理の結果を報告する。
10	研究を進める	報告をとおして、研究の方向性を修正していく。
11	研究を進める	研究のテーマを考える。
12	研究を進める	研究テーマを考え、計画を立てていく。
13	研究テーマの決定	研究テーマを決定する。
14	中間発表の準備	卒業研究の中間発表の場である、もみじ会に向けた準備を始める。
15	中間発表の準備	もみじ会に向けた準備を行う。
16	中間発表の準備	もみじ会の準備を進める。
17	中間発表の準備	もみじ会の準備を仕上げる。
18	研究を進める	収集した資料の内容を整理する。
19	研究を進める	収集した資料の内容をまとめていく。
20	研究を進める	必要に応じて、足りない資料の収集をする。
21	論文の執筆	本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。
22	論文の執筆	論文の執筆を進めていく。
23	論文の執筆	論文の執筆を進め、適宜指導を受ける。
24	論文の執筆	指導を受けて、論文の執筆の修正をおこなう。
25	卒業研究発表会の準備	卒業研究発表会の準備を始める。パワーポイントの使い方を知る。
26	卒業研究発表会の準備	卒業研究発表会の準備を進める。
27	卒業研究発表会リハーサル	機材を実際に操作し、不備がないか確かめる。 他の研究分野と協力して、よりよい発表会にするための準備を行う。
28	卒業研究発表会	卒業研究のこれまでの成果をプレゼンテーションする。
29	卒業研究発表会	他の分野の研究成果を聴き、学ぶ。
30	まとめ	提出日に向けて、本文と『保育研究』の原稿を仕上げる。 自己確認シートの記入をとおして、これまでの卒業研究で学んだことを確認する。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	折笠 国康			
開講期	通年			
授業概要	実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を習得することを目標とする。また、自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。			
達成目標	①実際に保育や幼稚園教育の現場に出たときに求められる、児童の好ましい成長を支える態度や知見を習得することを目標とする。 ②自他の尊重と幸福の追求の態度を身につけ、実践する基礎力を身につけることも目標とする。			
受講資格	短期大学部 幼児教育学科 2年	成績評価 方法	平常点60点、研究成果を40点として評価する。	
教科書	教科書は使わず、プリントを配布する。			
参考書	参考書は授業ごとに指示する。			
学生への要望	自他のためになる知的活動の時間として捉えてほしい。			
オフィスタイム	金曜 2限 835 研究室 3限 835 研究室			
自学自習	関連図書などを利用して理解を深めること。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	研究の基礎 オリエンテーション	心理学の研究の基礎的な説明
2	研究の基礎	心理学の研究調査の方法の説明
3	研究の概念形成	研究のテーマについての話し合い
4	研究の概念形成	研究のアウトラインについての話し合い テーマ決定
5	研究調査の手順	研究調査の手順についての話し合い
6	調査用紙作成 1	調査用紙作成についての話し合い
7	調査用紙作成 2	調査用紙作成についての話し合い
8	調査の分析 1	質問紙についての説明
9	調査の分析 2	統計処理についての概説
10	調査の分析 3	統計処理についての概説
11	調査の分析 4	統計処理についての概説
12	調査のまとめ 1	分析結果のまとめについての話し合い
13	調査のまとめ 2	分析結果のまとめについての話し合い
14	調査のまとめ 3	分析結果のまとめについての話し合い
15	調査のまとめ 4	分析結果の考察についての話し合い
16	調査のまとめ 5	分析結果の考察についての話し合い
17	研究発表の準備 1	研究発表の準備作業
18	研究発表の準備 2	追加の調査用紙の作成
19	研究発表の準備 3	研究発表の準備作業
20	中間発表 1	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討
21	中間発表 2	ゼミの中での中間発表 それについての全員での検討
22	発表についての説明	これからの発表と論文作成の手順についての説明
23	卒業研究のまとめ 1	考察を検討する 全員で検討する
24	卒業研究のまとめ 2	考察を検討する 全員で検討する
25	卒業研究発表準備 1	発表のリハーサル
26	卒業研究発表準備 2	発表のリハーサル
27	卒業研究発表	卒業研究の発表プレゼンテーション
28	論文作成 1	論文の作成
29	論文作成 2	論文の作成
30	論文提出のための準備	論文の最終確認、印刷、製本

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	永瀬 悦子			
開講期	通年			
授業概要	健康増進科学の基本的な考え方と健康増進活動の実践について、現在の子どもの健康問題から課題を捉える。健康増進活動の実践については、栄養・食生活、運動・身体活動等の行動変容を地域における生活環境の視点から学習をする。具体的には、健康問題に関する情報収集・分析・アセスメントをし、その結果から問題解決に向けた効果的なアプローチを立案・実施・評価といった一連の課程を行う。 [授業の目的・ねらい] 教育の専門職として課題を捉え、その課題を研究的視点で追及をする。			
達成目標	1) 文献検索方法を理解する。 2) 研究の方法を理解する。 3) 図章やパワーポイントにより効果的に伝えることができる。			
受講資格	幼児教育学科学生2年生	成績評価 方法	平常点60点、研究成果40点	
教科書	日本健康教育士養成機構編『新しい健康教育』 保健同人社 2012年			
参考書	宗像恒次著『行動科学からみた健康と病気』 メディカルフレンド社 2000年			
学生への要望	主体的な問題解決能力、思考力、表現力等が求められます。講義以外の時間を費やすことが多いと思いますが、課題を追求するため、熱意と積極的姿勢で参加して下さい。			
オフィスタイム	火曜日 V 時限 (16:10~17:40) 832研究室 木曜日 I 時限 (8:50~10:20) 832研究室			
自学自習	事前学習：当日の内容を踏まえて研究に関する調べものや創作活動の準備をする(1時間) 事後学習：授業を踏まえて、今後必要となる内容や方法を検討する(1時間)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	卒業研究の概要	卒業研究の進め方、メンバーの紹介等。 研究とは何か、について理解する
2	研究課題について	研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する
3	研究課題の明確化と概念枠組み	研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する
4	研究方法と研究デザインの選定	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する
5	研究方法のデータ収集と分析	研究方法のデータ収集と分析を理解する
6	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする
7	倫理的配慮について	研究における倫理的配慮について
8	文献検索のプロセス	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する
9	研究計画書の作成	研究計画書の作成
10	研究の実際①	健康教育の教材作成をする
11	研究の実際②	健康教育の教材作成をする
12	研究の実際③	健康教育の教材作成をする
13	研究の実際④	健康教育の教材作成をする
14	研究の実際⑤	健康教育の教材作成をする
15	研究の実際⑥	健康教育の教材作成をする
16	中間発表の準備	中間発表の「もみじ会」の準備をする
17	中間発表	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する
18	研究成果の振り返り①	「もみじ会」の発表の反省をもとにして、研究内容を検討する
19	研究成果の振り返り②	研究成果を振り返り、今後の成果を検討する
20	フィールドワークの準備	フィールドワークの準備をする
21	フィールドワークの実際	保育園・幼稚園等で実際に健康教育を実践する
22	研究論文の執筆準備	研究テーマ、研究論文の構成を考える
23	研究論文の執筆活動①	研究論文の執筆
24	研究論文の執筆活動②	研究論文の執筆と発表(プレゼンテーション)の準備
25	研究論文の執筆活動③	研究論文の原稿を仕上げ、指導教員に提出し指導を受ける
26	研究発表の練習	発表原稿を作成し、発表の練習をする
27	研究発表	研究の成果をわかりやすく発表する
28	研究のまとめ①	研究の論文規定に従い執筆する。
29	研究のまとめ②	「卒業研究の論文規定」に従い執筆する。
30	論文提出と今後の課題	「卒業研究論文」原稿と「保育研究」原稿を提出する

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	ポール パーナミィ			
開講期	通年			
授業概要	<p>PREREQUISITES FOR THIS CLASS: Students will have completed 総合英語コミュニケーション. Students will have completed high school English. Students will be able to understand and use language concerning familiar, everyday topics, as well as intermediate listening comprehension. They also should be able to give a clear self introduction.</p> <p>①保育に関する課題を自ら設定し、年間を通して課題と向き合う。 ②課題を解決するための方法を身に付ける。その際、研究倫理について学ぶ。 ③保育の世界を広げるとともに、保育への理解を深める。</p>			
達成目標	<p>GOALS OF THIS CLASS: 1. The main focus will be to improve comprehension ability and gain confidence. 2. Moreover, required material and homework will include communication tasks to establish and develop an overall practical ability. 3. Students will research topics through oral, visual and final paper submission.</p>			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	授業態度、意欲などを60点、発表の成果を40点として評価する。	
教科書	なし			
参考書	適宜推薦			
学生への要望	<p>○グループで学びあうルールやマナーを守る。 ○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。 ○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。</p>			
オフィスタイム	<p>時間：火・木の 13:00～17:00 時限 場所：83年館 3F 837研究室</p>			
自学自習	<p>事前・事後学修 事前学修：グループ内での自己の役割を認識し、それに向けて毎回の準備をして授業に臨む。(30分) 事後学修：時間外活動を有効に生かし、毎回課題に対する復習と自己鍛錬を Do regular listening of recommended material. Students computer will be needed each class. We will explore Microsoft Word, Excel and PowerPoint in class though the year. Homework will be completed in steps using standard software.</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション Orientation	<p>○メンバーの顔合わせと自己紹介 ○1年間の日程確認 Introductions. Talk of schedule and goals of class. Inform students of tools, use of computers, available material and other features such as music, games and internships. Talk about options and expectations. Give files containing listening references. Explain active learning and the use of feedback, show how we will use these methods in situations in and out of class. Students will need their computer for each class.</p>
2	研究課題について Research Discussion	<p>研究の課題の見つけ方・研究課題の絞り込み方について理解する Demonstrate available tools and methods for optimal research. Give examples of research and discuss how we might use our research in a practical class situation. Consider time variables, age, total classes, methods of presentation, time of year, and any feature worth considering for further research.</p>
3	研究課題の明確化と概念枠 組み Clarification of Research	<p>研究課題の明確化と概念枠組みの設定について理解する Define and narrow search. Demonstrate software and how to use for presenting information. Utilize sound, video and pictures in a simple, but clear format for discussion. Assign activity which utilizes tools we just used. Class will demonstrate their use in class situation.</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
4	研究方法と研究デザインの選定 Research Topic Selection	研究方法の選定と研究デザインの選定を理解する Research selection comprehension, explain the point of the research. Assign activity which utilizes tools we just used. Class will demonstrate their use in class situation.
5	研究方法のデータ収集と分析 Methods of Collection and Analysis	研究方法のデータ収集と分析を理解する Analyze material. Analyze material through activity, demonstrate their understanding of collected material. Use feedback to consider the process.
6	研究結果の分析/研究課題の絞り込みの実際 Analysis Refinement	研究結果とその分析について理解する 研究課題の絞り込みをする Refine and edit material.
7	倫理的配慮について Considerations	研究における倫理的配慮について Considering ethics while researching.
8	文献検索のプロセス Search and Review Protocol	文献検索の方法を理解し、研究課題に関する先行研究を検索する Research protocol and review.
9	制作・練習 Production and Practice	研究計画書の作成 Beginning to assemble research.
10	研究の実際① Research	教材作成をする。 Research continues.
11	研究の実際② Research	教材作成をする。 Research continues.
12	研究の実際③ Research	教材作成をする。 Research continues.
13	研究の実際④ Research	教材作成をする。 Research continues.
14	研究の実際⑤ Research	教材作成をする。 Research continues.
15	研究の実際⑥ Research	教材作成をする。 Research continues.
16	中間発表の準備 Intermediate Presentation Activity	中間発表の「もみじ会」の準備をする Demonstrate activity.
17	中間発表 Activity Demonstration	研究の中間発表として「もみじ会」において発表する Demonstrate activity for group. Talk about changes or additions to activity.
18	研究を進める Research Advancement	読み込んだ資料の内容をまとめていく。 Discuss thoughts on improvements to research.
19	研究を進める Research Advancement	読み込んだ資料の内容をまとめていく。 Discuss thoughts on improvements to research.
20	研究を進める Research Advancement	必要に応じて、足りない資料の収集をする。 Continue to add and demonstrate changes to research.
21	研究を進める Research Advancement	本文、『保育研究』のフォーマットを知り、論文作成の準備を始める。 Continue to add and format changes to research.
22	論文の執筆 Writing Paper	論文の執筆を進めていく。 Writing is demonstrated.
23	卒業研究のまとめ 1 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する。 Outline is summarized to convey research.
24	卒業研究のまとめ 2 Summarize Research	考察を検討する 全員で検討する Outline is summarized to convey research.
25	卒業研究発表準備 1 Research Editing	発表のリハーサル Editing is continuous. Demonstration is continuous.
26	卒業研究発表準備 2 Research Editing 2	発表のリハーサル Editing is continuous. Demonstration is continuous.

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
27	卒業研究発表 Research Announcement	卒業研究の発表プレゼンテーション Editing is being completed, demonstration is being completed.
28	論文作成 1 Editing Finalizing 1	論文の作成 Writing is being finalized.
29	論文作成 2 Editing Finalizing 2	論文の作成 Writing is being finalized.
30	論文提出のための準備 Final Submission	論文の最終確認、印刷、製本 Submission of final material, writing and computer data.

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	柴田 卓			
開講期	通年			
授業概要	<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>①幼児体育・森のようちえんに関する先行研究や教材研究を行い理解を深める。 ②フィールドワークを通して、保育実践力を高める。 ③2年間の学びの集大成として、その成果を発表および提出する。</p> <p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>研究計画を作成し、主体的に取り組み、メンバー同士で学びあいながら研究を進める。幼児体育または森のようちえんについて、事例や教材を調べて保育・教育計画を作成する。フィールドワークを通して、導入・展開できる実践力の向上を目指す。毎回フィールドワークの振り返りを実施し、その内容について考察を加え、2年間の集大成として発表する。 ※フィールドワークの日程及び回数は、大きく変更する可能性があることを理解しておくこと。</p>			
達成目標	<p>①研究に向き合い、課題や問題を発見し改善・解決する力を習得する。 ②幼児体育・森のようちえんの理解を深める。 ③フィールドワークを通して、運動遊びや自然保育を展開する実践力を習得する。</p>			
受講資格	幼児教育学科2年生	成績評価 方法	平常点60点(振り返りシート30点含む) 研究成果40点(研究発表・論文原稿)	
教科書	必要に応じて資料配布			
参考書	柴田卓 石森真由子編著、運動遊びのすすめ ポートフォリオを活用した保育実践力の探求、みらい、2017 今村光章編著、森のようちえん 自然の中で子育てを、解放出版社、2011			
学生への要望	<p>1. 事前準備や予習を進め、当事者意識を持ち、主体的かつ積極的に研究を進めること 2. 計画的に研究を進めること 3. 教材研究等は予習・復習とし、授業内はメンバーとの議論の場とすること 4. 2年間の集大成として、納得できる研究成果をあげること</p>			
オフィスタイム	月曜日と金曜日の13時～16時			
自学自習	事前：フィールドワークで実施する教材等を事前に調べる。60分 事後：フィールドワーク後の振り返りを毎回整理し、他の学生と共有する。60分			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション(教室)	研究計画・グループ・役割分担・研究テーマに関する説明をする。
2	研究テーマの構想(教室)	先行研究から研究テーマ、内容について話し合い構想を練る。
3	研究テーマ・グループの決定(教室)	文献およびVTR鑑賞等から研究テーマ・グループ・役割分担(指導・撮影等)を決める。
4	フィールドワーク①(現地)	グループ毎に各フィールドを確認する。(国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
5	研究計画の立案(教室)	グループ毎に研究計画を立案する。
6	フィールドワーク②(現地)	幼児体育：体力測定補助 森のようちえん：実地調査・環境整備 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
7	リフレクション①(教室)	幼児体育：体力測定の分析 森のようちえん：実地調査・環境整備からのリスク分析
8	フィールドワーク③(現地)	幼児体育：第1回運動遊び指導 森のようちえん：第1回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
9	リフレクション②(教室)	幼児体育：第1回運動遊び指導、森のようちえん：第1回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り
10	フィールドワーク④(現地)	幼児体育：第2回運動遊び指導 森のようちえん：第2回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
11	リフレクション③(教室)	幼児体育：第2回運動遊び指導、森のようちえん：第2回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り
12	もみじ会準備	もみじ会準備
13	もみじ会準備	もみじ会準備
14	フィールドワーク⑤(現地)	幼児体育：第3回運動遊び指導 森のようちえん：第3回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
15	リフレクション④(教室)	幼児体育：第3回運動遊び指導、森のようちえん：第3回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り
16	フィールドワーク⑥(現地)	幼児体育：第4回運動遊び指導 森のようちえん：第4回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
17	リフレクション⑤(教室)	幼児体育：第4回運動遊び指導、森のようちえん：第4回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り
18	フィールドワーク⑦(現地)	幼児体育：第5回運動遊び指導 森のようちえん：第5回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
19	リフレクション⑥(教室)	幼児体育：第5回運動遊び指導、森のようちえん：第5回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り
20	フィールドワーク⑧(現地)	幼児体育：第6回運動遊び指導 森のようちえん：第6回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
21	リフレクション⑦(教室)	幼児体育：第6回運動遊び指導、森のようちえん：第6回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り
22	フィールドワーク⑨(現地)	幼児体育：第7回運動遊び指導 森のようちえん：第7回森のようちえん・探検隊参加 (国見町・小野町・裏磐梯小野川湖)
23	リフレクション⑧(教室)	幼児体育：第7回運動遊び指導、森のようちえん：第7回森のようちえん・探検隊参加に対する振り返り
24	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成①	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。
25	卒業研究発表会に向けての準備と練習および論文作成②	卒業研究発表会に向けての準備と練習・卒業論文の準備・役割分担を明確にして進める。
26	1回目リハーサル	卒業研究発表会に向けての準備を行う。 記念講堂大ホールの照明や舞台装置の使用法を学習する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
27	2回目リハーサル	前回同様に進め、完成度を高める。保育研究冊子原稿を校正する。卒業論文の完成に向けて努力する。
28	卒業研究発表会・反省会	卒業研究の成果を発表する。反省会を行い、論文に反映させる。
29	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。
30	卒業論文・保育研究冊子原稿の完成・提出	卒業論文・保育研究冊子原稿を完成させる。

平成29年度

科目名	卒業研究		対象 単位数 必修	短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/ 短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修
担当教員	猪股 照子			
開講期	通年			
授業概要	子ども共に楽しむ劇遊びを、台本・小道具・衣装などの作製を通して一つの劇を作る。 学生同士の協同による活動と実際に子どもたちに触れ合う活動を学びの場として記録を重ね、卒業研究発表とする。 ○現場に出かけて劇遊びを一緒に楽しむ。 ○子どもの姿を見ながら、写真や記録をとる。 ○音楽・造形・体育で学んだことを、この研究に活かしていけるようにする。			
達成目標	学生同士の協同による活動と実際に子どもたちに触れ合う活動を学びの場として記録を重ね、卒業研究発表とする。 ○現場に出かけて劇遊びを一緒に楽しむ。 ○子どもの姿を見ながら、写真や記録をとる。 ○音楽・造形・体育で学んだことを、この研究に活かしていけるようにする。			
受講資格	幼児教育学科 2年生	成績評価 方法	平常点(出席、取り組みの姿勢、意欲、態度、他との協力、チームへの貢献度等)40点 成果(研究発表、本文、『保育研究』原稿)30点 卒業研究発表30点	
教科書	なし			
参考書	適宜推薦			
学生への要望	○グループで学びあい、ルールやマナーを守る。 ○他の卒研グループとも互いに尊重し合い、体験を共有する。 ○時間割上の時間だけでなく、時間外活動を有効に使う。 ○毎回、活動前と後のミーティングを行う。 ○日々の反省ノートを作成する。(輪番) ミーティング内容(事前・事後学修) 事前学修：自己の役割を認識し、それに向けて毎回の準備をして授業に臨む 事後学修：時間外活動を有効に生かし、毎回課題に対する復習をする。活動の振り返りを行う。			
オフィスタイム	時間：火・水・木の午後 場所：83年館3F 831研究室			
自学自習	○自分の役割の確認と次回学習内容の確認 ○本日の授業の学習についての反省・振り返り			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	○メンバーの顔合わせと自己紹介 ○リーダー・サブリーダーの選出 ○1年間の日程確認
2	テーマの選択①	○話し合い ○資料検索 ○附属幼稚園訪問について
3	テーマの選択②	○話し合い ○資料検索 ○附属幼稚園訪問について
4	附属幼稚園訪問	○訪問内容約30分 ○遊びを通して子どもとのやりとりを学ぶ ○ビデオ・写真・記録
5	附属幼稚園訪問の反省	○ビデオ視聴をして反省・話し合いをし次の学びとする。 ○第2回附属幼稚園訪問について
6	第2回附属幼稚園訪問	○約30分の訪問内容 ○遊びを通して子どもとのやりとりを学ぶ ○ビデオ・写真記録
7	附属幼稚園訪問の反省	○ビデオ視聴を通して反省・話し合いをし、次の学びとする。 ○テーマの台本作製完成・配役を決める。
8	台本の読み合わせ	○台本の読み合わせをする。 ○実際に表現する。
9	第3回附属幼稚園訪問	○子どもたちの前で演じてみる。 ○子どもと歌あそび ○ビデオ・写真記録 ○劇に必要な小道具・衣装・小道具などの話し合い。(子どもへどのように作製させるか)
10	附属幼稚園の反省	○ビデオを視聴して反省・話し合いをし次の学びとする。 ○制作・練習
11	制作・練習①	○劇の小道具・衣装作製 ○練習・音楽の選定
12	制作・練習②	○劇の小道具・衣装作製 ○練習・音楽の選定
13	もみじ会準備(チャイルドシアター)①	○1・2年生の各グループリーダー同士でチャイルドシアター全体を見直し、全体のプログラムを作る。 ○発表会場の環境を整え、練習やりハーサルのスケジュールを作る。
14	第4回附属幼稚園訪問・反省・もみじ会準備	○附属幼稚園の訪問を通しもみじ会へ活かせるようにする。 ○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	第5回附属幼稚園訪問・反省・もみじ会準備	○附属幼稚園の訪問を通しもみじ会へ活かせるようにする。 ○1,2年生年同志で学び合う関係性を作り、またグループごとに協調し、全体として協同的に学び合う関係を確立する。
16	もみじ会準備(チャイルドシアター)	○舞台発表を、観客(子ども)との相互関係の中で捉え、次の発表や保育と結び付ける。 ○準備中、それぞれの役割りを認識し、個と全体を見通した活動となるよう努める。 ○発表内容の記録(写真, VTR, DVD等)撮り、反省の機会を設ける。
17	もみじ会反省	○もみじ会全体、チャイルドシアター全体、協働的な学びとなったかお互いに反省の機会を持つ。 ○記録(写真, VTR, DVD等)を観て、発表内容を省察し、次の学びへ繋げる。
18	第6回附属幼稚園訪問・反省	○子どもたちの前で演じてみる。 ○子どもと歌あそび ○ビデオ・写真記録
19	卒研発表へ向けての練習①	○附属幼稚園訪問の記録まとめ
20	卒研発表へ向けての練習②	○附属幼稚園訪問の記録まとめ
21	卒研発表へ向けての練習②	附属幼稚園訪問記録のまとめ
22	卒研発表へ向けての練習③	附属幼稚園訪問記録のまとめ
23	卒研発表へ向けての練習④	○記録のまとめ・発表練習
24	卒研発表練習	○発表に向けての練習をする。
25	卒研発表練習	○発表練習をする。
26	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする
27	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする
28	卒研リハーサル	○卒研リハーサルをする
29	卒研発表会	○1年生全員と、2年生の論文発表のメンバー他来場者に、発表目的や制作課程の説明、発表をする。 ○作品の発表を観て頂く。 ○記録(VTR, DVD, 写真等)を撮る。
30	卒研発表反省会	卒研発表会の反省と振り返りをする